一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２

市井深田遺跡　荒槇遺跡　鈴見Ｂ遺跡１区

２０１４年3月
国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

市井深田遺跡上空から北側を望む

1　市井深田遺跡 加工段２造り付け竈

2　市井深田遺跡 加工段４－１と加工段４－２の造り付け竈

1　市井深田遺跡　加工段 6 造り付け竈

2　市井深田遺跡　加工段 12 造り付け竈

1　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -12　左：外面　右：内面）

2　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -13　左：外面　右：内面）

3　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -21）

4　荒槇遺跡 出土遺物（第 119 図 -13）

5　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -19）

6　市井深田遺跡 出土遺物（第 88 図 -21）

序

現在、一般国道９号の大田市朝山町～久手町間については、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、中国地方整備局松江国道事務所では山陰自動車道の一部である朝山・大田道路を平成 19 年度に事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成 23 年度と平成 24 年度に実施した大田市久手町刺鹿地内に所在する市井深田遺跡と荒槇遺跡、同市久手町波根西地内に所在する鈴見Ｂ遺跡１区の発掘調査成果をとりまとめたものです。本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成 26 年３月

国土交通省中国地方整備局
松江国道事務所長　新田恭士

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局から委託を受けて、平成 22 年度から一般国道 9 号朝山大田道路改築工事予定地内の埋蔵文化財調査を実施しています。本書はこのうち平成 23 年度と平成 24 年度に実施した市井深田遺跡、荒槇遺跡、鈴見 B 遺跡 1 区の調査成果をまとめたものです。これらの遺跡は大田市の東側、久手町の旧波根湖周辺の平野部に立地しています。

市井深田遺跡では、古代の建物跡が多数出土しましたが、山間部に多くみられる造り付けの竈を備え付けた建物と海岸部に多くみられる移動式竈が同一の遺跡から出土するなど、地域の生活様式を知る上で興味深い資料を得ることができました。

荒槇遺跡、鈴見 B 遺跡 1 区では、縄文時代から近世まで幅広い年代の土器が出土し、当地域に暮らした人々の様子を知る貴重な資料となりました。

これらの調査の成果が地域の歴史を解明する資料となると共に、郷土の文化財に対する理解と関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、久手まちづくりセンター、波根まちづくりセンター、地元の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

島根県教育委員会

教育長　今井康雄

例言

1．本書は島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局から委託を受けて、平成 23 年度と平成 24 年度に埋蔵文化財調査センターが実施した一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．本書で扱う遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成 23 年度　市井深田遺跡（島根県大田市久手町刺鹿）

平成 24 年度　荒槇遺跡（島根県大田市久手町刺鹿）

鈴見Ｂ遺跡 1 区（島根県大田市久手町波根西）

平成 25 年度　整理作業及び報告書作成

3．調査組織は下記のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

【平成 23 年度】

事　務　局　川原和人（埋蔵文化財調査センター所長）、三島　伸（総務グループ課長）、丹羽野　裕（管理グループ課長）

調査担当者　鳥谷芳雄（調査第２グループ課長）、是田　敦（文化財保護主任）、武田尚志（教諭兼文化財保護主事）、糸川寿幸（調査補助員）

【平成 24 年度】

事　務　局　廣江耕史（埋蔵文化財調査センター所長）、三島　伸（総務グループ課長）、熱田貴保（管理グループ課長）

調査担当者　林　健亮（調査第２グループ課長）、是田　敦（企画員）、武田尚志（教諭兼文化財保護主任）、無川美和子（調査補助員）

【平成 25 年度】

事　務　局　廣江耕史（埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）、熱田貴保（管理課長）

調査担当者　今岡一三（調査第１課長）、是田　敦（企画員）、武田尚志（教諭兼文化財保護主任）、片寄雪美（調査補助員）

4．発掘作業支援業務（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については島根県教育委員会から株式会社トーワエンジニアリングへ委託した。

5．発掘調査にあたっては以下の方々、関係機関から御指導いただいた。（順不同、敬称略）

勝部　昭（島根県文化財保護審議委員）、中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル）、大田市教育委員会

6．挿図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系Ｘ軸方向を示し、座標系ＸＹ座標は世界測地系による。レベル高は海抜高を示す。

7．本調査に伴って実施した自然科学的分析は下記の機関に委託して実施した。

土壌分析　文化財調査コンサルタント株式会社

出土木製品の樹種同定　公益財団法人大阪市博物館協会

8．出土した木製品の保存処理は次の機関に委託した。

公益財団法人大阪市博物館協会

9．本書に掲載した写真は、空中撮影写真と第 6 章の写真を除き是田が撮影した。第 6 章の写真は文化財調査コンサルタント（渡辺正巳）が撮影した。

10. 本書に掲載した遺構及び遺物実測図の作成、デジタルトレースは調査員、調査補助員、整理作業員が行った。

11. 本書の編集は是田が行った。執筆は第 1 章と第 2 章を武田が行い、第 3 章から第 5 章を是田が行い、第 6 章は渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）が行った。

12. 本書の編集に当たっては DTP 方式を採用し、Adobe 社の Illustrator CS5、Photoshop CS5 を用いてトレース・画像処理等を行い、InDesign CS5 で編集を行った。

13. 註と参考文献は各章末にまとめて示した。

14. 本書に掲載した実測図、写真、出土遺物は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33）で保管している。

凡例

1．本文中、挿図中、写真図版中の遺物番号は一致する。

2．本書での土層と遺物の色調は下記に依拠した。

財団法人日本色彩研究所　2006 『新版　標準土色帖』

3．本書での須恵器の編年は下記の論文に依拠した。

榊原博英　2010 「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」『出雲国形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』島根県古代文化センター

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 2

第３章　市井深田遺跡 …… 7
　第１節　発掘作業と整理作業の経過 …… 7
　第２節　遺構と遺物 …… 12
　第３節　小結 …… 67

第４章　荒槇遺跡 …… 74
　第１節　発掘作業と整理作業の経過 …… 74
　第２節　１区の調査 …… 77
　第３節　２区の調査 …… 79
　第４節　包含層出土遺物 …… 84
　第５節　小結 …… 84

第５章　鈴見Ｂ遺跡１区 …… 96
　第１節　発掘作業と整理作業の経過 …… 96
　第２節　遺構と遺物 …… 96
　第３節　小結 …… 100

第６章　自然科学分析 …… 103

挿図目次

第 1 図　調査地の位置　1
第 2 図　調査地と周辺の遺跡　5
第 3 図　試掘周辺地形図及び試掘確認調査トレンチ位置図（S=1:3,000）　8
第 4 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図①（S=1:60）　9
第 5 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図②（S=1:60）　10
第 6 図　地形測量図（S=1:800）　11
第 7 図　加工段 1 実測図（S=1:80）　12
第 8 図　加工段 1 土層実測図（S=1:20）　12
第 9 図　加工段 1 出土遺物実測図（S=1:3）　12
第 10 図　加工段 2 実測図（S=1:80）　13
第 11 図　加工段 2 土層実測図（S=1:40）　13
第 12 図　加工段 2 － 1 実測図（S=1:80）　13
第 13 図　加工段 2 － 2 実測図（S=1:80）　14
第 14 図　加工段 2 － 2 竈実測図（S=1:40）　15
第 15 図　加工段 2 － 3 実測図（S=1:80）　16
第 16 図　加工段 2 － 4 実測図（S=1:80）　16
第 17 図　加工段 2 出土遺物実測図（S=1:3）　17
第 18 図　加工段 3・4 実測図（S=1:80）　18
第 19 図　加工段 3・4 土層実測図（S=1:40）　18
第 20 図　加工段 3 － 1 実測図（S=1:80)　19
第 21 図　加工段 3 － 2 実測図（S=1:80）　19
第 22 図　加工段 3 － 3 実測図（S=1:80）　19
第 23 図　加工段 4 － 1 実測図（S=1:80）　20
第 24 図　加工段 4 － 1 竈実測図（S=1:40）　20
第 25 図　加工段 4 － 2 実測図（S=1:80）　21
第 26 図　加工段 4 － 3 実測図（S=1:80）　21
第 27 図　加工段 4 － 3 竈実測図（S=1:40）　22
第 28 図　加工段 4 － 3 竈土層実測図（S=1:40）　22
第 29 図　加工段 3 － 4 実測図（S=1:80）　23
第 30 図　加工段 3 － 5 実測図（S=1:80）　24
第 31 図　加工段 3 － 5 遺物出土状況実測図（S=1:20）　24
第 32 図　加工段 3 － 1 ～ 4・4 － 1，3 出土遺物実測図（S=1:3）　25
第 33 図　加工段 3 － 5 出土遺物実測図（S=1:3）　26
第 34 図　加工段 5 実測図（S=1:80）　27
第 35 図　加工段 5 － 1 実測図（S=1:80）　27
第 36 図　加工段 5 － 1 出土遺物実測図（S=1:3）　28
第 37 図　加工段 5 － 2 実測図（S=1:80）　28
第 38 図　加工段 6 実測図（S=1:80）　29
第 39 図　加工段 6 土層実測図（S=1:40）　29
第 40 図　加工段 6 竈実測図（S=1:40）　30
第 41 図　加工段 6 出土遺物実測図（S=1:3）　30
第 42 図　加工段 7 実測図（平面図は S=1:80、土層図は S=1:40）　31
第 43 図　加工段 7 － 2 遺物出土状況実測図（平面図は S=1:60、見通しは S=1:40）　32
第 44 図　加工段 7 － 2 出土遺物実測図①（S=1:3）　33
第 45 図　加工段 7 出土遺物実測図②（S=1:3）　34
第 46 図　加工段 8 － 1・2 実測図（S=1:80）　35
第 47 図　加工段 8 土層実測図（S=1:40）　35
第 48 図　加工段 8 出土遺物実測図（S=1:3）　36
第 49 図　加工段 9、加工段 10 実測図（S=1:80）　37
第 50 図　加工段 10 土層実測図（S=1:40）　37
第 51 図　加工段 10 出土遺物実測図（S=1:3）　38
第 52 図　加工段 11 実測図（S=1:80）　39
第 53 図　加工段 12 実測図（S=1:80）　39
第 54 図　加工段 12 土層実測図（S=1:40）　39
第 55 図　加工段 12 出土遺物実測図（S=1:3）　40
第 56 図　加工段 13 実測図（S=1:80）　40
第 57 図　加工段 13 土層実測図①（S=1:40）　40
第 58 図　加工段 13 土層実測図②（S=1:40）　41
第 59 図　加工段 13 出土遺物実測図（S=1:3）　41
第 60 図　加工段 14 実測図（S=1:80）　42
第 61 図　加工段 14 土層実測図（S=1:40）　42
第 62 図　加工段 14 出土遺物実測図（S=1:3）　42
第 63 図　加工段 15 実測図（S=1:80）　43
第 64 図　加工段 15 土層実測図（S=1:40）　43
第 65 図　加工段 15 出土遺物実測図（S=1:3）　43
第 66 図　加工段 16 実測図（S=1:100）　44
第 67 図　加工段 16 土層実測図①（S=1:40）　44
第 68 図　加工段 16 土層実測図②（S=1:40）　45
第 69 図　加工段 16 土層実測図③（S=1:40）　45
第 70 図　加工段 16 － 1 遺物出土状況実測図（S=1:20）　45
第 71 図　加工段 16 － 1 実測図（S=1:80）　46
第 72 図　加工段 16 － 4、16 － 5 遺物出土状況実測図（S=1:20）　47
第 73 図　加工段 16 － 2 ～ 5 実測図（S=1:80）　48
第 74 図　加工段 17 土層実測図（S=1:40）　48
第 75 図　加工段 16 出土遺物実測図（S=1:3）　49
第 76 図　加工段 17 実測図（S=1:80）　50
第 77 図　加工段 17 出土遺物実測図（S=1:3）　50
第 78 図　加工段 18 実測図（S=1:80）　51
第 79 図　加工段 18 土層①実測図（S=1:40）　51
第 80 図　加工段 18 土層②実測図（S=1:40）　51
第 81 図　加工段 18 出土遺物実測図（S=1:3）　52
第 82 図　ＳＫ３遺構実測図（S=1:40）　53
第 83 図　ＳＫ６遺構実測図（S=1:40）　53

第 84 図　集石土坑 1・集石土坑 2 遺構実測図（S=1:40）　54
第 85 図　集石土坑 1・集石土坑 2 出土遺物実測図（1,3,4 は S=1:6 2,5 は S=1:3）　55
第 86 図　1 － 2 区土層実測図（東側）（S=1:40）　56
第 87 図　1 － 2 区土層実測図（北側）（S=1:40）　57
第 88 図　1 － 2 区出土遺物実測図①（S=1:3）　58
第 89 図　1 － 2 区出土遺物実測図②（S=1:3）　59
第 90 図　1 － 2 区出土遺物実測図③（1~3 は S=1:3 4 は S=1:6）　60
第 91 図　1 － 2 区出土遺物実測図④（S=1:3）　61
第 92 図　1 － 2 区出土遺物実測図⑤（S=1:3）　62
第 93 図　1 － 2 区出土遺物実測図⑥（S=1:3）　63
第 94 図　包含層出土遺物実測図①（S=1:3）　64
第 95 図　包含層出土遺物実測図②（S=1:3）　65
第 96 図　包含層出土遺物実測図③（S=1:3）　66
第 97 図　出土遺物変遷図（S=1:6）　67
第 98 図　市井深田遺構の変遷模式図（S=1:40）　70
第 99 図　煮炊具の区分図（7 ～ 8 世紀）　72
第 100 図　遺跡位置図 (S=1:2,000)　75
第 101 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図（S=1:60）　76
第 102 図　1 区地形測量図（S=1:400）　77
第 103 図　1 区土層図（S=1:80）　78
第 104 図　2 区地形測量図（S=1:400）　79
第 105 図　2 区土層実測図（S=1:80）　79
第 106 図　2 区 南側遺構位置図（S=1:80）　80
第 107 図　加工段 1 遺構実測図（S=1:80）　81
第 108 図　加工段 1 土層実測図（S=1:40）　81
第 109 図　柱位置図（S=1:80）　81
第 110 図　SK1・SK2 遺構実測図（S=1:20）　82
第 111 図　SK1 土層実測図（S=1:20）　83
第 112 図　SK2 土層実測図（S=1:20）　83
第 113 図　出土遺物実測図①（S=1:3）　85
第 114 図　出土遺物実測図②（S=1:3）　86
第 115 図　出土遺物実測図③（S=1:3）　87
第 116 図　出土遺物実測図④（S=1:3）　88
第 117 図　出土遺物実測図⑤（S=1:3）　89
第 118 図　出土遺物実測図⑥（S=1:3）　90
第 119 図　出土遺物実測図⑦（S=1:3）　91
第 120 図　出土遺物実測図⑧（S=1:3）　92
第 121 図　出土遺物実測図⑨（1~3 は S=2:3 4,5 は S=1:3）　93
第 122 図　出土遺物実測図⑩（S=1:8）　94
第 123 図　出土遺物実測図⑪（1~4 は S=1:8 5,6 は S=1:3 7 は S=2:3）　95
第 124 図　遺跡位置図（S=1:2,000）　97
第 125 図　試掘確認調査土層実測図（S=1:60）　98
第 126 図　1 区 地形測量図（S=1:400）　99
第 127 図　1 区 北側土層実測図（S=1:80）　100
第 128 図　1 区 出土遺物実測図①（S=1:3）　101
第 129 図　1 区 出土遺物実測図②（S=1:3）　102
第 130 図　調査区配置及び試料採取地点　103
第 131 図　濃度分布（SK1）　105
第 132 図　濃度分布（SK2）　105
第 133 図　試料採取状況　106

表目次

第 1 表　調査地と周辺の遺跡一覧　5
第 2 表　市井深田遺跡の遺構の変遷　68
第 3 表　5 世紀末から 9 世紀前半の島根県海岸部の造り付け竈　71
第 4 表　PCN 測定結果及び C/N 値　104
第 5 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（土器）　108
第 6 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（石器）　115
第 7 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（木製品）　115
第 8 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（土器）　116
第 9 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（石器）　120
第 10 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（木製品）　120
第 11 表　鈴見 B 遺跡出土遺物観察表（土器）　121
第 12 表　鈴見 B 遺跡出土遺物観察表（石器）　122

写真目次

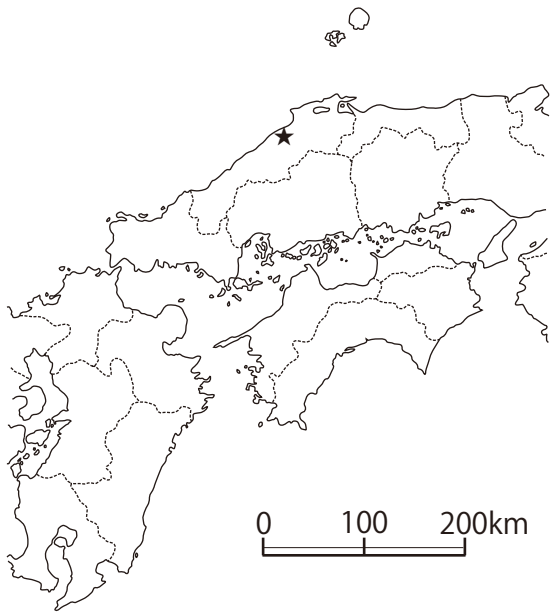
巻頭図版 1　市井深田遺跡上空から北側を望む
巻頭図版 2　1　市井深田遺跡 加工段 2 造り付け竈
　2　市井深田遺跡 加工段 4 － 1 と加工段 4 － 2 の造り付け竈
巻頭図版 3　1　市井深田遺跡 加工段 6 造り付け竈
　2　市井深田遺跡 加工段 12 造り付け竈
巻頭図版 4　1　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -12　左：外面　右：内面）
　2　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -13　左：外面　右：内面）
　3　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -21）
　4　荒槇遺跡 出土遺物（第 119 図 -13）
　5　荒槇遺跡 出土遺物（第 116 図 -19）
　6　市井深田遺跡 出土遺物（第 88 図 -21）
図版 1　1　市井深田遺跡を北側上空から望む
　2　市井深田遺跡全景（上空から）
図版 2　1　市井深田遺跡を北西上空から望む
　2　市井深田遺跡 1 区　近景
　3　市井深田遺跡 2 区　近景
図版 3　1　市井深田遺跡 1 区（上空から）
　2　市井深田遺跡 2 区（上空から）
図版 4　1　市井深田遺跡 加工段 1 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 2 完掘状況
図版 5　1　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈（正面）
　2　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈(横から)
　3　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈（断面）
　4　市井深田遺跡 加工段 3-1 ～ 4・4-3 完掘状況
図版 6　1　市井深田遺跡 加工段 3-5 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 3-1・4-1 ～ 3 完掘状況
　3　市井深田遺跡 加工段 3-1 焼土・加工段 4-1 造り付け竈・加工段 4-3 造り付け竈検出状況
図版 7　1　市井深田遺跡 加工段 4-1 と加工段 4-3 の造り付け竈（正面）
　2　市井深田遺跡 加工段 4-1 造り付け竈
　3　市井深田遺跡 加工段 4-1 造り付け竈（側面）
　4　市井深田遺跡 加工段 4-3 造り付け竈
　5　市井深田遺跡 加工段 4-3 造り付け竈（側面）
図版 8　1　市井深田遺跡 加工段 5 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 6 造り付け竈検出状況
　3　市井深田遺跡 加工段 6 造り付け竈（正面）
　4　市井深田遺跡 加工段 6 造り付け竈（側面）
図版 9　1　市井深田遺跡 加工段 6 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 7 完掘状況
　3　市井深田遺跡 加工段 7 遺物出土状況
図版 10　1　市井深田遺跡 加工段 8-1 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 8-2 完掘状況
　3　市井深田遺跡 加工段 9 完掘状況
図版 11　1　市井深田遺跡 加工段 10 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 12 完掘状況
　3　市井深田遺跡 加工段 12 造り付け竈の煙道
図版 12　1　市井深田遺跡 加工段 13 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 13 焼土検出状況
図版 13　1　市井深田遺跡 加工段 14 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 15 完掘状況
図版 14　1　市井深田遺跡 加工段 16 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 16 遺物出土状況（左：16-1　中：16-4　右：16-5）
図版 15　1　市井深田遺跡 加工段 17 完掘状況
　2　市井深田遺跡 加工段 17 遺物出土状況
　3　市井深田遺跡 加工段 18 完掘状況（張床あり）
図版 16　1　市井深田遺跡 加工段 18 遺物出土状況
　2　市井深田遺跡 加工段 18 完掘状況（張床なし）
　3　市井深田遺跡 SK3 と焼土
図版 17　1　市井深田遺跡 集石土坑 1・2 礫出土状況
　2　市井深田遺跡 SK6 完掘状況
図版 18　1　市井深田遺跡 1-2 区北側土層
　2　市井深田遺跡 1-2 区東側土層
図版 19　1　市井深田遺跡 加工段 2 出土遺物
　2　市井深田遺跡 加工段 3-1・3-2・4-1 出土遺物
図版 20　1　市井深田遺跡 加工段 3-3・4-3・4-4 出土遺物
　2　市井深田遺跡 加工段 3-5 出土遺物
　3　市井深田遺跡 加工段 5・6 出土遺物
図版 21　1　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物①
　2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物②
図版 22　1　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物③ -1（外面）
　2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物③ -2（内面）
図版 23　1　市井深田遺跡 加工段 8 出土遺物①
　2　市井深田遺跡 加工段 8 出土遺物②
図版 24　1　市井深田遺跡 加工段 10 出土遺物
　2　市井深田遺跡 加工段 12・13 出土遺物
図版 25　1　市井深田遺跡 加工段 15・16 出土遺物
　2　市井深田遺跡 加工段 17・18 出土遺物
図版 26　1　市井深田遺跡 加工段 18 出土遺物
　2　市井深田遺跡 集石土坑 1・2 出土遺物（上：外面　下：内面）
図版 27　1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物①
　2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物②
図版 28　1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物③
　2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物④
図版 29　1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑤（上 : 外面

下：内面）
2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑥
図版 30　1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑦
2　市井深田遺跡 包含層出土遺物①
図版 31　1　市井深田遺跡 包含層出土遺物②
2　市井深田遺跡 包含層出土遺物③（上 : 外面
下：内面）
図版 32　1　市井深田遺跡 加工段 1 出土遺物
2　市井深田遺跡 加工段 2 出土遺物
3　市井深田遺跡 加工段 4 出土遺物
4　市井深田遺跡 加工段 3 出土遺物①
図版 33　1　市井深田遺跡 加工段 3 出土遺物②
2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物
図版 34　1　市井深田遺跡 加工段 8-1 出土遺物
2　市井深田遺跡 加工段 8-2 出土遺物
3　市井深田遺跡 加工段 9 出土遺物
4　市井深田遺跡 加工段 12 出土遺物
図版 35　1　市井深田遺跡 加工段 13 出土遺物
2　市井深田遺跡 加工段 14 出土遺物
3　市井深田遺跡 加工段 15 出土遺物
4　市井深田遺跡 加工段 16-1 出土遺物
5　市井深田遺跡 加工段 16-4 出土遺物
6　市井深田遺跡 加工段 16-5 出土遺物
図版 36　1　市井深田遺跡 加工段 17 出土遺物
2　市井深田遺跡 集石土坑 1 出土遺物
図版 37　1　市井深田遺跡 集石土坑 2 出土遺物
2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物①
図版 38　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物②
図版 39　1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物③
2　市井深田遺跡 包含層出土遺物
図版 40　1　荒槇遺跡上空から北側を望む
2　荒槇遺跡上空から南側を望む
図版 41　1　荒槇遺跡 1 区　全景
2　荒槇遺跡 2 区　全景
図版 42　1　荒槇遺跡 SK1・SK2 内部完掘状況
2　荒槇遺跡 加工段 1 完掘状況
図版 43　1　荒槇遺跡 出土遺物①
2　荒槇遺跡 出土遺物②
図版 44　1　荒槇遺跡 出土遺物③
2　荒槇遺跡 出土遺物④（上 : 外面　下：内面）
図版 45　1　荒槇遺跡 出土遺物⑤
2　荒槇遺跡 出土遺物⑥
3　荒槇遺跡 出土遺物⑦
図版 46　1　荒槇遺跡 出土遺物⑧
2　荒槇遺跡 出土遺物⑨
図版 47　荒槇遺跡 出土遺物⑩
1　SK2 出土木製品（第 122 図 -1 内面）
2　SK2 出土木製品（第 122 図 -1 外面）
3　木釘部拡大
4　木釘部拡大
図版 48　荒槇遺跡 出土遺物⑪
1　SK2 出土木製品（第 122 図 -2 内面)
2　SK2 出土木製品（第 122 図 -2 外面）
3　木釘部拡大
4　木釘部拡大
図版 49　荒槇遺跡 出土遺物⑫
1　SK2 出土木製品（第 122 図 -3 内面）
2　SK2 出土木製品（第 122 図 -3 外面）
3　孔部拡大
4　孔部拡大
図版 50　荒槇遺跡 出土遺物⑬
1　SK2 出土木製品（第 122 図 -4 内面）
2　SK2 出土木製品（第 122 図 -4 外面）
3　孔部拡大
4　孔部拡大
図版 51　荒槇遺跡 出土遺物⑭（SK1 出土木製品）
図版 52　荒槇遺跡 出土遺物⑮
図版 53　荒槇遺跡 出土遺物⑯（柱根）
図版 54　荒槇遺跡 出土遺物⑰
図版 55　荒槇遺跡 出土遺物⑱
図版 56　荒槇遺跡 出土遺物⑲
図版 57　荒槇遺跡 出土遺物⑳
図版 58　荒槇遺跡 出土遺物㉑
図版 59　荒槇遺跡 出土遺物㉒
図版 60　荒槇遺跡 出土遺物㉓
図版 61　荒槇遺跡 出土遺物㉔
図版 62　1　鈴見 B 遺跡上空から北側を望む
2　鈴見 B 遺跡 1 区　上空から
図版 63　1　鈴見 B 遺跡 1 区　近景
2　鈴見 B 遺跡 1 区北側土層
図版 64　鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物①
図版 65　鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物②
図版 66　鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物③

第１章 調査に至る経緯と経過

一般国道９号は、京都府京都市から山陰地方の諸都市を結び、山口県下関市に至る総延長約 750㎞の主要幹線道路である。山陰地域では唯一の幹線道路であり、有効な迂回路もほとんどないため、朝夕の通勤時間帯の混雑や交通事故、自然災害による通行止めが各所で発生している。そのため、高規格幹線道路を整備することで、交通混雑を緩和し円滑な交通を確保することは、日常生活の利便性の向上だけでなく、救急医療機関への速達性、災害時の避難経路確保、広域観光ルート形成など多くの問題解消に繋がるとして期待されてきた。その様相は大田市内においても例外ではなく、特に出雲市との境に位置する仙山峠付近では、急カーブが連続し交通事故が多発するなど交通の難所とされ、平成 18 年７月には地滑り災害により全面交通止めになるなど、幹線道路としての機能に支障を来していたところであった。こうした状況の下、国土交通省は朝山大田道路（延長 6.3㎞、大田市朝山町朝倉～大田市久手町刺鹿）の一体的な整備・建設を計画し、平成 18 年３月に都市計画決定された。

平成 19 年度、道路建設予定地内の遺跡の存否について照会を受けた島根県教育委員会は分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地 13 か所（荒槇遺跡、鈴見Ｂ遺跡他 11 か所）と要注意箇所９か所（市井深田遺跡他８か所）を確認し回答した。平成 22 年３月 12 日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地 13 か所について国土交通省から文化財保護法第 94 条第１項の規定による通知があり、平成 22 年３月 12 日付けで島根県教育委員会教育長から発掘調査の実施が勧告された。また、市井深田遺跡については平成 22 年度に試掘確認調査が行われ、遺構等が確認されたことから周知の埋蔵文化財包蔵地となり、平成 23 年１月 18 日付けで国土交通省から文化財保護法第 94 条第１項の規定による通知があり、平成 23 年１月 24 日付けで発掘調査の実施が勧告された。平成 23 年度に市井深田遺跡で発掘調査が行われ、平成 24 年度に荒槇遺跡と鈴見Ｂ遺跡１区の発掘調査が行われた。平成 23 年４月 25 日付けで島根県埋蔵文化財調査センター所長から文化財保護法 99 条第１項に基づく通知を提出し発掘作業に着手した。



第１図　調査地の位置

第 2 章 遺跡の位置と環境

島根県大田市は、東西に長い島根県の中ほどに位置している。北部は日本海に面し、南部には三瓶山（標高 1126.2 m）、大江高山（標高 808m）などの山々を有している。急峻な山地は海岸まで迫り、平坦地は少なく、耕地は山々の間を流れる河川の周辺に開かれてきた。

本報告書に掲載する 3 つの遺跡（市井深田遺跡（1）、荒槇遺跡（2）、鈴見 B 遺跡（3））はいずれも、かつて大田市東部に存在した波根湖（1951 年干拓完了により農地化）周辺に所在する。波根湖は、現在の波根町から久手町周辺に広がっており、日本海と繋がる汽水湖であった。中世には、大津、刺鹿など、現在では内陸にある地域も主要な港として利用されており、本報告書掲載の 3 つの遺跡も波根湖からほど近い距離にあったと考えられる。

市井深田遺跡は、江谷川の支流である市井川沿いの丘陵にあり、標高は 10m ～ 20m を測る。麓には、平成 22 年度に調査をおこなった中尾 H 遺跡（4）があり、多数の縄文土器が出土している。荒槇遺跡は、市井川が江谷川と合流する付近に位置しており、河川改修以前の川跡の平坦地（1 区）は標高 5m 前後、斜面（ 2 区）は標高 7m ～ 12m を測る。鈴見 B 遺跡は、波根湖へ注いでいた川跡に位置し、近年は用水路が整備され、田畑として利用されていた。川跡の平坦地（1 区）は標高 5m 前後、山裾の斜面（2 区）は標高 9m ～ 11m を測る。

これまで、大田市東部の遺跡については、不明な点が多かったが、平成 22 年度より行う朝山大田道路建設に関連する発掘調査により、次第に詳細な事柄が明らかになりつつある。

以下にこれまで知られている限りで、周辺の遺跡について概観する。

【旧石器時代】大田市で確認された旧石器時代の遺跡はまだない。紀元前 3,000 年ごろに降下したとされる三瓶山の厚い火山灰層に覆われているため検出が難しく、今後の調査が期待される。

【縄文時代】大田市で確認された縄文時代の遺跡例は少ない。夏焼遺跡（大田市大田町野城）は三瓶川中流域の河岸段丘上の遺跡で、磨消縄文土器や磨製石斧、敲石などが採集された。波根川遺跡（13）では 1984 年の河川改修工事中に磨消縄文土器が採集された。同遺跡の磨消縄文土器は、瀬戸内地域の福田 K2 式後半に並行するとされた、出雲地域の暮地式に相当すると考えられている。平成 22 年度に調査した中尾H遺跡の調査でも、縄文時代後期前葉を中心とする縄文土器・石器が多数出土したが、中には縄文時代前期の土器も含まれており、年代的にかなり広い幅を持つ。これにより三瓶山北麓の丘陵地帯から海岸部にかけて、かなり古い段階から広範囲にわたる集落が存在した可能性がうかがえる。

【弥生時代】大田市東部で弥生時代の遺跡として確認された遺跡はないが、大田市内の三瓶川や静間川下流域の平野部には、土江遺跡（大田市長久町土江）・八日市遺跡（同静間町八日市）

など､弥生時代に集落が営まれていたと考えられる遺跡が存在する。波根湖周辺部にも波根川・大原川・江谷川などが北流しており、下流域に狭いながらも平野部を形成している。平成 25 年３月に報告書を刊行した中尾Ｈ遺跡、門遺跡（5)、高原遺跡（6）からは弥生土器も出土しており、土江遺跡や八日市遺跡と同様の地形であることから、大田市東部にも集落が存在していた可能性が高い。

【古墳時代】古墳時代前期の遺跡としては柳瀬西遺跡（30）・大西Ｃ遺跡（46）があり、複合口縁を持つ古式土師器が出土している。また、上川内遺跡（15）は集落跡と考えられており、土師器・須恵器が採集されている他、1980 年の調査では、祭祀関係の遺構と推察される石積遺構が確認されている。大田市内では広範囲にわたってかなりの数の遺物散布地が確認されており、そこに住居跡群の存在が想定されるが、その時期や分布、規模については今後の調査を待つところである。

前半期の古墳として推定されるのは唯一竹原古墳（54）である。径 40 m、高さ３mのこの古墳は、波根湖を見下ろす丘陵先端に位置する。墳丘からは葺石が確認されている。竹原古墳の他は古墳時代後期に営まれた、墳丘を持たない横穴墓・横穴墓群で、波根湖南岸の丘陵縁辺部に数多く分布している。規模の大きな横穴墓群には、15 穴が確認され直刀や刀子、耳環、勾玉、人骨などが出土した松田谷横穴群（23）や、12 穴以上で玉類や刀子、鉄鏃などが出土した諸友大師山横穴群（66）などがある。横穴墓の形態は床面正方形・平天井・短い羨道などが地域的特色として指摘されている。また、家形の横穴墓も数は少ないが存在し、西迫横穴（26）は切妻の家形で屍床をもつ大型の整美な横穴墓である。

【奈良・平安時代】大田市東部は『和名抄』に記載される安濃郡波禰郷・刺鹿郷に比定される。古代山陰道は出雲国田儀駅（現出雲市多伎町久村付近）から石見国安濃郡波禰駅（所在地不明）に入り､邇摩郡託農駅（現大田市仁摩町宅野）に通じていた。この地域は石見国の東端であり、出雲国との国境には仙山峠が控え、石見と出雲を結ぶ交通の要衝であった。

旧波根湖東岸近くの丘陵南斜面には、奈良時代に建立された天王平廃寺（24）がある。石見地方では数少ない奈良時代の寺院跡で、塔跡・建物跡が検出され、須恵器や軒丸瓦・平瓦などが出土している。隣接する丘陵麓の高砂遺跡（25）からは瓦経が発見されている。大田市内全域にわたって遺物散布地が確認されており、そこに住居跡群の存在が想定される。

【中･近世】戦国期に石見銀山が開発されると､やがて銀山の支配をめぐり大内氏（のち毛利氏）と尼子氏が争い、その傘下に入った当地の波禰氏や刺賀氏、邑智郡の小笠原氏が大田市東部でも各所に山城･砦を築いた。旭山城跡（12)、刺鹿城跡（20)、鰐走城跡（31)、岩山城跡（59）などで、郭跡や堀切、石垣などの遺構が残る。中でも鰐走城跡は、波根湖と日本海が接する地に築かれた水軍の城郭で、主郭からは波根湖を挟んで陸の要衝である岩山城跡、松山城跡（大

田城・大田要害山城、大田市大田町松山）を望むことができる。

また、沿岸部の波根津、波根湖南岸の刺賀津は山陰道と日本海水運の連結点として重要を増し、大きく発展した。明代の 1557 年成立の「図書編」や 1592 年頃成立の『日本風土記』などに記された湊の中に「番称」（波根）「山子介」（刺鹿）の名がみえる。波根町砂山からは戦国期に埋納されたと推定される備蓄銭が 6,000 枚以上出土している。

近世に入ると、わずかな期間を除いて幕府領大森代官所支配地となり、大田市東部は波根東村・波根西村・刺賀村として支配された。鎌倉時代末に始まった波根湖の干拓は、近世に入り本格化し、波根湖岸に新田開発が進められた。

分布調査により、大西 C 遺跡では鉄滓が表採されており、山間部を中心に行われていたたたら製鉄が、大田市東部でも行われていたことを示す。この地域のたたら製鉄の詳細については、今後の調査を待ちたい。

【参考文献】

島根県教育委員会 2002『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』

島根県教育委員会 1984『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅱ　石見部製鉄遺跡』

島根県教育委員会 1997『島根県中近世城館跡分布調査報告書〈第 1 集〉 石見の城館跡』

島根県教育委員会 2013『門遺跡　高原遺跡 I 区　中尾 H 遺跡』

渡辺聡・糸川寿幸 2012「波根川遺跡の縄文土器」『島根考古学会誌』第 29 号

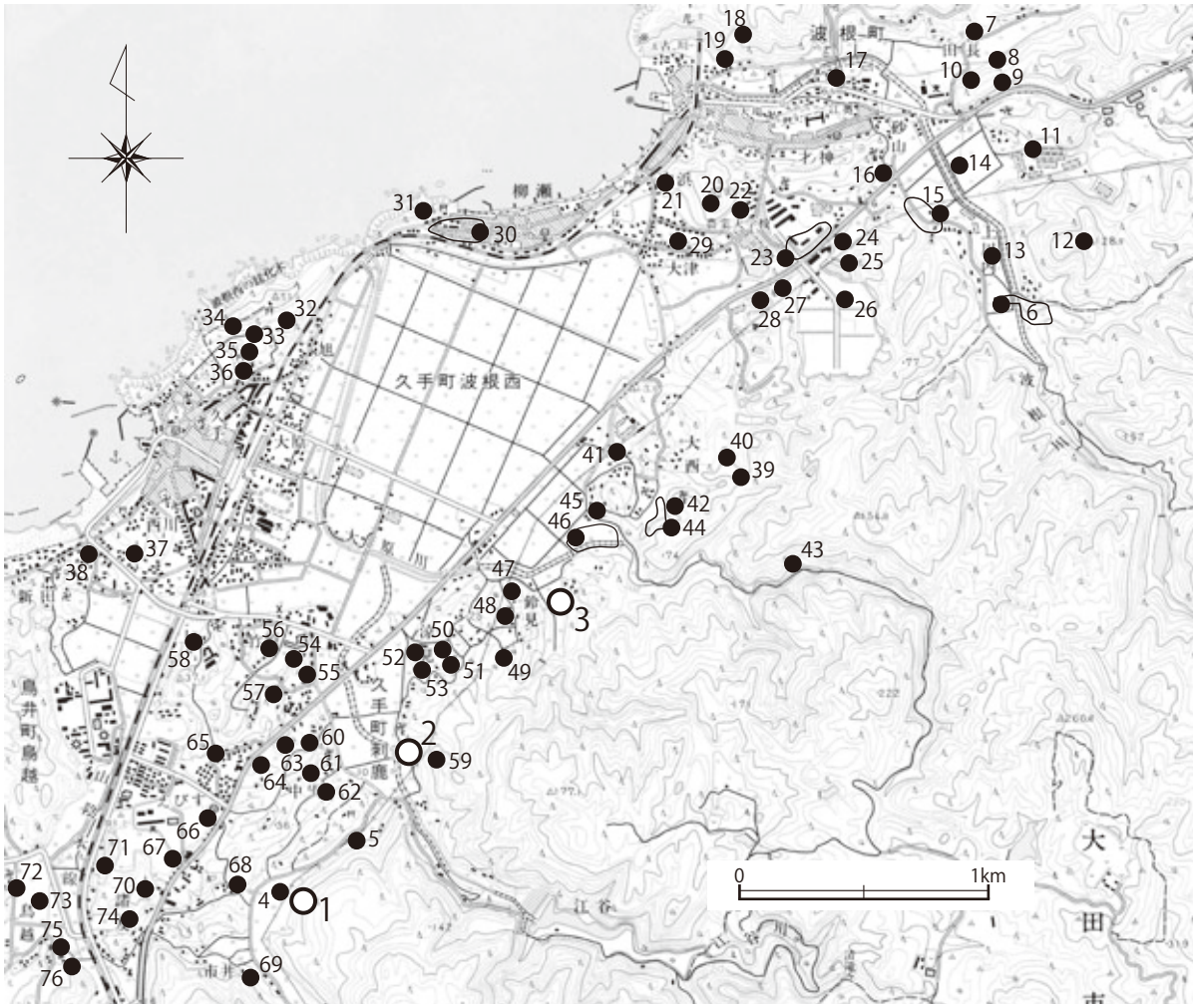
大田市教育委員会 1981『大田市埋蔵文化財調査報告 1　上川内遺跡　－田長・高原地区－』

大田市教育委員会 1983『大田市埋蔵文化財調査報告 3　諸友大師山横穴群　－三瓶川流域跡他詳細分布調査 1 －』

大田市教育委員会 1984『大田市埋蔵文化財調査報告 4　三瓶川流域遺跡詳細分布調査Ⅱ－大田市内遺跡一覧・地図－』

平凡社 1995『日本歴史地名大系第 33 巻　島根県の地名』

角川書店 1991『角川日本地名大辞典　32　島根県』



第 2 図　調査地と周辺の遺跡

1	市井深田遺跡	2	荒槇遺跡	3	鈴見 B 遺跡	4	中尾 H 遺跡
5	門遺跡	6	高原遺跡	7	前谷 B 遺跡	8	前谷 C 遺跡
9	幸迫谷横穴墓	10	前谷 A 遺跡	11	田長横穴墓	12	旭山城跡
13	波根川遺跡	14	田長遺跡	15	上川内遺跡	16	砂口遺跡
17	江奥遺跡	18	金比羅山横穴墓	19	東灘遺跡	20	刺鹿城跡
21	中浜遺跡	22	砂山遺跡	23	松田谷横穴群	24	天王平廃寺
25	高砂遺跡	26	西迫横穴	27	中山曽根横穴	28	熊屋谷横穴群
29	大津遺跡	30	柳瀬西遺跡	31	鰐走城跡	32	旭遺跡
33	刈田神社裏山 B 遺跡	34	刈田神社裏山 A 遺跡	35	刈田神社裏山遺跡	36	刈田神社横遺跡
37	新田 B 遺跡	38	新田 A 遺跡	39	暮石横穴群	40	銭神山横穴群
41	大西 D 遺跡	42	大西大師山横穴群	43	六曽根遺跡	44	大西 A 遺跡
45	大西 B 遺跡	46	大西 C 遺跡	47	鈴見 A 遺跡	48	鈴見上ヶ A 遺跡
49	涼見上ヶ B 遺跡	50	涼見 D 遺跡	51	涼見 B 遺跡	52	涼見 A 遺跡
53	涼見 C 遺跡	54	竹原古墳	55	竹原 B 遺跡	56	竹原 A 遺跡
57	竹原 C 遺跡	58	市庭遺跡	59	岩山城跡	60	中尾 C 遺跡
61	中尾 D 遺跡	62	中尾 E 遺跡	63	森ノ上遺跡	64	辻遺跡
65	中尾 B 遺跡	66	諸友大師山横穴群	67	二中横穴群	68	中尾横穴
69	市井遺跡	70	山田庫夫宅裏横穴群	71	鳥越 A 遺跡	72	鳥越 B 遺跡
73	中祖遺跡	74	諸友西横穴群	75	鳥越 C 遺跡	76	栗林 C 遺跡

第 1 表　調査地と周辺の遺跡一覧

第 3 章 市井深田遺跡

第 1 節　発掘作業と整理作業の経過

1) 遺跡の位置

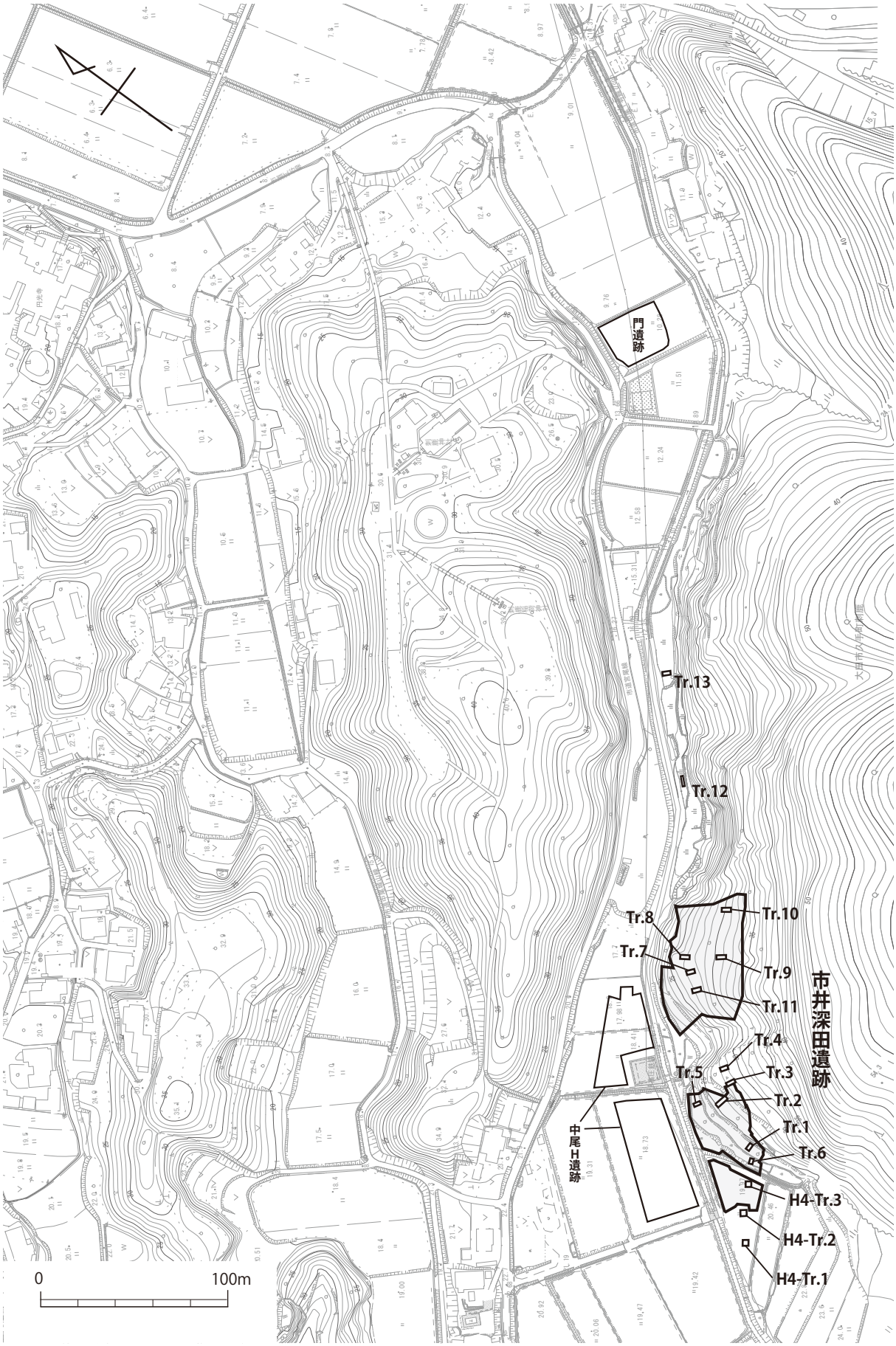
市井深田遺跡は島根県大田市北東部の久手町刺鹿に所在する。江谷川支流の市井川右岸に広がる緩斜面に立地する。遺跡の北には旧波根湖と大田市街地を結ぶ道が通っており、交通の要衝に位置する。対岸には平成 22 年度に発掘調査を実施した中尾H遺跡がある。

2) 試掘確認調査の概要

試掘確認調査は平成 22 年 11 月 24 日から同年 12 月 6 日まで実施した。分布調査で要注意箇所とした 9,500㎡について 16 か所でトレンチ掘削による調査を実施し、6 か所のトレンチで古代の加工段等を確認し、2 か所のトレンチで遺物包含層を確認した。この調査結果からこれらのトレンチを中心とする 4,050㎡が周知の埋蔵文化財包蔵地とされ、発掘調査が必要であると判断された。

3) 発掘作業の経過

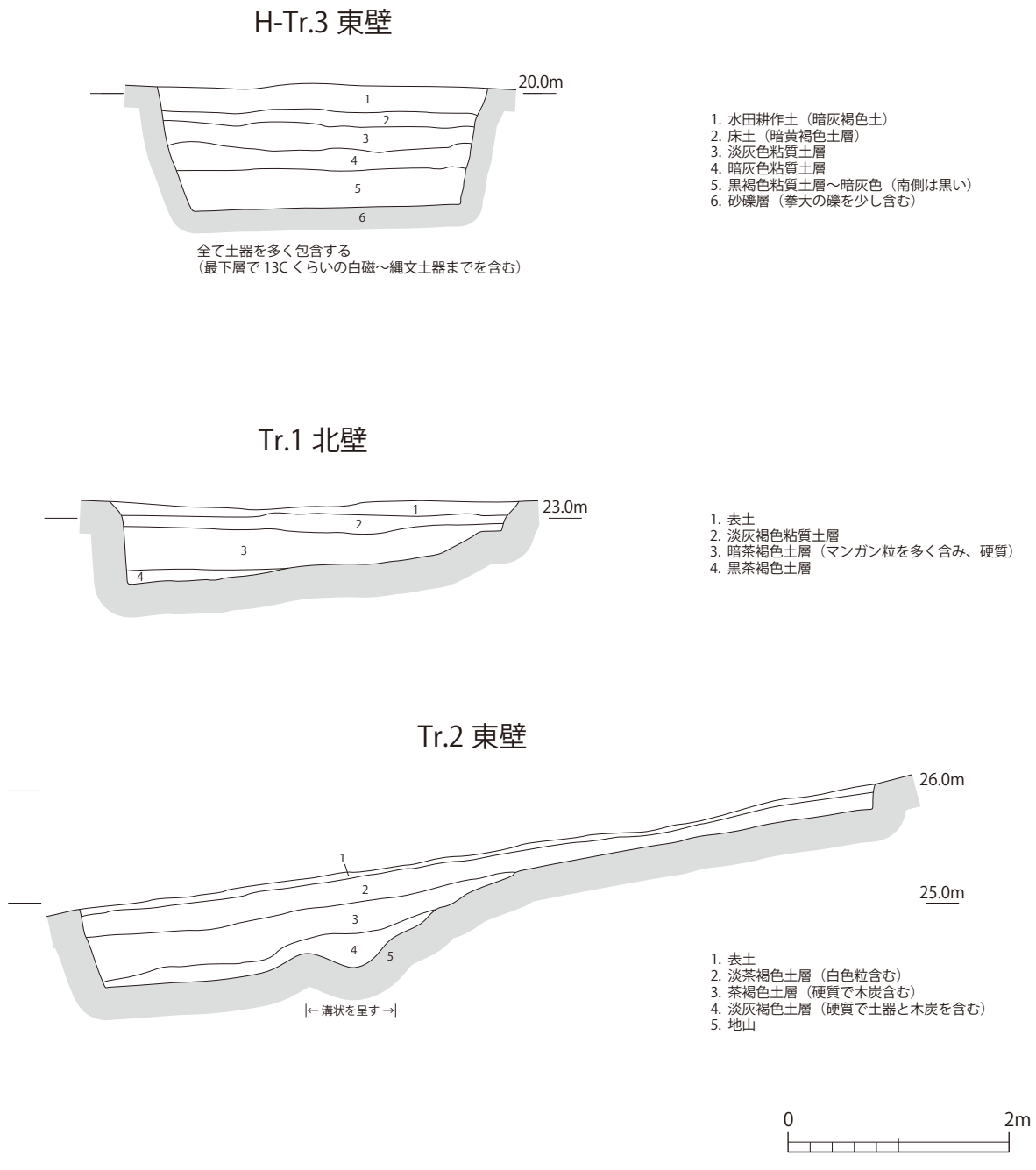
発掘作業は平成 23 年 5 月 30 日から同年 12 月 1 日まで実施した。調査地中央の谷を挟んで、南西側の耕作地を植林地に転用した緩斜面と水田となっている平坦地を 1 区、北東側の植林地となっている緩斜面を 2 区に区分した。さらに 1 区は緩斜面を 1 － 1 区、南側の平坦地を 1 － 2 区、西側の平坦地を 1 － 3 区に区分した。1 － 1 区は耕作地造成のための改変が激しく、最上段、上段、中段、下段と 4 階段状になっていた。各調査区の面積は 1 － 1 区が 1,050㎡、1 － 2 区が 440㎡、1 － 3 区が 50㎡、2 区が 2,510㎡である。表土掘削は重機で行い、遺構や遺物包含層の掘削は人力で行った。5 月 30 日に 1 － 1 区から発掘作業を開始した。6 月 15 日に加工段 1 を検出した。これ以降、加工段が次々に検出され、最終的に 1 区で 12 か所、2 区で 6 か所の加工段が検出された。1 － 1 区は近現代に階段状に耕作地が造成されていたため、あまり遺構は残っていないと考え作業を進めていたが予想以上に遺構があり、1 区の作業が遅延することになった。8 月 23 日から 1 － 1 区の作業に並行して、1 － 2 区の発掘作業を実施した。1 － 2 区は試掘確認調査の結果や、隣接する中尾 H 遺跡の調査成果から、遺構や包含層の内容を想定できたため順調に作業を進めることができた。9 月 26 日に 1 － 1 区の作業がほぼ完了したことから、2 区の作業を開始した。2 区は 1 － 1 区の 2 倍の面積があり、階段状の造成が見られなかったことから、相当数の加工段が保存されていると想定された。しかし加工段の数は少なく、保存状態も良好なものは少なかった。9 月 27 日に 1 － 3 区の調査を開始した。1 － 3 区は保存状況が悪く遺構は検出できなかった。11 月 23 日に現地説明会を開催し、約 120 名の参加があった。12 月 1 日に現地での作業を完了した。



第 3 図　試掘周辺地形図及び試掘確認調査トレンチ位置図（S=1:3,000）

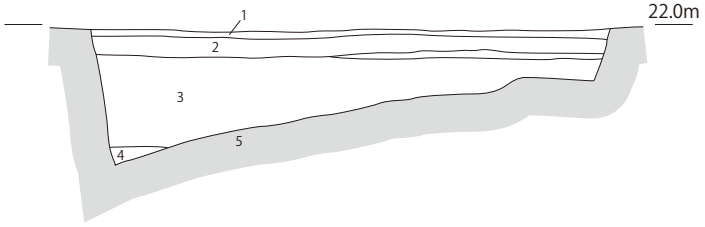
4) 整理作業の経過

遺物の水洗、注記、接合は発掘作業と並行して行った。遺物の実測も発掘作業と並行して行ったが、多くは平成 25 年度に行った。また遺物の実測は全体的な数量が多いことから、遺構出土品を優先し、包含層出土品は遺構出土品に無い遺物を中心に選択した。遺物の写真撮影は平成 25 年度に行った。



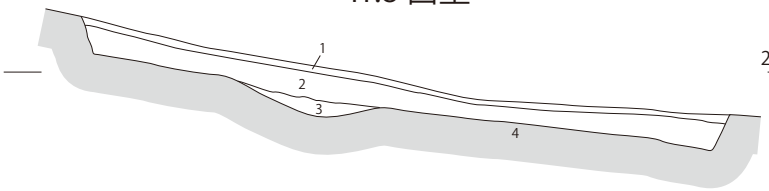
第 4 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図①（S=1:60）

Tr.5 東壁



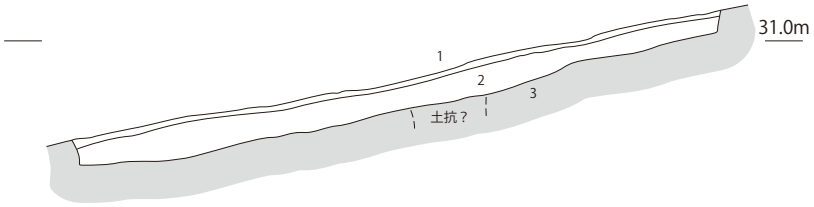
1. 表土
2. 淡灰褐色粘質土層（Tr.1 と同じ）
3. 暗茶褐色土層（マンガン粒・須恵器を含み、硬質）
4. 黒茶褐色土層（須恵器あり）
5. 硬い岩盤

Tr.8 西壁



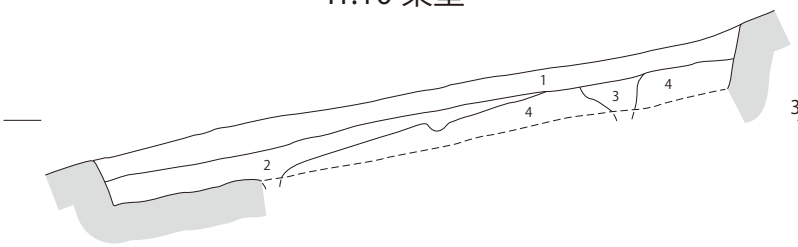
1. 表土
2. 淡茶褐色土層（土器少量）
3. 淡褐色土層（若干粘性がある）
4. 地山（淡赤褐色粘質土）

Tr.9 東壁



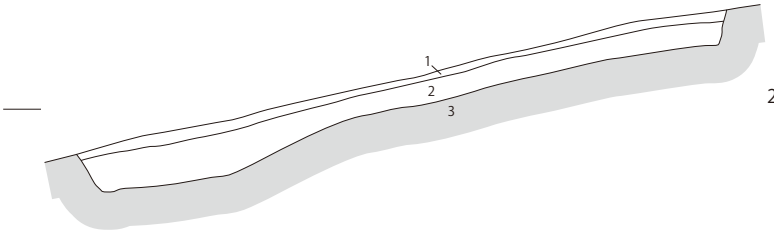
1. 表土
2. 暗茶褐色土層（木炭含む、土器少量）
3. 淡赤褐色土層（地山）

Tr.10 東壁

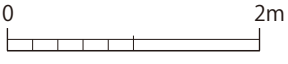


1. 表土
2. 黒褐色土層（土器含む）
3. 黒褐色土層
4. 地山（淡赤褐色土層）

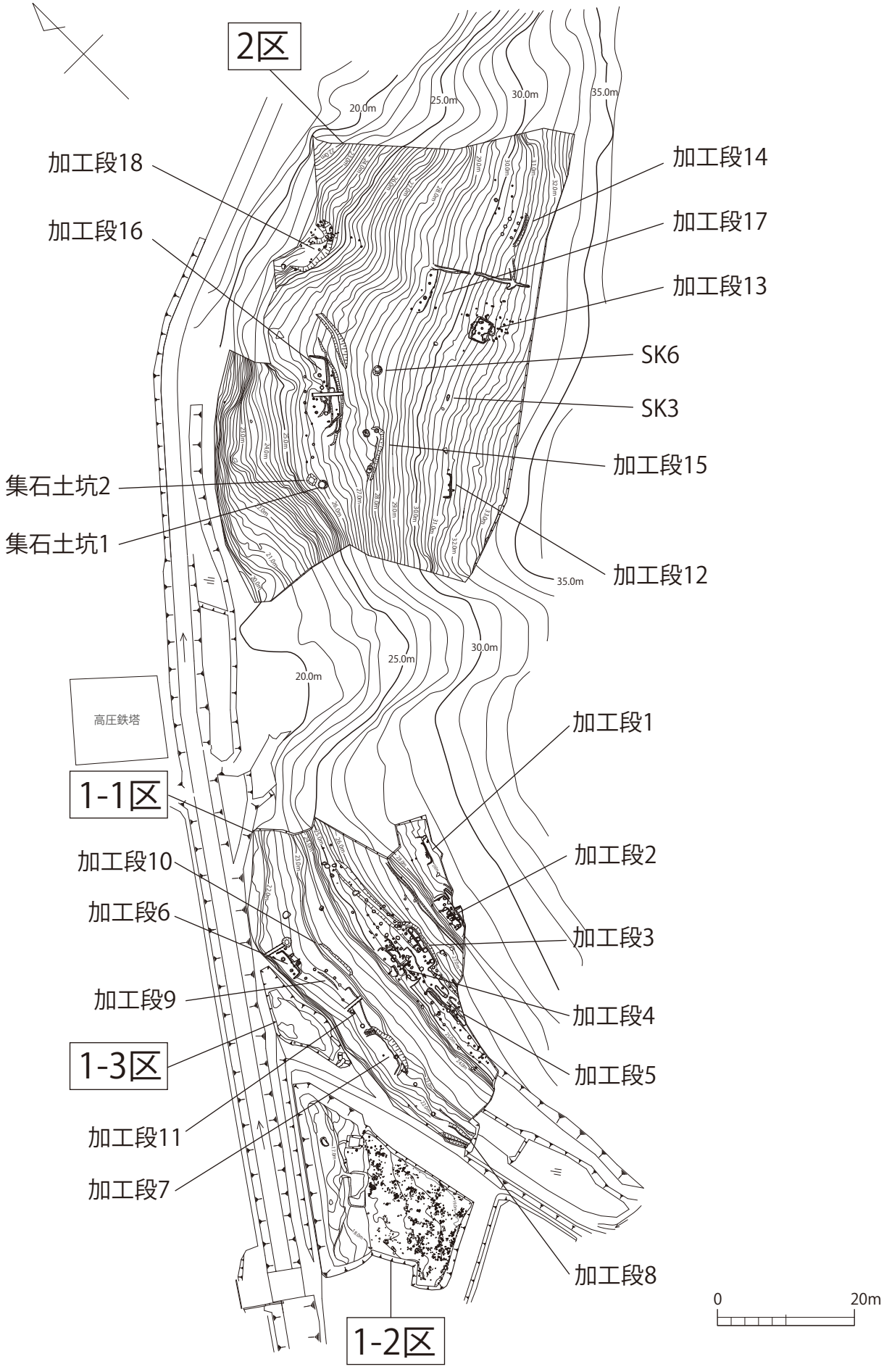
Tr.11 東壁



1. 表土
2. 淡茶褐色土層（土器少量）
3. 淡赤褐色粘質土層（地山）



第 5 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図②（S=1:60）

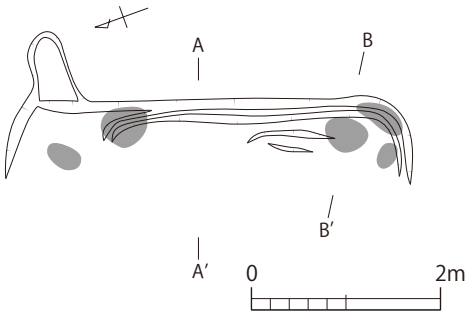


第 6 図　地形測量図（S=1:800）

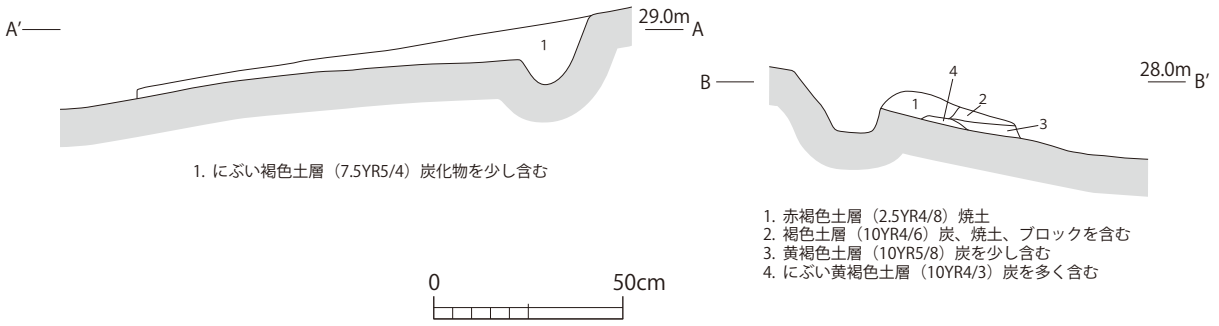
第 2 節　遺構と遺物

加工段 1

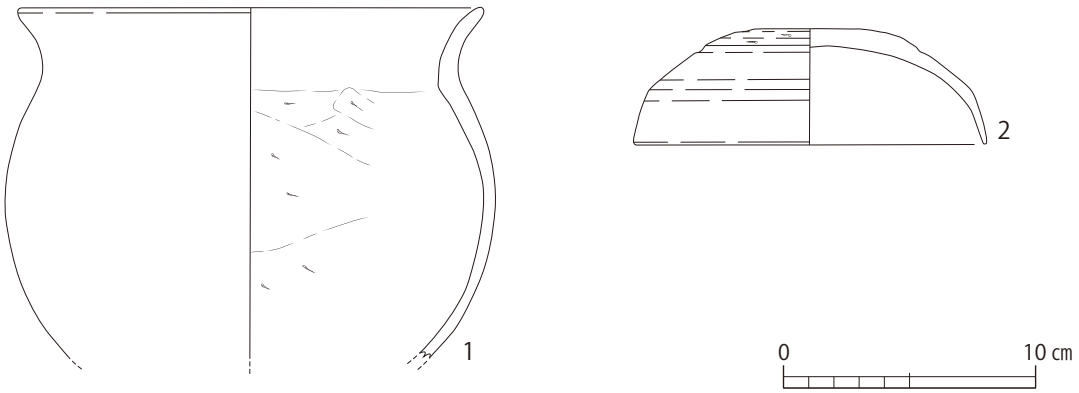
加工段 1 は 1 区の東端に位置する。1 区の中で最も高い場所に造られた加工段である。平面形は隅丸方形で、床面の幅約 4m、現状での奥行き約 1.6m、検出面からの深さは 15㎝を測る。壁際には幅 15㎝前後、深さ 7㎝の溝がめぐる。北東隅には幅 40㎝前後、深さ約 10㎝前後の溝が延びる。床面には壁際に焼土が 5 か所ある。柱穴と考えられる遺構は確認できなかった。簡易な建物が建てられていたと考えられる。遺構の時期は石見 5･6A 期の須恵器の坏蓋（第 9 図 2）が出土していることから、7 世紀初頭と考えられる。



第 7 図　加工段 1 実測図（S=1:80）



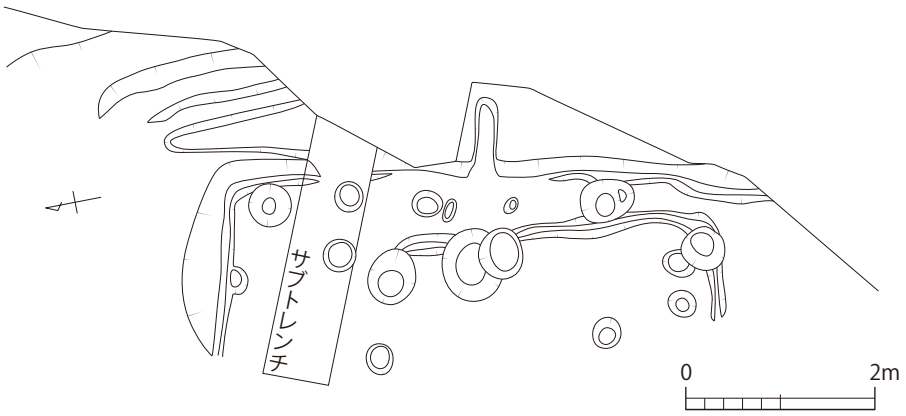
第 8 図　加工段 1 土層実測図（S=1:20）



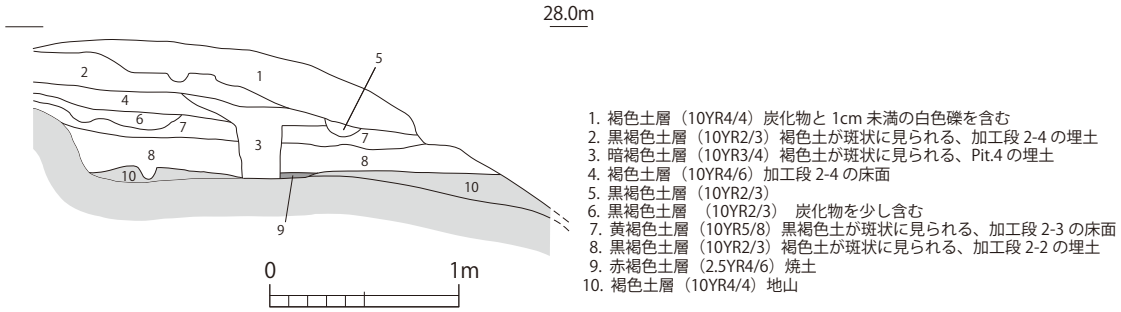
第 9 図　加工段 1 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 2

加工段 2 は加工段 1 の南側に位置する。東南は調査区外に広がっているため、全体を調査することはできなかった。また西は近現代の造成により削平されている。ほぼ同じ場所に斜面の下側から上側に向かって 3 回造り替えている。以下、時期が古いものから記述する。



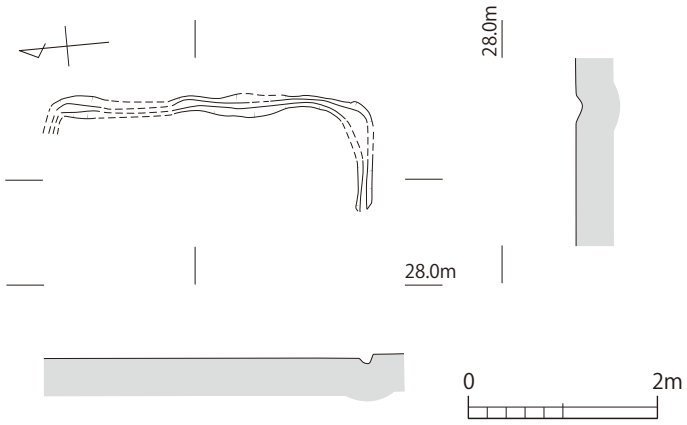
第 10 図　加工段 2 実測図（S=1:80）



第 11 図　加工段 2 土層実測図（S=1:40）

加工段 2 － 1

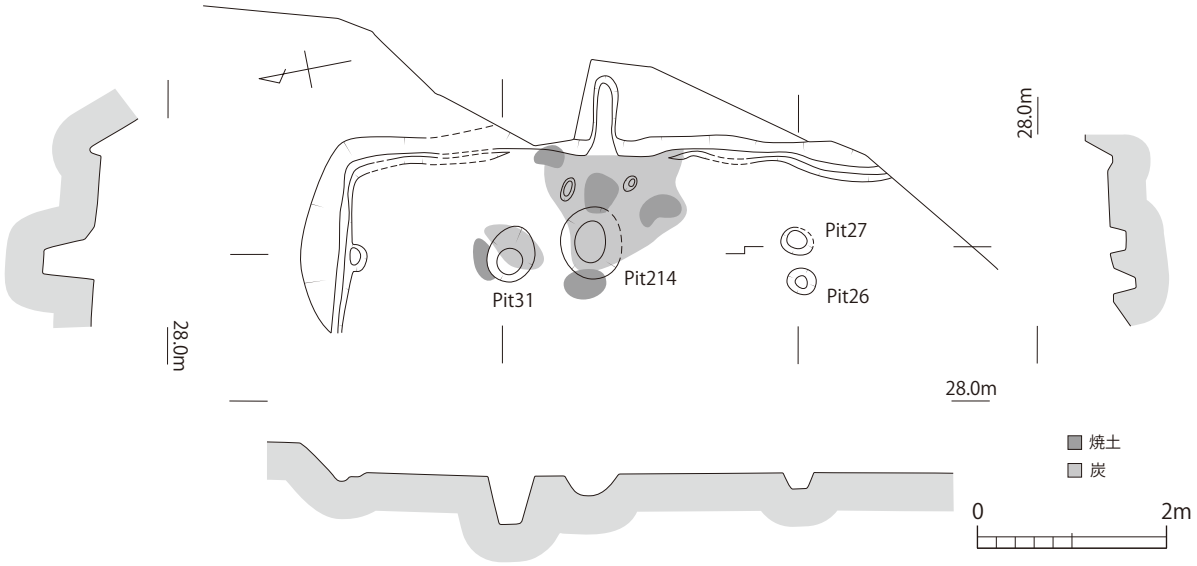
平面形は隅丸方形で、床面の幅約 3.4m、現状での奥行き約 1.2m を測る。壁際には幅 20 ㎝前後、深さ 5㎝前後の溝がめぐる。柱穴と考えられる遺構は確認できなかった。簡易な建物が建てられていたと考えられる。遺構に伴う出土品は確認できなかった。遺構の時期は後続する加工段 2 － 2 が 7 世紀初頭であることから、6 世紀末と考えられる。



第 12 図　加工段 2 － 1 実測図（S=1:80）

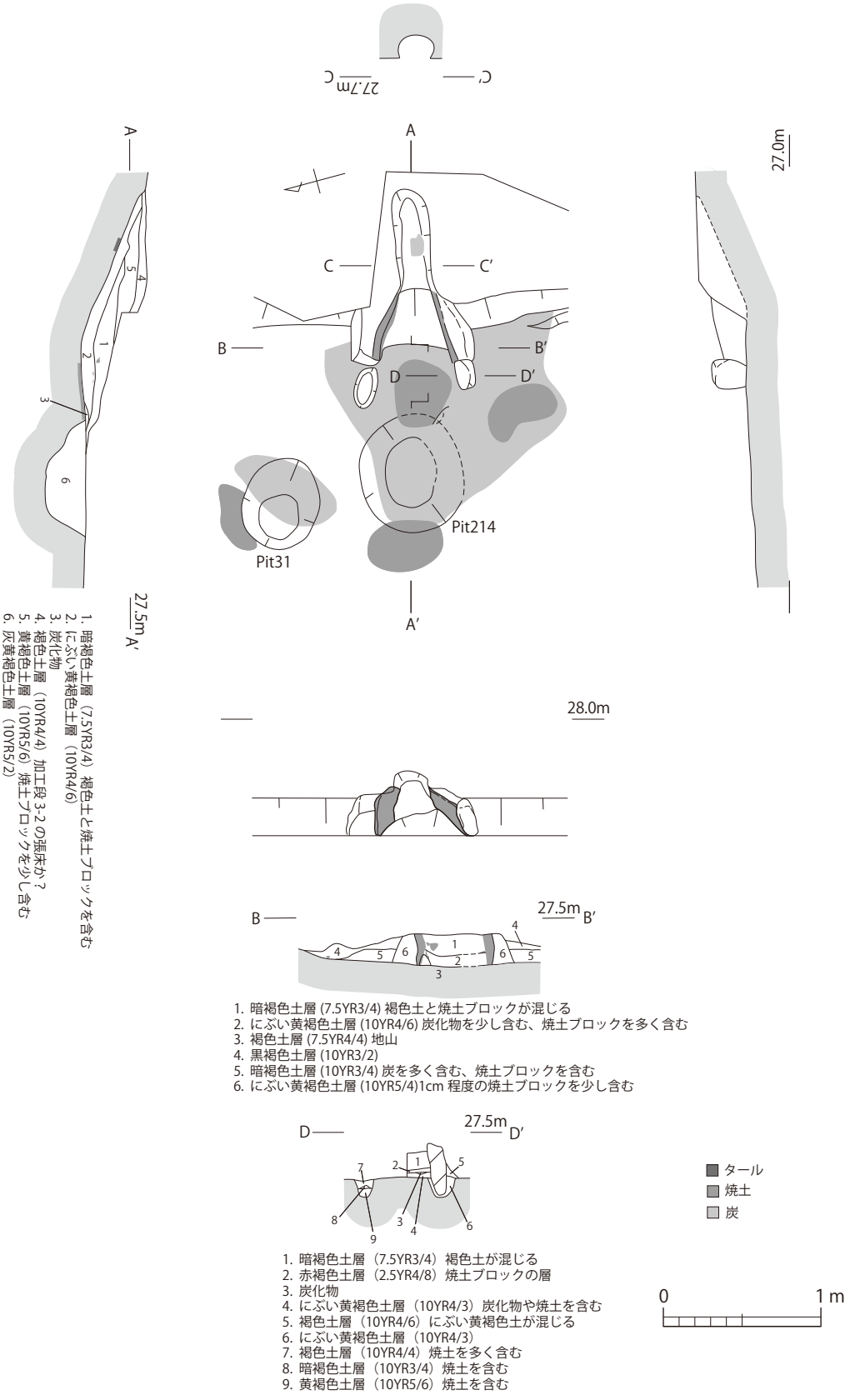
加工段 2 － 2

南側は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 6.2m、奥行き約 1.9m、深さ 24㎝前後を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 12㎝前後の溝がめぐる。東側の壁には造り付けの竈が設置されている。Pit.31 と Pit.27 は柱穴と考えられるが、これらのピットは壁に近いことから、4 本柱の建物のうちの 2 本と考えられる。また造り付けの竈を伴うことから竪穴建物であったと考えられる。床面には竈内の焼土の他に 4 か所の焼土が認められた。このうち焼土 1 は竈の壁体の下に広がることから、竈を設置する前に生じたものと考えられる。また焼土 2 と焼土 3 やその付近に散乱する炭は Pit.31 と Pit.214 の上に広がることから、竪穴建物を廃棄する際、或いは廃棄した後に生じたものと考えられる。加工段 2 － 2 の時期は、石見 5･6A 期の須恵器の蓋（第 17 図 1）が出土していることから、7 世紀初頭と考えられる。



第 13 図　加工段 2 － 2 実測図（S=1:80）

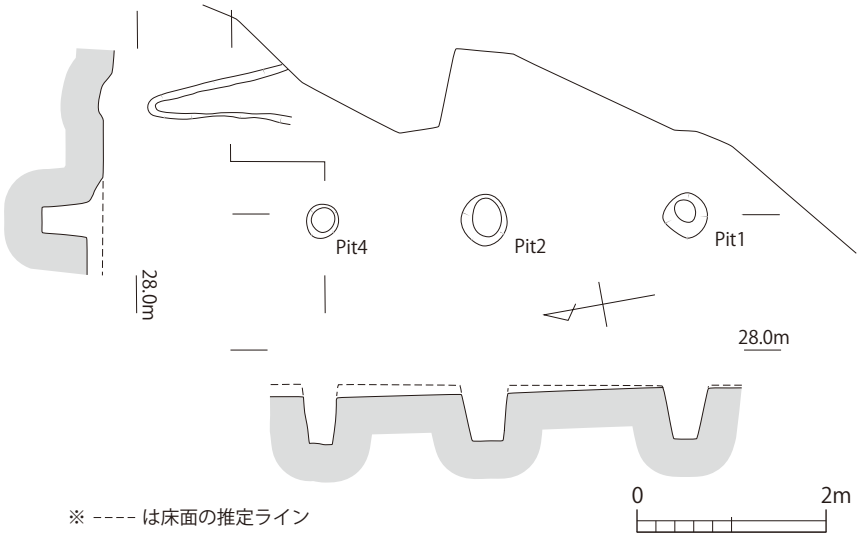
造り付け竈　竈の大きさは壁体の外側で 79㎝を測る。焚口の幅は 46㎝で、奥行き 64㎝を測る。煙道は長さ 64㎝で幅 20㎝前後を測る。焚口の右側には石を据えている。石は床面から 23㎝突出している。焚口の左側で石を設置したと考えられるピットを確認した。焚口の石から加工段の壁までは粘土で壁体を造っている。煙道の中ほどには煙内のタールが付着したものと考えられる箇所があった。煙道内には天井の一部と考えられるようなタールが付着したり赤化した土片が出土していないことから、溝状の煙道であったと考えられる。加工段の壁際の溝は竈の部分には掘られていないことから、途中で竈を追加して設置したのではないことがわかる。また、竈に伴う焼土の半分は焚口の石より前に広がっており、焚口のやや手前で火を焚いていたことがわかる。



第 14 図　加工段 2 － 2 竈実測図（S=1:40）

加工段 2 － 3

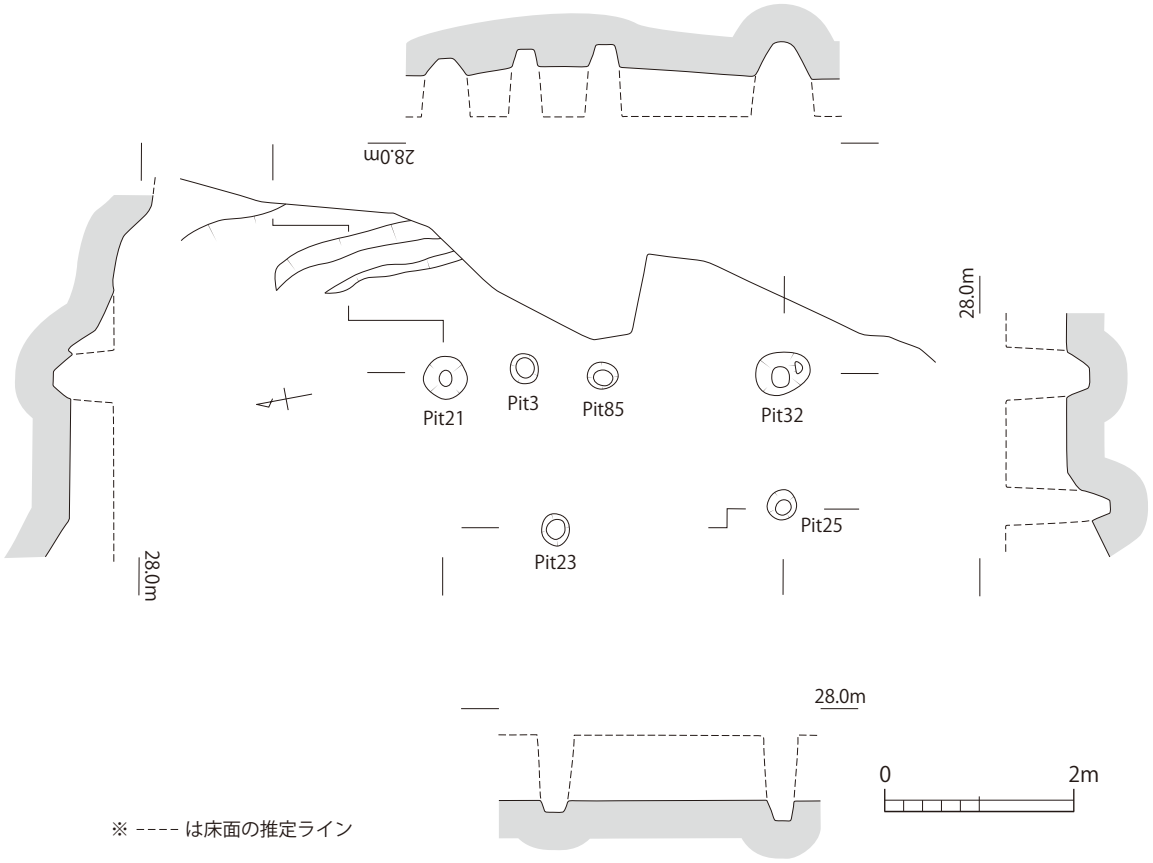
南東が調査区外に広がっている。現状での床面の幅は約 6.2m、奥行き約 1.4m を測る。壁際には幅 50㎝前後、深さ 8㎝前後の溝がある。3 基の柱穴と考えられるピットを確認した。掘立柱建物が建てられていたと考えられる。石見 6C 期と考えられる須恵器の蓋（第 17 図 3）が出土していることから、遺構の時期は 7 世紀中頃と考えられる。



第 15 図　加工段 2 － 3 実測図（S=1:80）

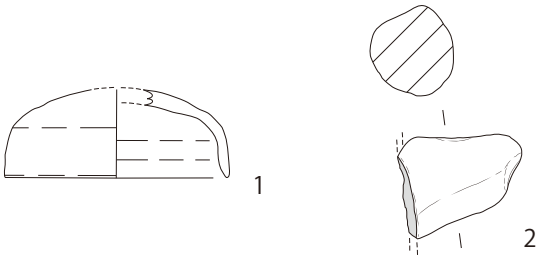
加工段 2 － 4

南東が調査区外に広がっている。現状での床面の幅は約 7m、奥行き約 1.8m を測る。壁際には幅 55㎝前後、深さ 3㎝前後の溝がある。壁際には幅 50㎝前後、深さ 3㎝前後の溝がある。

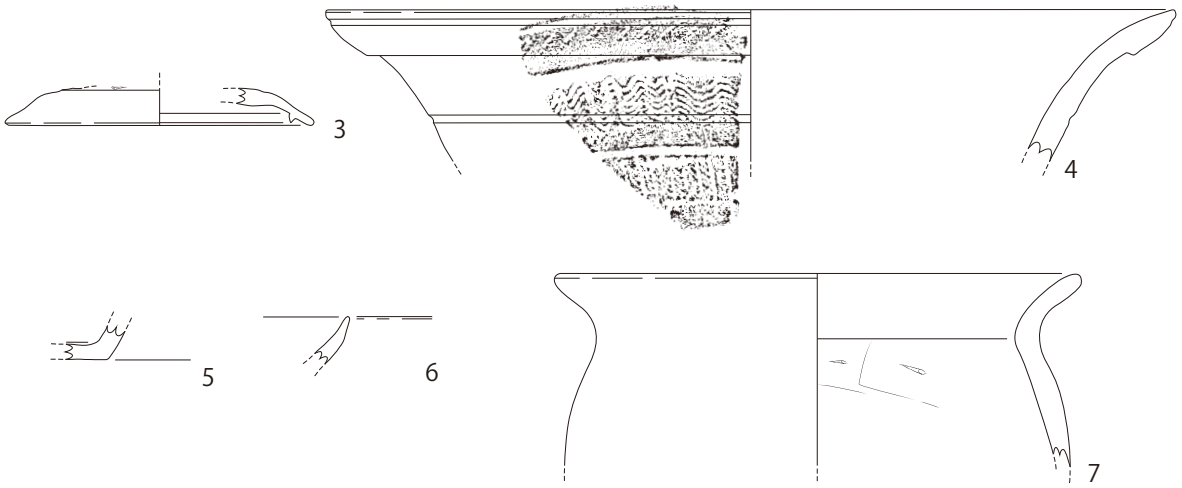


第 16 図　加工段 2 － 4 実測図（S=1:80）

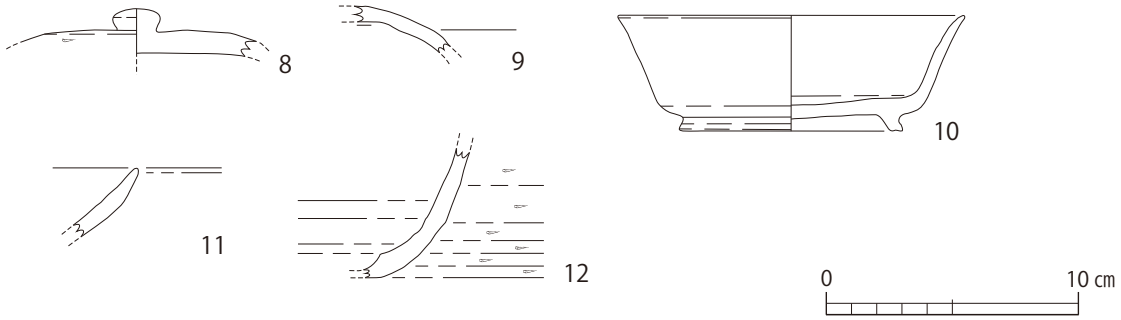
3 基の柱穴と考えられるピットを確認した。掘立柱建物が建てられていたと考えられる。石見 9A と考えられる須恵器の高台付坏（第 17 図 10）が出土していることから、遺構の時期は 8 世紀後半と考えられる。



加工段 2-2 出土遺物



加工段 2-3 出土遺物

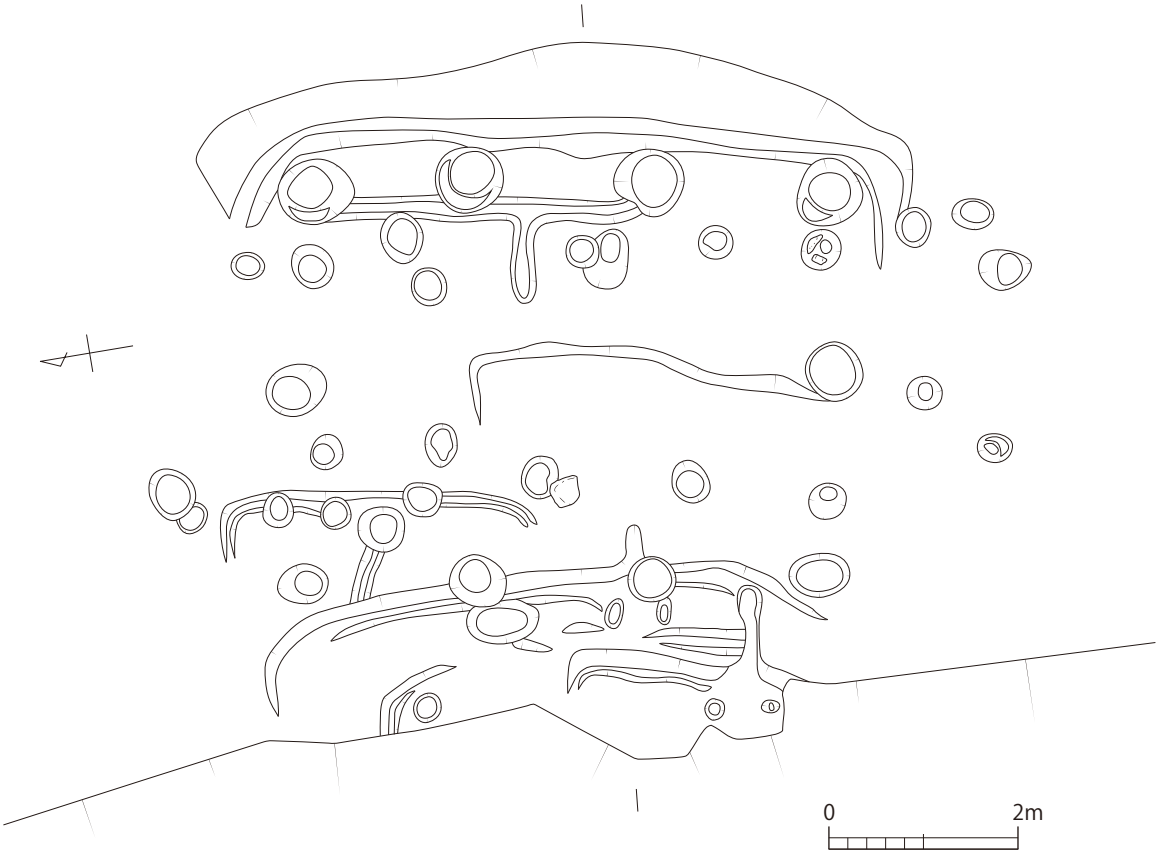


加工段 2-4 出土遺物

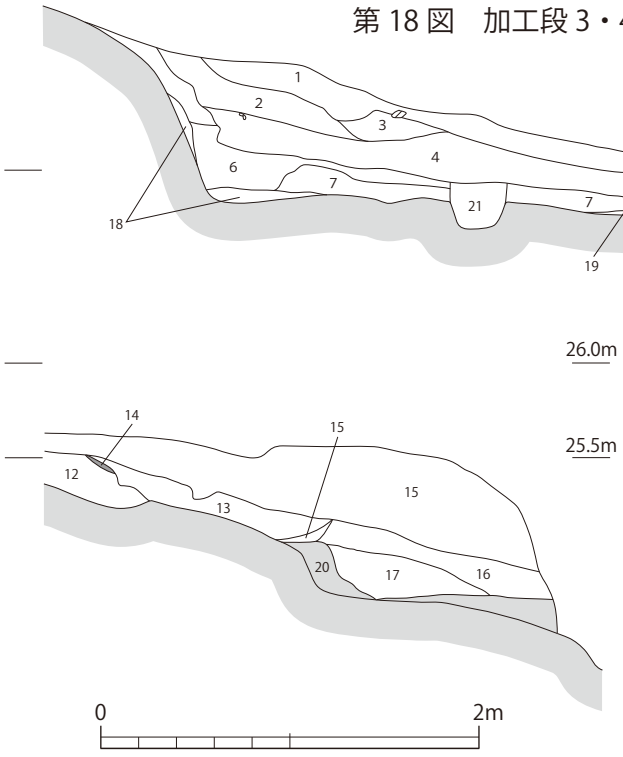
第 17 図　加工段 2 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 3・加工段 4

加工段 3 は加工段 2 の下段に位置する。ほぼ同じ場所に下側から上側に向かって 4 回造り替えている。加工段 4 は加工段 3 の下方に位置し、ほぼ同じ場所に 2 回造り替えている。



第 18 図　加工段 3・4 実測図（S=1:80）

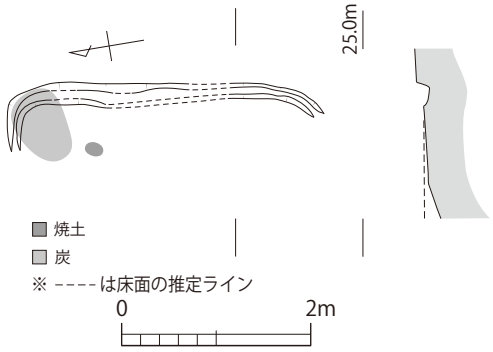


1. 褐色土層（10YR4/4）炭化物を少しと白色砂粒（1～1.5mm）を含む
2. にぶい褐色土層（10YR5/4）炭化物と白色砂流（1～1.5mm）を少し含む
3. 暗褐色土層（10YR3/4）炭化物と赤色ブロックを少し含む
4. 褐色土層（10YR4/6）炭化物と赤色ブロックを少し含む
5. にぶい褐色土層（10YR4/3）赤色砂粒（1～1.5mm）を少し含む
6. 明褐色土層（7.5YR5/8）黄褐色土が混じる
7. 暗褐色土層（10YR3/4）明褐色土が混じる
8. 暗褐色土層（10YR3/3）炭化物と赤色ブロックを含む
9. 明黄褐色土層（10YR6/8）橙色土が混じる
10. 褐色土層（10YR4/4）橙色土が混じる
11. 黄褐色土層（10YR5/6）明黄褐色土が混じる、地山？
12. 明褐色土層（7.5YR5/6）
13. 褐色土層（10YR3/4）炭化物と焼土、橙色ブロックを含む
14. 赤褐色土層（2.5YR4/6）焼土
15. 極暗赤褐色土層（5 YR2/4）焼土の二次堆積
16. 褐色土層（7.5YR4/4）明褐色土が混じる
17. 暗褐色土層（7.5YR3/4）炭化物を含む、明黄褐色土が混じる
18. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）橙色ブロックが混じる
19. 明黄褐色土層（10YR6/8）橙色ブロックが混じる、地山
20. 明褐色土層（7.5YR5/6）地山
21. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 炭化物を少し含む、Pit.6 埋土

第 19 図　加工段 3・4 土層実測図（S=1:40）

加工段 3 － 1

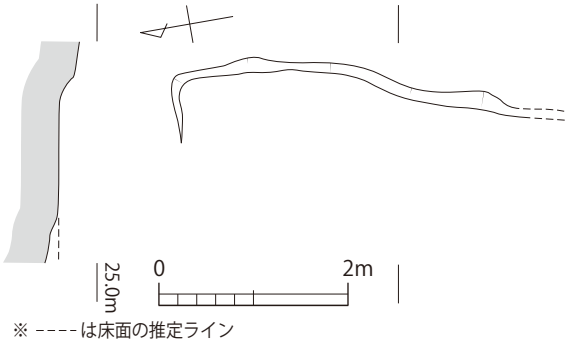
平面形は隅丸方形で、床面の幅約 3.2m、奥行き約 1m を測る。壁際には幅 25㎝前後、深さ 6㎝の溝がめぐる。北側に焼土と炭がある。ピットは確認できなかった。簡易な建物が建てられていたと考えられる。石見 3 期と考えられる須恵器の無蓋高坏（第 32 図 1）が出土していることから、遺構の時期は 6 世紀後半と考えられる。



第 20 図　加工段 3 － 1 実測図（S=1:80）

加工段 3 － 2

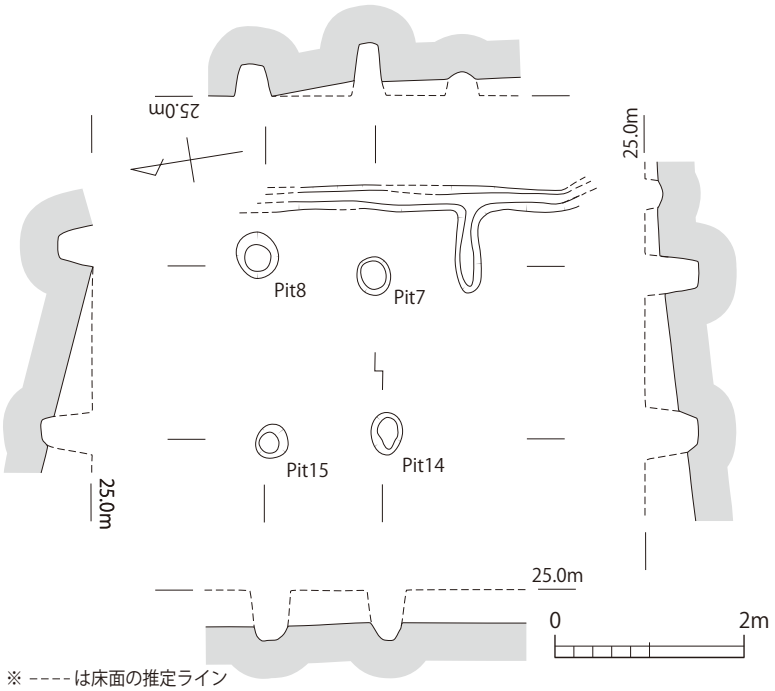
平面形は長方形と考えられるが南側は確認できなかった。現状での規模は幅約 3.7m、奥行き約 1.2m を測る。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。簡易な建物が建てられていたか作業場の跡と考えられる。石見 5･6A 期の須恵器の坏（第 32 図 6）が出土していることから、遺構の時期は 7 世紀初頭と考えられる。



第 21 図　加工段 3 － 2 実測図（S=1:80）

加工段 3 － 3

平面形は長方形と考えられるが、両側の隅は確認できなかった。現状で床面の幅約 3m、奥行き 2.8m を測る。東側に幅 27㎝前後、深さ 5㎝前後の溝があり、その溝から直角に長さ 88㎝、幅 27㎝前後、深さ 8㎝前後の溝が延びる。柱穴と考えられるピットを 4 か所確認した。掘立柱建物が建てられていたと考えられる。出土

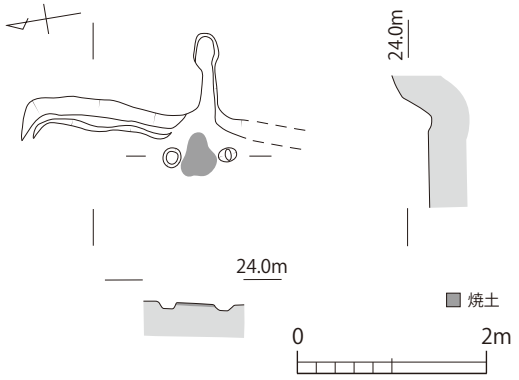


第 22 図　加工段 3 － 3 実測図（S=1:80）

品から時期は特定できないが、加工段３－２に後続し、加工段３－４に先行することから、遺構は 7 世紀前半から 8 世紀後半の間に存在したと考えられる。

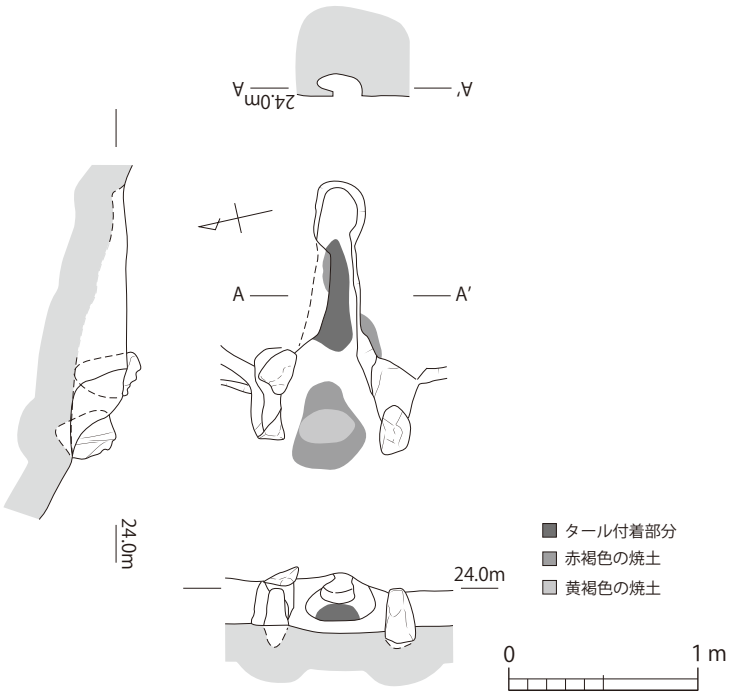
加工段４－１

南側と西側が削平されて失われている。平面形は隅丸方形と考えられる。現状で床面の幅約 2.3m、奥行き 1m を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 4㎝前後の溝がめぐる。西には造り付けの竈が 1 基設置してある。竈が設置されていることから竪穴建物が建てられていたと考えられる。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。加工段３－２に後続し、加工段４－３に先行することから 7 世紀前半から 8 世紀前半の間に存在したと考えられる。



第 23 図　加工段４－１実測図（S=1:80）

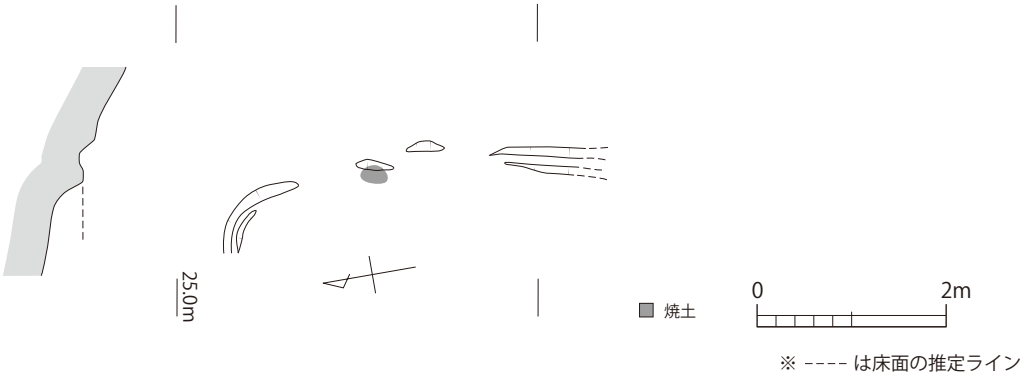
造り付け竈　竈の大きさは壁体の外側で 88㎝を測る。焚口の幅 50㎝で、奥行き 48㎝を測る。煙道は長さ 90㎝、幅 25㎝前後を測る。壁体は石と粘土で作られている。焚口にはピットを掘り 2 個の石を設置している。石は床面から 20㎝突出している。竈の左側では焚口の石と加工段の壁の間に石を 1 個設置している。この石はピットを掘らずに加工段の壁に立て掛けるようにして設置している。その石を芯として加工段の壁から焚口まで粘土が積まれている。このため壁際の石はほとんど粘土に包まれていた。右側では壁際に石は確認できなかった。元々設置されていなかったのかは、削平や木根による撹乱のため不明である。煙道はトンネル状に掘られている。煙道の中ほどには煙内のタールが付着したと考えられる箇所があった。竈に伴う焼土の半分は焚口の石より前に広がっており、焚口のやや手前で火を焚いていたことがわかる。加工段の壁際の溝は竈の部分には掘られていないことから、途中で竈を追加して設置したのではないことがわかる。



第 24 図　加工段４－１竈実測図（S=1:40）

加工段 4 － 2

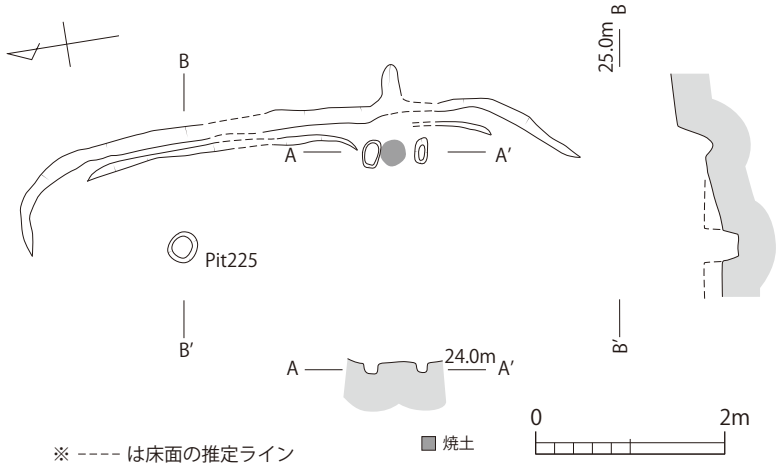
南側と西側は削平されていた。平面形は隅丸方形と考えられ、現状での床面は幅約 3.8m、奥行き 40㎝を測る。壁際に幅 30㎝前後、深さ 4㎝前後の溝がめぐる。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。先行する加工段 4 － 1 と後続する加工段 4 － 3 が竪穴建物であることから、加工段 4 も同様に竪穴建物が建てられていた可能性が高いと考えられる。土師器や須恵器の小片が出土したが、時期を特定できる遺物はなかった。加工段 4 － 1 と同様の理由から 7 世紀前半から 8 世紀前半の間に存在し、且つ加工段 4 － 1 が廃棄された後に造られたと考えられる。



第 25 図　加工段 4 － 2 実測図（S=1:80）

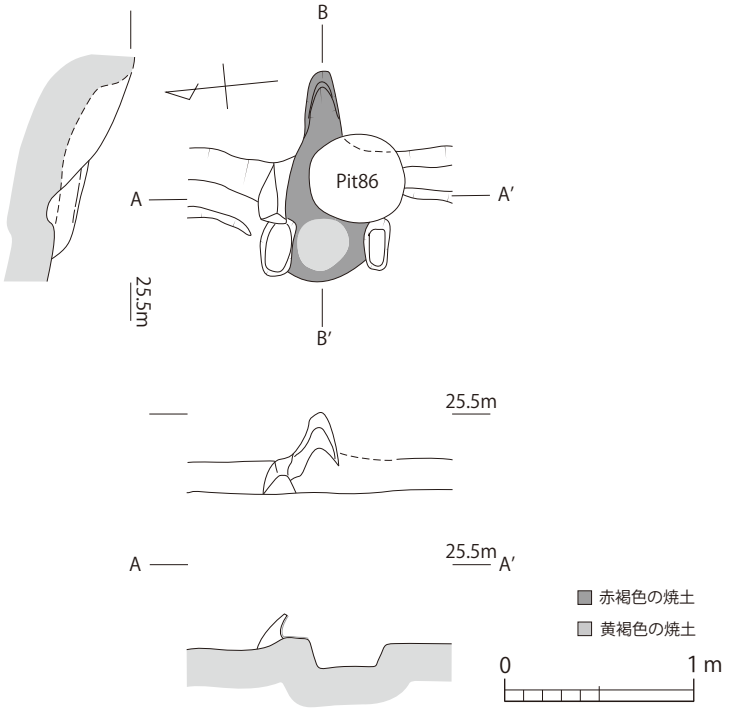
加工段 4 － 3

南側と西側が削平され失われている。隅丸方形で、現状で床面は幅約 3.7m、奥行き約 1.5m を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 6㎝前後の溝がある。西側の壁には南隅寄りに造り付けの竈が 1 基設置してある。壁際に竈が設置されていることから竪穴建物が建てられていたと考えられる。また柱穴と考えられるピットを 1 基確認した。ピットの位置が壁に近いことから、4 本柱の竪穴建物であったと考えられる。遺構の時期は、石見 9A 期の須恵器の坏（第 32 図 16）が出土していることから、8 世紀後半と考えられる。

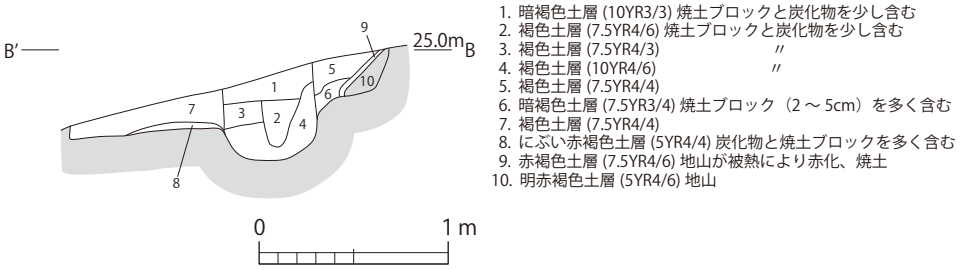


第 26 図　加工段 4 － 3 実測図（S=1:80）

造り付け竈　竈の大きさは壁体の外側で 72㎝を測る。焚口の幅 36㎝で、奥行き 38㎝を測る。煙道は長さ 52㎝、幅 18㎝前後を測る。焚口の両側には石を設置したと考えられるピットがある。加工段 4 － 1 の竈と異なり、焚口の石と壁の間は粘土のみで壁体が造られている。煙道は被熱により赤色に焼けていた。煙道内の埋土からは天井の一部と考えられるような赤色の焼土片等が出土していないことから、煙道は溝状であったと考えられる。加工段の壁際の溝は竈の部分には掘られていないことから、途中で竈を追加して設置したのではないことがわかる。焼土はほぼ竈の内部に収まっている。また、最も被熱したと考えられる竈の中央部は黄褐色となり、その周辺と煙道は赤褐色となっていた。



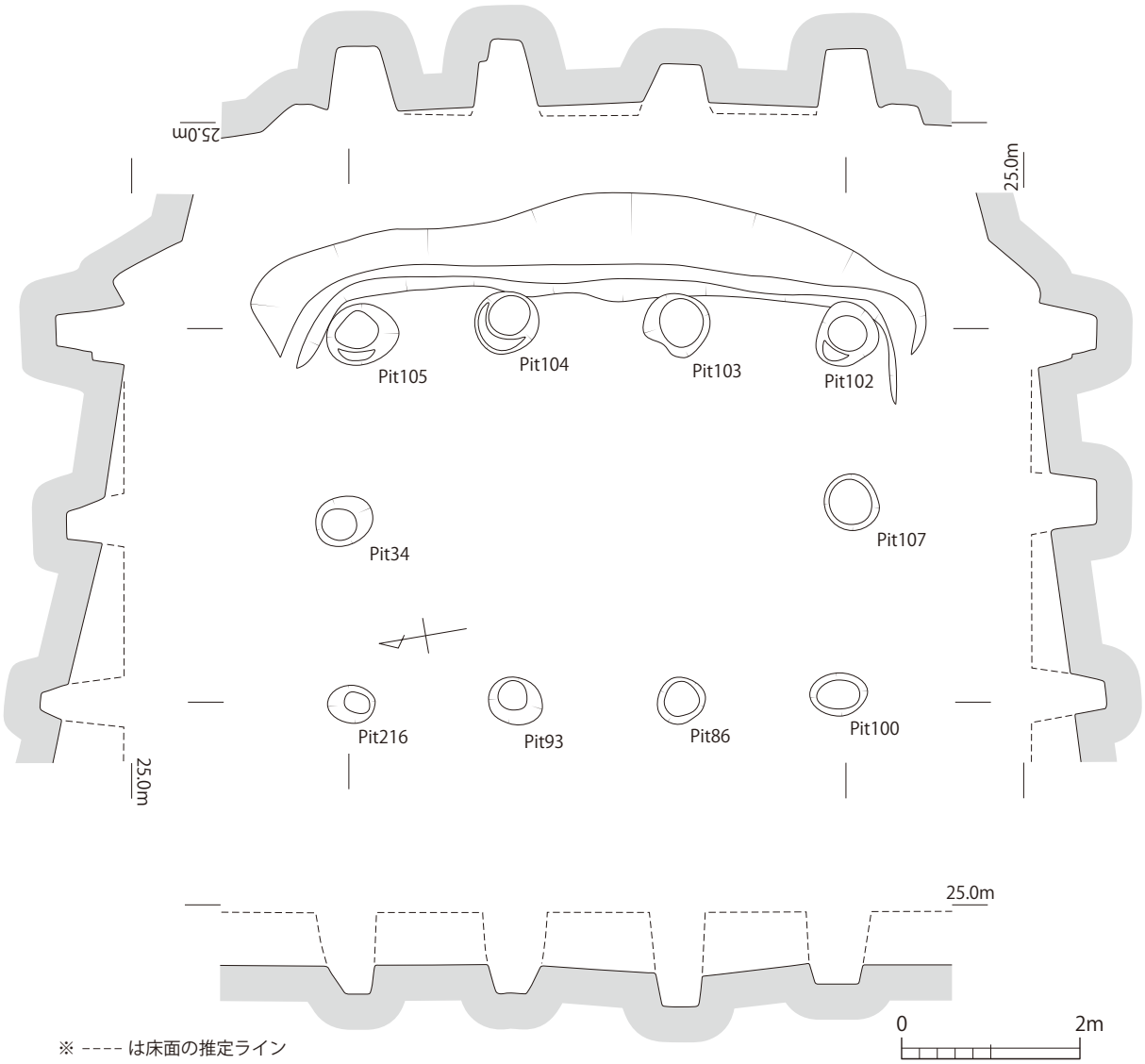
第 27 図　加工段 4 － 3 竈実測図（S=1:40）



第 28 図　加工段 4 － 3 竈土層実測図（S=1:40）

加工段 3 － 4

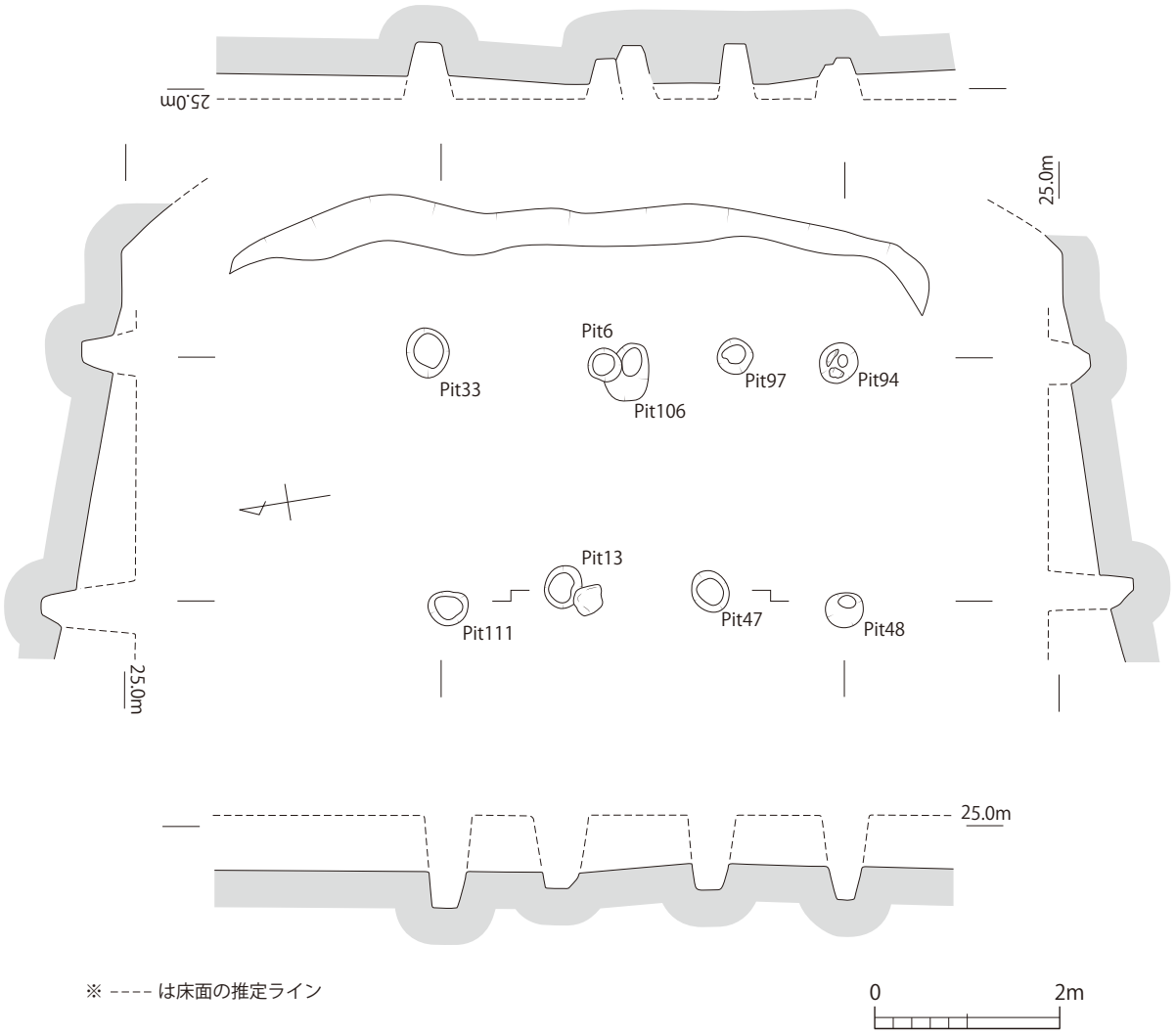
平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 7m、奥行き 5.4m を測る。西側の壁際には幅 30㎝前後、深さ 15㎝前後の溝がある。柱穴と考えられるピットを 10 基確認した。2 間× 3 間の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。須恵器や土師器の破片は出土しているが、時期を特定できる遺物は出土していない。Pit.86 が加工段 4 － 3 の竈を破壊していることと、加工段 3 － 5 に先行することから、加工段 3 － 4 の時期は 8 世紀末から 9 世紀初頭と考えられる。



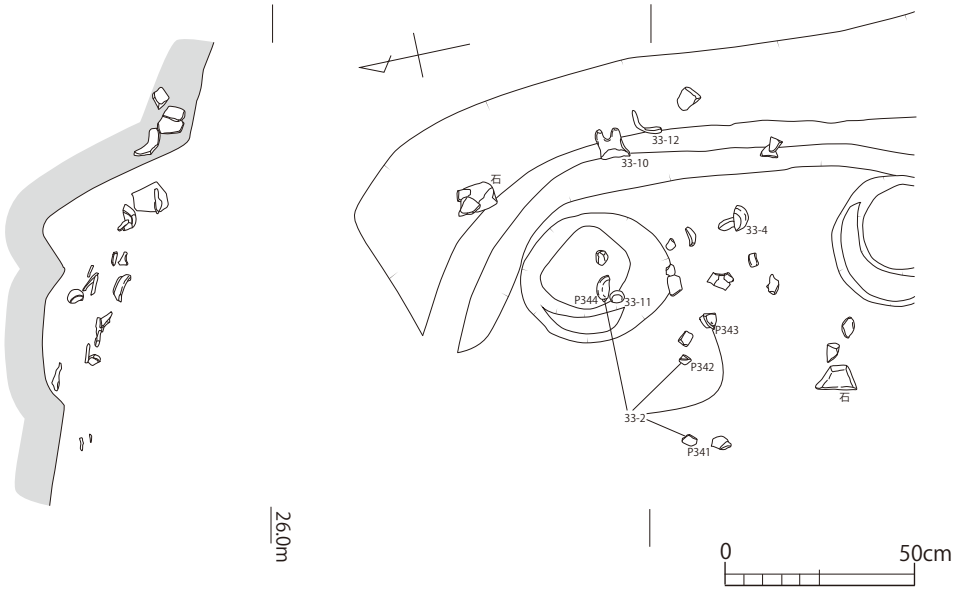
第 29 図　加工段 3 － 4 実測図（S=1:80）

加工段 3 － 5

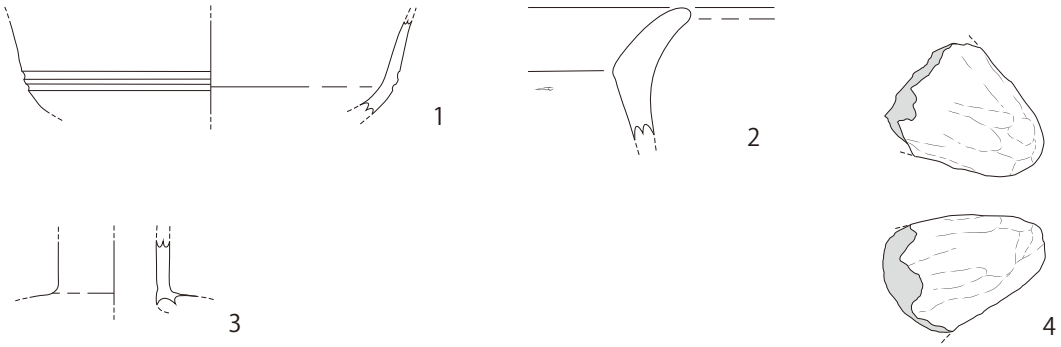
加工段 3 － 5 は加工段 3 － 4 を 20㎝程度埋めて平坦地を造成している。現状での床面は幅約 7.4m、奥行き約 4.2m を測る。柱穴と考えられるピットを 8 基確認した。1 間× 3 間の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。建物の規模や柱穴の大きさは加工段 3 － 4 より小さくなっている。Pit.106 は Pit.6 に切られていることから 1 回以上建て替えが行われていた可能性がある。この加工段では多くの遺物が出土し、特に北側で集中して出土した。遺物は斜面の傾斜にそって出土しており、加工段が埋まった後に廃棄されたものと考えられる。これらの土器は石見 10 期の須恵器の坏（第 33 図 2、4、5）であることから、加工段 3 － 5 は 9 世紀前半には廃棄されていたと考えられる。



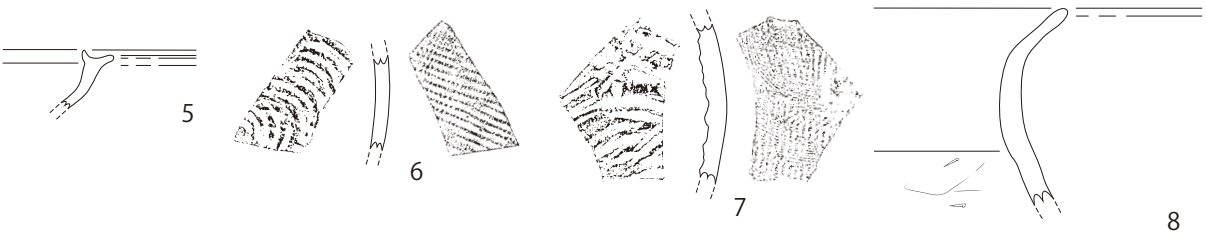
第 30 図　加工段 3 － 5 実測図（S=1:80）



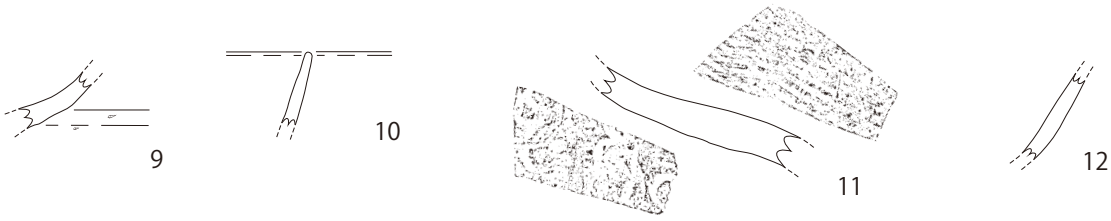
第 31 図　加工段 3 － 5 遺物出土状況実測図（S=1:20）



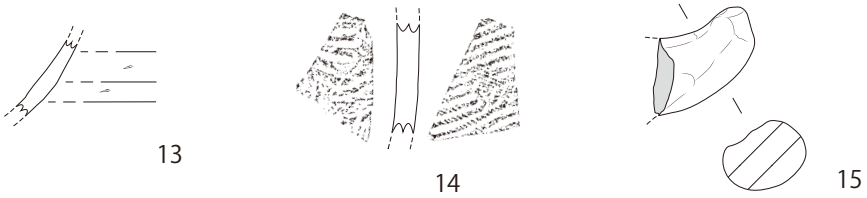
加工段 3-1 出土遺物



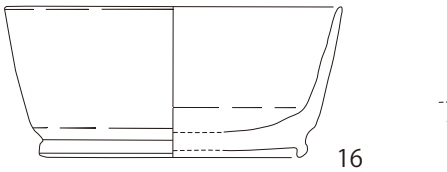
加工段 3-2 出土遺物



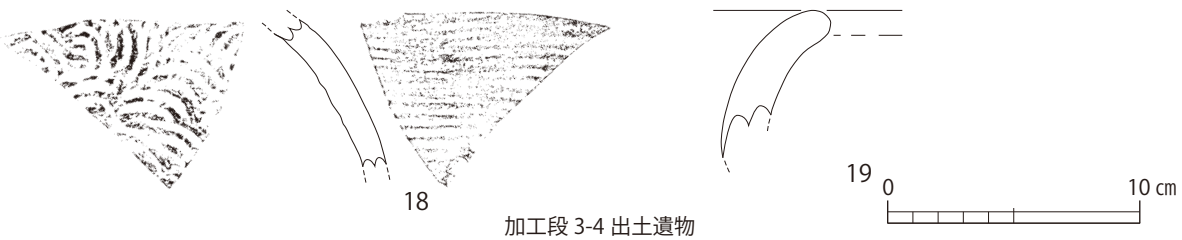
加工段 3-3 出土遺物



加工段 4-1 出土遺物

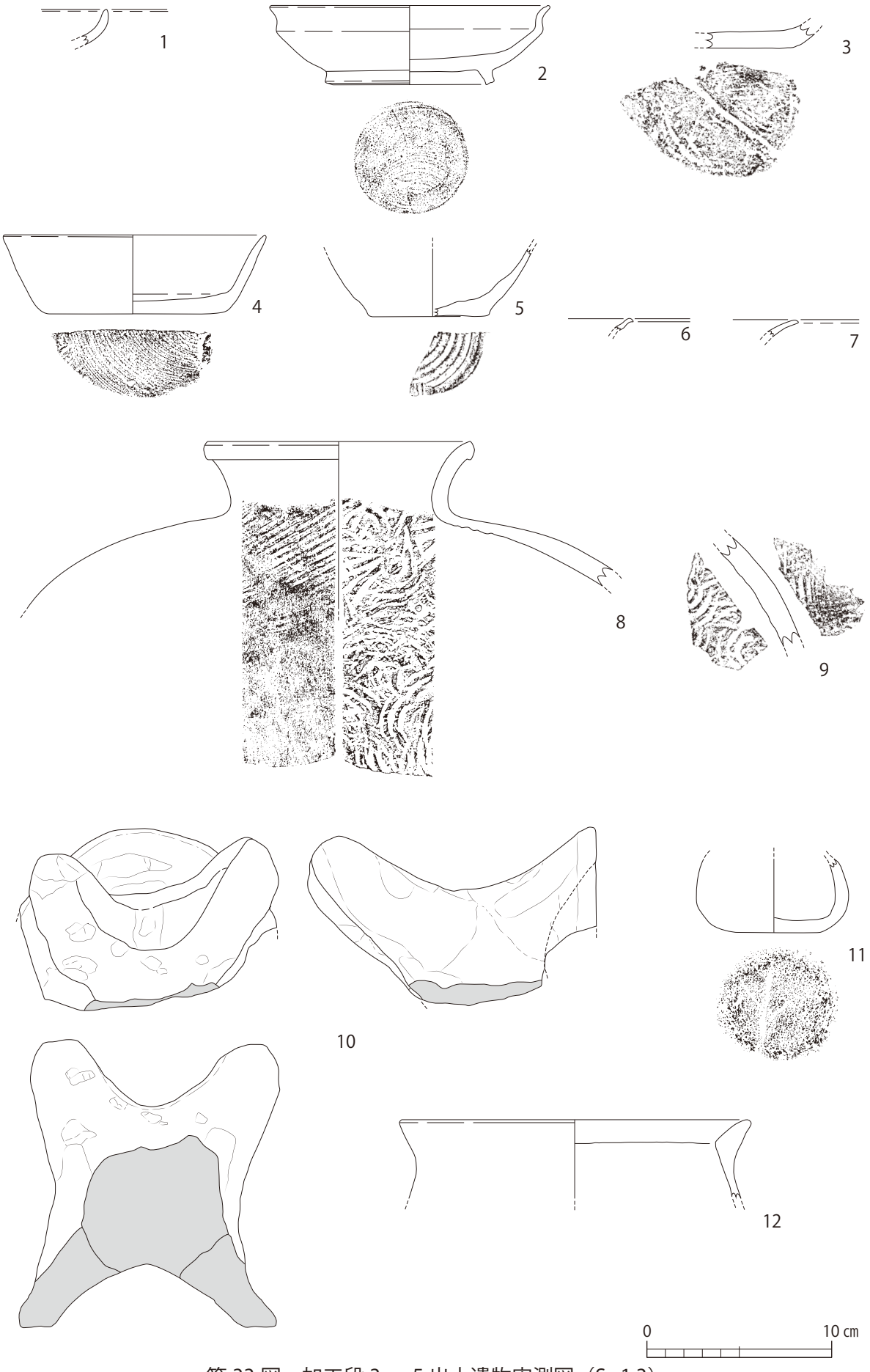


加工段 4-3 出土遺物



加工段 3-4 出土遺物

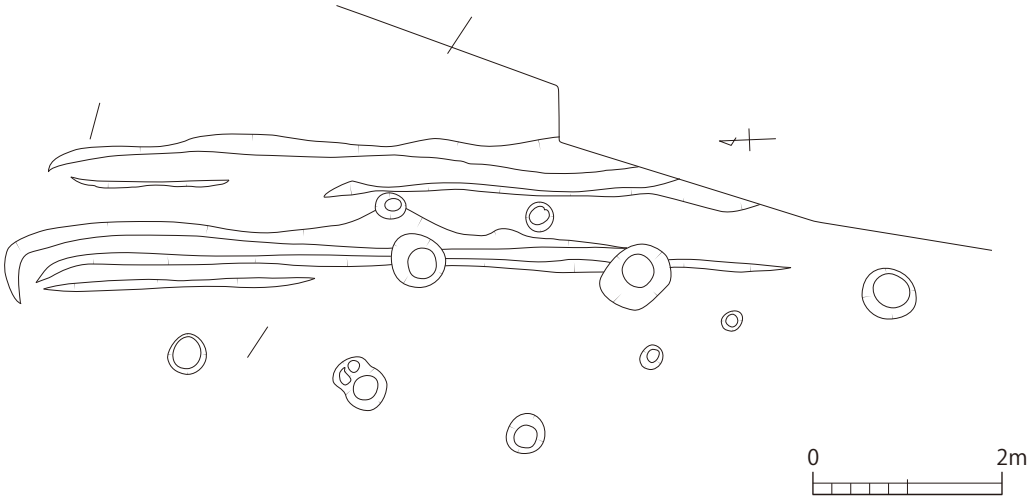
第 32 図　加工段 3 － 1 ～ 4・4 － 1，3 出土遺物実測図（S=1:3）



第 33 図　加工段 3 － 5 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 5

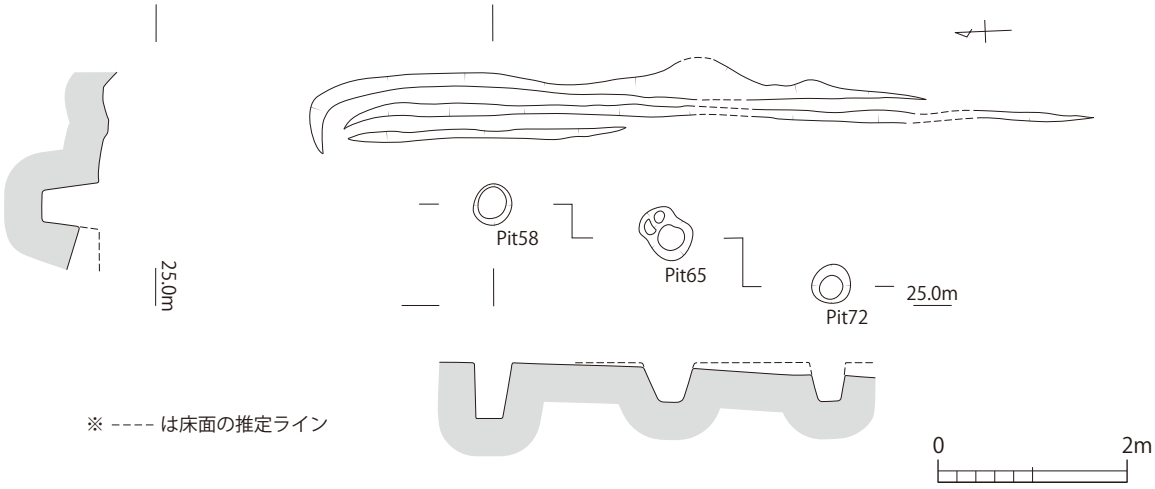
加工段 3 や加工段 4 の南側に位置する。西側は削平され失われている。ほぼ同じ場所に斜面の下側から上側に向かって 1 回造り替えている。以下、時期が古いものから記述する。



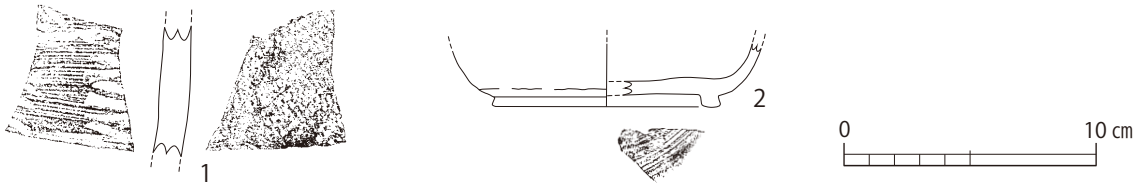
第 34 図　加工段 5 実測図（S=1:80）

加工段 5 － 1

西側が削平され失われている。現状で床面の幅約 8.2m、奥行き約 2.2m を測る。壁際には幅 40㎝前後、深さ 8㎝前後の溝がある。ピットを 3 基確認したが、これらのピットは加工段の壁に平行に並んでいないため、柱穴であるかは不明である。石見 9B 期と考えられる須恵器の坏（第 36 図 2）が出土していることから、遺構の時期は 8 世紀末から 9 世紀初頭と考えられる。



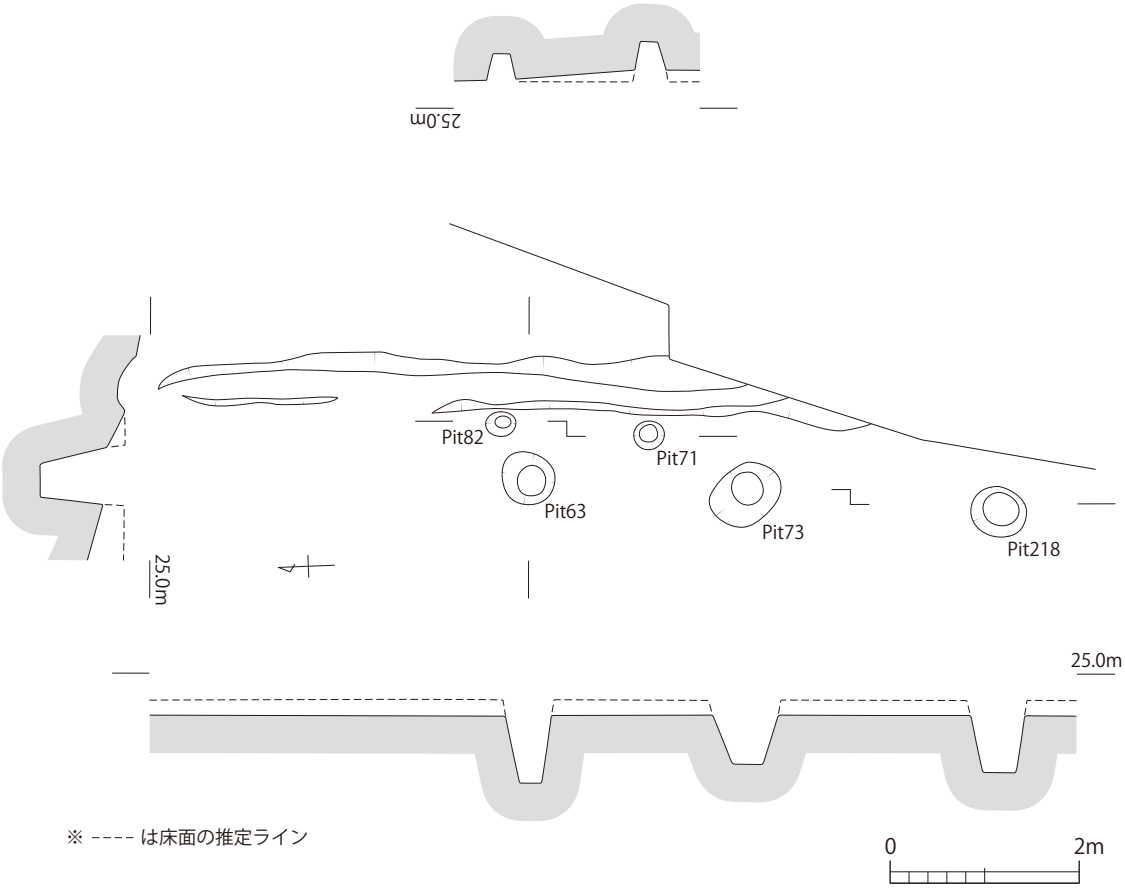
第 35 図　加工段 5 － 1 実測図（S=1:80）



第 36 図　加工段 5 － 1 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 5 － 2

西側が削平され失われている。また南側は調査範囲外に広がっている。現状で床面の幅約 9.6m、奥行き約 1.8m を測る。東側の壁際には幅 50㎝前後、深さ 8㎝前後の溝がある。小形のピット 2 基と中形のピット 3 基を検出した。中形のピットは柱穴と考えられる。桁行 2 間以上の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。土師器や須恵器の小片が出土しているが、時期を特定できる遺物は出土していない。加工段 5 － 1 の建て替えと考えられることから、築造の時期は 9 世紀と考えられる。

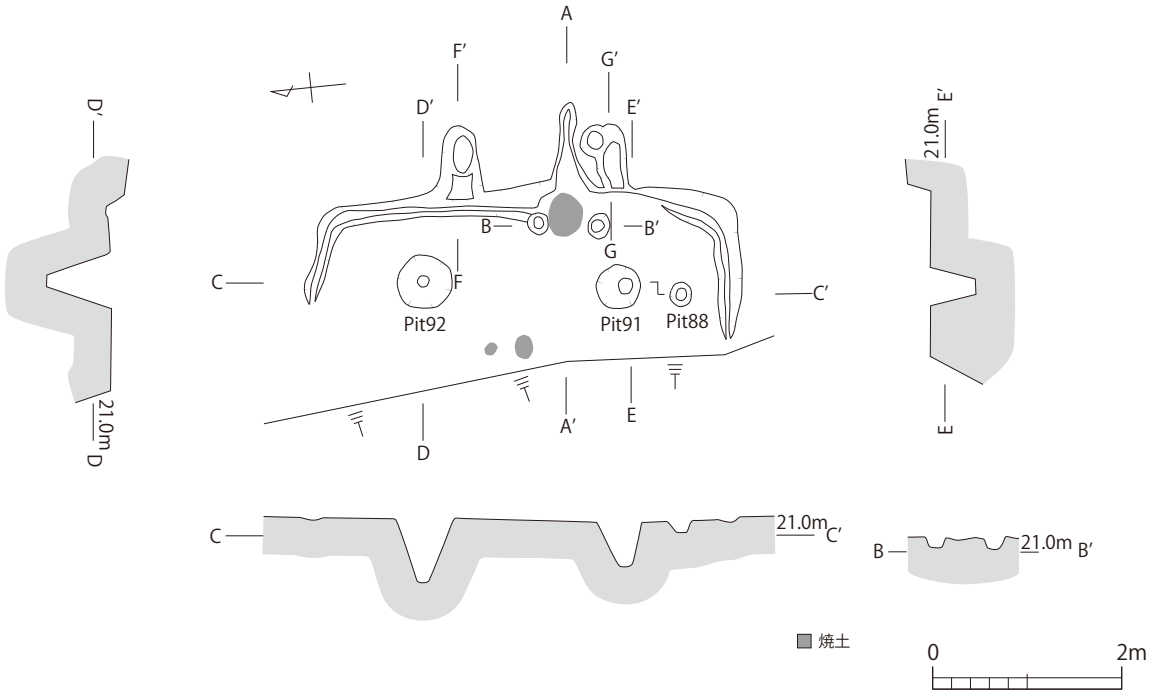


第 37 図　加工段 5 － 2 実測図（S=1:80）

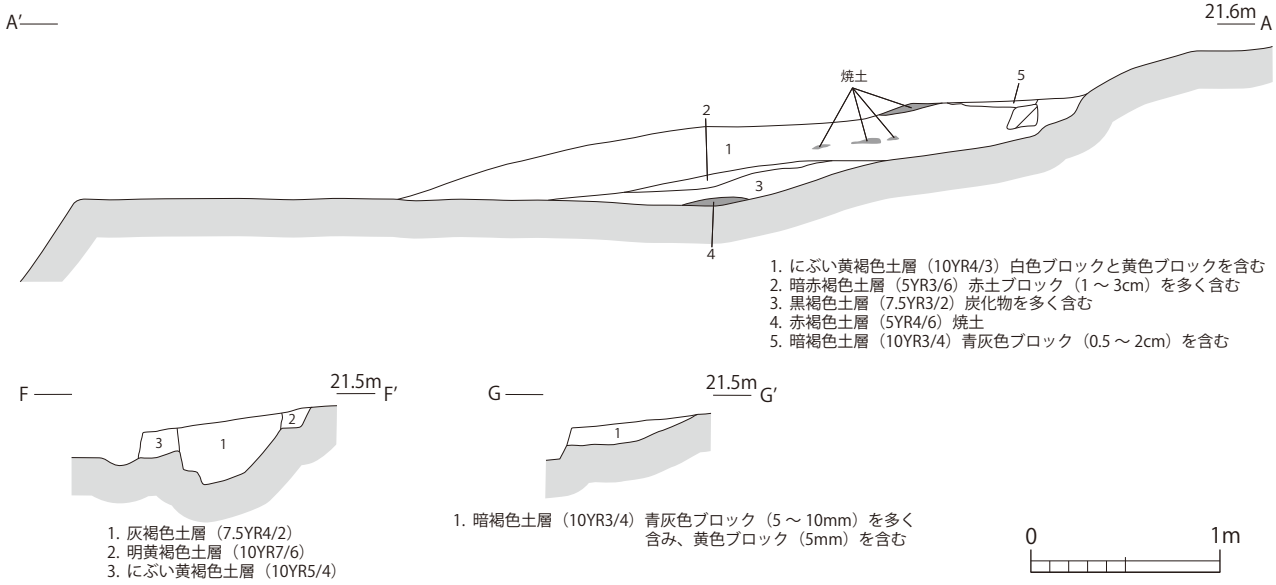
加工段 6

1 区の西端に位置する。西側が削平され失われている。平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 4.2m、奥行き 2m を測る。壁際には幅 10㎝前後、深さ 5㎝前後の溝がめぐる。西側の壁

に造り付けの竈が 1 基設置してある。この竈の両側には外に向かって溝が延びている。北側の溝は長さ 78㎝、幅 36㎝前後、深さ 10㎝前後で、中央はピットに切られている。南側の溝は長さ 68㎝、幅 30㎝前後、深さ 10㎝前後で、奥の一部をピットが切っている。これらの溝を切るピットが加工段に伴うものかは不明である。竈内の焼土の他に、焼土を 2 か所確認した。柱穴と考えられるピットは 2 基確認した。ピットの位置が壁に近いことから、4 本柱の建物であったと考えられる。また、壁際に竈が設置されていることから竪穴建物が建てられていたと考えられる。須恵器や土師器の破片が出土したが、時期を特定できる遺物は確認できなかったため遺構の時期は不明である。

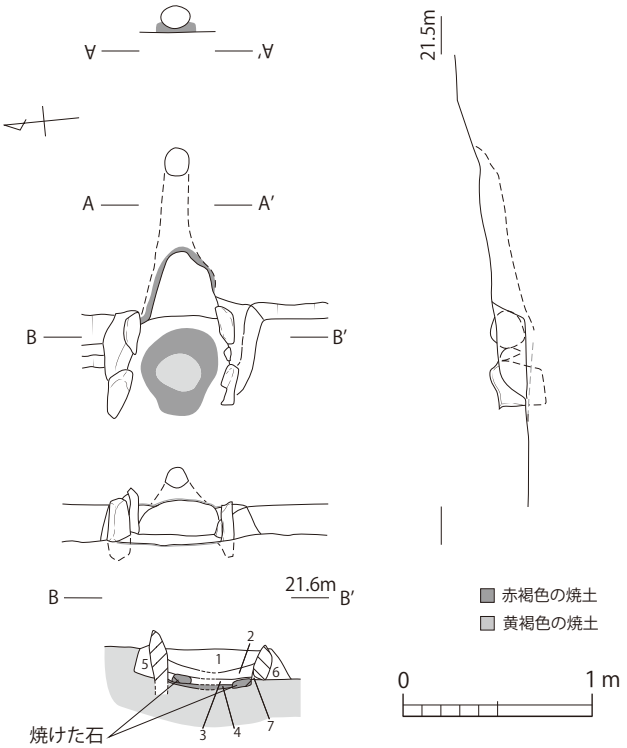


第 38 図　加工段 6 実測図（S=1:80）

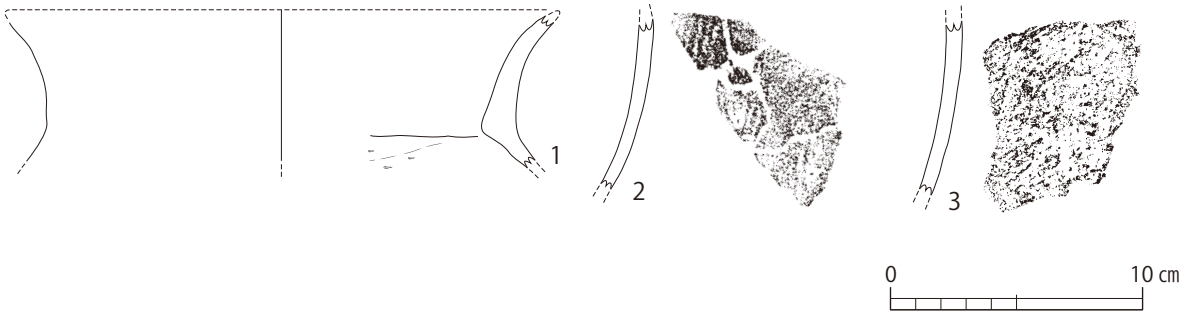


第 39 図　加工段 6 土層実測図（S=1:40）

造り付け竈　竈の大きさは壁体の外側で 84㎝を測る。竈の焚口は幅 48㎝で、奥行き 48㎝を測る。煙道は長さ 90㎝、幅 16㎝前後を測る。竈の壁体は石と粘土で作られている。焚口にはピットを掘り 2 個の石を設置している。石は床面から 20㎝突出している。焚口の石と加工段の壁の間に石を 1 個ずつ設置している。これらの石はピットを掘らずに加工段の壁に立て掛けるようにして設置している。右側は焚口の石と壁際の石の間に小さな石を 1 個設置している。これらの石を芯として加工段の壁から焚口まで粘土が積まれて竈の壁体を形成している。加工段 4 － 1 と異なり竈の内側は石が露出する面が多い。そのためか焚口右側の石の内側は割れている。煙道はトンネル状に掘られている。焼土はほぼ竈の内部に収まっている。また、最も被熱したと考えられる竈の中央部は黄褐色となり、その周辺と煙道の竈側は赤褐色となっていた。加工段の壁際の溝は竈の部分には掘られていないことから、途中で竈を追加して設置したのではないことがわかる。



第 40 図　加工段 6 竈実測図（S=1:40）

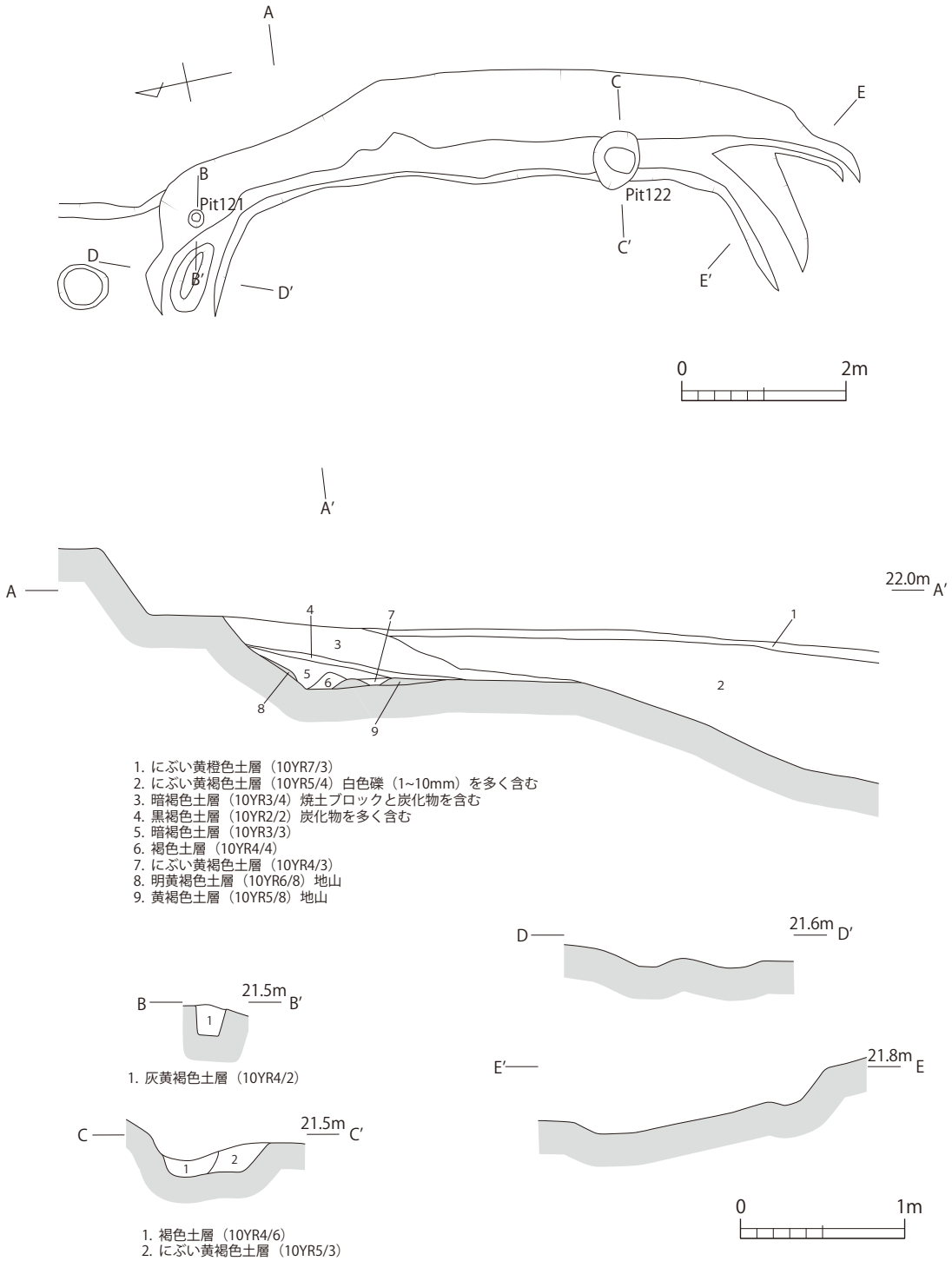


第 41 図　加工段 6 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 7

1 － 1 区下段の南側に位置する。この加工段は東側の壁は変えずに幅だけ拡張して造り替えている。床面はほぼ同じ面を使用している。市井深田遺跡のなかでは規模の大きな加工段であ

るが、床面では中形のピット 1 基と小形のピット 1 基を確認したのみで、柱穴と考えられるピットは確認できなかった。簡易な建物が建てられていたか、作業場であったと考えられる。以下、時期の古いものから記述する。



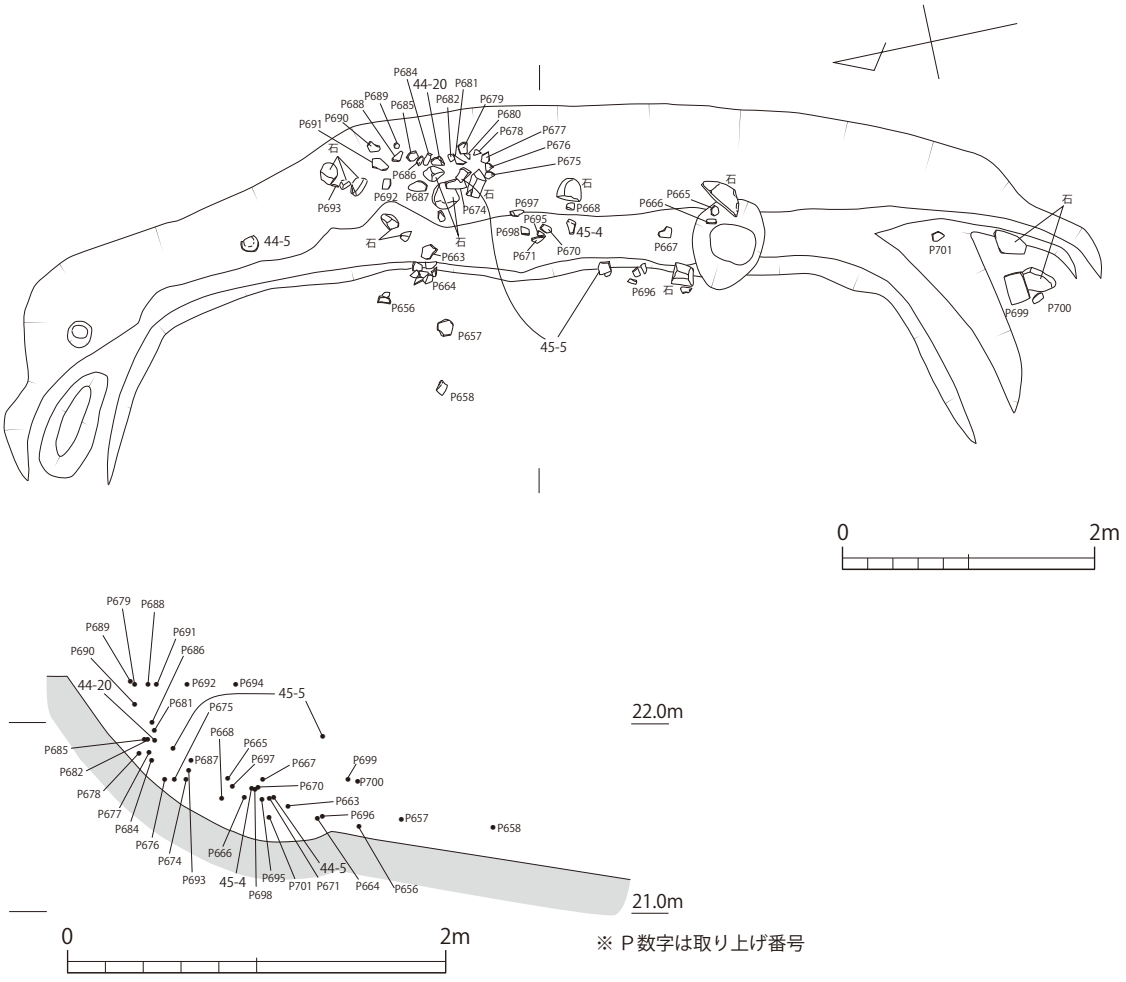
第 42 図　加工段 7 実測図（平面図は S=1:80、土層図は S=1:40）

加工段 7 － 1

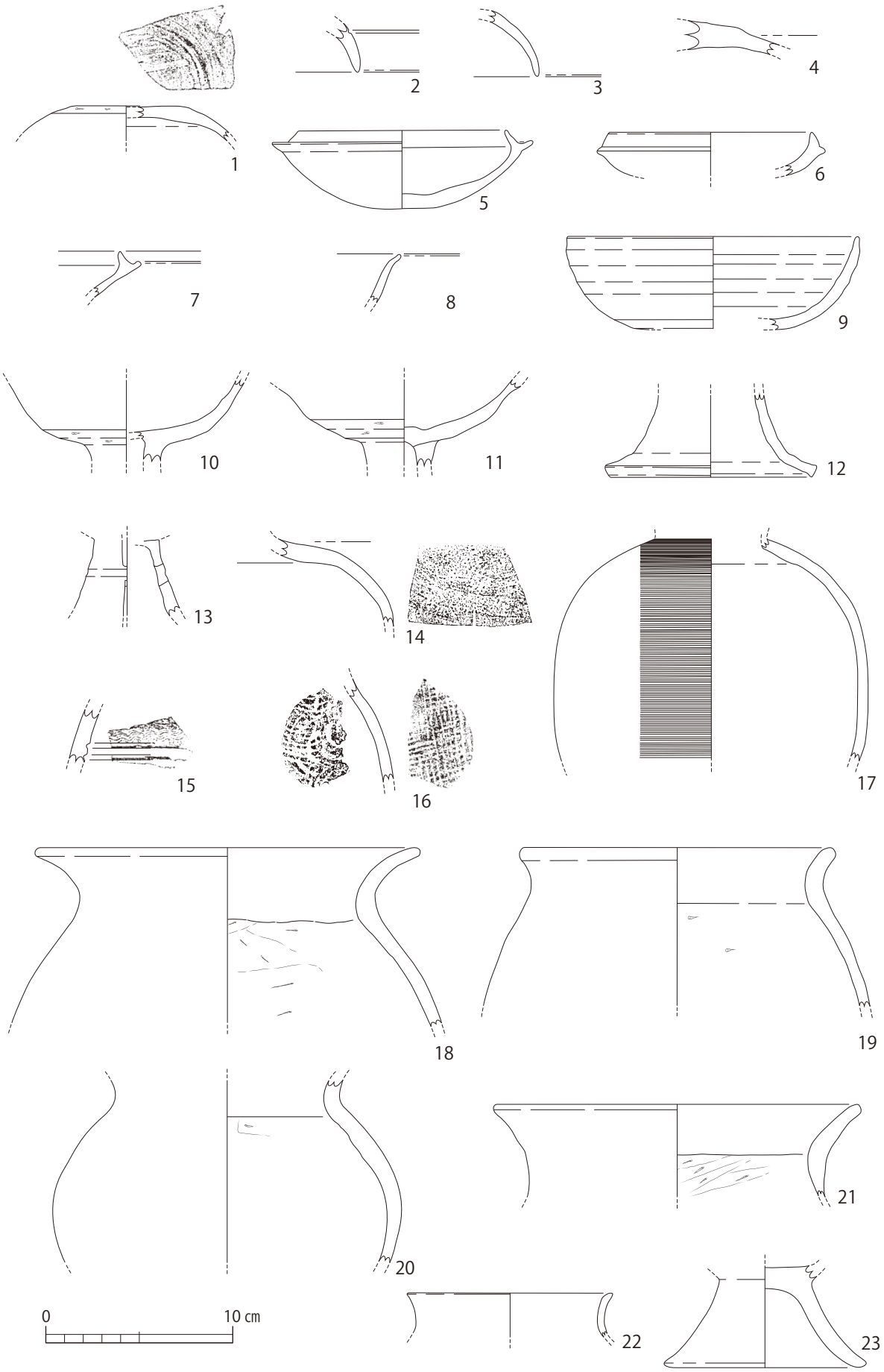
平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 7.5m、奥行き約 1.7m を測る。壁際には幅 30㎝～60㎝、深さ 5㎝前後の溝がある。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。時期を特定できる遺物は出土していない。加工段 7 － 1 に先行することから、遺構の時期は 6 世紀末と考えられる。

加工段 7 － 2

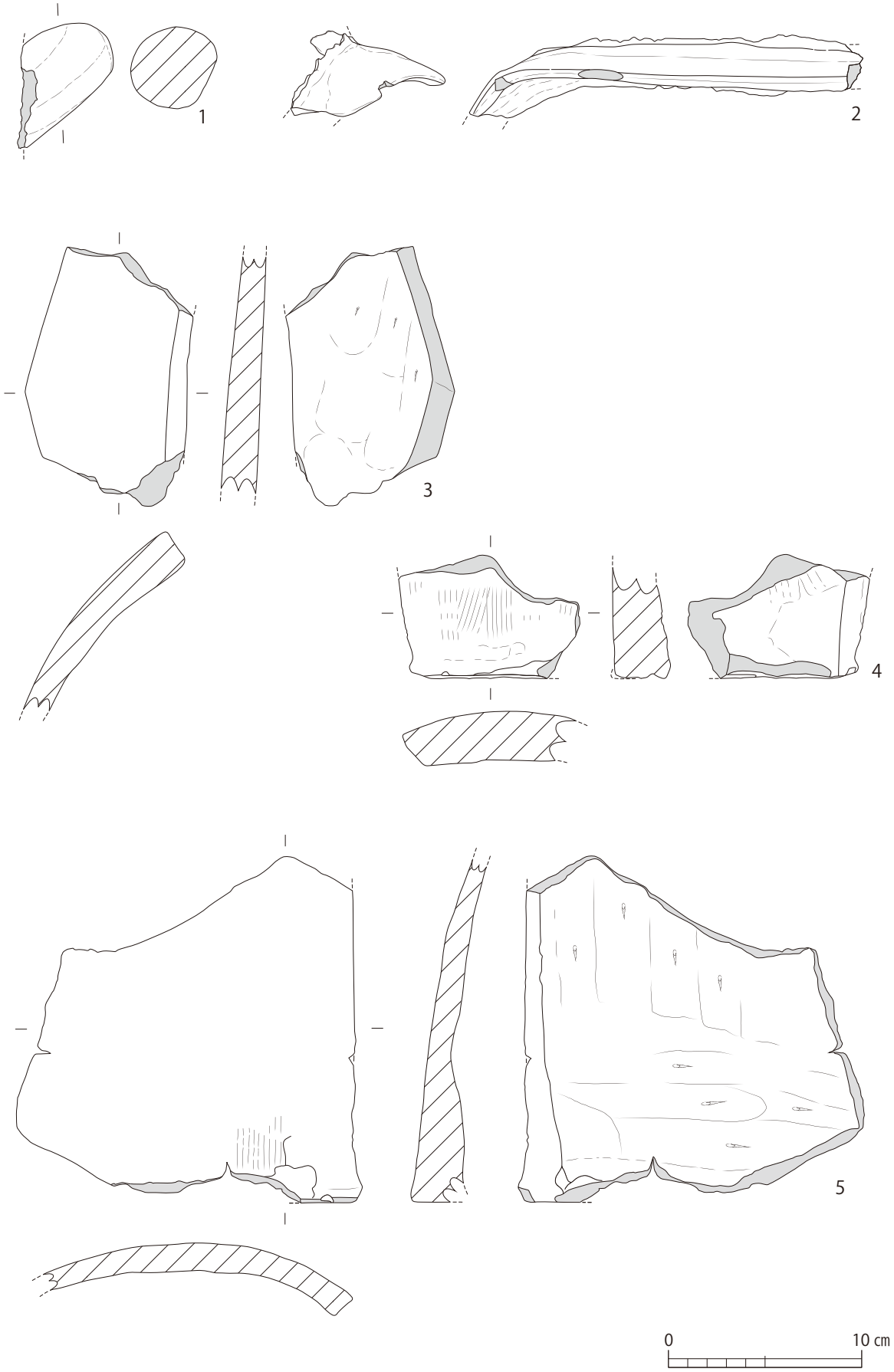
平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 8.2m、奥行き約 1.7m を測る。壁際には幅 20㎝～30㎝、深さ 5㎝～ 10㎝の溝がある。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。この加工段からは遺物が多く出土した。ただし、床面直上のものは少なく、大半はこの加工段に廃棄されたものか、流れ込みと考えられる。石見 5･6A 期の須恵器の坏身（第 44 図 5）などが出土していることから、7 世紀初頭には廃棄されたと考えられる。



第 43 図　加工段 7 － 2 遺物出土状況実測図（平面図は S=1:60、見通しは S=1:40）



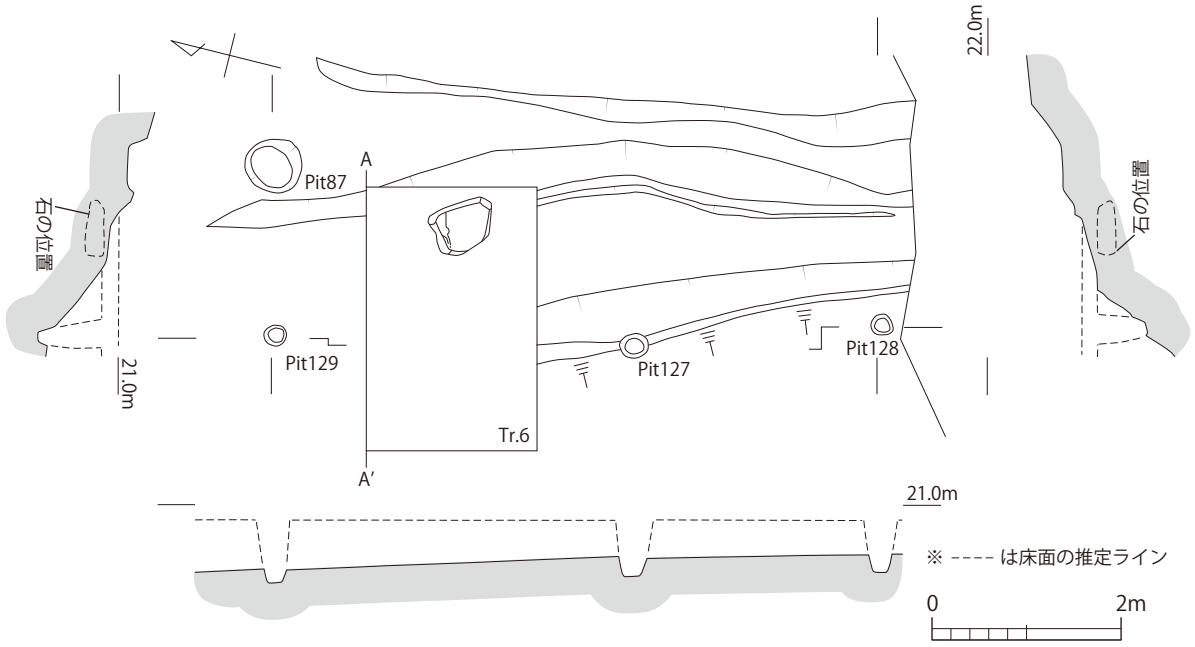
第 44 図　加工段 7 － 2 出土遺物実測図①（S=1:3）



第 45 図　加工段 7 出土遺物実測図②（S=1:3）

加工段 8

1 － 1 区下段の南端に位置する。試掘確認調査（Tr.6）で発見された。遺構の南側は調査区外へ広がっている。ほぼ同じ場所に 1 回造り替えている。以下、時期が古いものから記述する。



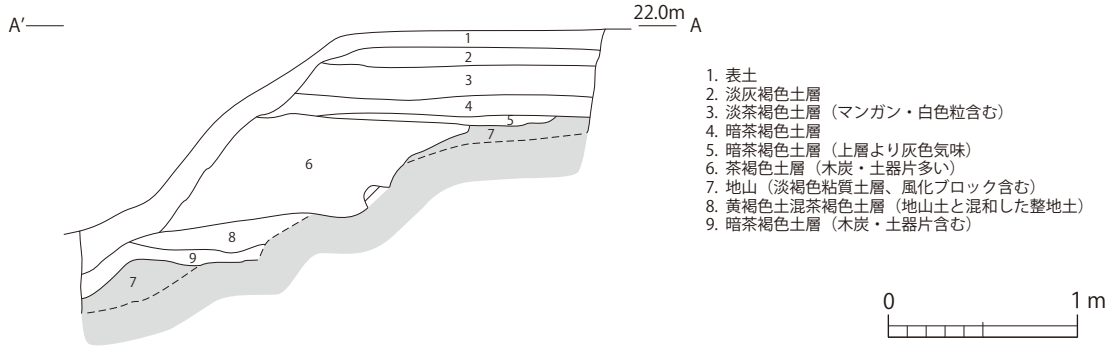
第 46 図　加工段 8 － 1・2 実測図（S=1:80）

加工段 8 － 1

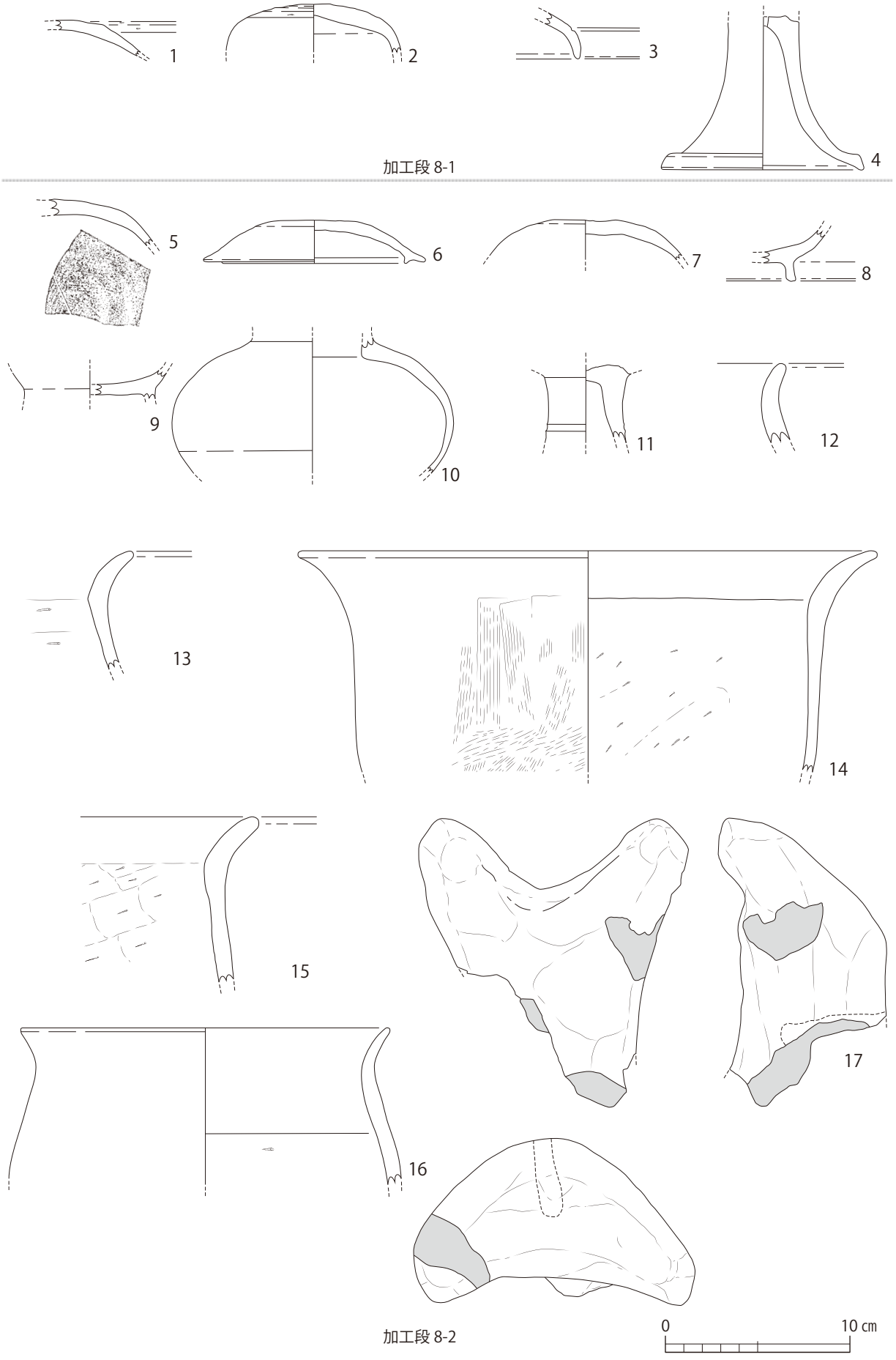
現状で幅約 4m、奥行き約 30㎝を測る。柱穴と考えられる遺構は確認できなかった。建物が建てられていたかは不明である。石見 4 期と考えられる須恵器の坏蓋（第 48 図 3）が出土していることから、遺構の時期は 6 世紀末と考えられる。

加工段 8 － 2

現状の床面で幅約 7.4m、奥行き約 1.2m を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 1㎝の溝がある。柱穴と考えられるピットを 3 基確認した。掘立柱建物が建てられていたと考えられる。石見 8 期と考えられる須恵器の坏（第 48 図 8）が出土していることから、遺構の時期は 8 世紀前葉と考えられる。



第 47 図　加工段 8 土層実測図（S=1:40）



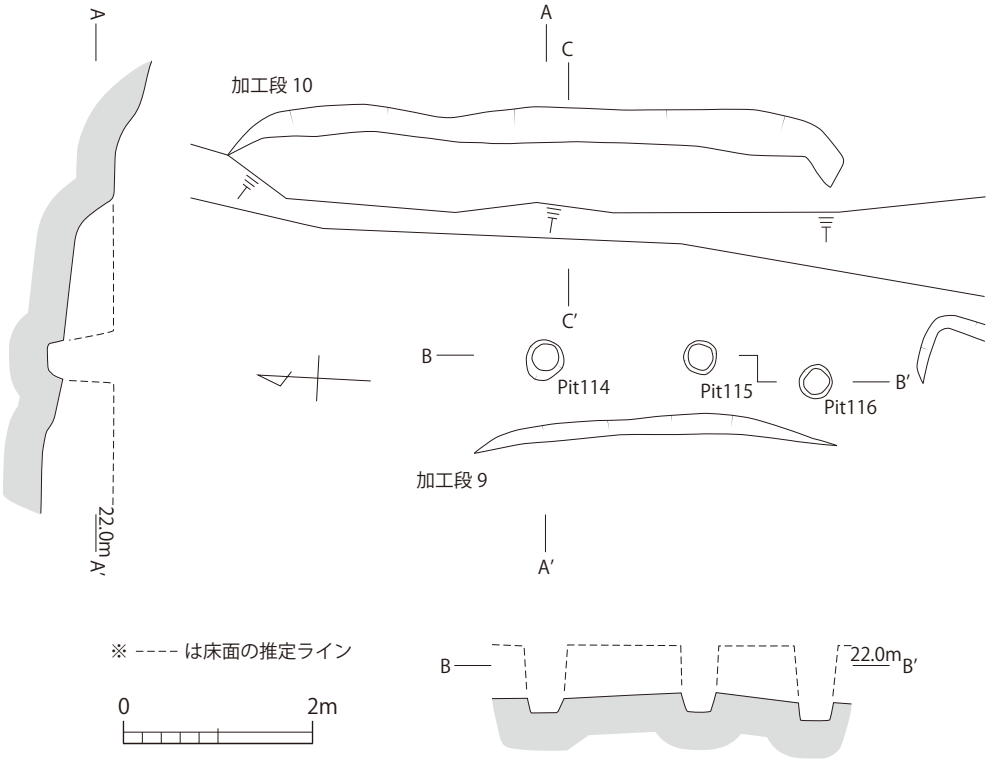
第 48 図　加工段 8 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 9

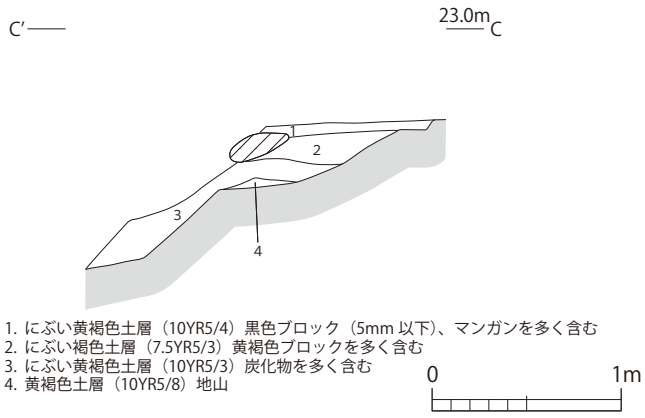
1 － 1 区下段、加工段 6 と加工段 7 の間に位置する。現状の床面で幅約 4m、奥行き約 1m を測る。柱穴は確認できなかったため、建物が建てられていたか不明である。土師器の小片が出土しているが、時期を特定できる遺物は出土していない。加工段 10 に先行することから、7 世紀後半の遺構と考えられる。

加工段 10

1 － 1 区中段の中央に位置する。西側の大部分が削平により失われており、東側の壁と床を残すのみである。現状の床面で幅約 6.4 m、奥行き約 70㎝を測る。下の段にピットを 3 基確

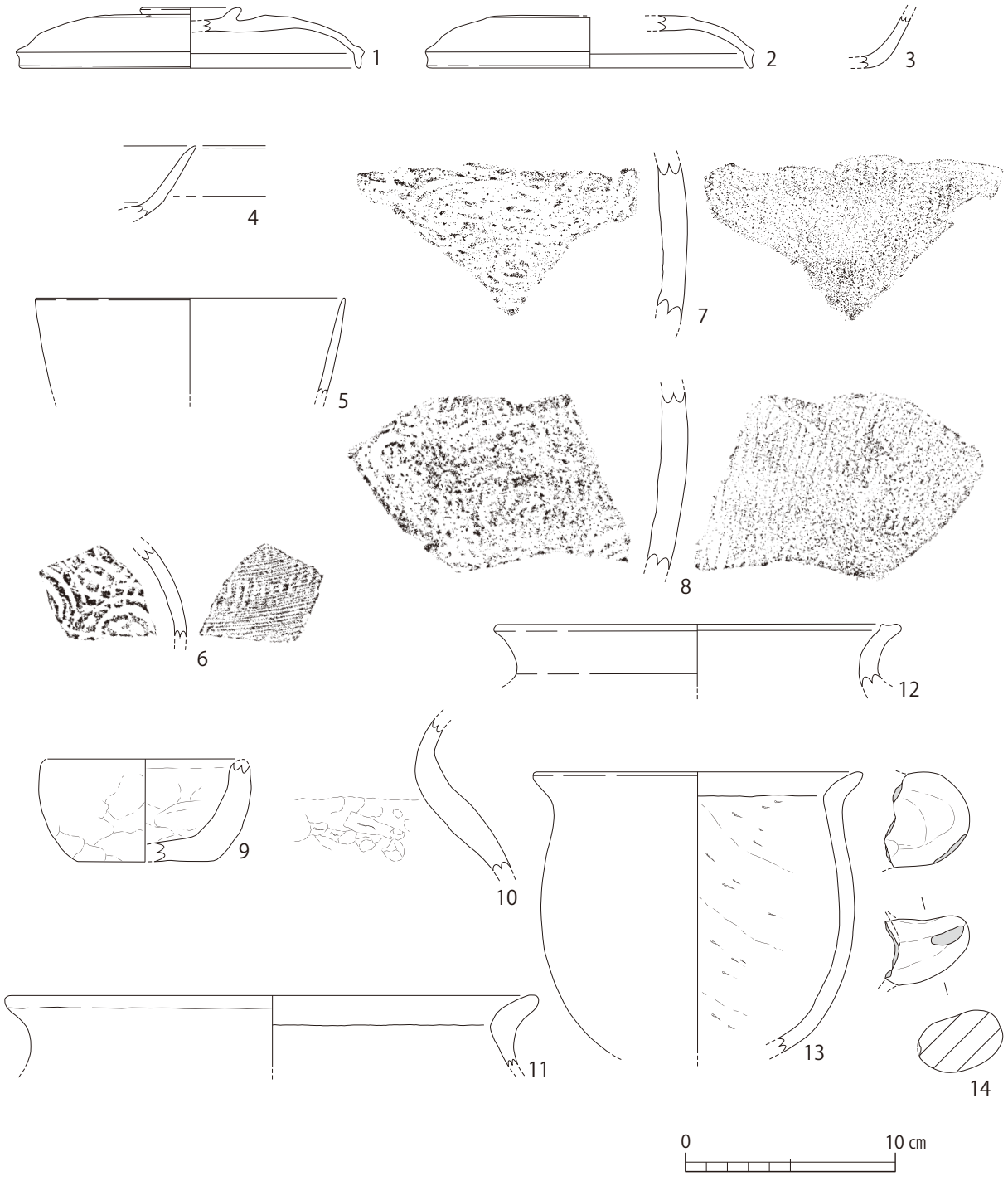


第 49 図　加工段 9、加工段 10 実測図（S=1:80）



第 50 図　加工段 10 土層実測図（S=1:40）

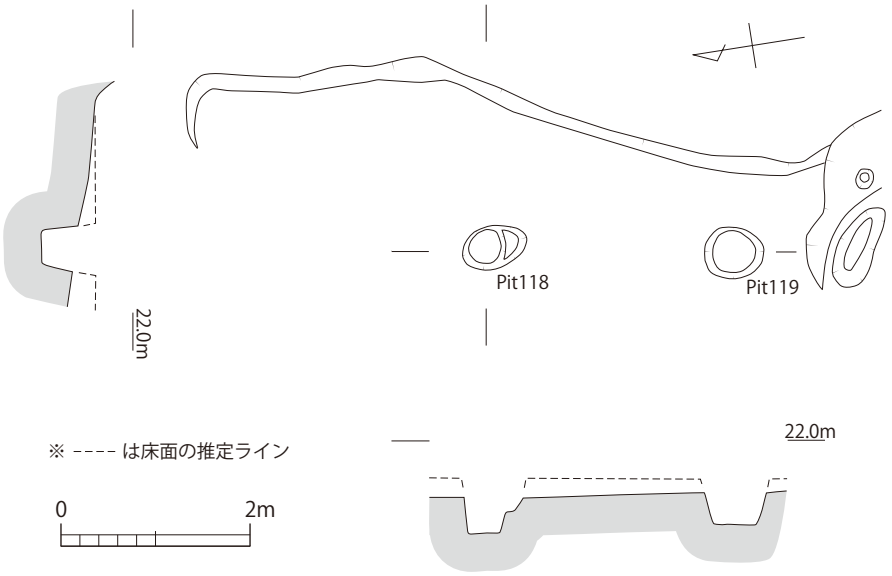
認したが少し離れており、これらのピットがこの加工段に伴うかは不明である。出雲Ⅲ期の新しい時期と考えられる須恵器の蓋（第 51 図 1、2）が出土していることから 8 世紀前半の遺構と考えられる。



第 51 図　加工段 10 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 11

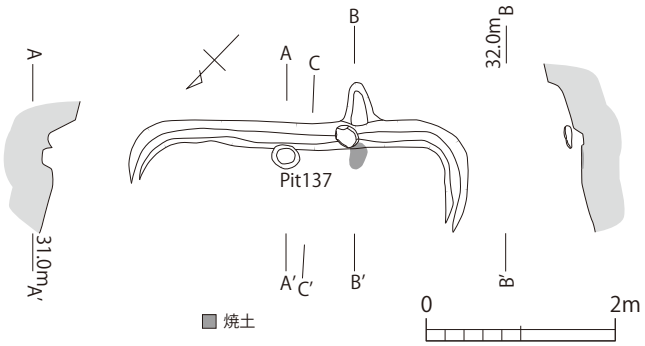
1 － 1 区下段、加工段 7 と加工段 9 の間に位置する。南側を加工段 7 に切られている。現状の床面で幅約 6.6m、奥行き約 2.4m を測る。柱穴と考えられるピットを 2 基確認した。掘立柱建物が建てられていたと考えられる。土師器の小片が出土しているが時期を特定できる遺物は出土していない。加工段 7 － 1 に先行することから、6 世紀後半の遺構とと考えられる。



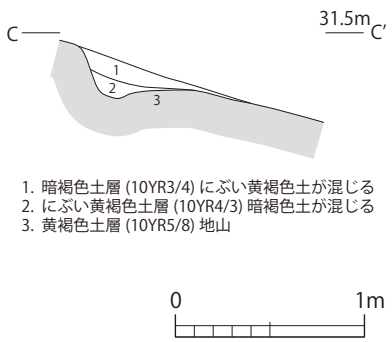
第 52 図　加工段 11 実測図（S=1:80）

加工段 12

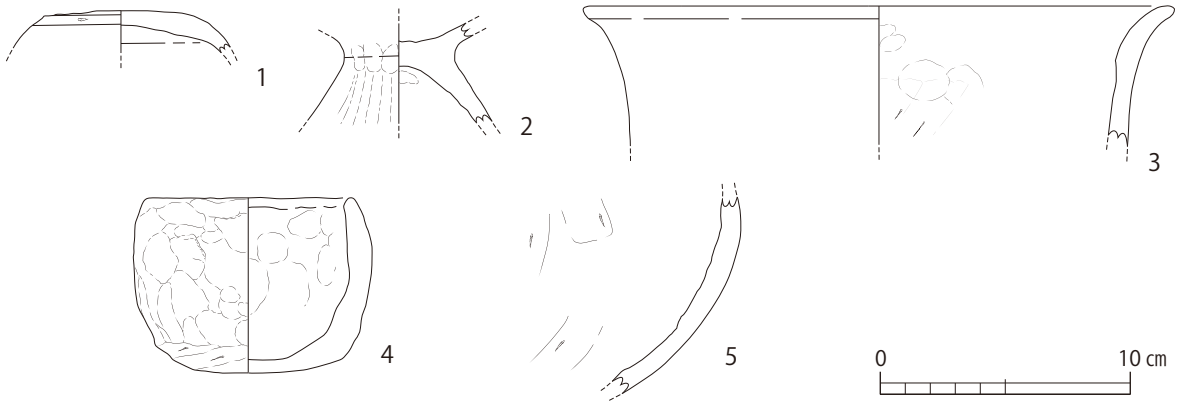
2 区の斜面上側の南に位置する。平面形は隅丸方形で、現状の床面で幅約 3.5m、奥行き約 60㎝を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 3㎝前後の溝がめぐる。南東側の壁には長さ 47㎝、幅 25㎝前後、深さ 12㎝の溝が外側に延びる。この溝の近くには床面に直径が 20㎝の焼土が 1 か所ある。焼土との位置関係からこの溝は排煙施設と考えられる。しかし溝と焼土の間では板状の石が 1 点出土したのみで、竈の壁体と考えられる焼けた粘土塊や焚口の石を設置したピットは確認できなかった。造り付け竈の一種で、簡易的なものであったと考えられる。また壁際の溝が焼土付近で途切れないことから、外に延びる溝は加工段の造成後に追加された可能性が高い。この加工段は排煙用の溝があることから竪穴建物跡と考えられる。また、柱穴が確認できないことから簡易な建物であったと考えられる。石見 5•6A 期の須恵器の坏蓋（第 55 図 1）が出土していることから、7 世紀初頭の遺構と考えられる。



第 53 図　加工段 12 実測図（S=1:80）



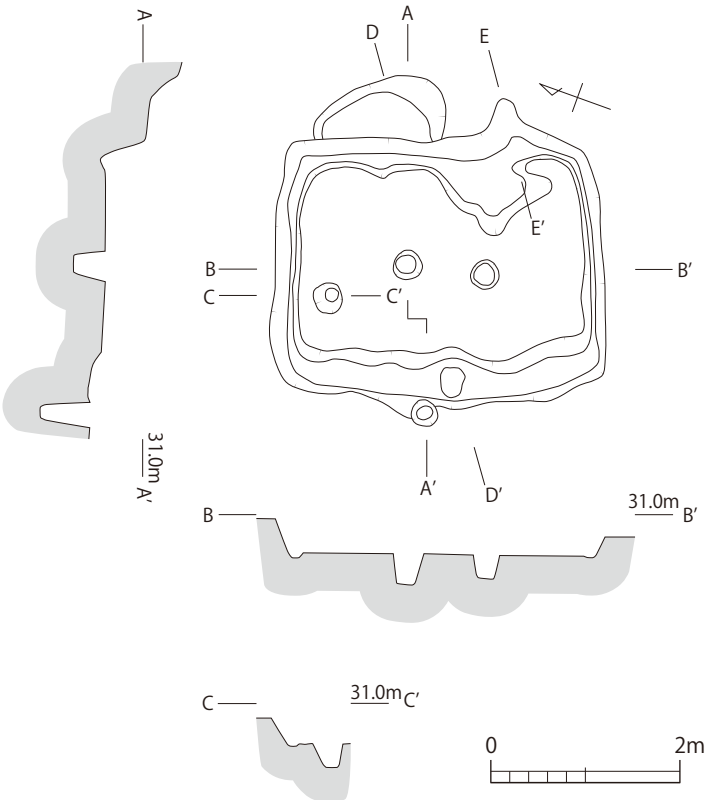
第 54 図　加工段 12 土層実測図（S=1:40）



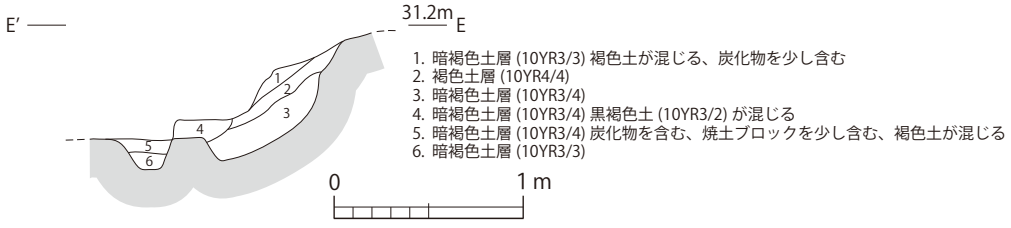
第 55 図　加工段 12 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 13

2 区斜面上側の中ほどに位置する。平面形は隅丸方形で、現状の床面で幅約 3.5m、奥行き約 2.6m を測る。壁際には深さが 4㎝前後の溝がめぐる。溝の幅は東側と北側と南側が 20㎝前後、西側が 45㎝前後を測る。東側の壁には右側に長さ 70㎝、幅 30㎝、深さ 40㎝の溝が外側に延びる。西の溝の中央では焼土を確認した。この焼土は溝の底より 2㎝浮いていた。柱穴と考えられるピットを 2 基確認した。2 本柱の竪穴建物跡と考えられる。石見 5・6A 期と考えられる須恵器の坏身（第 59 図 1）が出土していることから、7 世紀初頭に廃棄されたと考えられる。

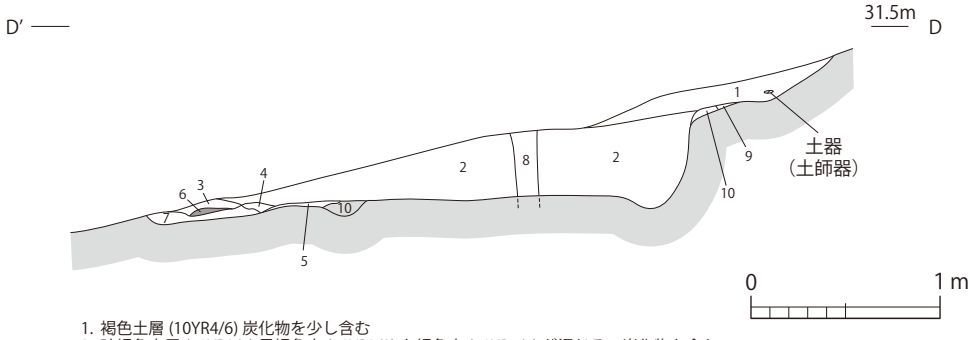


第 56 図　加工段 13 実測図（S=1:80）



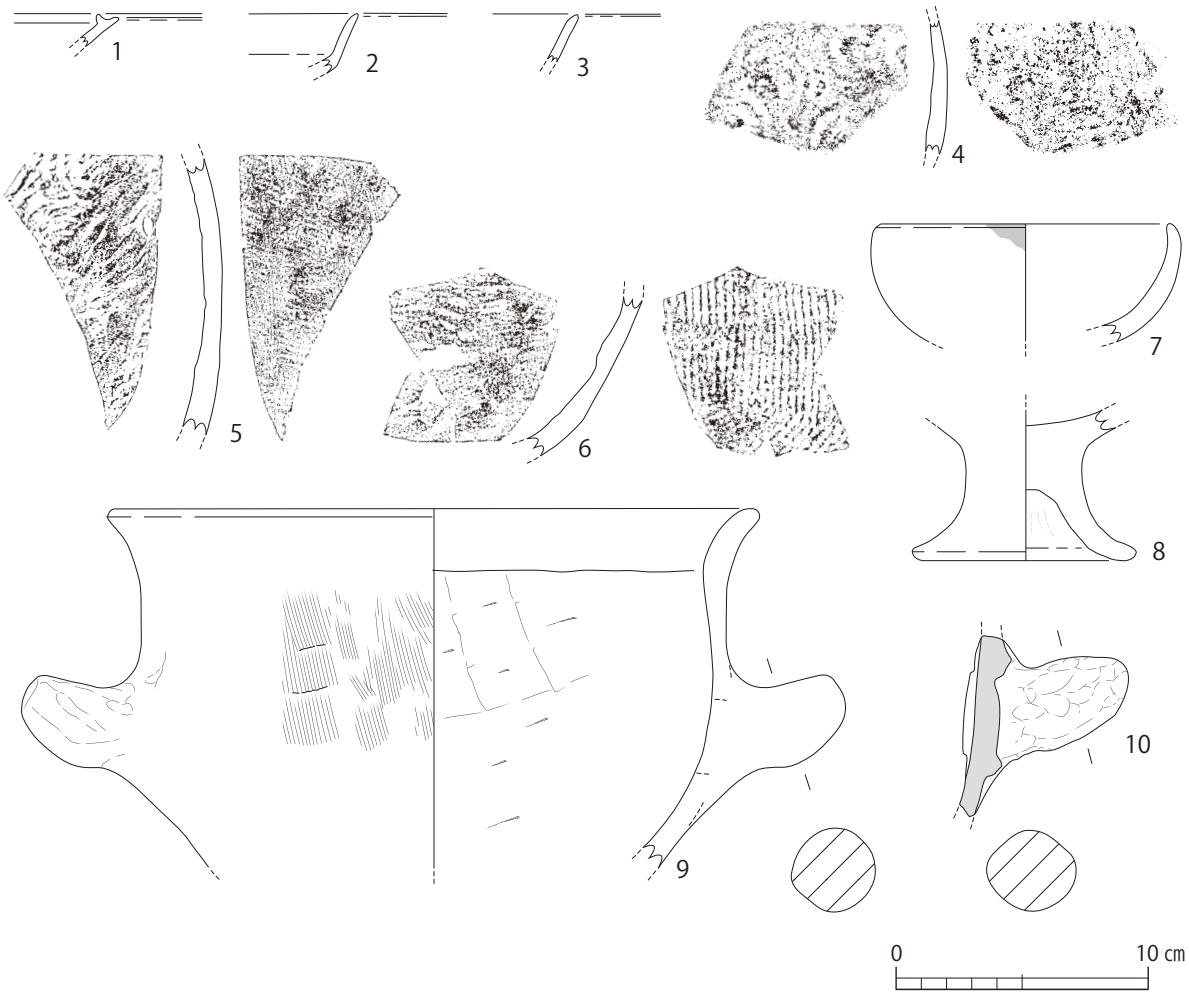
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 褐色土が混じる、炭化物を少し含む
2. 褐色土層 (10YR4/4)
3. 暗褐色土層 (10YR3/4)
4. 暗褐色土層 (10YR3/4) 黒褐色土 (10YR3/2) が混じる
5. 暗褐色土層 (10YR3/4) 炭化物を含む、焼土ブロックを少し含む、褐色土が混じる
6. 暗褐色土層 (10YR3/3)

第 57 図　加工段 13 土層実測図①（S=1:40）



1. 褐色土層 (10YR4/6) 炭化物を少し含む
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 黒褐色土 (10YR3/2) と褐色土 (10YR4/4) が混じる、炭化物を含む
3. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 焼土を含む、炭化物を少し含む
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 黒褐色土 (10YR3/2) が少し混じる
5. 褐色土層 (10YR4/4)
6. にぶい赤褐色土層 (5YR4/4) 焼土
7. 暗褐色土層 (10YR5/3) 褐色土 (10YR4/6) が混じる
8. 暗灰黄色土層 (2.5Y) 木の根による撹乱
9. 黒褐色土層 (10YR2/2)
10. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 地山

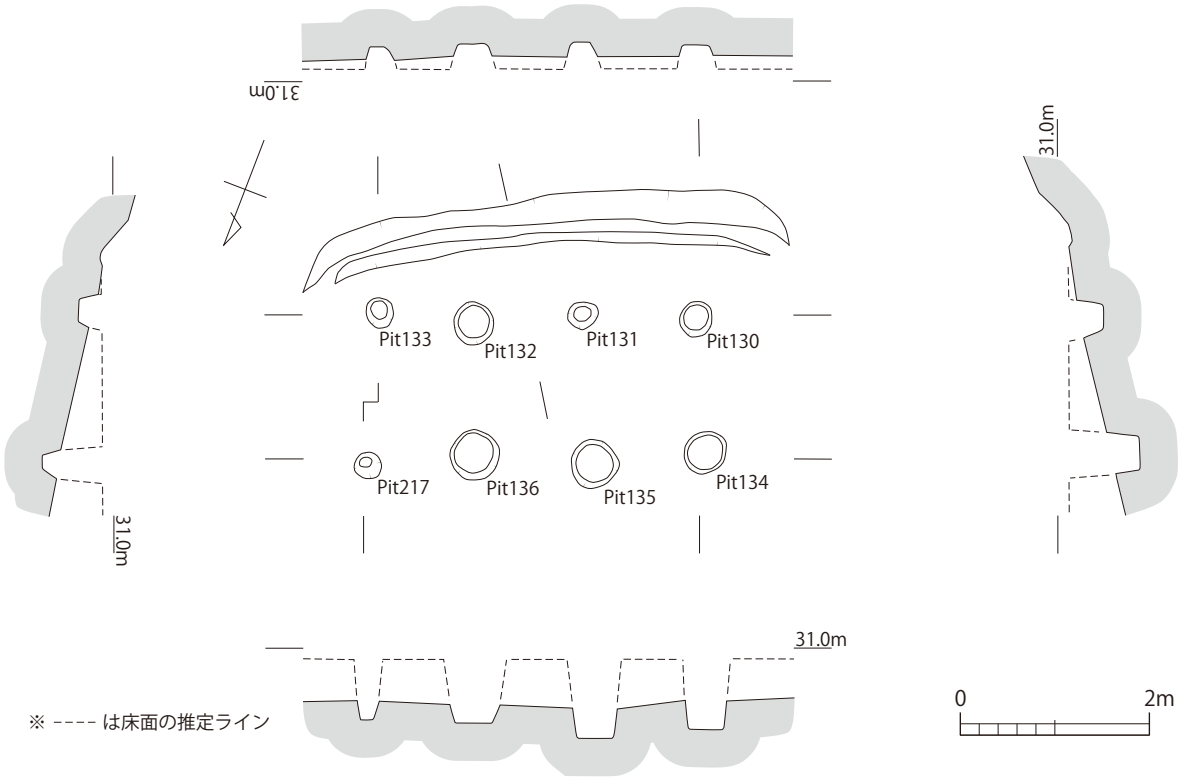
第 58 図　加工段 13 土層実測図②（S=1:40）



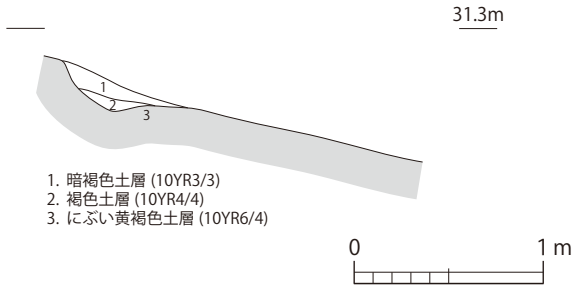
第 59 図　加工段 13 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 14

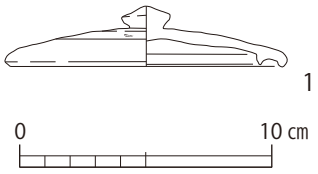
2 区斜面上側の東に位置する。現状で床面の幅約 5m、奥行き 3m を測る。南側には幅 20㎝前後、深さ 4㎝前後の溝がある。8 基の柱穴と考えられるピットを確認した。3 間× 1 間の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。石見 6B 期と考えられる須恵器の蓋（第 62 図 1）が出土していることから、遺構の時期は 7 世紀前半と考えられる。



第 60 図　加工段 14 実測図（S=1:80）



第 61 図　加工段 14 土層実測図（S=1:40）

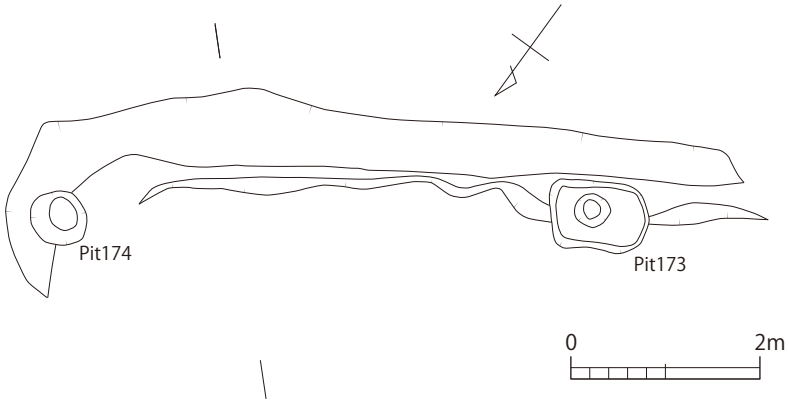


第 62 図　加工段 14 出土遺物実測図（S=1:3）

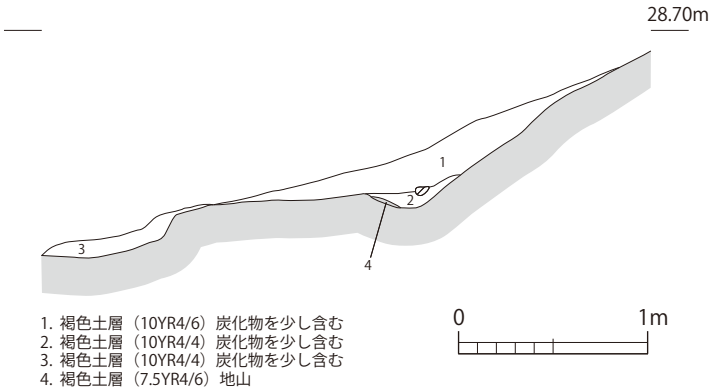
加工段 15

2 区の斜面上側に位置する。現状で床面の幅約 7.6m、奥行き 1.4m を測る。南側には幅 30㎝～ 40㎝、深さ 4㎝前後の溝がある。ピットを 2 基確認したが、加工段に伴う柱穴であるか

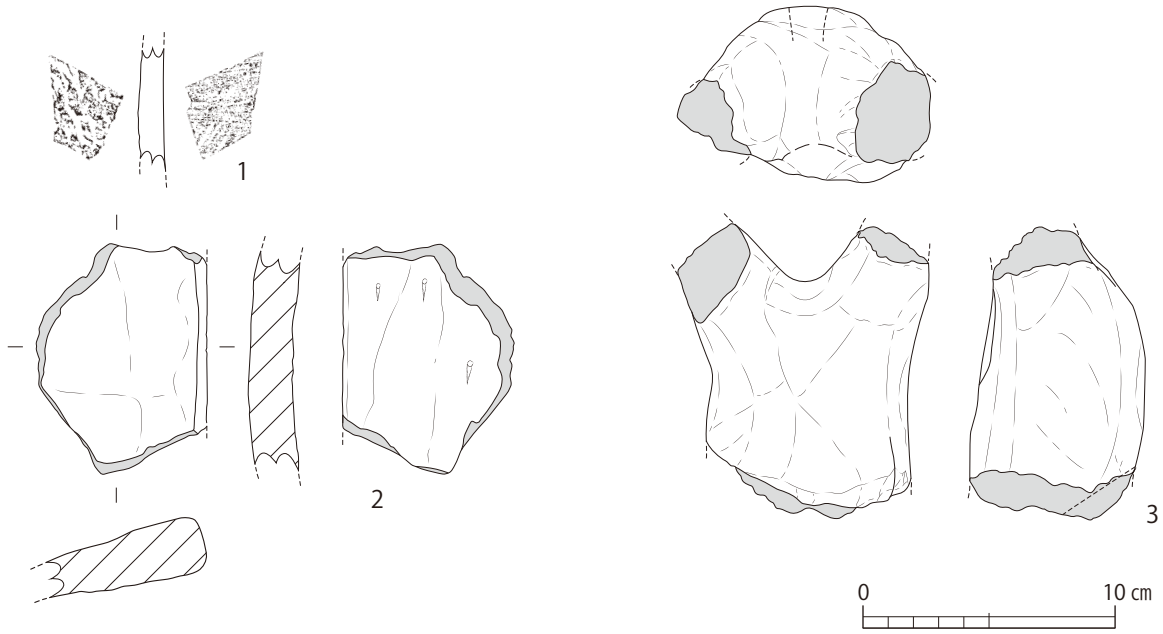
は不明である。須恵器や土師器の破片が出土しているが、詳細な時期がわかる遺物が出土していないため、加工段の時期は不明である。



第 63 図　加工段 15 実測図（S=1:80）



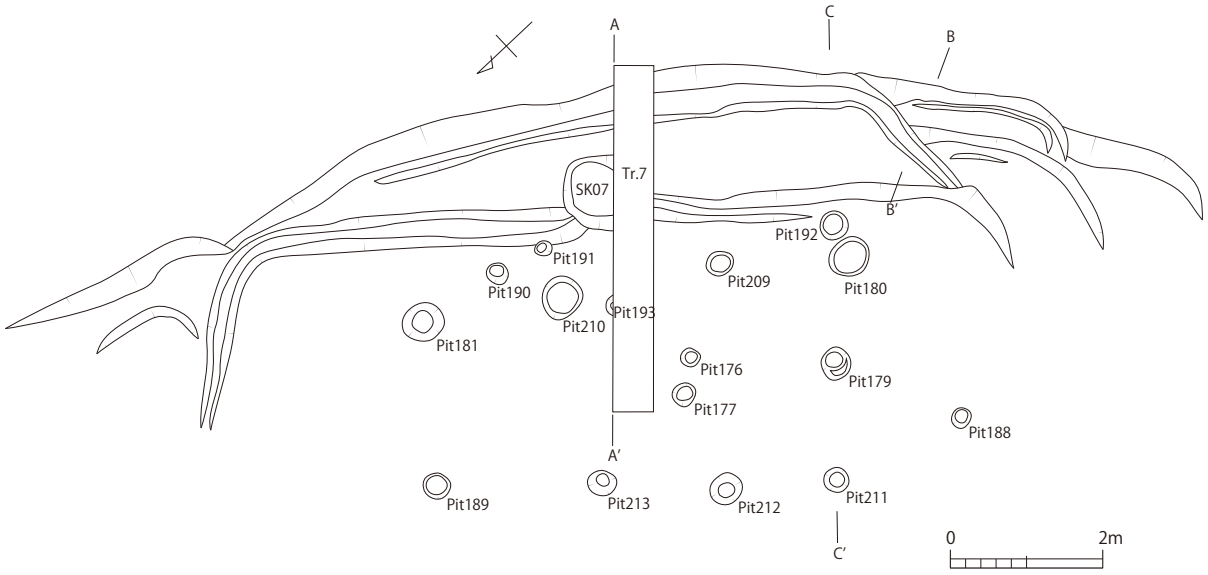
第 64 図　加工段 15 土層実測図（S=1:40）



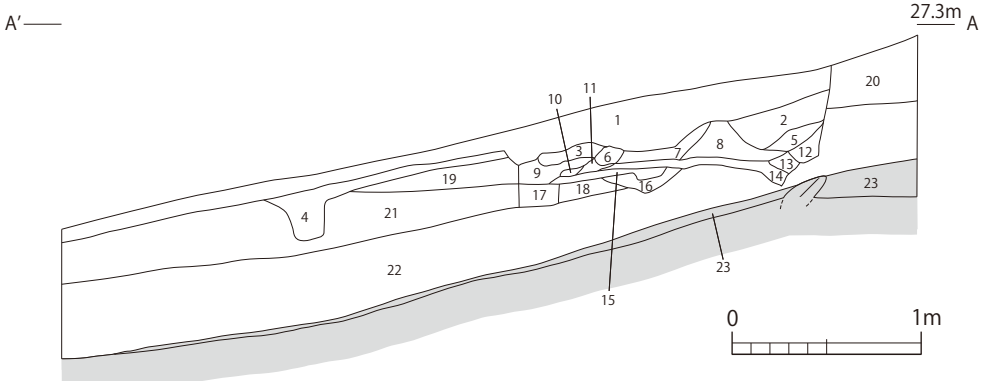
第 65 図　加工段 15 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 16

2 区の西側斜面の中ほどに位置する。この加工段は試掘確認調査（Tr.7）で発見された。ほぼ同じ場所に 4 回造り替えを行っている。2 区では他に造り替えを行っている加工段が無く、規模も最も大きいことから、2 区の中心的な建物が建てられていた加工段と考えられる。以下、時期が古いものから記述する。

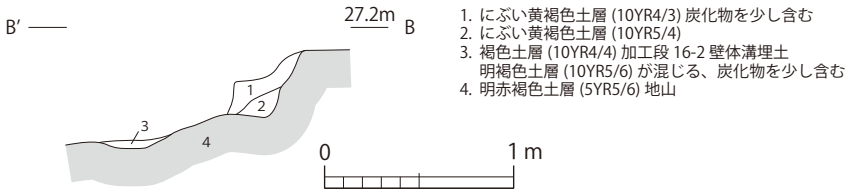


第 66 図　加工段 16 実測図（S=1:100）



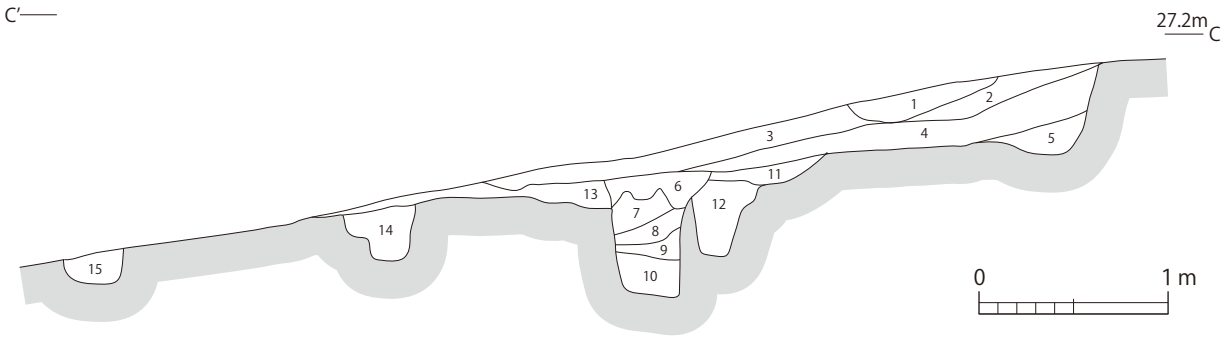
1. 褐色土層（10YR4/6）砂粒（長石）を含む
2. 褐色土層（10YR4/4）
3. 暗褐色土層（10YR3/3）
4. 黒褐色土層（10YR2/2）
5. 褐色土層（10YR4/4）炭化物を少し含む
6. 褐色土層（10YR4/4）
7. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
8. 褐色土層（10YR4/4）炭化物を少し含む
9. 明褐色土層（10YR6/6）砂粒（長石）を多く含む
10. 黒褐色土層（10YR3/2）
11. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）
12. 褐色土層（10YR4/6）炭化物を少し含む
13. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）
14. 褐色土層（10YR4/6）炭化物と土器を含む
15. 褐色土層（10YR4/4）
16. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）暗褐色土（10YR3/3）が混じる
17. 褐色土層（10YR4/4）暗褐色土（10YR3/3）が混じる
18. にぶい黄褐色土層（10YR4/6）
19. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
20. 褐色土層（10YR4/6）暗褐色土（10YR3/3）が混じる
21. 暗褐色土層（10YR3/4）砂粒（長石）を含む
22. 暗褐色土層（10YR3/3）炭化物を少し含む、砂粒（長石）を含む
23. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）地山

第 67 図　加工段 16 土層実測図①（S=1:40）



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭化物を少し含む
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4)
3. 褐色土層 (10YR4/4) 加工段 16-2 壁体溝埋土
   明褐色土層 (10YR5/6) が混じる、炭化物を少し含む
4. 明赤褐色土層 (5YR5/6) 地山

第 68 図　加工段 16 土層実測図②（S=1:40）

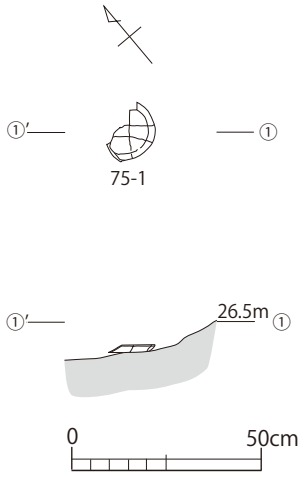


1. オリーブ褐色土層 (2.5Y4/4)
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 炭化物を少し含む
3. 黒褐色土層 (2.5Y3/2) 白色の砂を含む
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/8) 炭化物を少し含む
5. 褐色土層 (10YR4/4) 明褐色土 (10YR5/6) が混じる、炭化物を少し含む
6. 暗褐色土層 (10YR3/4)Pit180 埋土の炭化物を少し含む
7. 黄褐色土層 (10YR5/6)Pit180 埋土の炭化物を少し含む、地山を崩した土と考えられる
8. 暗褐色土層 (10YR3/4)Pit180 埋土の炭化物を少し含む
9. 黄褐色土層 (10YR5/6)Pit180 埋土の炭化物を少し含む
10. 暗褐色土層 (10YR3/4)Pit180 埋土の炭化物を少し含む、褐色土 (10YR4/4) と (10YR5/6) が混じる
11. 褐色土層 (10YR4/4) 炭化物を少し含む
12. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)Pit192 褐色土 (10YR5/6) が混じる、炭化物を少し含む
13. 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物を少し含む
14. 褐色土層 (10YR4/4)Pit179 埋土
15. 褐色土層 (7.5YR4/3)Pit211 埋土

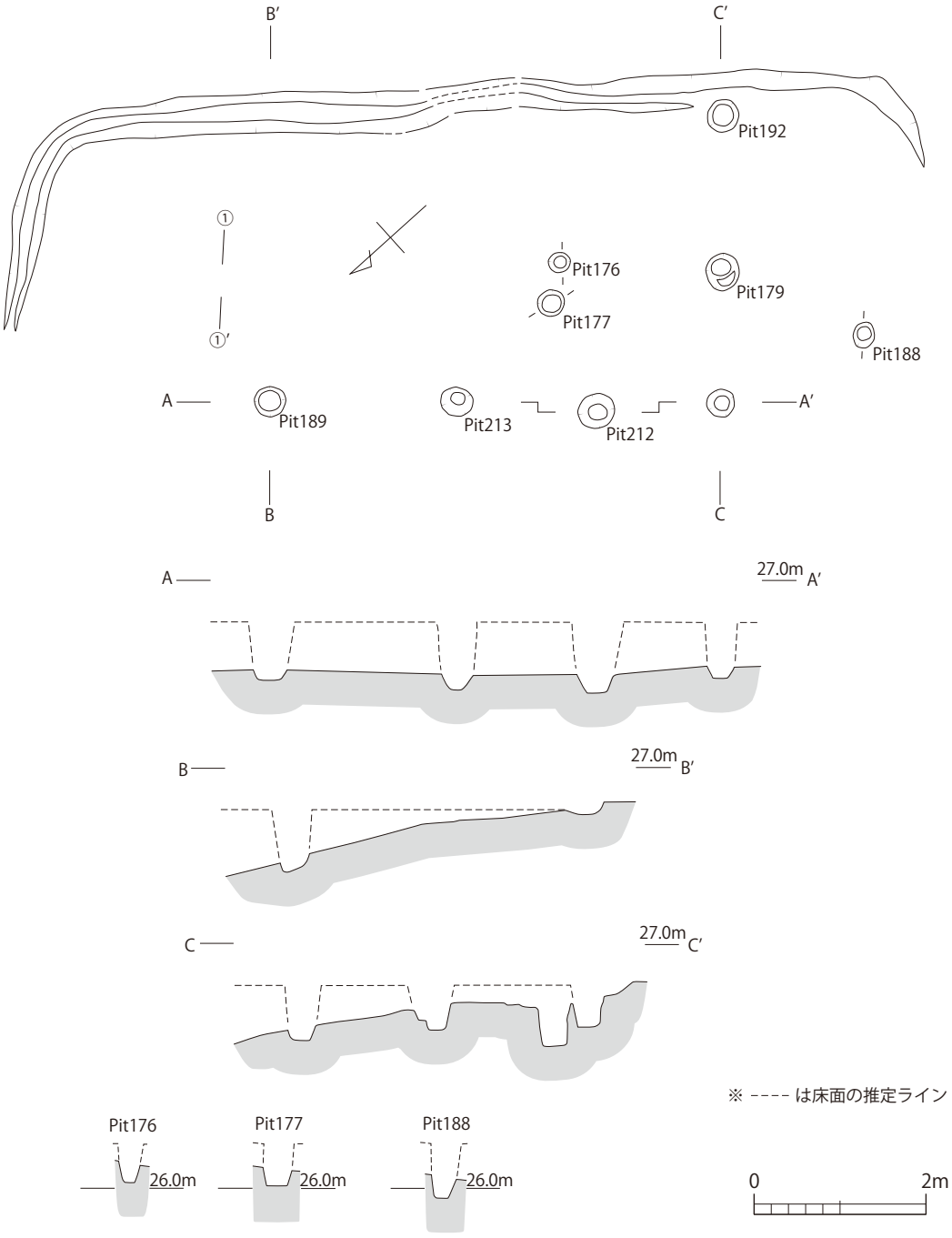
第 69 図　加工段 16 土層実測図③（S=1:40）

加工段 16 － 1

平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 10.4m、奥行き約 4m を測る。壁際には幅 20㎝前後、深さ 5㎝前後の溝がめぐる。柱穴と考えられるピットを 6 基と小さなピットを 3 基確認した。柱穴となるピットを全て確認することができなかったが、3 間× 2 間の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。床面で出土した石見 3 期と考えられる須恵器の蓋を模倣したと考えられる土師器（第 75 図 1）や、埋土から出土した須恵器の蓋（第 75 図 2）から、この加工段の時期は 6 世紀後葉と考えられる。



第 70 図　加工段 16 － 1 遺物出土状況実測図（S=1:20）



第 71 図　加工段 16 － 1 実測図（S=1:80）

加工段 16 － 2

加工段の南西隅が残るのみである。現状の床面で幅約 1.6 m、奥行き約 1.6 mを測る。壁には幅 30㎝前後、深さ 2㎝前後の溝がある。加工段 16 － 1 や加工段 16 － 4 に掘立柱建物が建てられていたことから、同様に掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。石見 8 期と考えられる須恵器の蓋が出土していることから、8 世紀前半の遺構と考えられる。

加工段 16 － 3

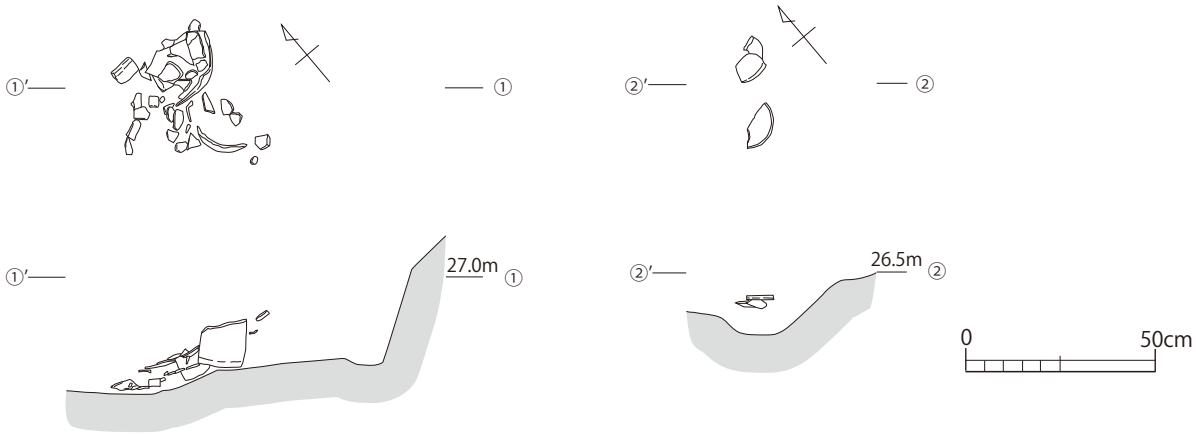
加工段の南西隅が残るのみである。現状の床面で幅約 1.3 m、奥行き約 90㎝を測る。壁際に溝はない。加工段 16 － 1 や加工段 16 － 4 に掘立柱建物が建てられていたことから、同様に掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。移動式竈の破片が出土したが、詳細な時期は不明である。加工段 16 － 2 に後続し、加工段 16 － 5 に先行することから、8 世紀後半と考えられる。

加工段 16 － 4

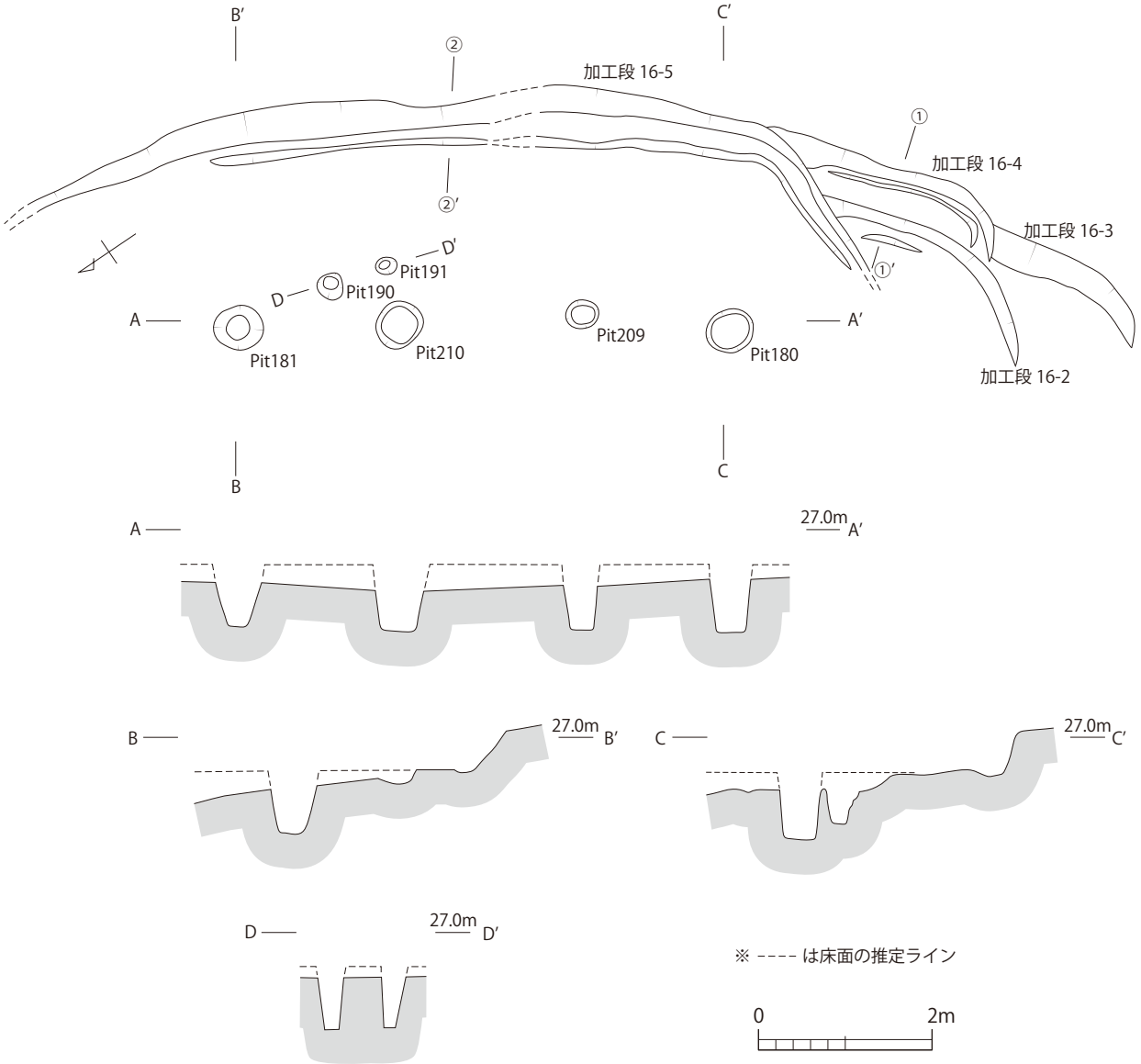
加工段の南西隅が残るのみである。現状の床面で幅約 2 m、奥行き約 80㎝を測る。壁には幅 10㎝前後、深さ 3㎝前後の溝がある。加工段 16 － 1 や加工段 16 － 4 に掘立柱建物が建てられていたことから、同様に掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。床面から土師器の甕の胴部の破片や、埋土から須恵器の短頸壺の破片が出土したが、詳細な時期は不明である。加工段 16 － 3 と同様の理由から 8 世紀後半に存在し、且つ加工段 16 － 3 が廃棄された後に造られたと考えられる。

加工段 16 － 5

平面形は隅丸方形で、現状で床面の幅約 9.4m、奥行き約 2.8m を測る。壁際には幅 30㎝前後、深さ 6㎝前後の溝がある。柱穴と考えられるピットを 4 基確認した。他に 2 基のピットを確認した。梁行は不明であるが、桁行 3 間の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。壁際の溝で、須恵器の蓋（第 75 図 10）と土師器の甕片が出土した。この須恵器の蓋や、埋土から出土した須恵器の坏（第 75 図 12、14）が石見 9B 期と考えられることから、加工段 16 － 5 の時期は 8 世紀末から 9 世紀初頭と考えられる。



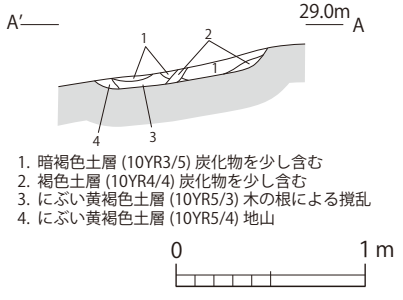
第 72 図　加工段 16 － 4、16 － 5 遺物出土状況実測図（S=1:20）



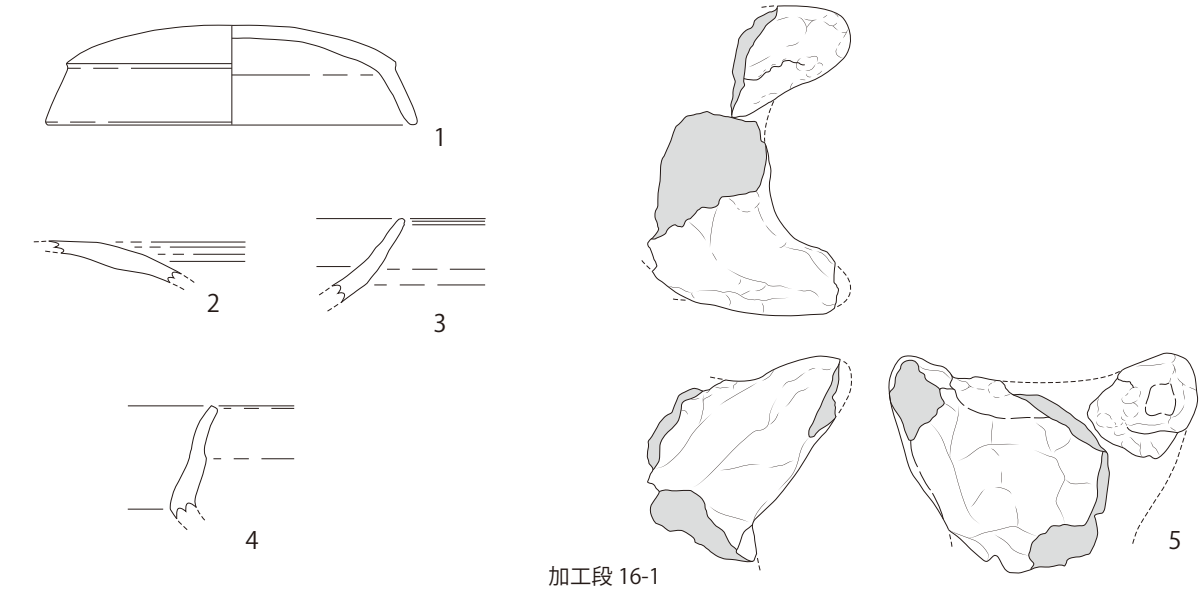
第 73 図　加工段 16 － 2 ～ 5 実測図（S=1:80）

加工段 17

2 区の中ほど、加工段 13 の下方に位置する。東側の一部は後世の溝で削平されている。現状の床面で幅約 6.8m、奥行き約 1.2m 測る。3 基のピットを確認したが、柱穴かは不明である。出雲Ⅲ期に並行すると考えられる須恵器の蓋（第 77 図 1）や坏（第 77 図 2、3、4）が出土していることから、8 世紀末から 9 世紀初頭に廃棄されたと考えられる。

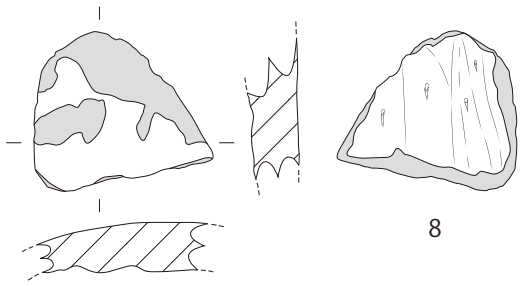


第 74 図　加工段 17 土層実測図（S=1:40）

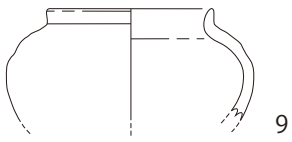


加工段 16-1

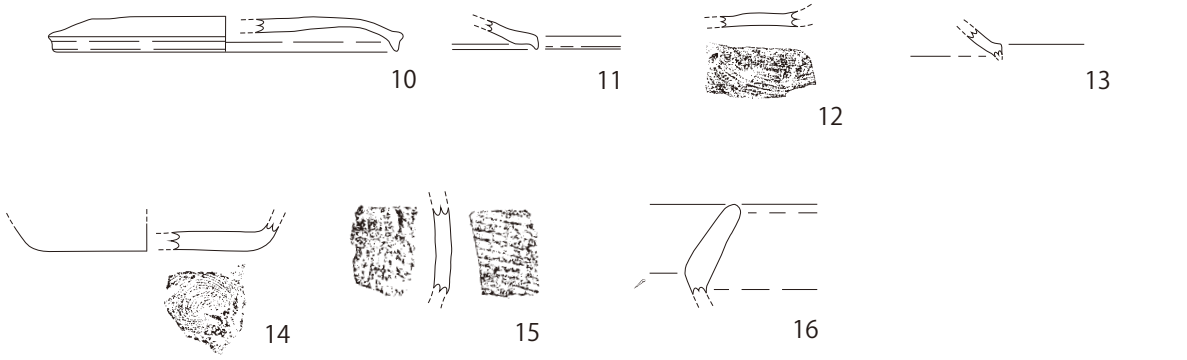
加工段 16-2



加工段 16-3

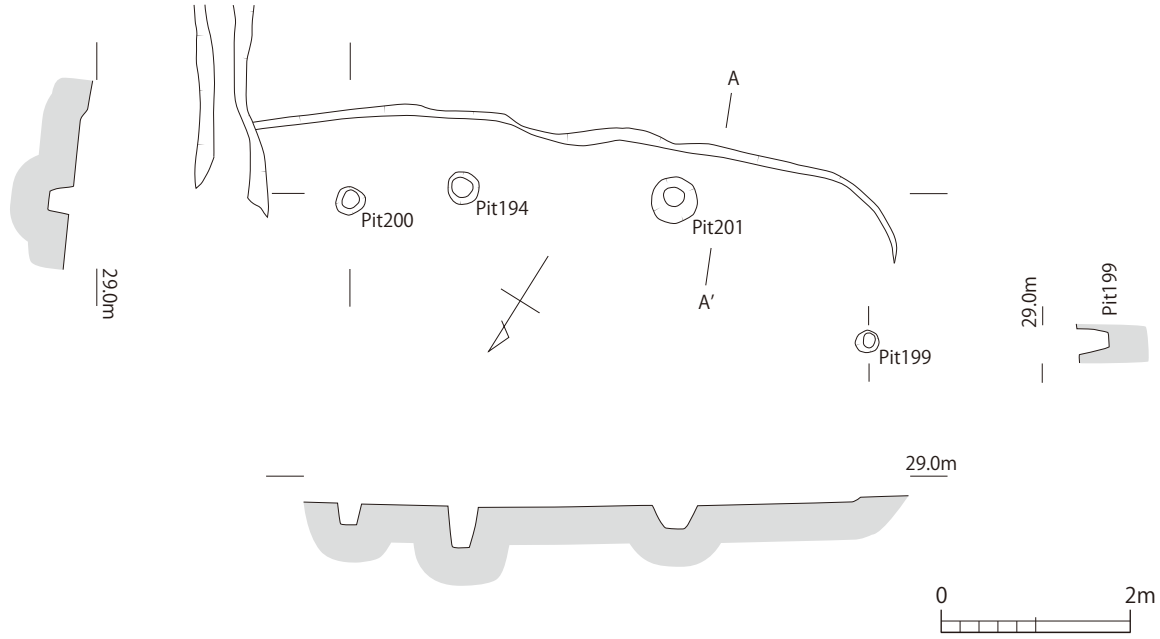


加工段 16-4

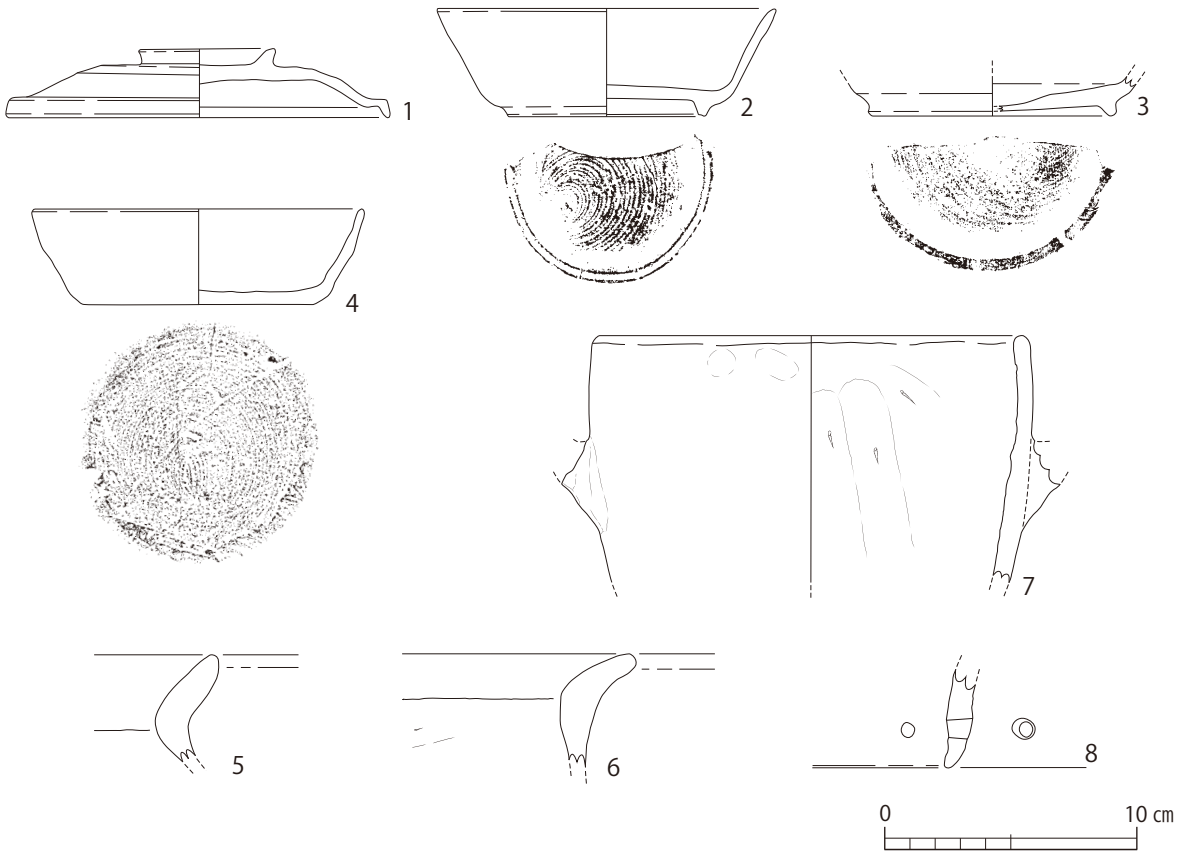


加工段 16-5

第 75 図　加工段 16 出土遺物実測図（S=1:3）



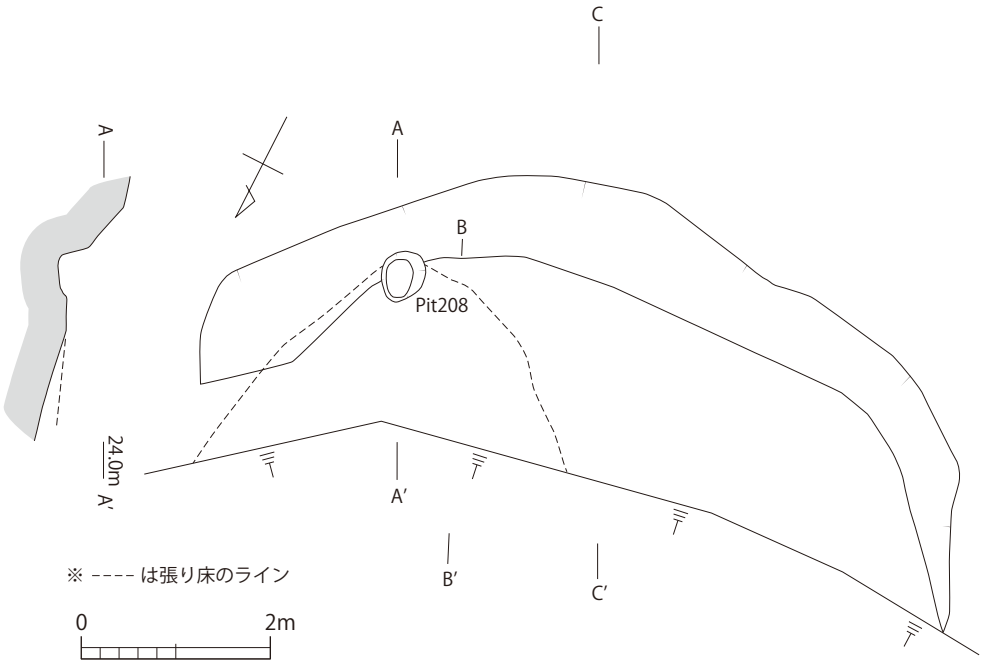
第 76 図　加工段 17 実測図（S=1:80）



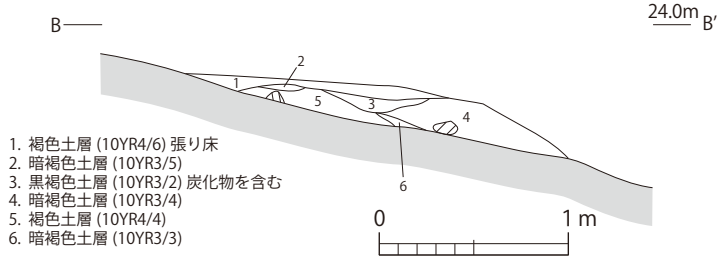
第 77 図　加工段 17 出土遺物実測図（S=1:3）

加工段 18

2 区の下側の北端に位置する。平面形は弧状で、幅 6.8 m、奥行き 4m を測る。柱穴と考えられるピットは確認できなかった。簡易な建物が建てられていたか作業場であったと考えられる。谷部に造成しているため窪んだ箇所は盛り土をして床面を成形している。須恵器や土師器の破片は多く出土したが、詳細な時期が分かる遺物がないため、加工段の時期は不明である。

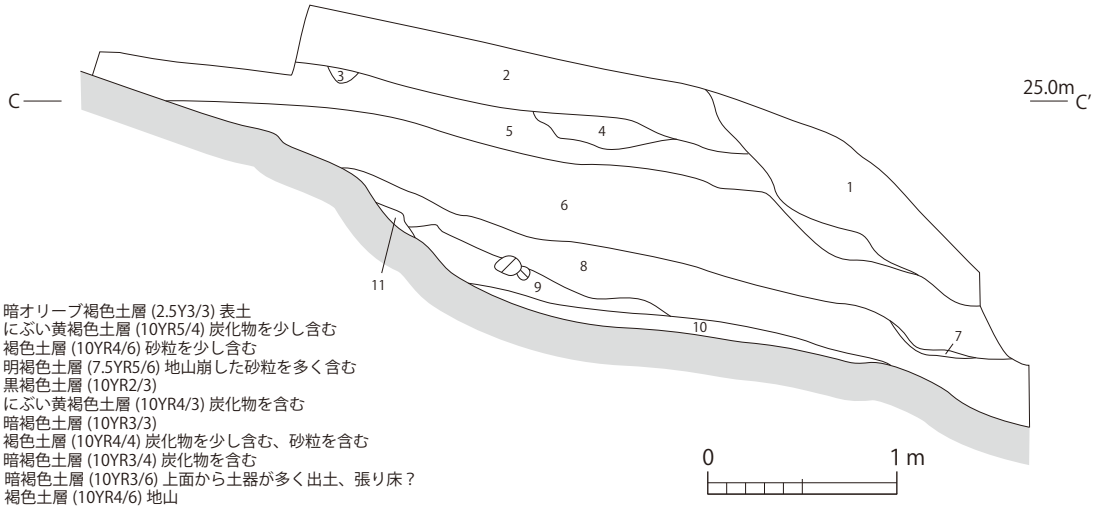


第 78 図　加工段 18 実測図（S=1:80）



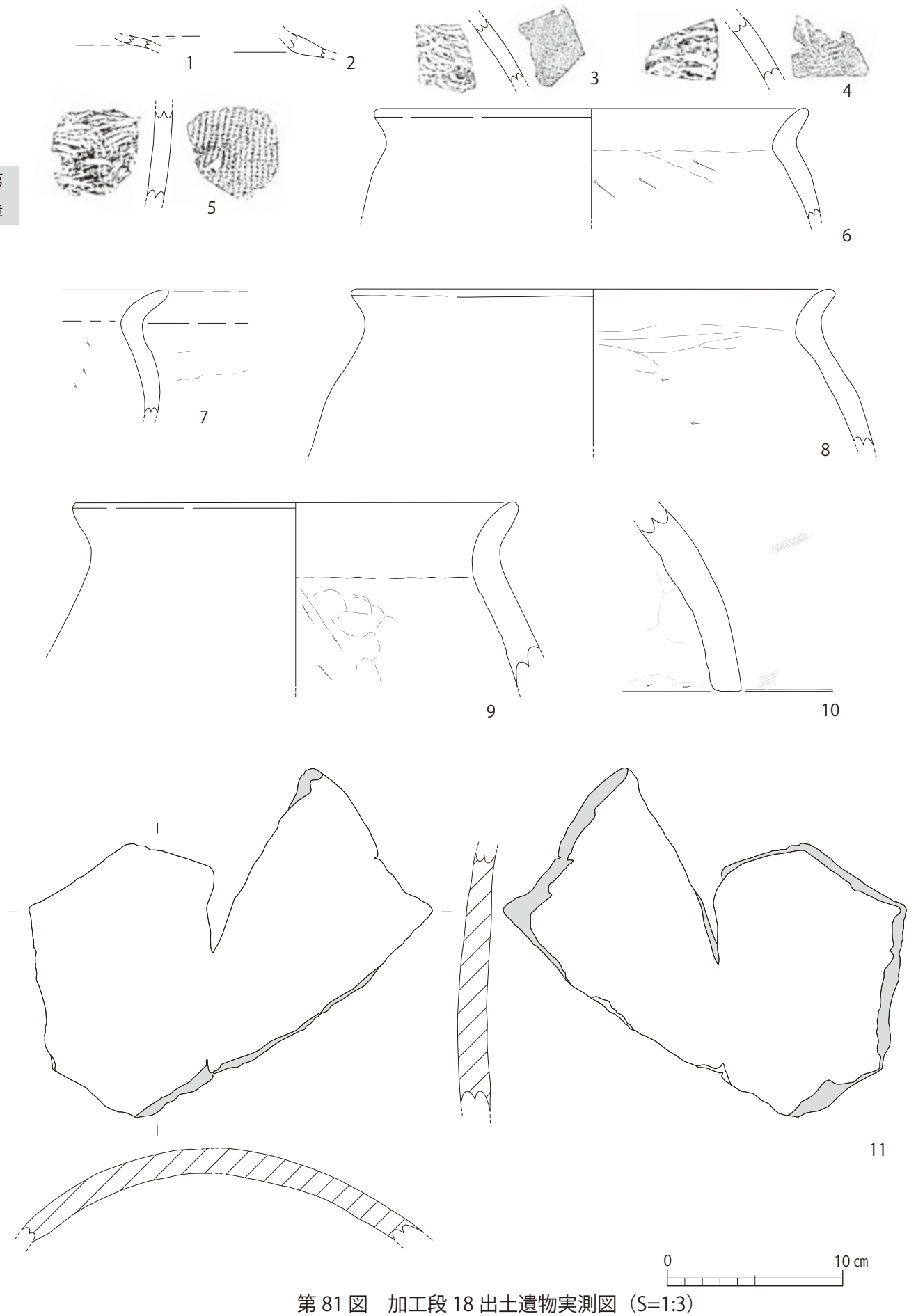
1. 褐色土層 (10YR4/6) 張り床
2. 暗褐色土層 (10YR3/5)
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物を含む
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
5. 褐色土層 (10YR4/4)
6. 暗褐色土層 (10YR3/3)

第 79 図　加工段 18 土層①実測図（S=1:40）



1. 暗オリーブ褐色土層 (2.5Y3/3) 表土
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 炭化物を少し含む
3. 褐色土層 (10YR4/6) 砂粒を少し含む
4. 明褐色土層 (7.5YR5/6) 地山崩した砂粒を多く含む
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭化物を含む
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)
8. 褐色土層 (10YR4/4) 炭化物を少し含む、砂粒を含む
9. 暗褐色土層 (10YR3/4) 炭化物を含む
10. 暗褐色土層 (10YR3/6) 上面から土器が多く出土、張り床？
11. 褐色土層 (10YR4/6) 地山

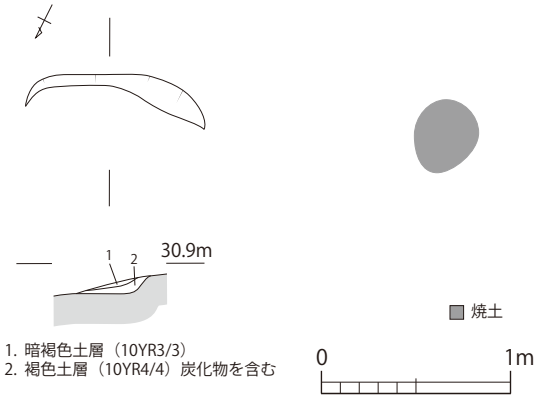
第 80 図　加工段 18 土層②実測図（S=1:40）



第 81 図　加工段 18 出土遺物実測図（S=1:3）

ＳＫ３

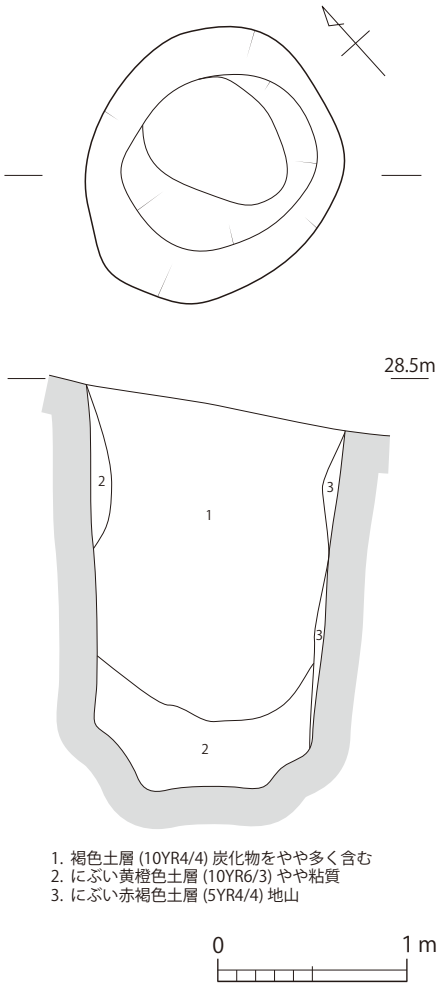
２区の斜面の上側、加工段 12 と加工段 13 の間に位置する。幅 94㎝、奥行き 30㎝を測る。1.2m 西に長径 40㎝、短径 30㎝の楕円形に赤褐色に変色した焼土がある。出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。斜面をＬ字状に成形している点や、付近に焼土がある点から、加工段の一部である可能性が高い。



第 82 図　ＳＫ３遺構実測図（S=1:40）

ＳＫ６

２区のほぼ中央に位置する。平面形は楕円形で、上端は長径 1.5 mで短径 1.3 m、底面は長径 1m で短径 90㎝、検出面からの深さは 2.14m を測る。上側がやや張り出し若干フラスコ状になっている。また、底は上端より狭くなっている。遺物は出土しなかったため時期や性格は不明である。



第 83 図　ＳＫ６遺構実測図（S=1:40）

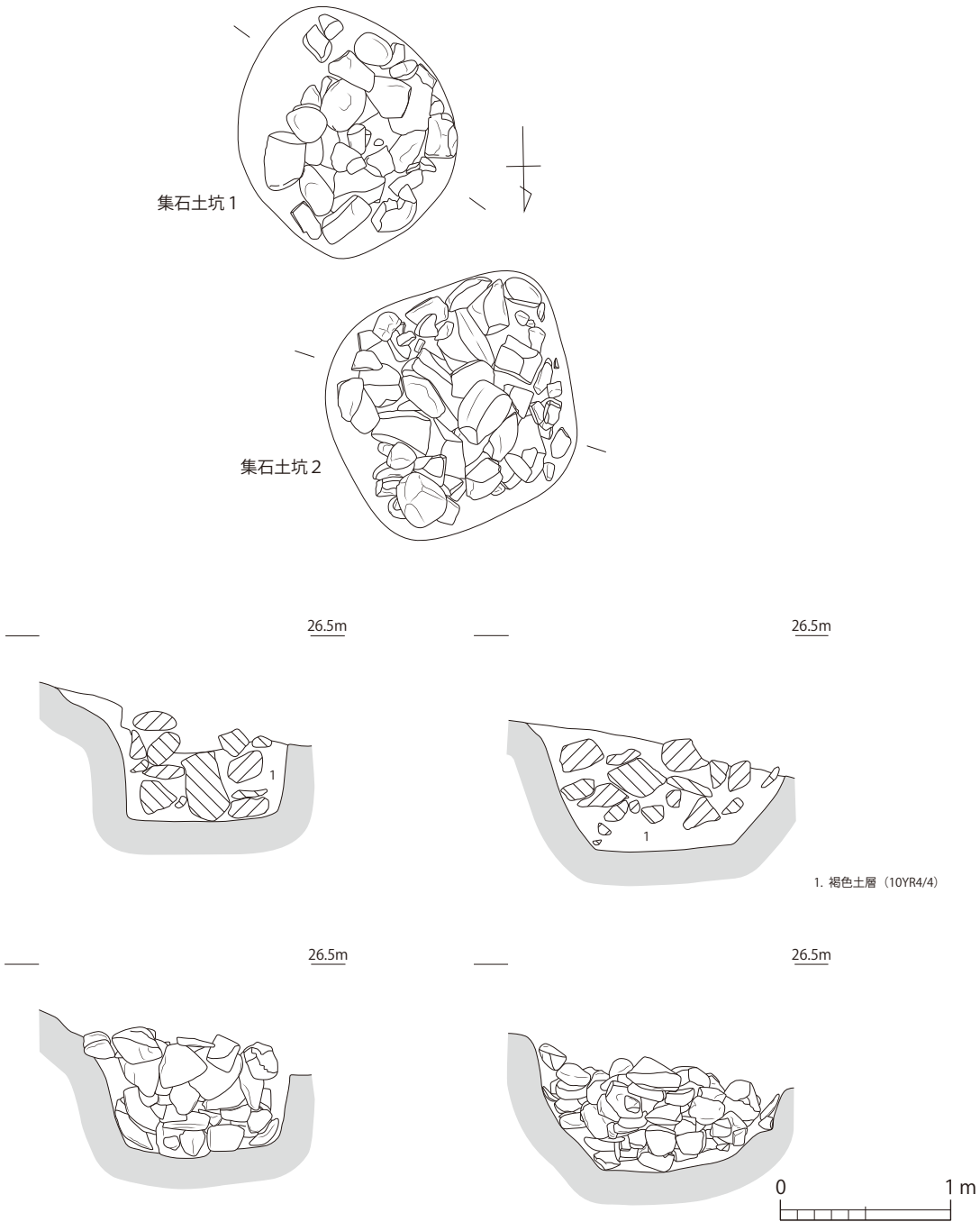
集石土坑 1

２区の南西側斜面の中ほどに位置する。平面形はほぼ円形で、上面は直径 1.3m 前後、底面は直径 82㎝前後、検出面からの深さは 70㎝を測る。内部には多くの角礫が埋めてあった。角礫の他に石製の粉挽き臼、陶器片、板状の瑪瑙などが出土した。耕作地の造成や耕作の際に、不要な石や物を集めて埋めた土坑と考えられる。出土した陶器（第 85 図 2）から、17 世紀後葉から 18 世紀前葉以降に埋められたと考えられる。

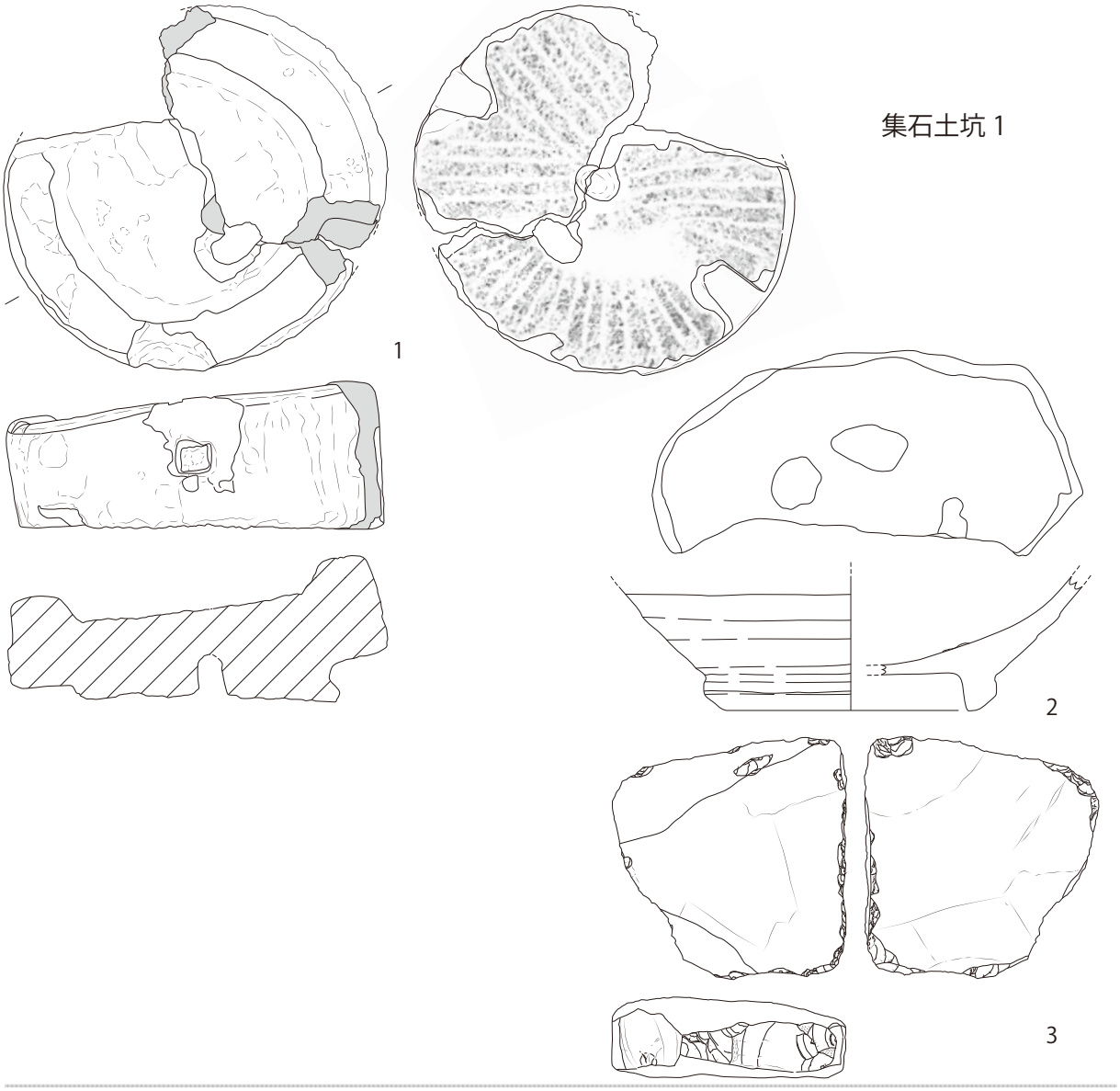
集石土坑 2

集石土坑 1 の北側に隣接する。平面形は丸みのある円形で、上面は一辺が 1.4m 前後、底面は一辺が 80㎝前後、検出面からの深さは 70㎝を測る。集積土坑 1 と同じく、内部には多くの角礫が埋めてあった。角礫の他に石製の粉挽き臼の下臼や陶器片などが出土した。集石土坑 1 と同じ

く耕作地の造成や耕作の際に、不要な石や物を集めて埋めた土坑と考えられる。出土している陶器（第 85 図 5）から、17 世紀後半以降に埋められたと考えられる。



第 84 図　集石土坑 1・集石土坑 2 遺構実測図（S=1:40）



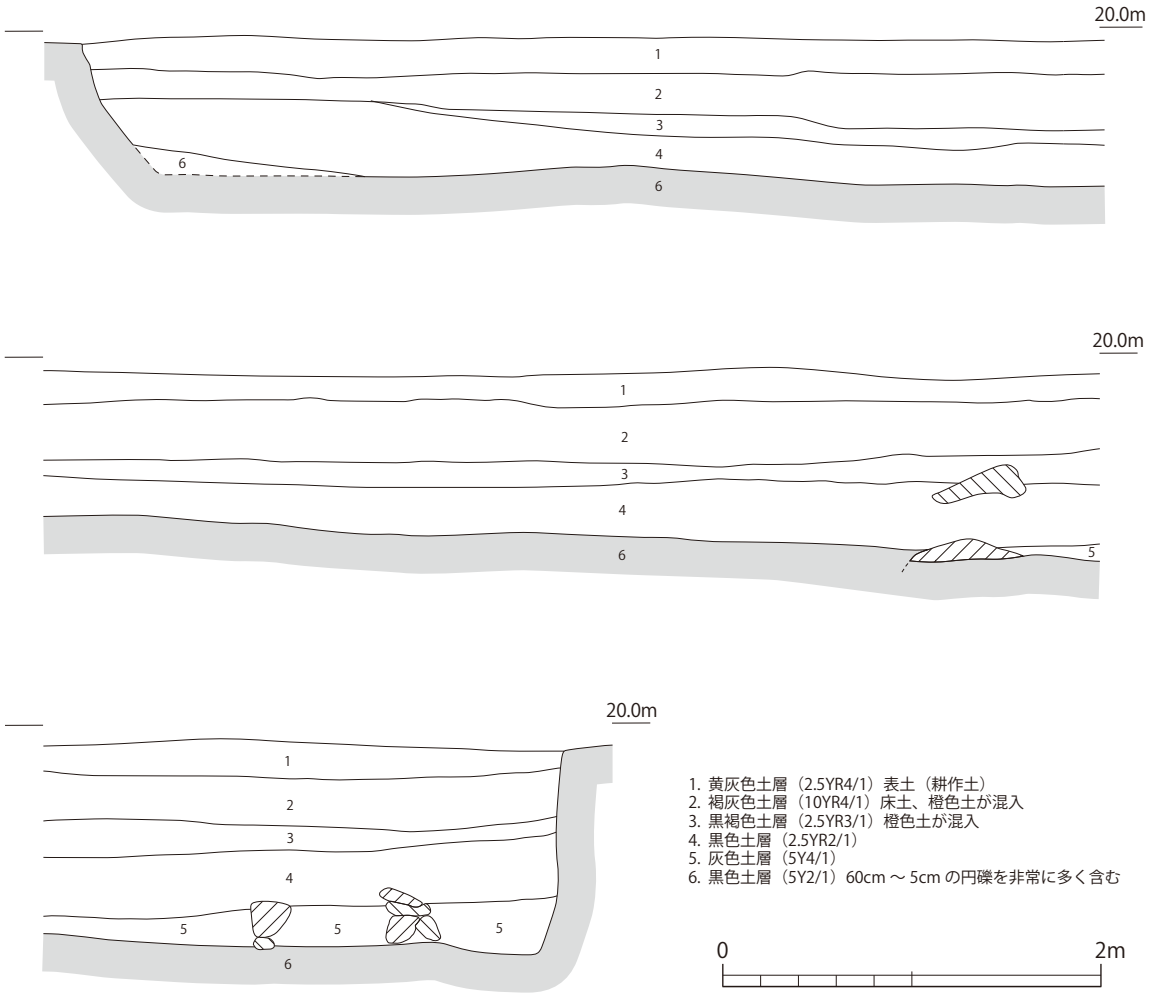
第 85 図　集石土坑 1・集石土坑 2 出土遺物実測図（1,3,4 は S=1:6 2,5 は S=1:3）

1－2区

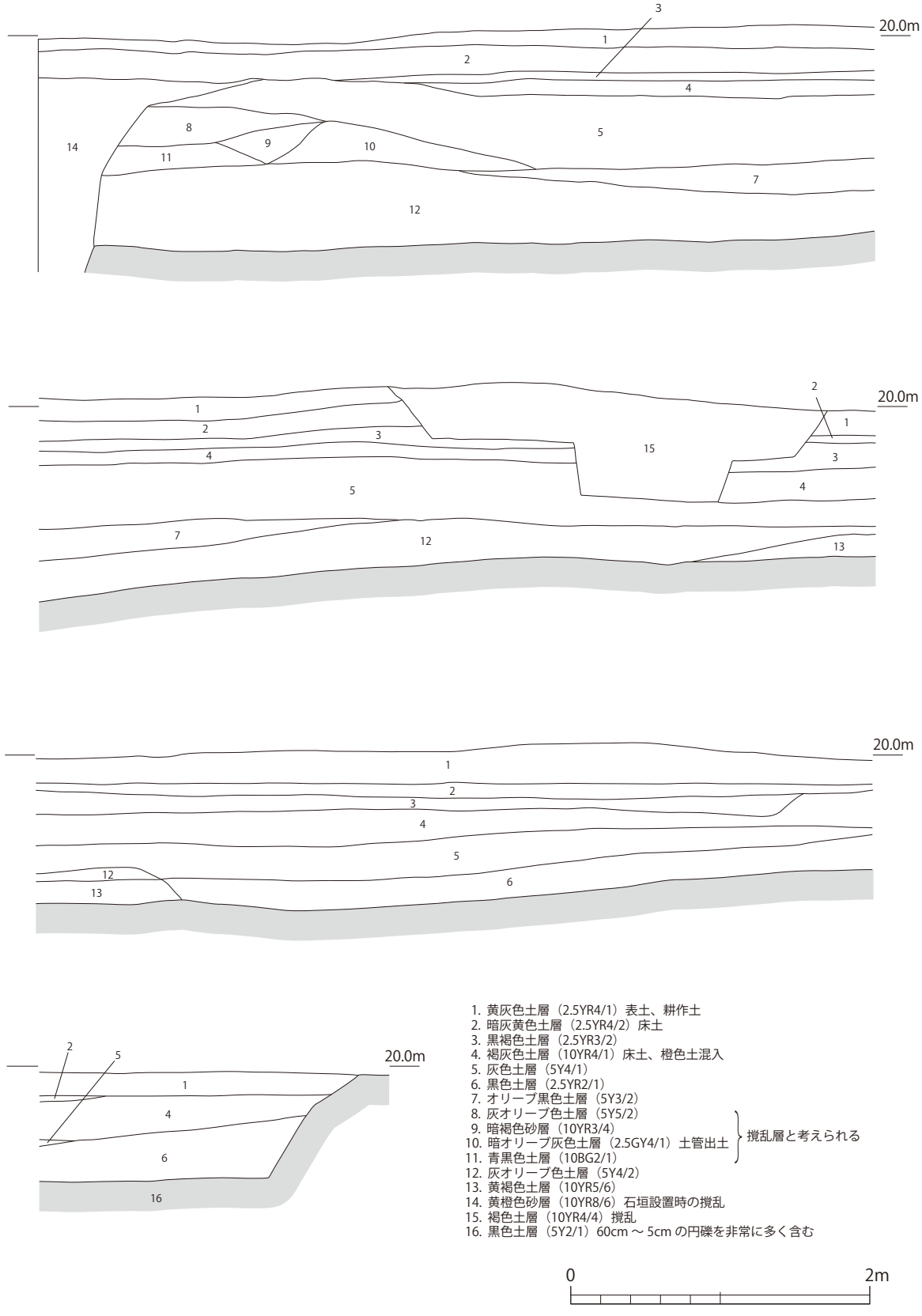
1－2区では現地表面から約1ｍ下で河川跡を確認した。人工的な遺構は確認できなかった。河川跡からは縄文時代から中世にかけての遺物が出土した。大半は古墳時代後期から古代の土師器や須恵器であった。湿地的な水分を多く含んだ遺物包含層であったため、遺物の保存状態は、丘陵斜面の1－1区や2区と比較して非常に良かった。破片も大きな物が多いことから、上流から流されたものではなく、1－1区から廃棄もしくは流れ込んだ遺物と考えられる。出土遺物の中で特に注目すべき物としては土製の権（第88図21）がある。また甑の把手や移動式竈の破片、土製支脚が多く出土している点も注目される。

包含層出土遺物

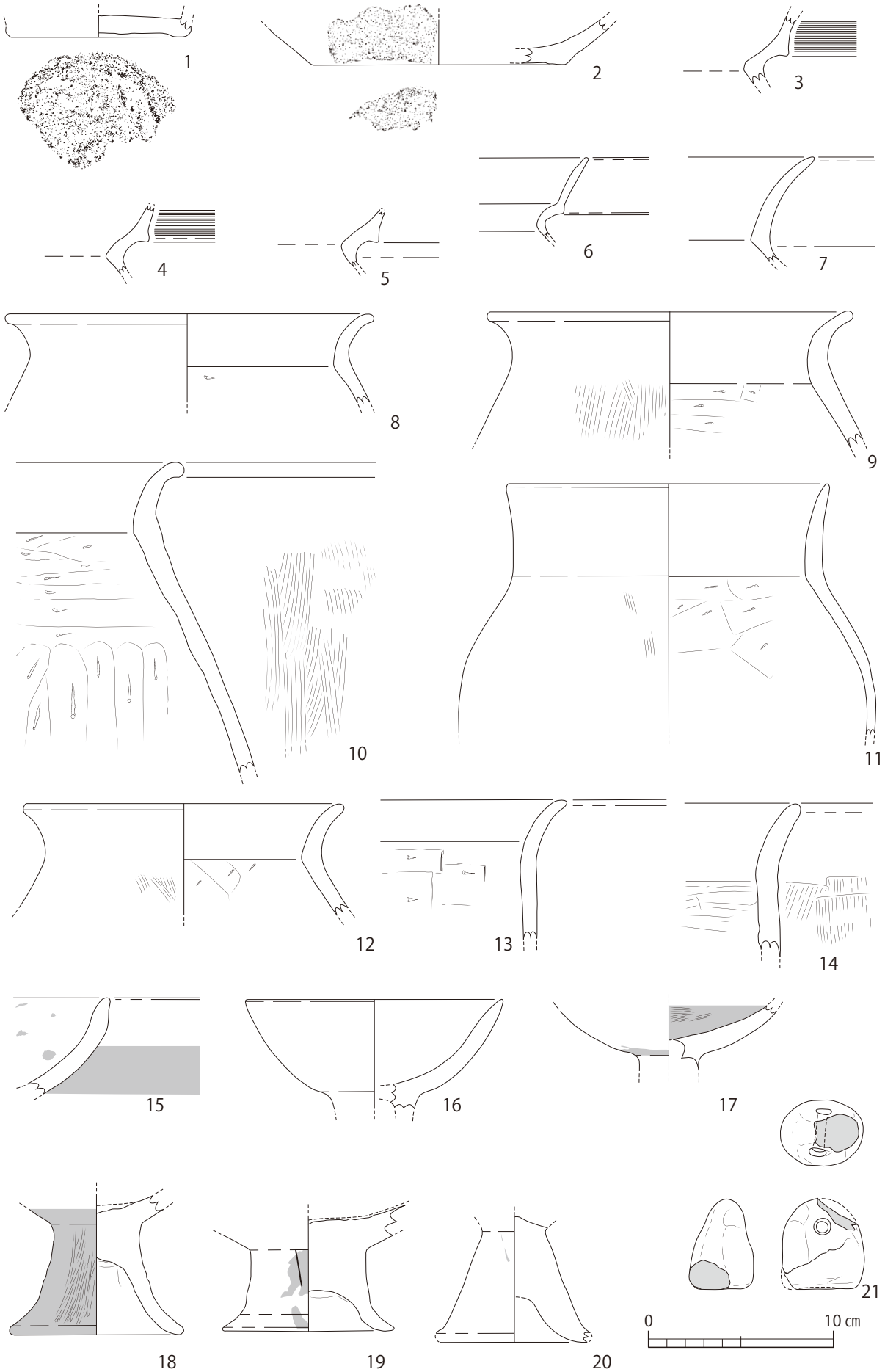
1－1区と2区の遺物包含層からは古墳時代後期から近世までの遺物が出土した。このうち移動式竈の破片や、遺構出土品が少ないため掲載が少なかった陶磁器を掲載した。



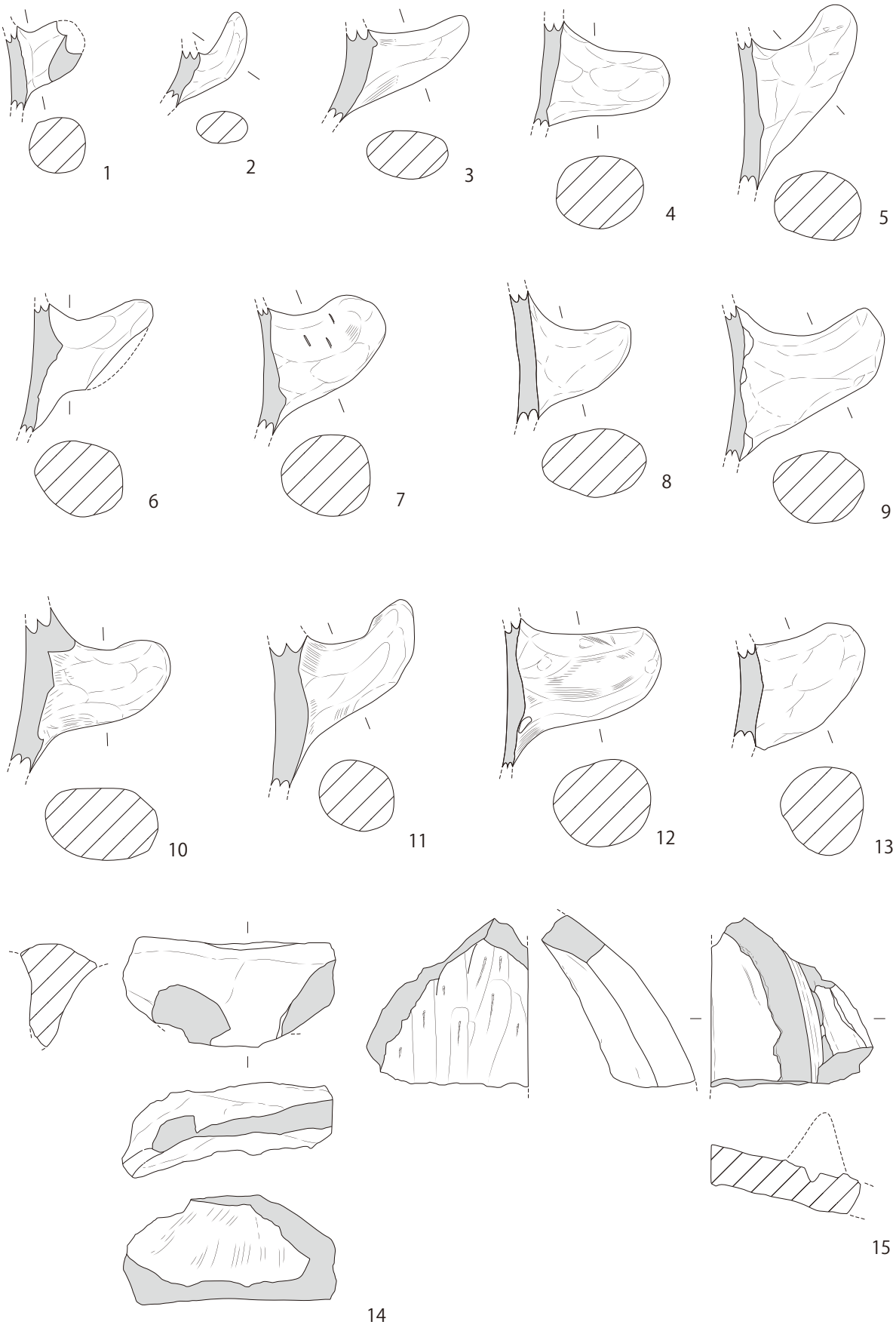
第 86 図　1－2 区土層実測図（東側）（S=1:40）



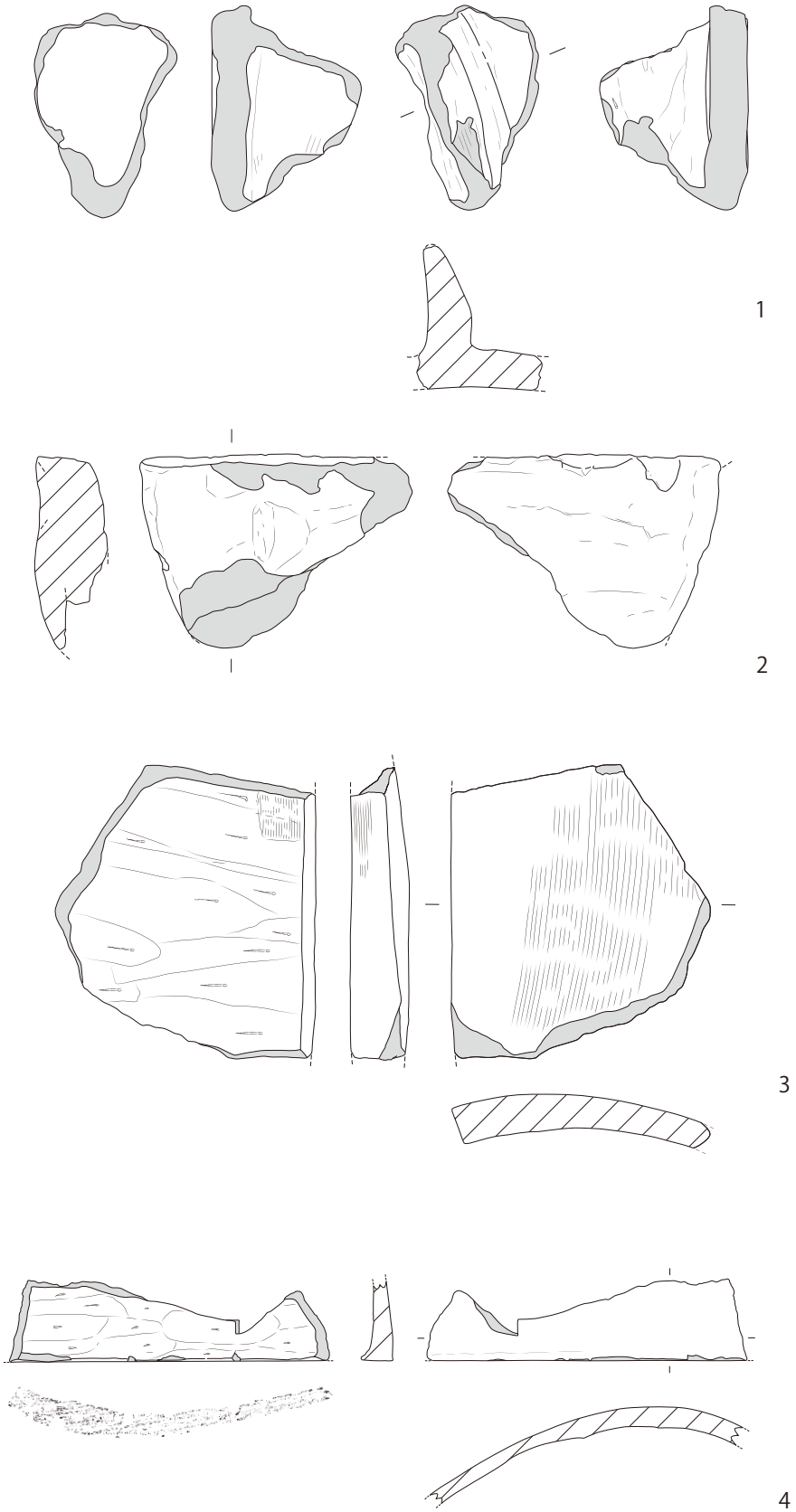
第 87 図　1 － 2 区土層実測図（北側）（S=1:40）



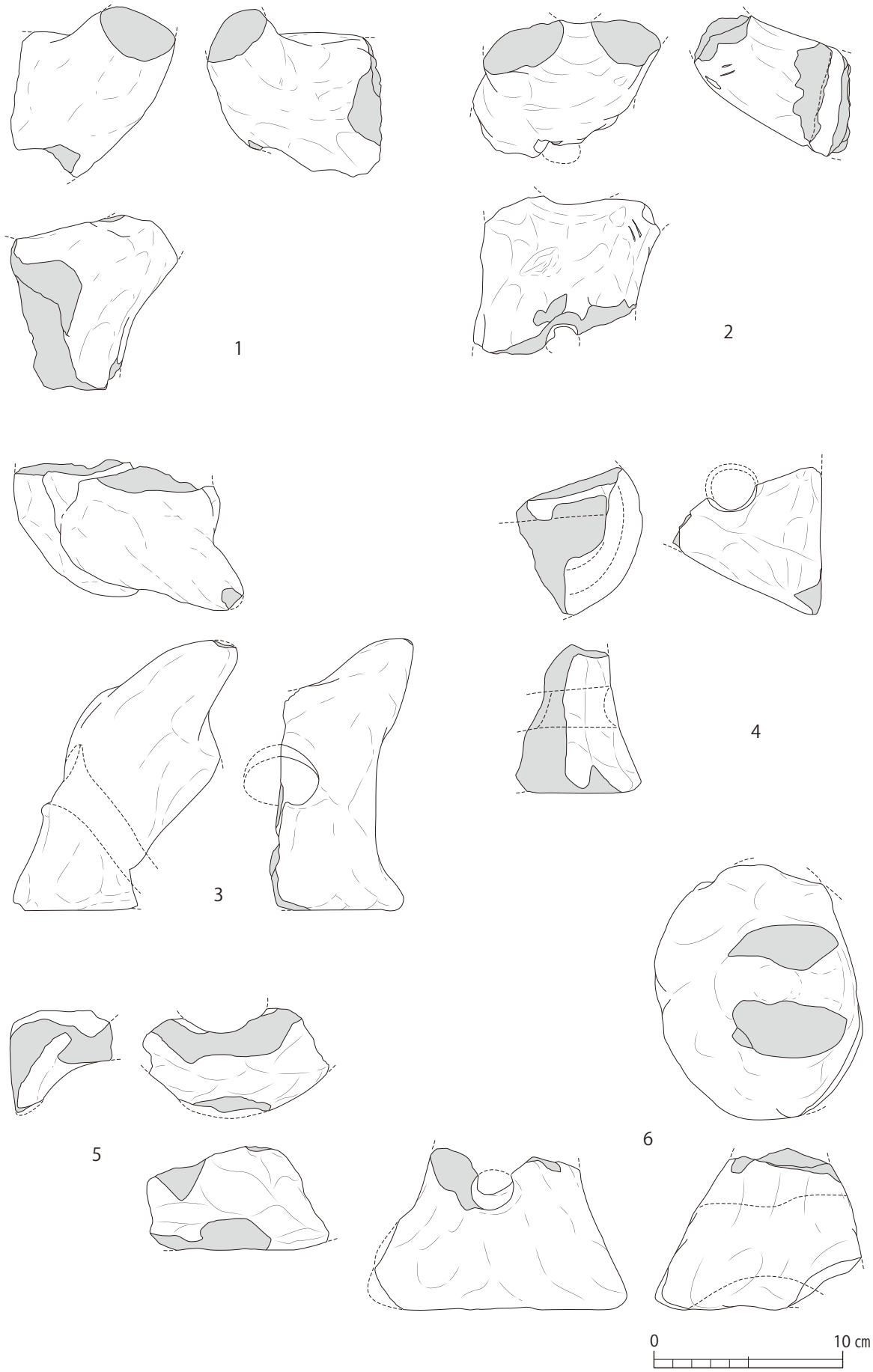
第 88 図　1 － 2 区出土遺物実測図①（S=1:3）



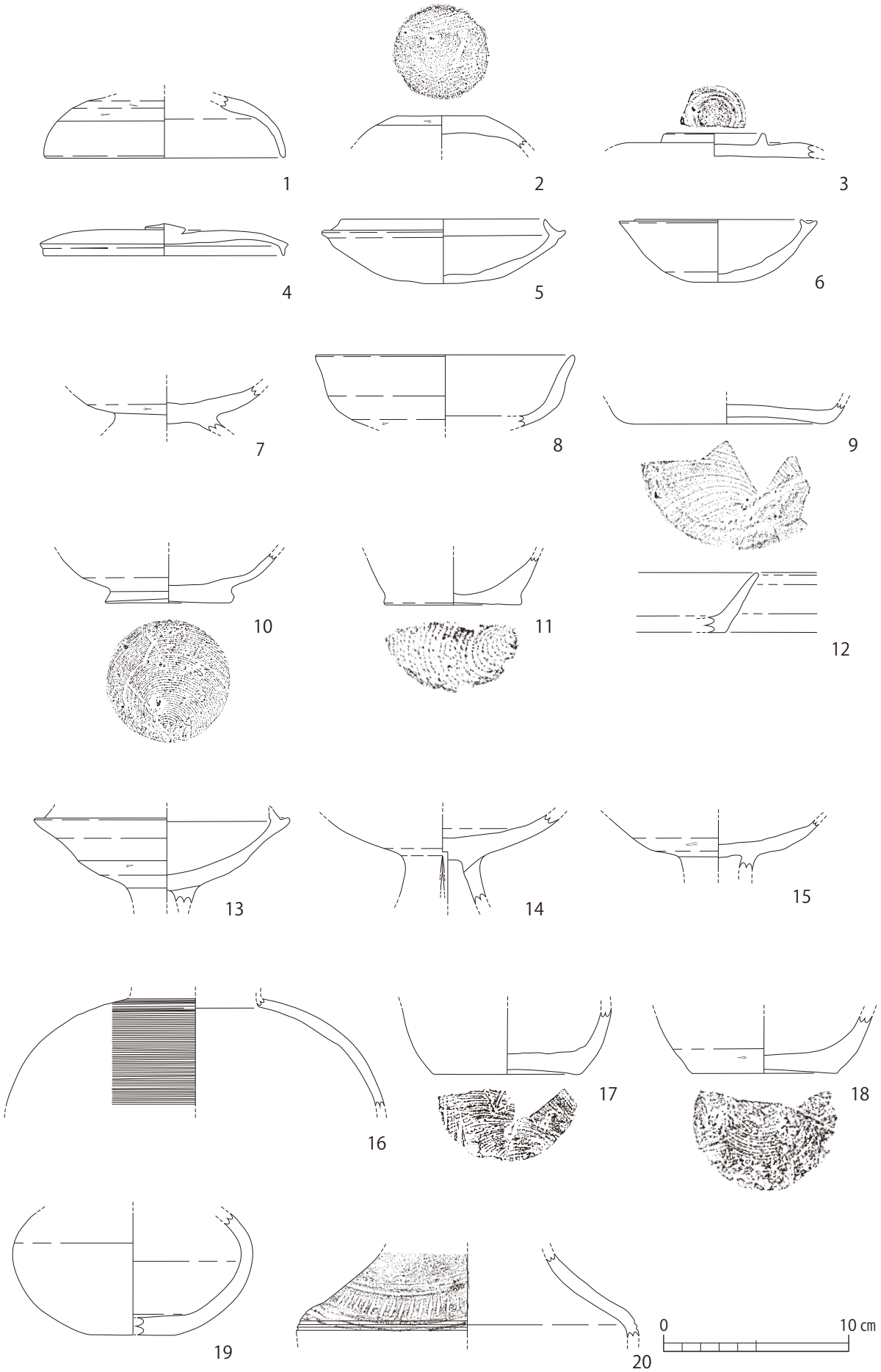
第 89 図　1 ー 2 区出土遺物実測図②（S=1:3）



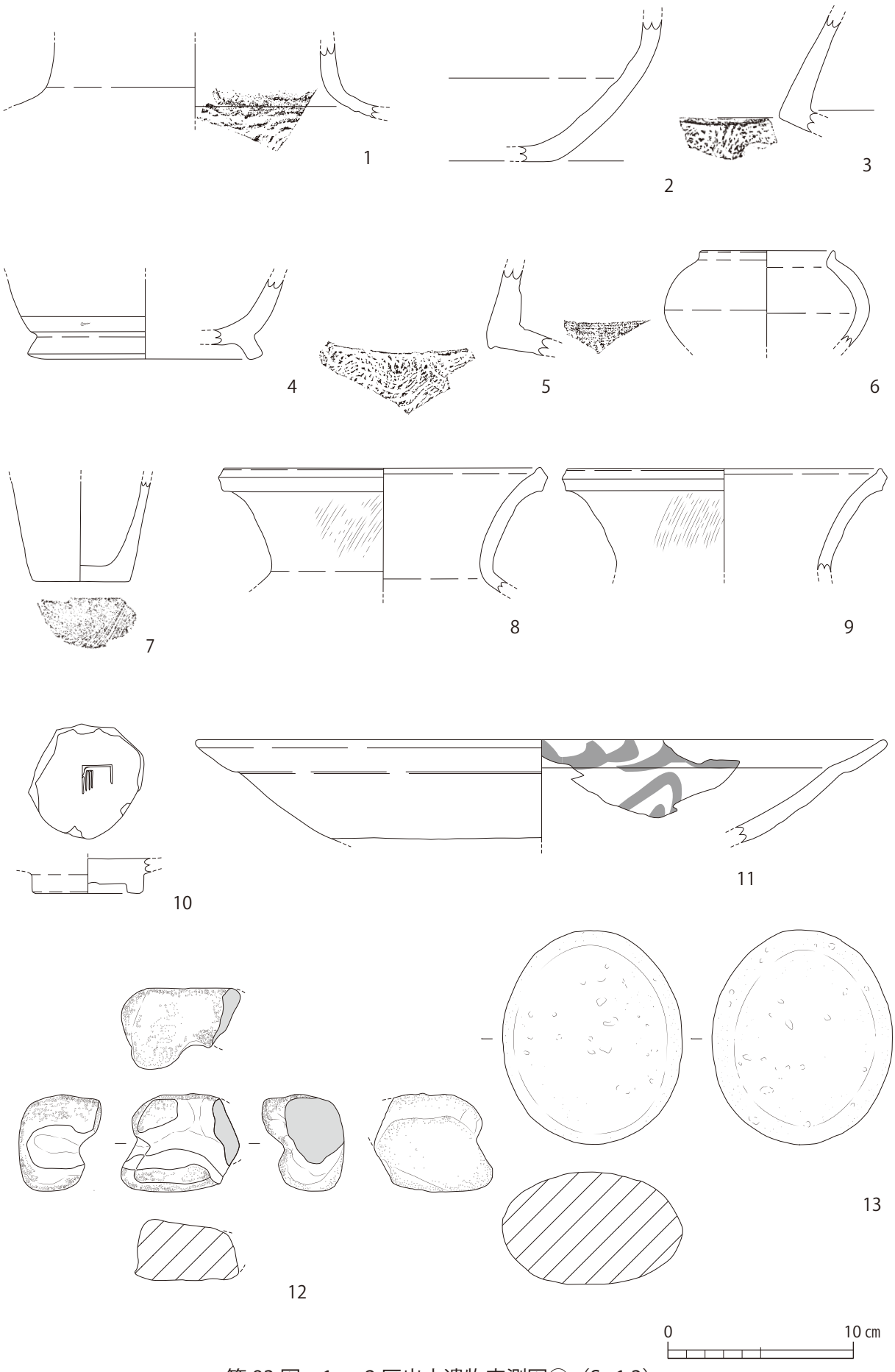
第 90 図　1 － 2 区出土遺物実測図③（1~3 は S=1:3　4 は S=1:6）



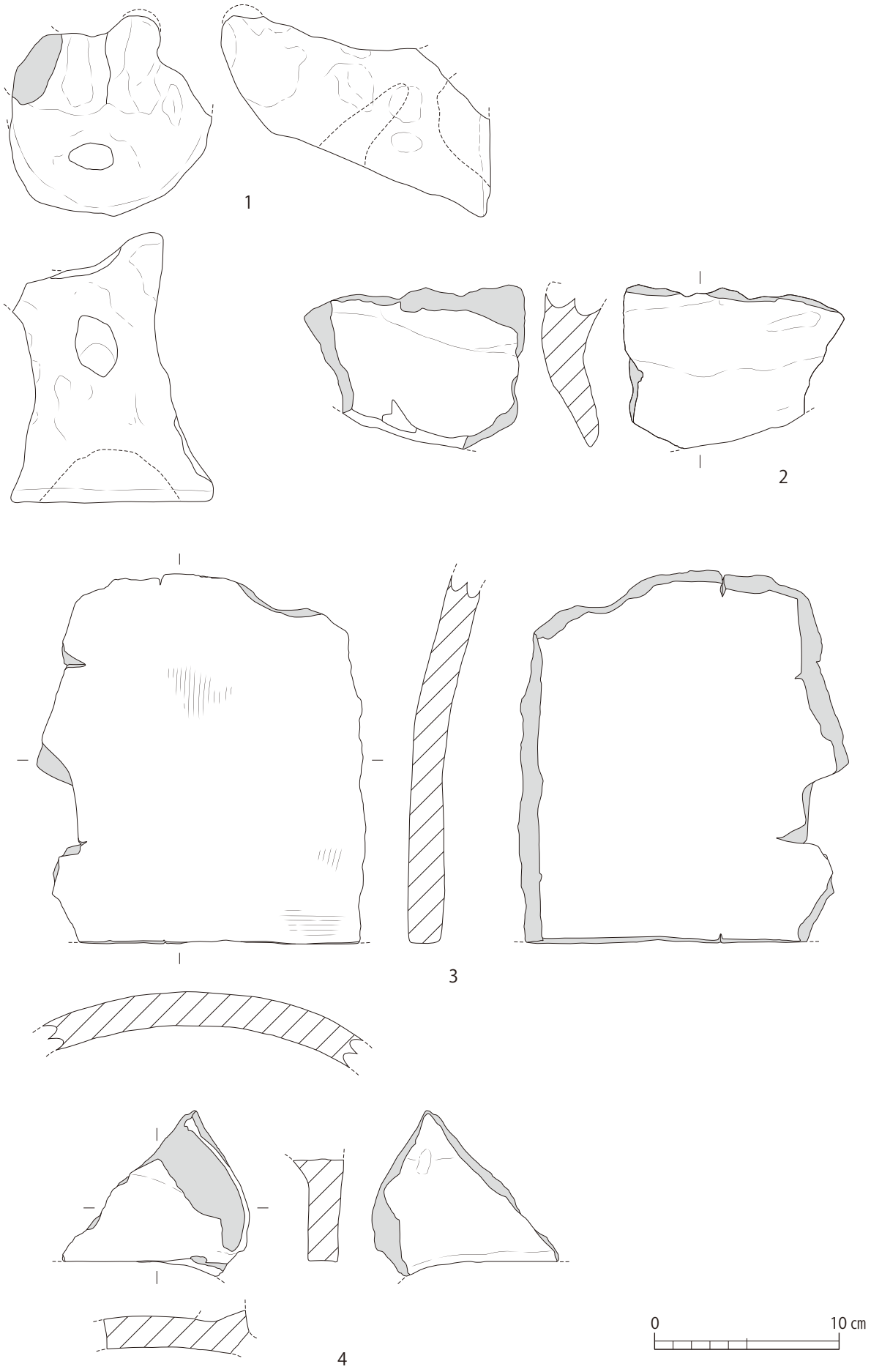
第 91 図　1 － 2 区出土遺物実測図④（S=1:3）



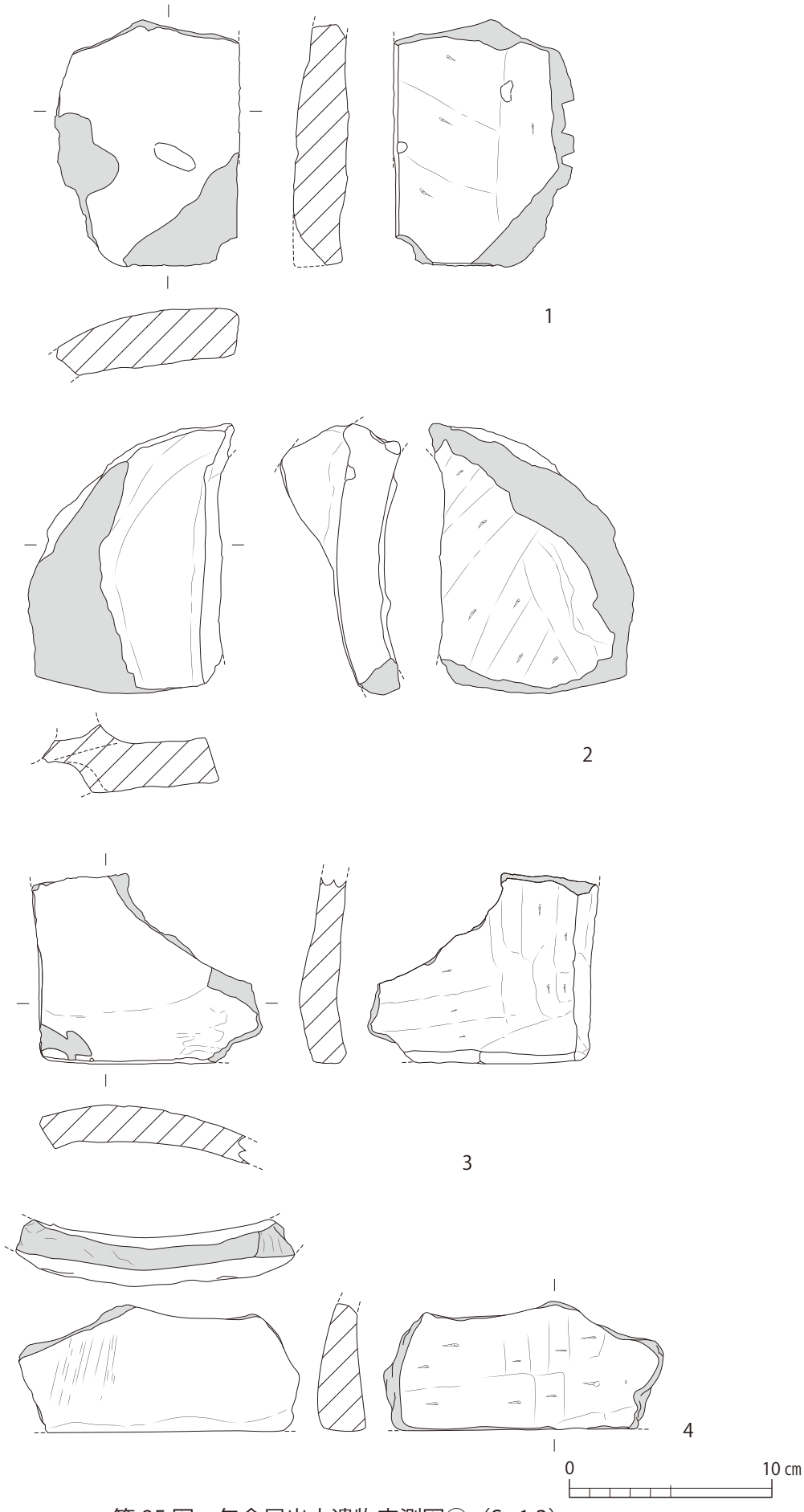
第 92 図　1 － 2 区出土遺物実測図⑤（S=1:3）



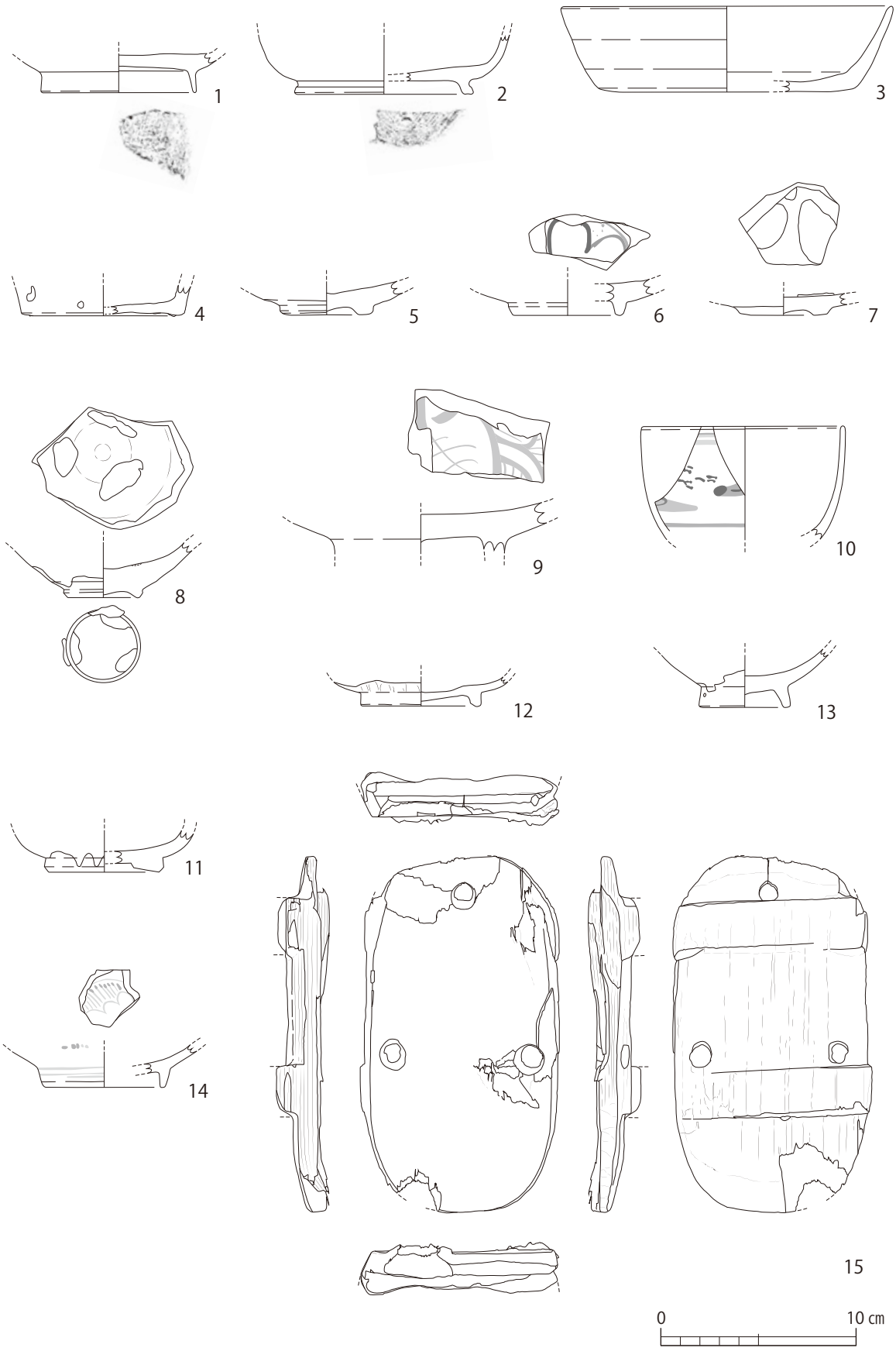
第 93 図　1 － 2 区出土遺物実測図⑥（S=1:3）



第 94 図　包含層出土遺物実測図①（S=1:3）



第 95 図　包含層出土遺物実測図②（S=1:3）

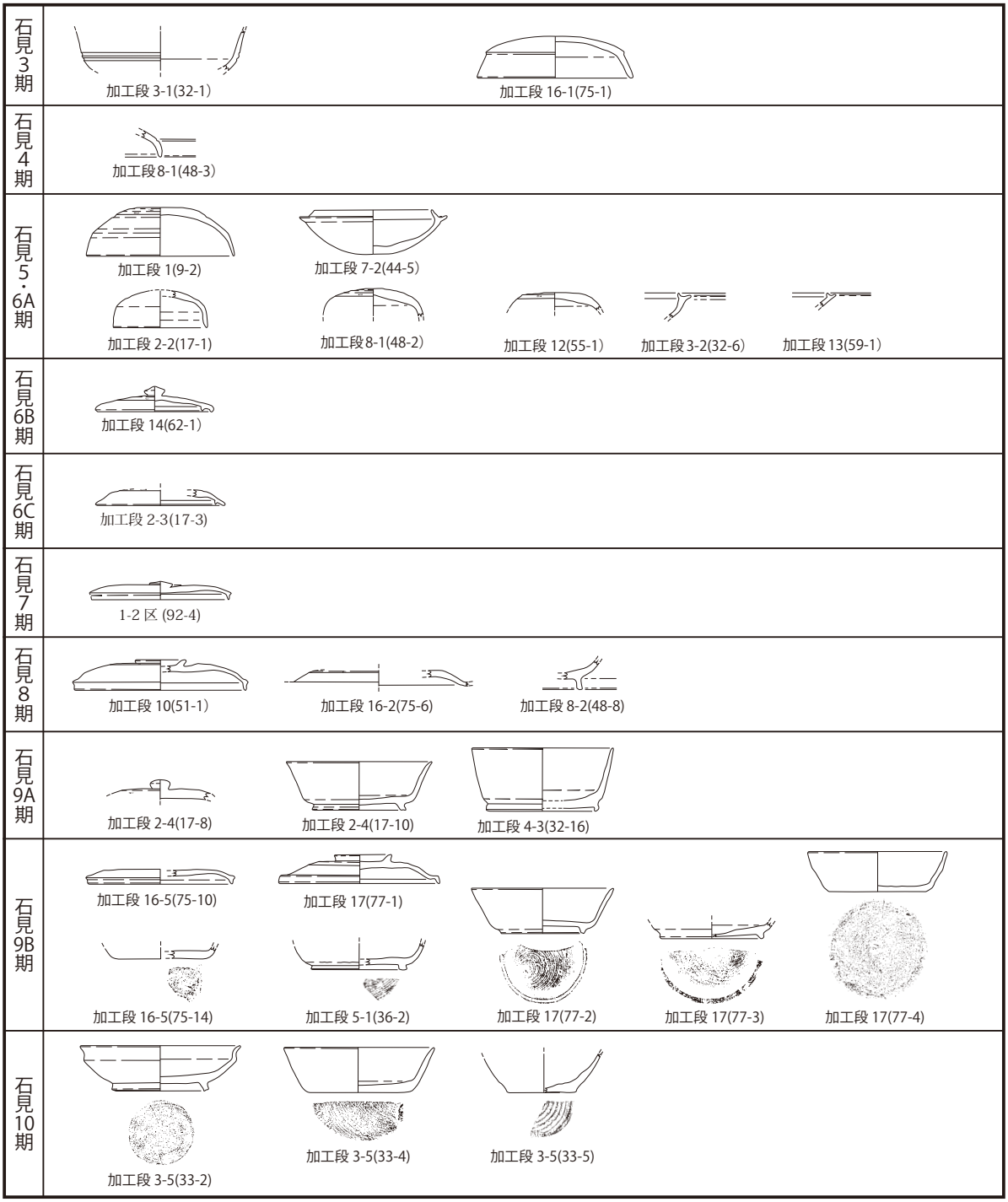


第 96 図　包含層出土遺物実測図③（S=1:3）

第 3 節　小結

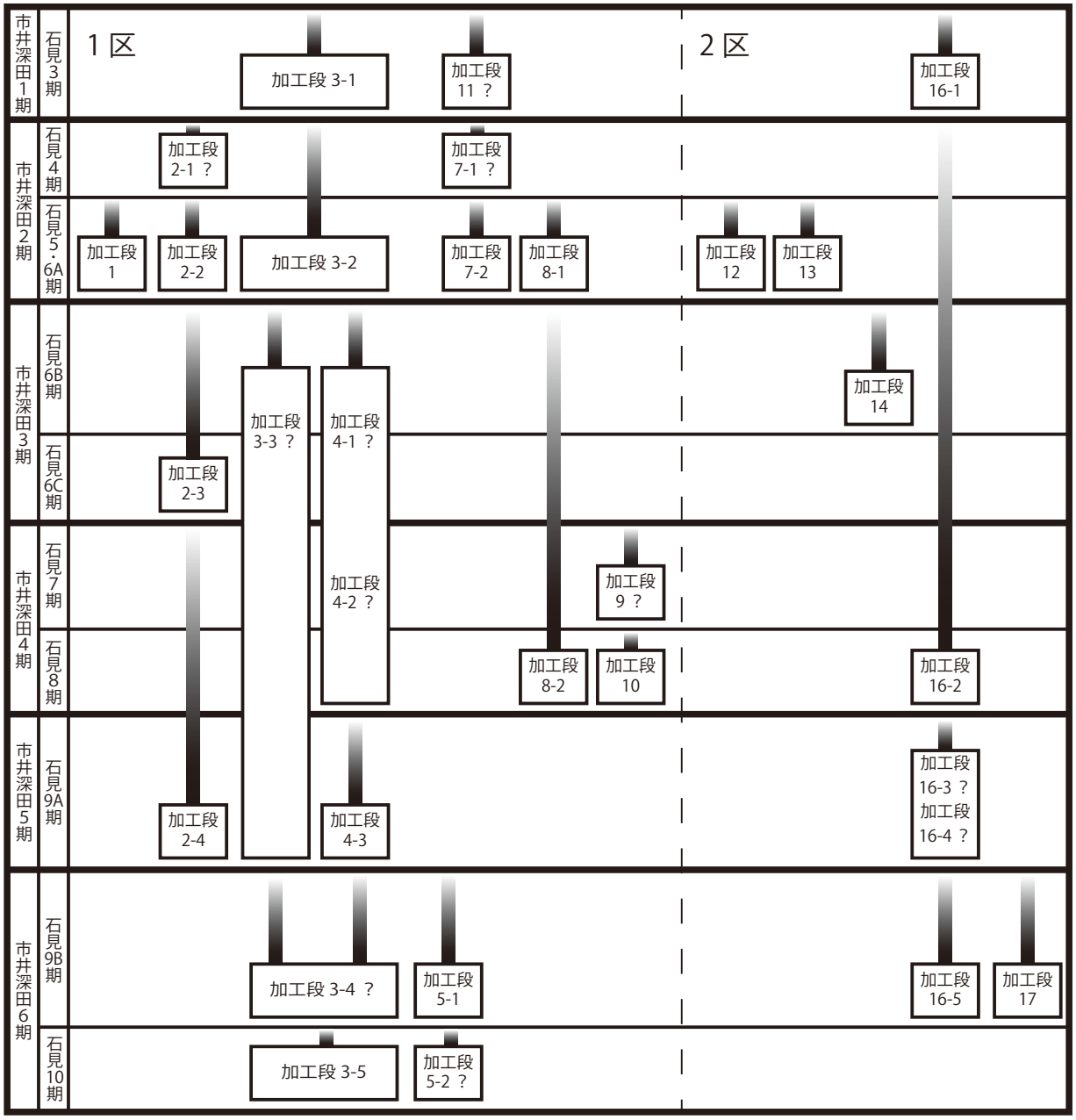
1）市井深田遺跡の集落の変遷

市井深田遺跡では 6 世紀後半から 9 世紀前半までの加工段が 35 か所検出され、長期間にわたり集落が営まれたことを確認できた。以下、集落の変遷を検討するにあたり、まず加工段の時期について整理する。加工段の時期は出土した須恵器から判断した。須恵器の編年と年代観は榊原博英の石見地域の須恵器の研究（榊原 2010）に基づいた。また出雲地域の影響が考



第 97 図　出土遺物変遷図（S=1:6）

えられる須恵器については岡田裕之らの出雲地域の須恵器の編年（岡田・土器検討グループ 2010）を参考とした。第 97 図は加工段から出土した須恵器を中心に時期ごとに並べたものである。この図には各加工段の時期の根拠とした須恵器を並べたが、石見 4 期と石見 7 期には該当する須恵器がなかったため、石見 4 期は加工段 8 － 2 に流れ込んだと考えられる須恵器を、石見 7 期は 1 － 2 区から出土した須恵器を並べた。また石見 3 期については加工段 16 － 1 で出土した須恵器を模倣した土師器を参考として示した。次に状況証拠で存在が推測される加工段だけの時期が発生しないように、第 2 表のように 6 時期に大別した。以下、各時期ごとに集落の状況を概観する。



第 2 表　市井深田遺跡の遺構の変遷

市井深田 1 期（石見 3 期　6 世紀後半）

現時点では市井深田遺跡で最も古い加工段が存在する時期である。この時期には加工段 3 － 1 と加工段 16 － 1 がある。また遺構の切り合いからは加工段 11 が存在したと考えられる。加工段 3 と加工段 16 は市井深田 6 期まで造り替えながら継続する加工段で、加工段 3 は 1 － 1 区で、加工段 16 は 2 区でそれぞれ中心的な役割の施設であったと考えられる。加工段に建てられていた施設は加工段 16 － 1 と加工段 11 で掘立柱建物を確認できた。

市井深田 2 期（石見 4 期、石見 5･6A 期　6 世紀末～ 7 世紀前半）

この時期には加工段 1、加工段 2 － 2、加工段 3 － 2、加工段 7 － 2、加工段 8 － 1、加工段 12、加工段 13 がある。遺構の切り合いからは加工段 2 － 1、加工段 7 － 1、加工段 16 － 2 が存在したと考えられる。加工段は同時には 8 か所並存したと考えられる。この時期に加工段の数が最大となる。施設は掘立柱建物と竪穴建物が並存し、造り付けの竈が登場する。

市井深田 3 期（石見 6B 期、石見 6C 期　7 世紀中頃～後半）

この時期には加工段 2 － 3 と加工段 14 がある。遺構の切り合いからは加工段 3 － 3、加工段 4 － 1、加工段 4 － 2、加工段 8 － 2、加工段 16 － 2 が存在したと考えられる。同時には 6 か所の加工段が並存したと考えられる。前の時期と同様に竪穴建物と掘立柱建物が並存するが、加工段の数は減少する。

市井深田 4 期（石見 7 期、石見 8 期　7 世紀末～ 8 世紀前半）

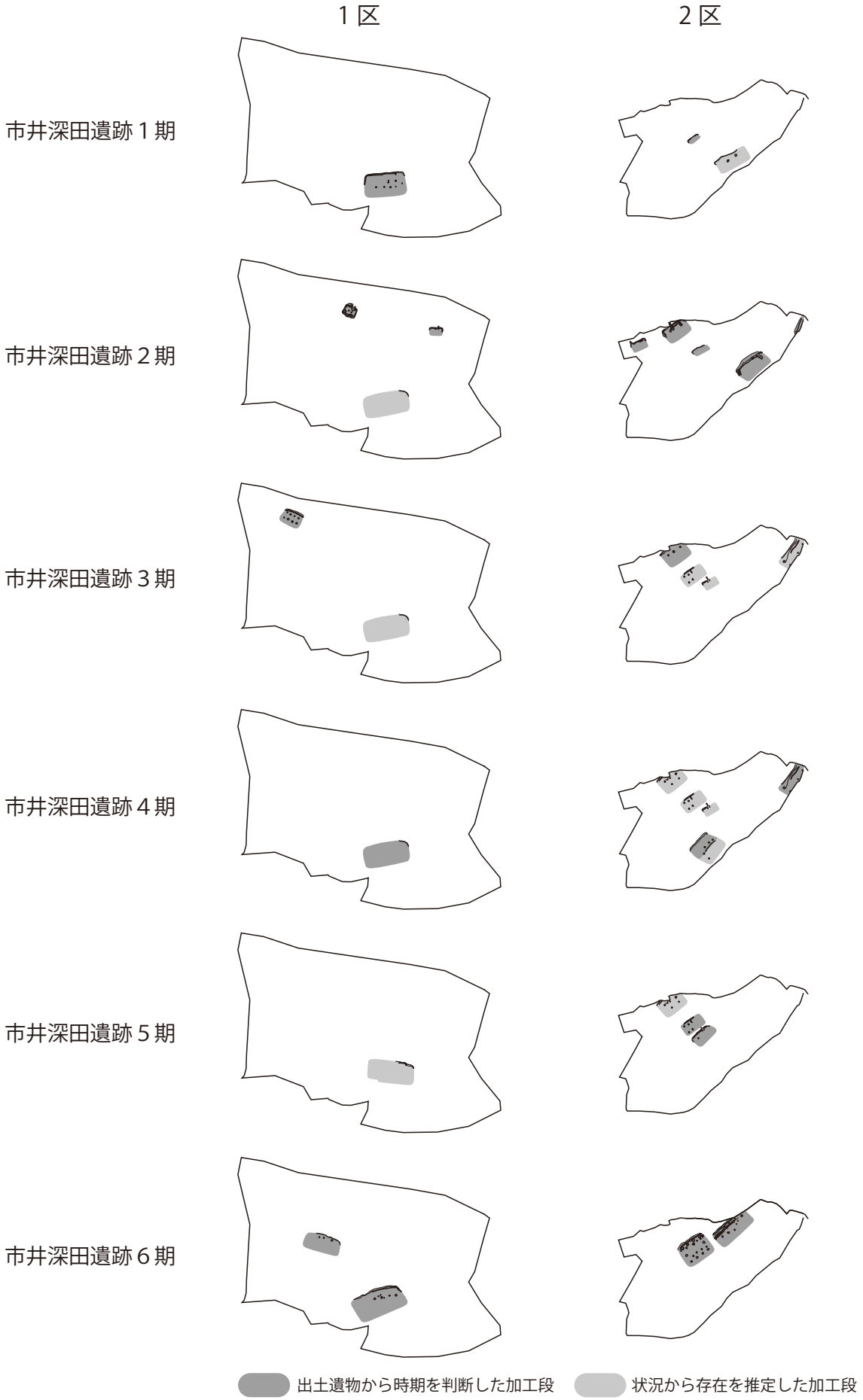
この時期には加工段 8 － 2、加工段 10、加工段 16 － 2 がある。遺構の切り合いからは加工段 2 － 4、加工段 3 － 3、加工段 4 － 1、加工段 4 － 2、加工段 9 が存在したと考えられる。同時には 6 か所の加工段が並存したと考えられる。同時に並存する加工段の数は前の時期と同数で、また施設も前の時期と同様に竪穴建物と掘立柱建物が並存する。

市井深田 5 期（石見 9A 期　8 世紀後半）

この時期の加工段には加工段 2 － 4 と加工段 4 － 3 がある。遺構の切り合いからは加工段 3 － 3、加工段 16 － 3、加工段 16 － 4 が存在したと考えられる。同時には 4 か所の加工段が並存したと考えられる。前の時期より加工段の数は減少する。特に 2 区の加工段は加工段 16 － 2 のみとなっている。施設は前の時期と同様に竪穴建物と掘立柱建物が並存する。なお造り付けの竈は加工段 2 － 4 に設置されたものが最後で、次の時期には設置されていない。

市井深田 6 期（石見 9B 期、石見 10 期　8 世紀末～ 9 世紀前半）

現時点では市井深田遺跡で加工段が存在した最後の時期である。この時期には加工段 3 － 5、加工段 5 － 1、加工段 16 － 5、加工段 17 がある。遺構の切り合いからは加工段 3 － 4、加工段 5 － 2 が存在したと考えられる。同時には 4 か所の加工段が並存したと考えられる。施設は掘立柱建物だけが建てられていた。



第 98 図　市井深田遺構の変遷模式図（S=1:40）

以下、市井深田遺跡の集落の変遷をまとめる。①時期によって 1 区から 2 区へ移転、もしくは 2 区から 1 区への移転といった様子がなく、集落は 1 区と 2 区でほぼ同時に始まり、ほぼ同時に終わる。②市井深田 2 期に急速に発展し、それ以降は数を減らして推移する。③少なくとも市井深田 2 期から 5 期までは竪穴建物と掘立柱建物が並存する。④市井深田 2 期から 5 期まで 1 棟から 2 棟の竪穴建物で造り付けの竈が設置され、集落内で造り付け竈と移動式竈や土製支脚が並存する。

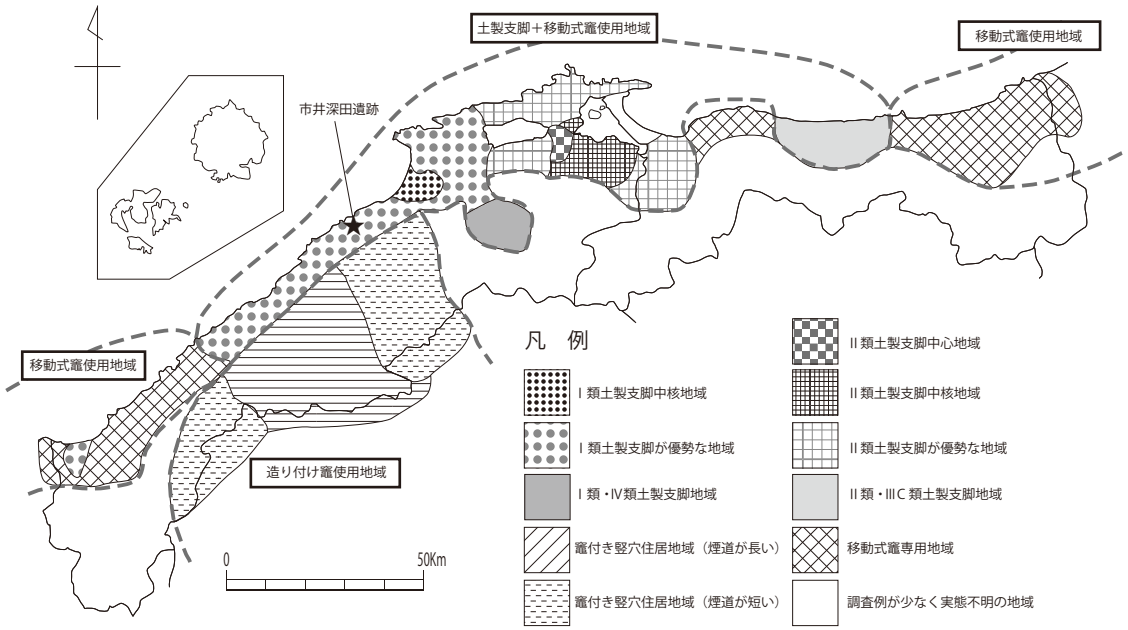
2）市井深田遺跡の造り付け竈

市井深田遺跡では 5 基の造り付け竈を検出した。造り付け竈は少なくとも石見 5･6A 期から 9A 期まで使われている。設置された加工段を見ると加工段 2 － 2 は規模がやや大きいが、その他は規模のやや小さい加工段である。竈自体の大きさはあまり差がない。煮炊きに使用される甕の大きさが変わらないためと考えられる。煙道は溝状で短いものと、トンネル状で長いものがある。竈の部材は加工段 12 以外は石を芯に粘土を貼り付けて構築している。芯とする石の数は 3 ～ 4 個のものと 2 個のものがある。石を 3 ～ 4 個使うものは煙道はトンネル状・長煙道で、2 個使うものは溝状・短煙道となっている。竈は溝状・短煙道→トンネル状・長煙道→溝状・短煙道と変遷する。部材や煙道の形状の変化は同じ場所に建て替えた加工段 4 でも生じており興味深い。

岩橋考典は山陰地域の古墳時代後期から奈良時代の炊飯具の研究（岩橋 2003）で、造り付け竈について次の 3 点を指摘している。①造り付け竈は石見地域山間部や飯石郡西部に分布し、煙道の長短によって長煙道タイプが卓越する邑智郡西部と那賀郡、短煙道タイプが卓越する美濃郡、同じく短煙道タイプが卓越する三瓶山周辺地域（大田市山間部、邑智郡東部、飯石郡西

遺跡名	所在地	遺構名	竈の規模	部材	煙道	時期	備考
市井深田遺跡	大田市久手町	加工段 2-2 (幅約 6.2m)	幅 79㎝ 奥行き 50㎝	石 2+ 粘土	溝状・短煙道 (64㎝)	7C 初 (石見 5･6A 期)	
		加工段 12 (幅約 3.5m)	焼土径 20㎝	不明	溝状・短煙道 (47㎝)	7C 初 (石見 5･6A 期)	
		加工段 4-1 （幅　不明）	幅 88㎝ 奥行き 48㎝	石 3+ 粘土	ﾄﾝﾈﾙ状・長煙道 (90㎝)	7C 前～ 8C 前 (石見 6B 期～ 8 期)	
		加工段 4-3 (幅約 3.7m)	幅 72㎝ 奥行き 38㎝	石 2+ 粘土	溝状・短煙道 (52㎝)	8C 後 (石見 9A 期)	
		加工段 6 (幅約 4.2m)	幅 84㎝ 奥行き 48㎝	石 4+ 粘土	ﾄﾝﾈﾙ状・長煙道 (90㎝)	6C 後～ 9C 前？ （石見 3 期～ 9B 期？）	
高津遺跡	江津市都治町	竪穴住居 02	直径約 60㎝	粘土	不明	5C 末～ 6C 初	炉に近い形態
堂床遺跡	松江市玉湯町	SB05	約 1m 四方 高さ 40㎝	石 7	溝状・短煙道 （30㎝）	6C 後	暖房用で煮炊きが不可能
石田遺跡	安来市吉佐町	SI01	幅 50㎝ 奥行き約 40㎝	粘土	溝状・短煙道 （不明）	7C 前～中	日常的に使用
五反田遺跡	安来市吉佐町	11 号建物	幅 198㎝ 奥行き約 125㎝	石 3+ 粘土	ﾄﾝﾈﾙ状・長煙道 (1.8m)	8C 前	鍛冶炉の可能性あり
		4 号建物	幅約 30㎝ 奥行き約 40㎝	粘土	溝状・短煙道 (40㎝)	7C 中	鍛冶炉の可能性あり

第 3 表　5 世紀末から 9 世紀前半の島根県海岸部の造り付け竈



第 99 図　煮炊具の区分図（7 ～ 8 世紀）※岩橋 2010 第 5 図を一部改変・再トレースして転載

部）の 3 地域に区分できる。②これらの地域では、基本的に土製支脚・移動式竈などの動産的炊飯具を使用することはなく、中国山地を越えた広島県側の影響が指摘されている。③土製支脚・移動式竈が卓越する地域内に点的に造り付け竈が出現する場合、5 世紀から 6 世紀については朝鮮半島や北部九州との関連が考えられる例がある。

市井深田遺跡は土製支脚・移動式竈が卓越する石見地域の海岸部に立地する。実際に市井深田遺跡からは土製支脚の破片が 33 点（10,037g）、移動式竈の破片が 255 点（22,246g）も出土している。市井深田遺跡と同様に海岸部にあって造り付けの竈が検出された例としては江津市の高津遺跡、松江市の堂床遺跡、安来市の石田遺跡と五反田遺跡が知られている。このうち高津遺跡の竈は壁から離れており形態が市井深田遺跡の竈と異なり、堂床遺跡の竈は形態と用途が市井深田遺跡の竈と異なる。五反田遺跡では短煙道と長煙道の竈が時期を違えて存在するなど市井深田遺跡と共通する部分もあるが、市井深田遺跡では鍛冶関連の遺物は出土していないため用途が異なる。石田遺跡の竈は、部材が異なるが、形状や用途が市井深田遺跡の竈に近い。石田遺跡の竈については畿内や吉備などの他地域との関係が指摘されている（島根県教育委員会 1994）。同様に市井深田遺跡の造り付け竈も他地域との関係が考えられる。出土遺物は石見地域や出雲地域のものしか確認できないので、石見地域山間部や飯石郡西部との関係で造り付け竈が設置されたと考えられる。ただし検出された竈は短煙道と長煙道が共にあるので、形態からは邑智郡西部と那賀郡、美濃郡、三瓶山周辺のどの地域と関係が深いかはわからない。

3) まとめ

市井深田遺跡は石見地域の北東端で 6 世紀後半から 9 世紀前半に営まれた集落遺跡である。掘立柱建物や竪穴建物が並存し、土製支脚や移動式竈と造り付けの竈を同時期に使用している。生活に関わりの深い遺構に見られる石見地域山間部や飯石郡西部の影響は、この地域の人々が市井深田の集落で生活していた痕跡と考えられる。集落としては掘立柱建物が多いことから、海岸部の集落に山間部の人々が施設をつくり生活したと考えられる。また竪穴建物や造り付けの竈は 6 世紀末から 8 世紀後半までの長期間使用されている。これは 6 世紀末に移住が行われ数世代にわたり生活様式が維持されたか、或いは長期間にわたり頻繁に山間部からの往来があったためと考えられる。このような集落が形成された要因の一つとして市井深田遺跡の立地が関係していると考えられる。市井深田遺跡は石見国と出雲国の境界に位置し、海岸部ではあるが山間部にも比較的近い。また市井深田遺跡 1 － 2 区からは土製の権が出土し、周辺の中尾 H 遺跡では木簡、門遺跡では墨書土器、荒槇遺跡では漆付き土器など役所に関連する遺物が出土しており、この近辺に公的機関の施設が存在した可能性が強い。市井深田遺跡の成立や運営にも公的機関が深く関与している可能性も考えられる。

以上のように、市井深田遺跡は 6 世紀後半から 9 世紀前半の山間部と海岸部の交流を検討する上で重要な遺跡である。しかし大田市を含む石見地域東部における古代の資料は少ないことから実態の解明には多くの課題を残す。今後の資料の増加と、研究の進展を期待したい。

【参考文献】

榊原博英　2010 「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」『出雲国形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』 島根県古代文化センター

岡田裕之・土器検討グループ　2010 「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』島根県古代文化センター

岩橋孝典　2003 「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』11　島根県古代文化センター

岩橋孝典　2010 「土製支脚の分布状況と古代行政境界－ 6 世紀～ 8 世紀の出雲国東部・伯耆国西部の状況から－」『出雲国形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』島根県古代文化センター

江津市教育委員会　2005 『高津遺跡』都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ

島根県教育委員会　2001 『堂床遺跡』中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 4

島根県教育委員会　1994 『石田遺跡・カンボウ遺跡・国吉遺跡』一般国道 9 号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

島根県教育委員会　1998 『山ノ神遺跡・五反田遺跡』一般国道 9 号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 16

第 4 章 荒槇遺跡

第 1 節　発掘作業と整理の経過

1) 遺跡の位置

荒槇遺跡は島根県大田市北東部の久手町刺鹿に所在する。遺跡は日本海に向かって流れる江谷川右岸の平野部に立地し、後背には標高 102.3m の岩山から尾根が延びている。北には旧波根湖が広がり、南には江谷川沿いの谷が延び、西には大田市街地へ続く道と江谷川支流の市井川が流れる。荒槇遺跡の西には門遺跡があり、更に西には市井深田遺跡と中尾 H 遺跡がある。また、南東の岩山には中世山城の岩山城が築かれている。

2) 試掘確認調査の概要

試掘確認調査は平成 23 年 5 月 17 日から同年 6 月 7 日まで実施した。荒槇遺跡内の施工範囲 9,486㎡について 10 か所でトレンチ掘削による試掘確認調査を実施し、Tr.1、Tr.7、Tr.8、Tr.10 で古代の遺物包含層を確認した。これら 4 か所のトレンチを中心とする 2,070㎡について発掘調査が必要だと判断された。

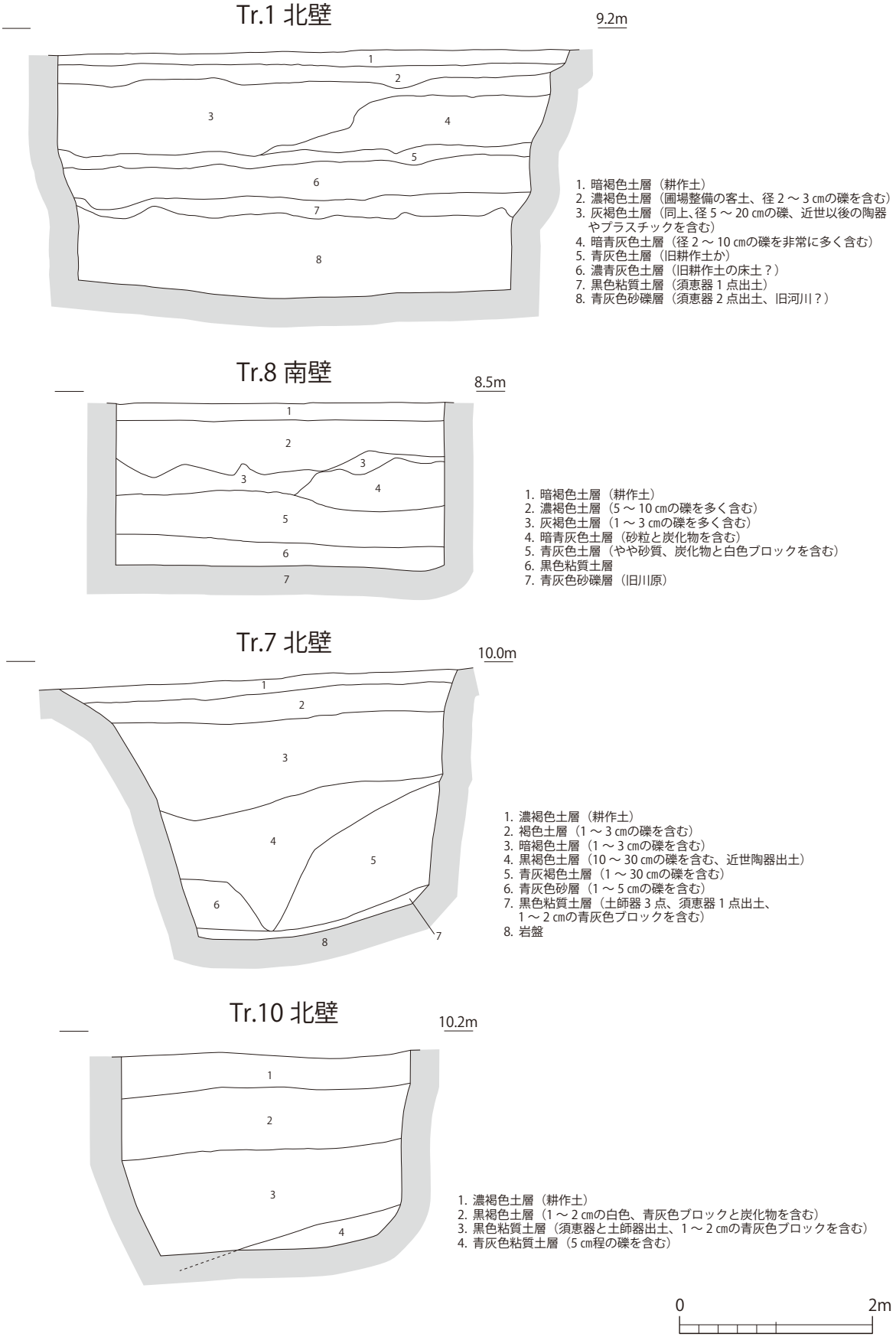
3) 発掘作業と整理作業の経過

発掘作業は平成 24 年 5 月 21 日から同年 9 月 4 日まで実施した。調査地の中央を縦断する市道涼見江谷線を挟んで、西側の平地を 1 区、東側の平地と斜面を 2 区とした。各調査区の面積は 1 区が 1,080㎡、2 区が 990㎡である。調査地を含む江谷川周辺は昭和 50 年代に圃場整備が行われており、耕作土と造成土が約 1.5m 堆積しているため、発掘作業では耕作土と造成土の掘削は重機で行った。5 月 21 日に 1 区から発掘作業を開始した。10m 四方のグリッドを設定し出土遺物を記録した。6 月 28 日から 2 区の作業も開始した。7 月 20 日に 1 区の作業を終えた。地表から約 3m 以上掘削しており 2 区の調査を終えるまで放置すると危険であるため早急に埋め戻しを行った。8 月 1 日に SK1 と SK2 を検出した。これらの遺構については埋土の土壌分析を行った。9 月 4 日に現地での作業を完了した。普及啓発活動として 6 月 1 日に大田市立大田小学校の 6 年生の児童 100 名による発掘体験を開催した。また平成 25 年 2 月 3 日には波根まちづくりセンターと久手まちづくりセンターで、高原遺跡、鈴見 B 遺跡 1 区、中尾 H 遺跡と併せて調査成果の報告会を開催した。報告会には約 80 名の参加があった。

4) 整理作業の経過

遺物の水洗、注記、接合は発掘作業と並行して行った。木製品は水中で保管し、内容を考慮して保存処理を行った。遺物の実測は発掘作業と並行して行ったが、多くは平成 25 年度に行った。また遺物の実測は数量が多いことから、遺構出土品を優先し、包含層出土品は保存状態が良好な遺物を中心に選択した。遺物の写真撮影は平成 25 年度に行った。

第 100 図　遺跡位置図 (S=1:2,000)



第 101 図　試掘確認調査トレンチ土層実測図（S=1:60）

第２節　１区の調査

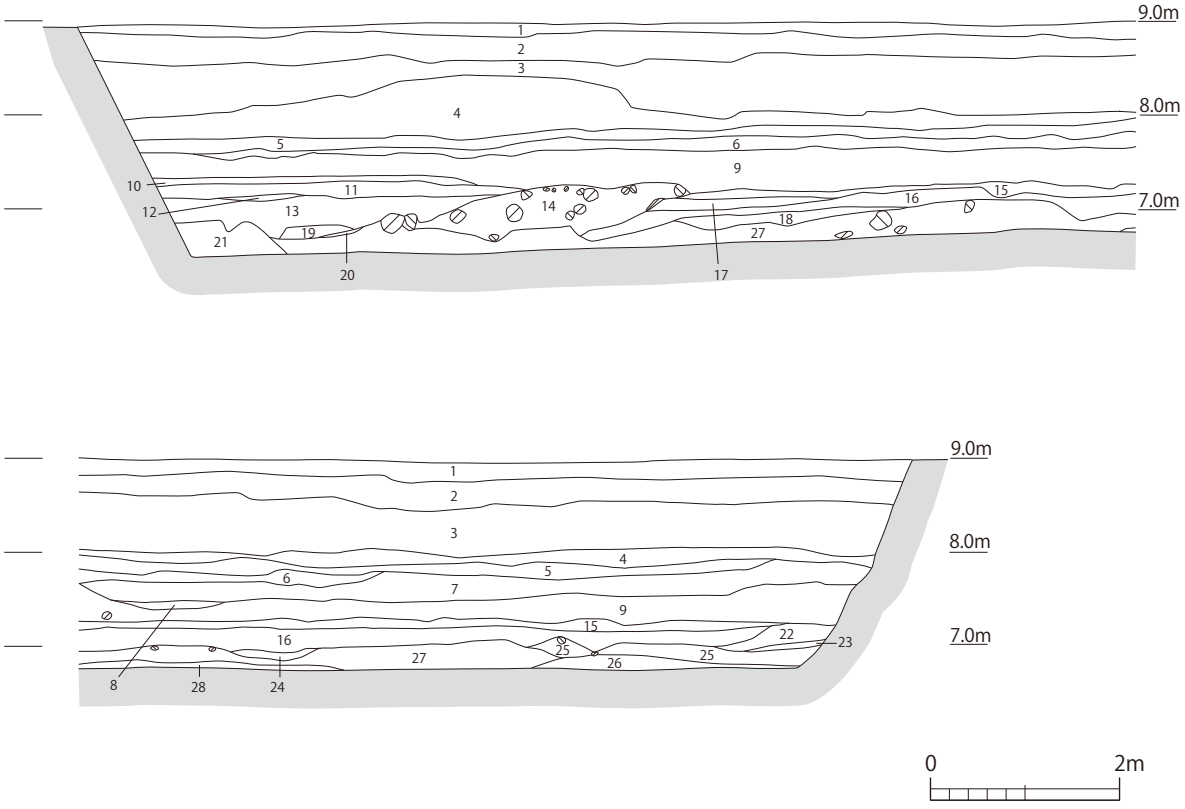
1）基本層序

地表から約 1.8 mまで現在の耕作土、圃場整備の造成土、旧耕作土が堆積していた。旧耕作土の下に縄文時代後期から中世にかけての遺物包含層が約 50㎝堆積していた。遺物包含層の大部分は砂礫層で、場所により黒色土層も確認できた。遺物包含層は古代の遺物の上で縄文土器が出土するなど時代順に堆積している状況ではなかった。

2）遺構

1 区は河川と川岸の跡で人工的な遺構は確認できなかった。検出した河川の跡は遺跡の西側を流れる江谷川の跡と考えられる。遺物包含層を除去したところ 1 区の地形は南東から北西に向かって傾斜していることが確認できた。このことから河川は 1 区の南東から北西にかけて流れていたと考えられる。また推定される河川の幅は約 13 mと考えられる。砂層や砂礫層の間に黒色土層が確認できる箇所がいくつかあったことから、河川は縄文時代以降に何回か流路を変えたと考えられるが、その回数や時期ごとの経路を確認することはできなかった。

第 102 図　1 区地形測量図（S=1:400）



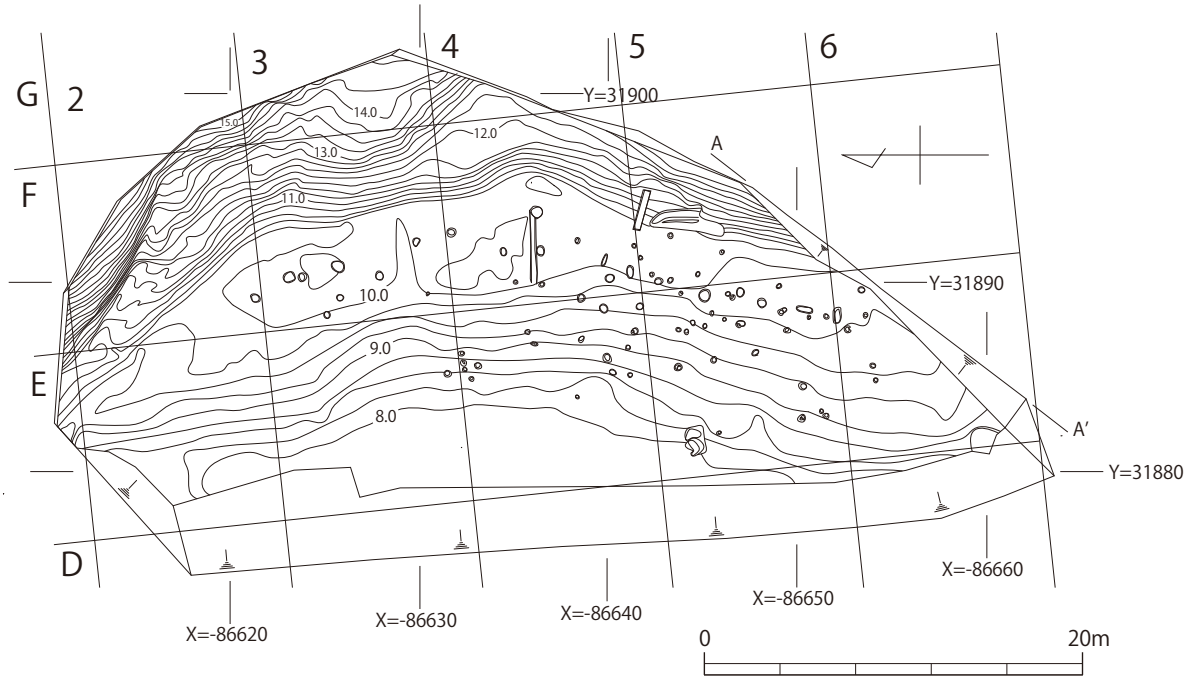
1. 黒褐色土層（2.5YR3/2）耕作土
2. 暗灰黄色土層（2.5YR5/2）床土
3. 黄灰色土層（2.5YR4/1）砂礫 (径 1mm ～ 10cm) を多く含む、圃場整備の造成土
4. 暗黄灰色土層（2.5YR4/2）旧耕作土
5. 暗黄灰色土層（2.5YR5/2）旧耕作土の床土
6. 褐色土層（10YR4/6）
7. 黄灰色土層（2.5YR4/1）旧耕作土の床土
8. オリーブ褐色砂層（2.5Y4/6）やや粗い砂
9. 黒褐色土層（2.5YR3/2）旧耕作土
10. 黄褐色土層（2.5YR5/4）粗砂 (1 ～ 3mm を多く含む)
11. 褐灰色土層（10YR4/1）
12. 褐色砂層（10YR4/4）1 ～ 5mm の砂粒
13. 黒褐色土層（10YR3/1）旧河川の後に土壌化
14. 褐灰色砂礫層（10YR4/1）20cm 以下の礫を含む
15. オリーブ褐色砂礫層（10YR4/6）粗い砂層、3 ～ 4cm の石を多く含む（洪水による砂礫層？）
16. 暗オリーブ灰色砂層（2.5GY4/1）やや粘質
17. 褐灰色土層（10YR4/1）
18. 黒褐色土層（10YR3/1）
19. 黄褐色砂層（10YR5/6）粗砂、1 ～ 5mm の砂粒
20. 黒色土層（10YR2/1）木片などの有機物を多く含む (沈殿した有機物の土壌化)
21. 暗オリーブ灰色砂層（5GY4/1）
22. 暗オリーブ灰色土層（2.5GY4/1）やや粘質
23. 黒色土層（5Y2/1）粘質、木片や有機物を多く含む、腐植土、河川の後に土地化したもの
24. 黒色土層（10YR2/1）やや粘質、木片などの有機物を含む
25. 暗オリーブ灰色砂層（5GY3/1）木片や有機物を含む
26. 暗青灰色砂層（10BG4/1）粗い砂
27. 黒褐色砂礫層（2.5YR3/2）3 ～ 20cm の礫を多く含む、よどみに有機物が沈殿したもの？
28. 暗青灰色砂礫層（10BG4/1）やや粗い砂、木片など有機物を含む、よどみに有機物が沈殿したもの？

第 103 図　1 区土層図（S=1:80）

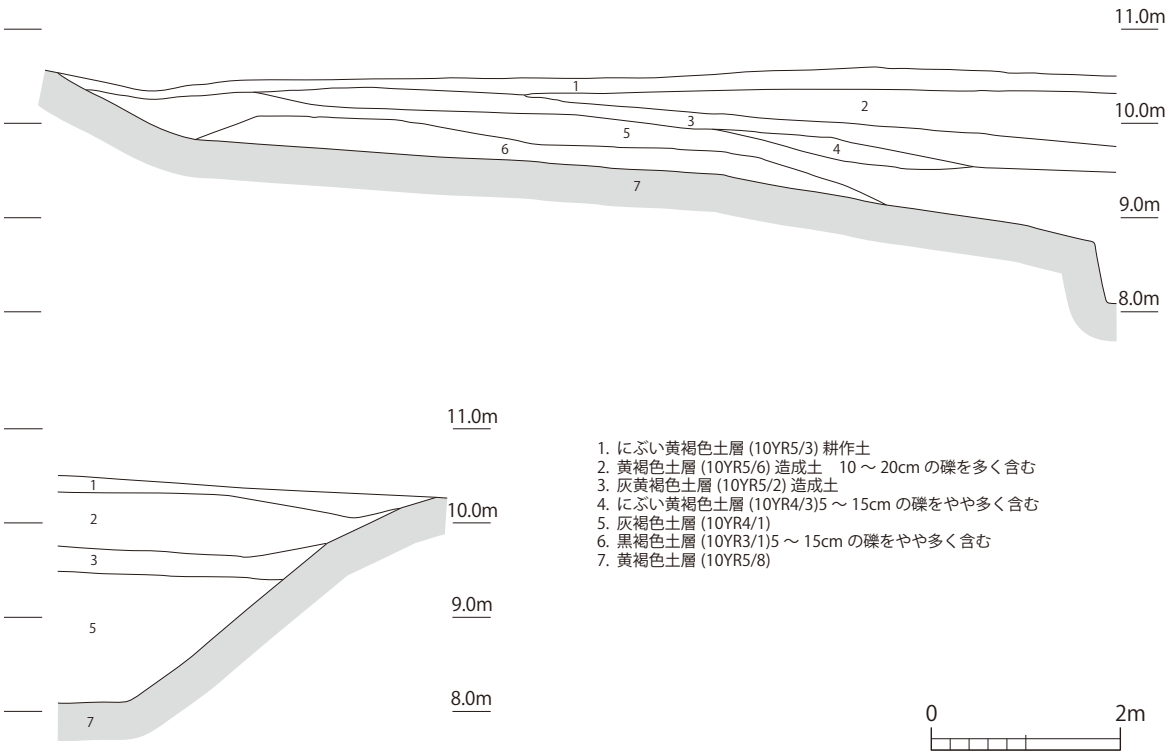
第３節　２区の調査

1）基本層序

２区は東は斜面で西は平坦地となっている。斜面の表土の下は岩盤などの地山であった。平坦地は地表から約１ｍまで圃場整備の造成土が堆積しており、その下に遺物包含層が堆積していた。旧地形は旧江谷川に面した斜面であった。



第 104 図　２区地形測量図（S=1:400）



第 105 図　２区土層実測図（S=1:80）

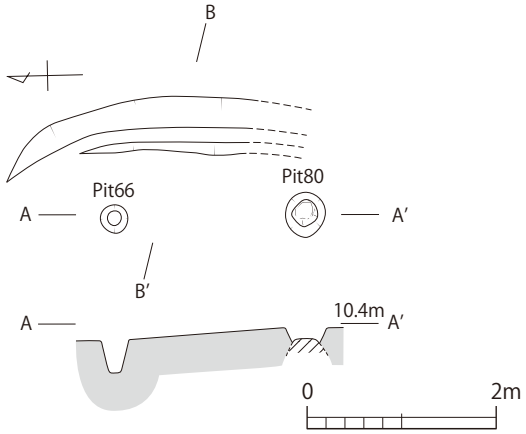
2) 遺構

２区では、古代の加工段１か所と、中世の土坑２基、時期不明の柱根５本を確認した。また、ピットを 80 基確認したが、建物の柱穴と確認できた物は柱根を確認したものだけであった。

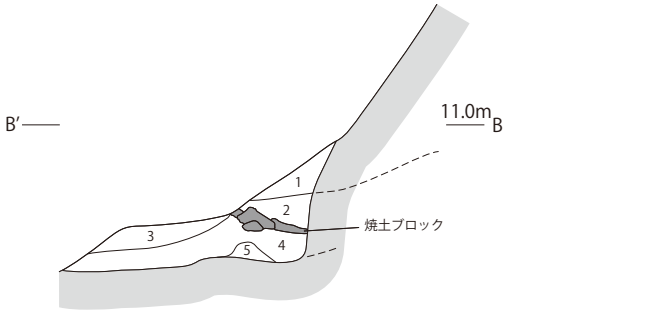
第 106 図　２区 南側遺構位置図（S=1:80）

加工段１

２区南側の斜面と平坦地の境界に位置する。遺構の一部は斜面の下に延びている。斜面を掘削すると調査区外が崩れるおそれがあったため掘削を断念した。現状で幅約 3m、奥行き約 1.3m を測る。東の壁際には幅 30㎝程度、深さ 10㎝程度の溝がある。床面で柱穴と考えられるピットを２基検出した。このうち Pit80 は底が岩となっていた。土師皿の小片が出土していることから、古代か中世の遺構と考えられる。



第 107 図　加工段 1 遺構実測図　（S=1:80）

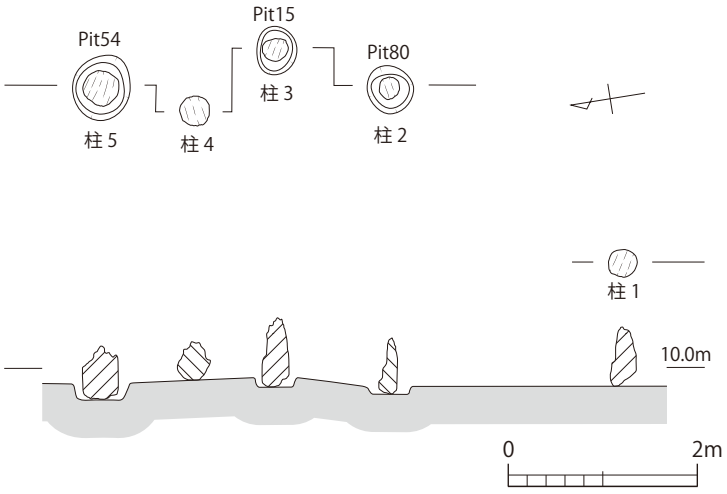


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭化物、径 1cm の白色石を含む
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 炭化物、径 1cm の白色石、焼土ブロックを含む
3. 黄褐色土層 (10YR5/6) 径 1cm の白色ブロックを含む
4. 褐色土層 (10YR4/4) 炭化物、径 1cm の白色石、径 1cm の黄色ブロックを含む
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 地山？

第 108 図　加工段 1 土層実測図（S=1:40）

柱根群

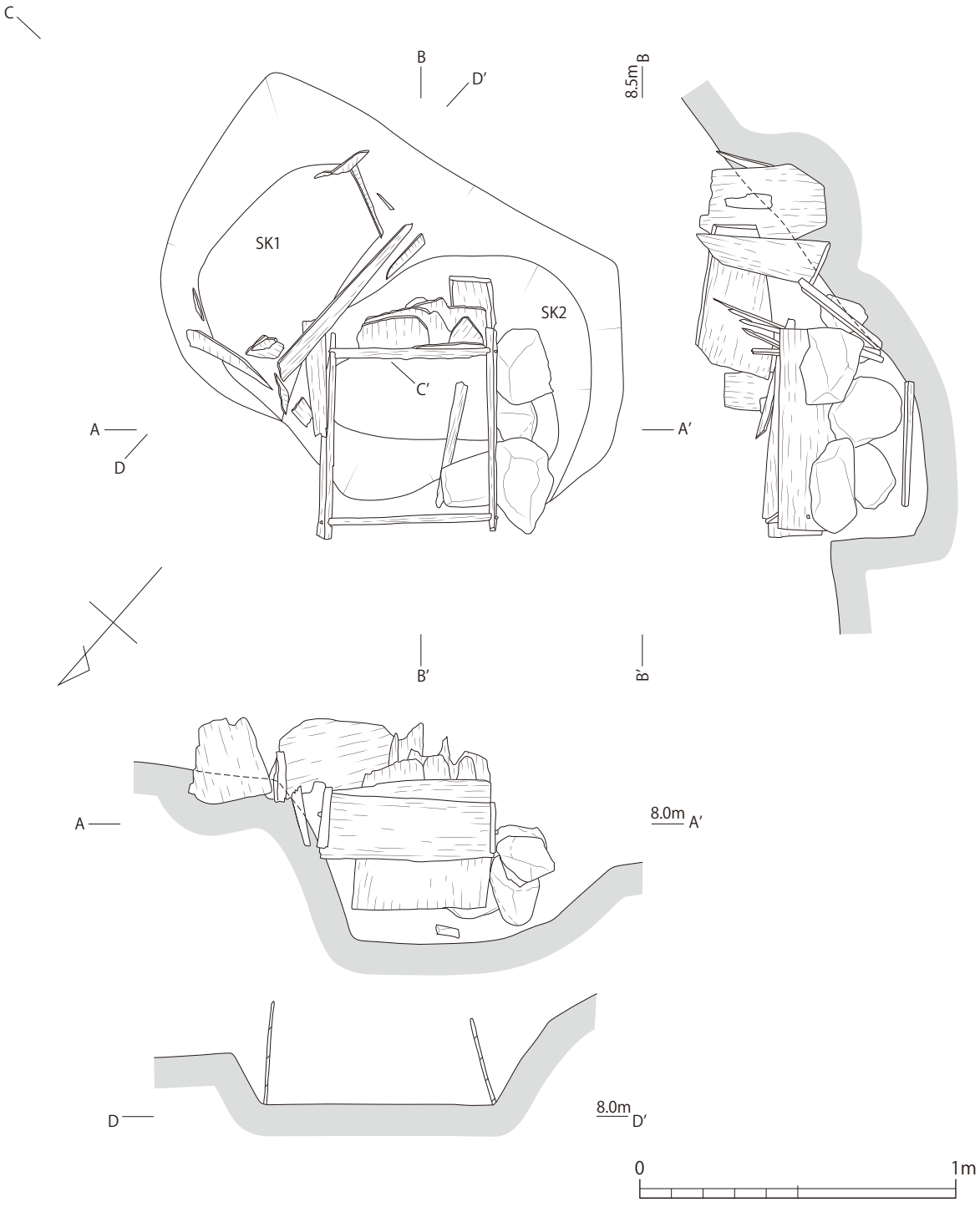
２区南側の平坦地で表土を除去したところ５本の柱根を検出した。このうち３本は柱穴を確認できた。柱根の形状は、柱２は横の断面が根元は円形で上部は正方形に加工されており、それ以外の柱根は円形に加工されていた。これらが同じ建物の柱であるのかは不明である。時期についても伴う遺物がなかったので不明である。



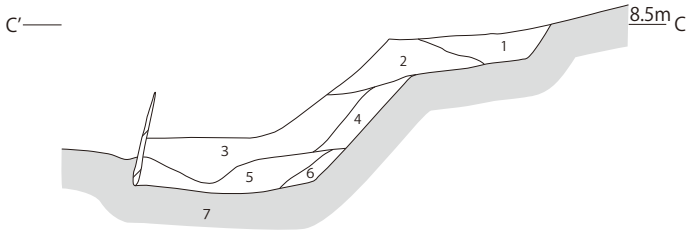
第 109 図　柱位置図（S=1:80）

SK1・SK2

２区南東側の斜面で検出した。南東の土坑を SK1、北西の土坑を SK2 とした。どちらの土坑からも板が出土した。調査ではまず板材が検出され、その後に土坑を確認した。土坑の切り合いを確認することができなかったため、構築された順序は不明である。

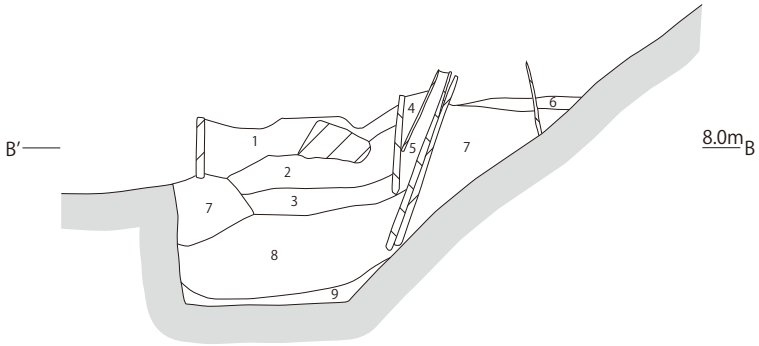


第 110 図　SK1・SK2 遺構実測図（S=1:20）



1. 暗灰黄色土層（2.5Y4/2）
2. 黒緑色砂礫層（2.5Y3/2）2mm 以下の砂礫層
3. 暗灰黄色土層（2.5Y5/2）10mm 以下の礫を含む
4. 黒色粘質土層（5Y2/1）
5. オリーブ黒色粘質土層（5Y3/1）7cm 以下の礫を含む
6. オリーブ黒色土層（5Y3/1）砂粒を多く含む
7. 灰色粘質土層（10Y4/1）地山

第 111 図　SK1 土層実測図（S=1:20）



1. 黒色土層（2.5Y2/1）砂粒を多く含む
2. 黒色粘質土層（5Y2/1）
3. オリーブ黒色粘質土層（5Y3/1）
4. 灰色粘質土層（7.5Y4/1）
5. 灰色粘質土層（7.5Y4/1）
6. 黒色土層（10YR2/1）砂粒を含む
7. 灰色粘質土層（7.5Y4/1）
8. 黒色粘質土層（7.5Y2/1）
9. 灰色粘質土層（10Y4/1）地山

第 112 図　SK2 土層実測図（S=1:20）

SK1

平面形は丸みのある長方形で、上端の幅約 1m、奥行き約 60㎝で、検出面からの深さは 40㎝を測る。内部に 3 枚の板を立てている。立てられた板の平面形は上がやや開いた「凵」の字状となっており、長辺 70㎝、短辺 60㎝、奥行き 46㎝で、現状での高さは 28㎝を測る。板は厚さが 2.8㎝～ 3㎝に加工されている。土坑内への設置に当たっては、両側の板は木目が縦になるように設置し、中央の板は木目が横になるように設置している。

土壌分析の結果では遺骸が納められた痕跡は認められなかった。また、遺構の上部は流失しており外からの土砂が内部に堆積していた。このため築造時の深さや、盛り土の有無は不明である。共伴する遺物は確認できなかったため遺構の築造の時期は不明であるが、SK2 と近接することや、同じ様に土坑内に板を設置していることから、SK2 と同じ中世の遺構と考えられる。ただし遺構の性格は不明であり、木棺墓の可能性もあるが、SK2 に伴う施設である可能性も考えられる。

SK2

平面形は楕円形で上端で長径 1.1m、短径 90㎝で、検出面からの深さは 50㎝を測る。内部に 4 枚の板をほぼ正方形に組み合わせて設置している。板組は内側で幅 50㎝、奥行き 50㎝で、現状での高さは 25㎝を測る。板同士は木釘で連結してあった。奥の板の外側には厚さ 1㎝～ 2㎝の板が 4 枚立ててあった。右の板の外側には礫が 3 個置かれていた。底には細い板が 1 点置かれ、その上に礫が 1 点置かれていた。板の樹種は杉で、正面と奥の板は厚さ 1㎝～ 2.8㎝、左右の板は 3㎝～ 3.8㎝に加工してあった。左右の板には正面と奥の板をはめるために深さ 1.5㎝前後の溝が彫られ、更に木釘を通す穴が開けてあった。前後の板は両端に木釘をはめる穴が開けられていた。土壌分析の結果、遺骸が納められた可能性が高いことが認められた。遺構の上部では盛り土などは確認できなかった。遺構の時期は土器が出土していないため不明であるが、姫原西遺跡の木棺墓（註 1）と形状や板材の組み方が似ていることから中世と考えられる。

第 4 節　包含層出土遺物

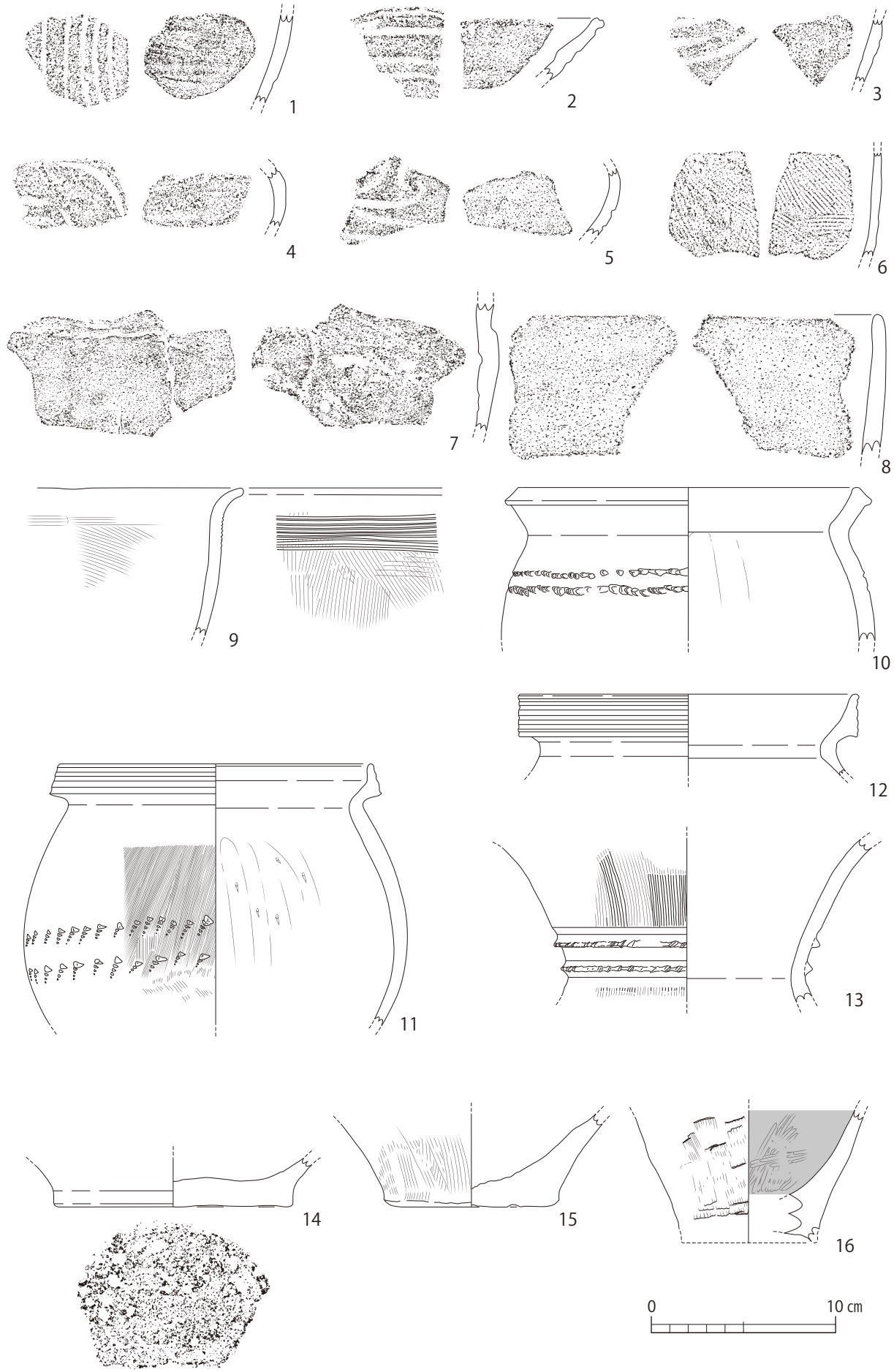
縄文時代後期から中世までの遺物が出土した。このうち古代の土師器が最も多く出土した。特徴的なものに赤色顔料を塗布した坏（第 116 図 12 ～ 15）、土製品（第 116 図 19）、ミニチュア土器（第 116 図 20）、漆が付着した須恵器（第 116 図 21）、黒色土器（第 119 図 1）、羽口（第 119 図 14）、褐色の碧玉（第 121 図 2）、木簡（第 123 図 5、6）がある。漆が付着した須恵器は坏蓋をパレットに転用したものと考えられる。褐色の碧玉は出雲市多伎町付近で産出されるものと考えられる（註 2）。木簡は判読できるものは第 123 図 6 の片面のみで「在此」と読める。

第 5 節　小結

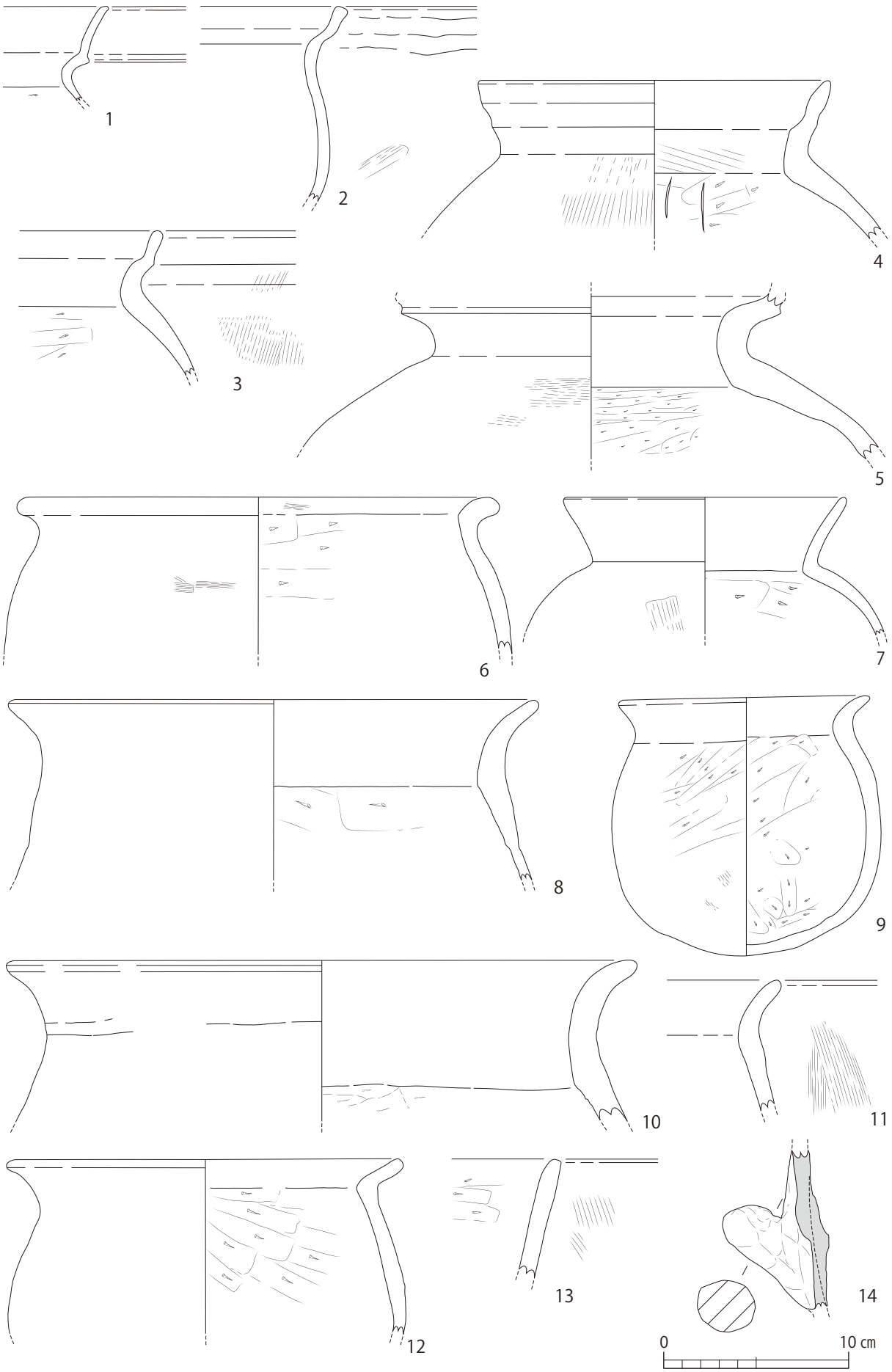
荒槇遺跡は縄文時代から中世の河川跡と、古代の集落、中世の墓域で構成される複合遺跡である。縄文土器や弥生土器の発見はこの地域での人間の活動を知る上で貴重な発見となった。また古代の遺物には赤色顔料を塗布した土師器の坏や漆が付着した須恵器など特徴的な遺物が出土していることから近辺に役所関係の施設があった可能性が高いと考えられる。2 区では箱形の木棺を川岸に埋葬した中世の墓を検出できた。この地域での埋葬形態を考える上で貴重な資料となった。

【註】

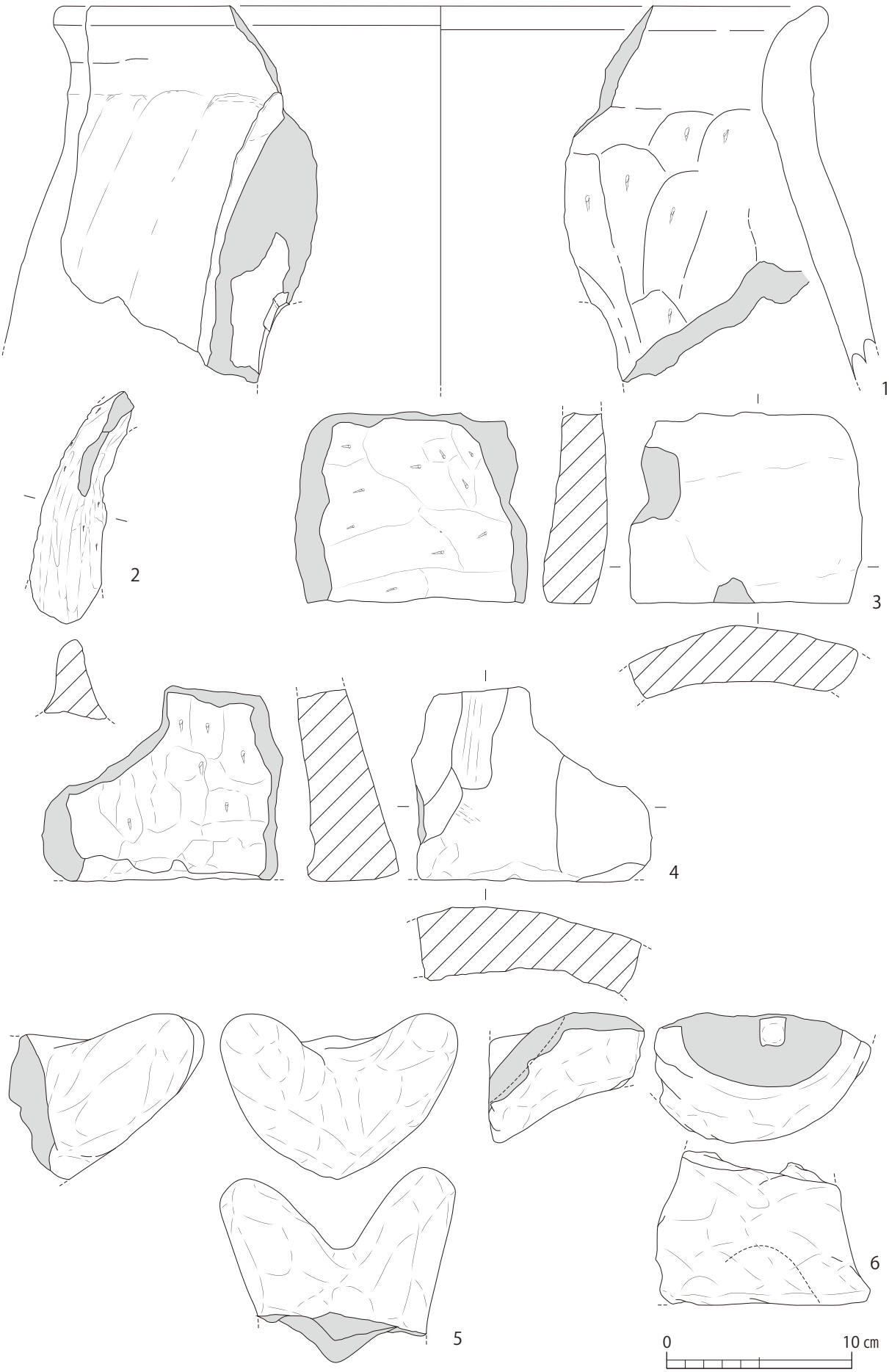
1. 島根県教育委員会　1999 『姫原西遺跡』一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財調査報告 1
2. 中村唯史氏の御教示による。



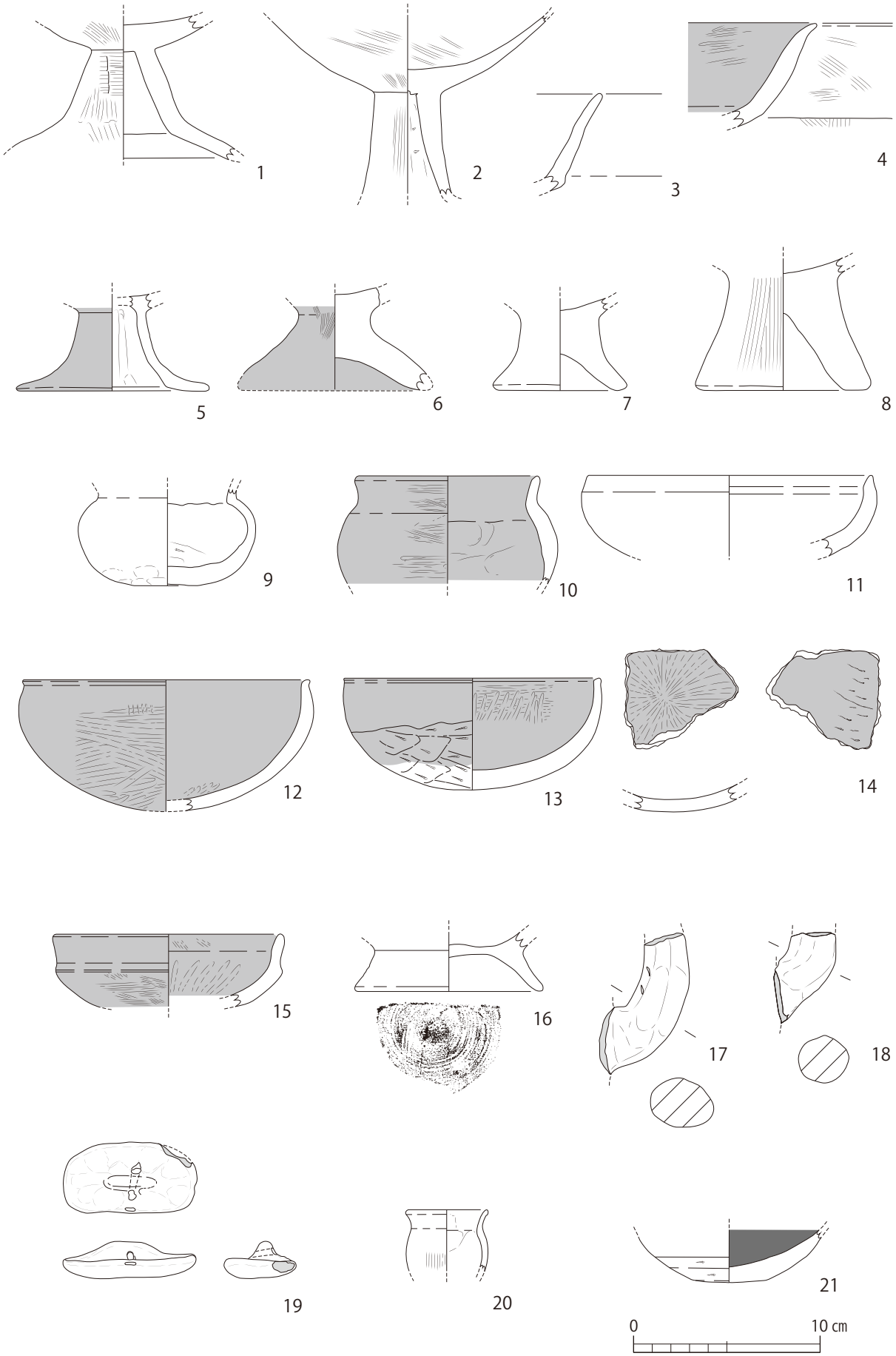
第 113 図　出土遺物実測図①（S=1:3）



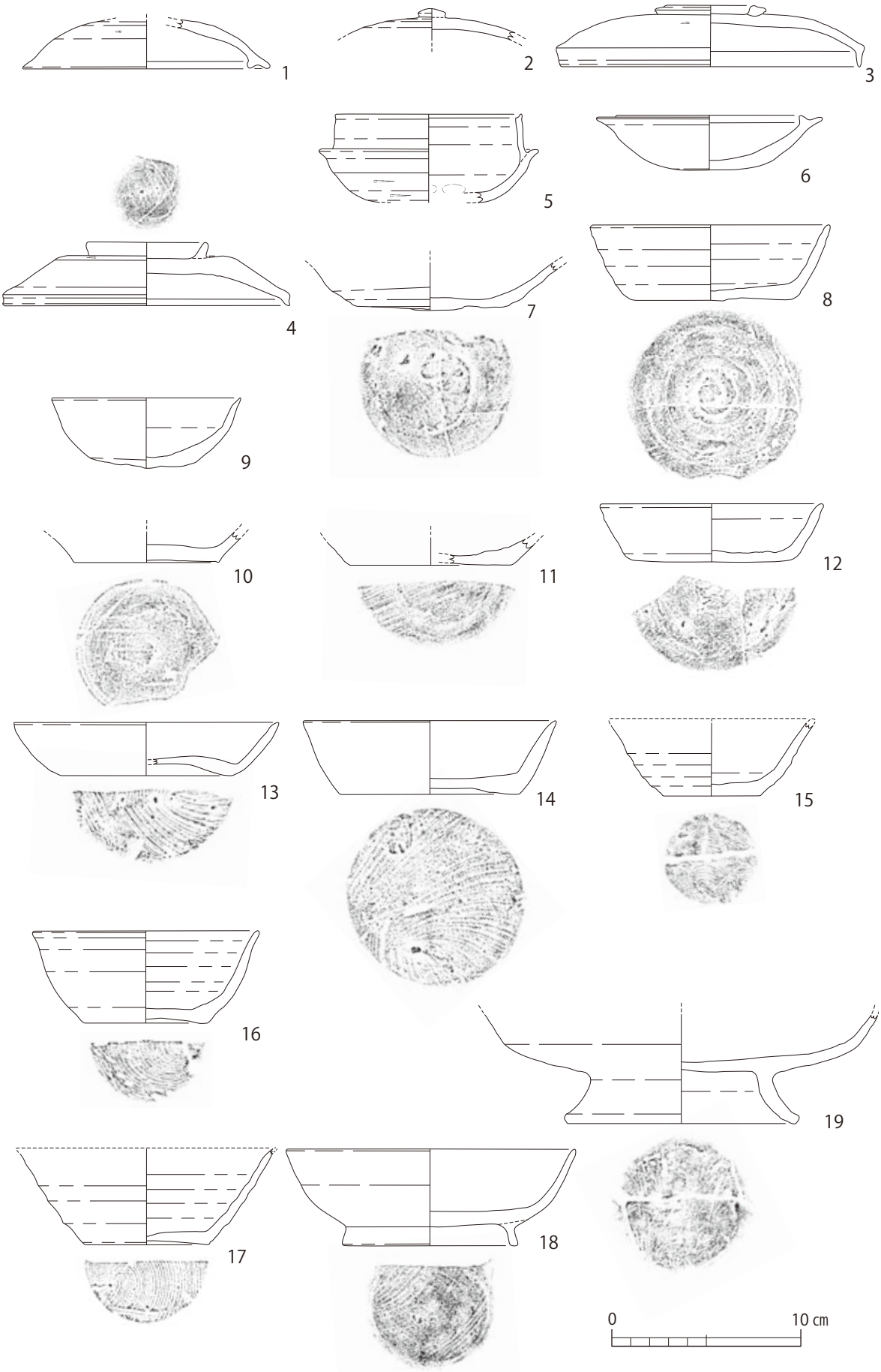
第 114 図　出土遺物実測図②（S=1:3）



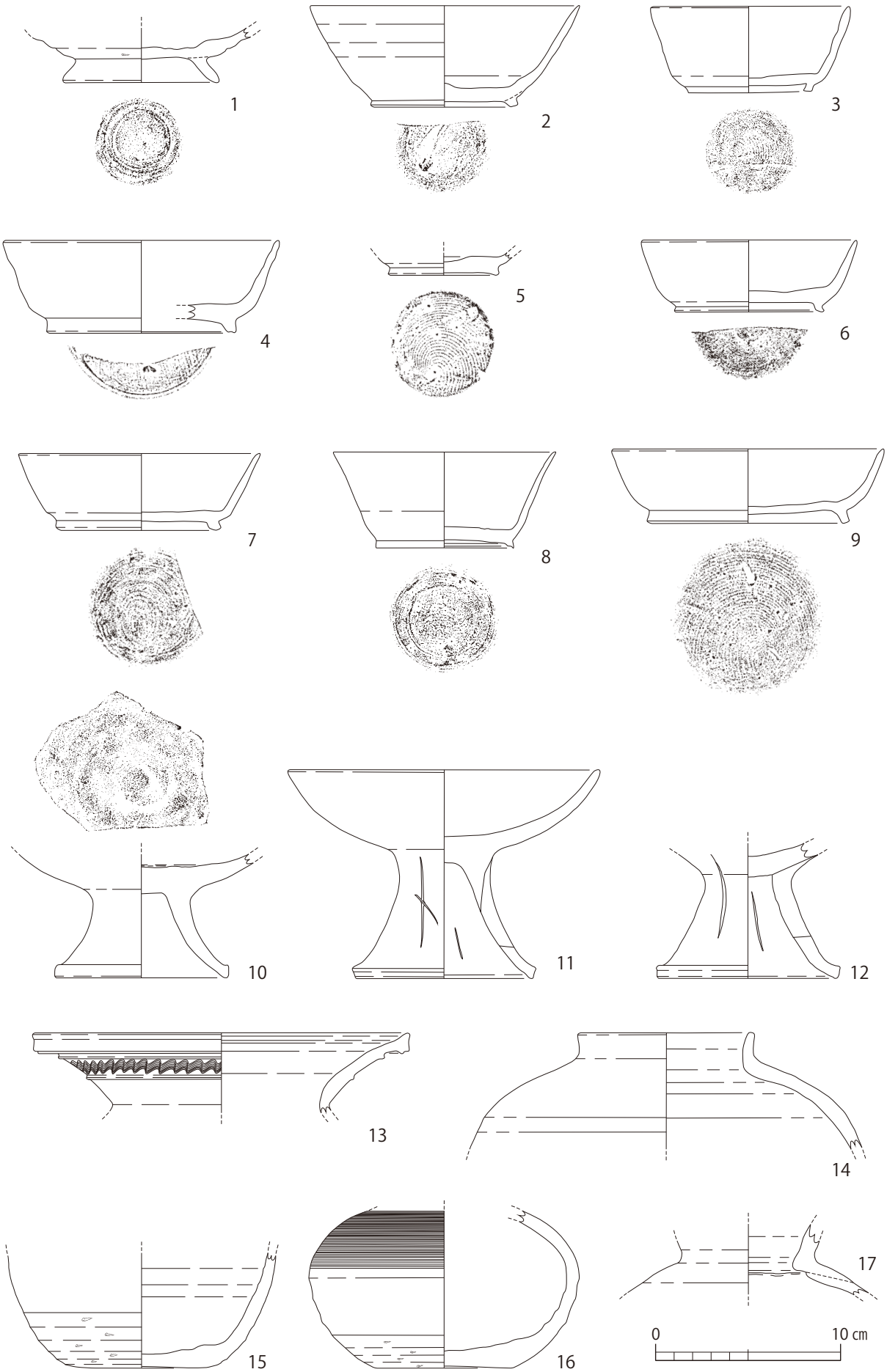
第 115 図　出土遺物実測図③（S=1:3）



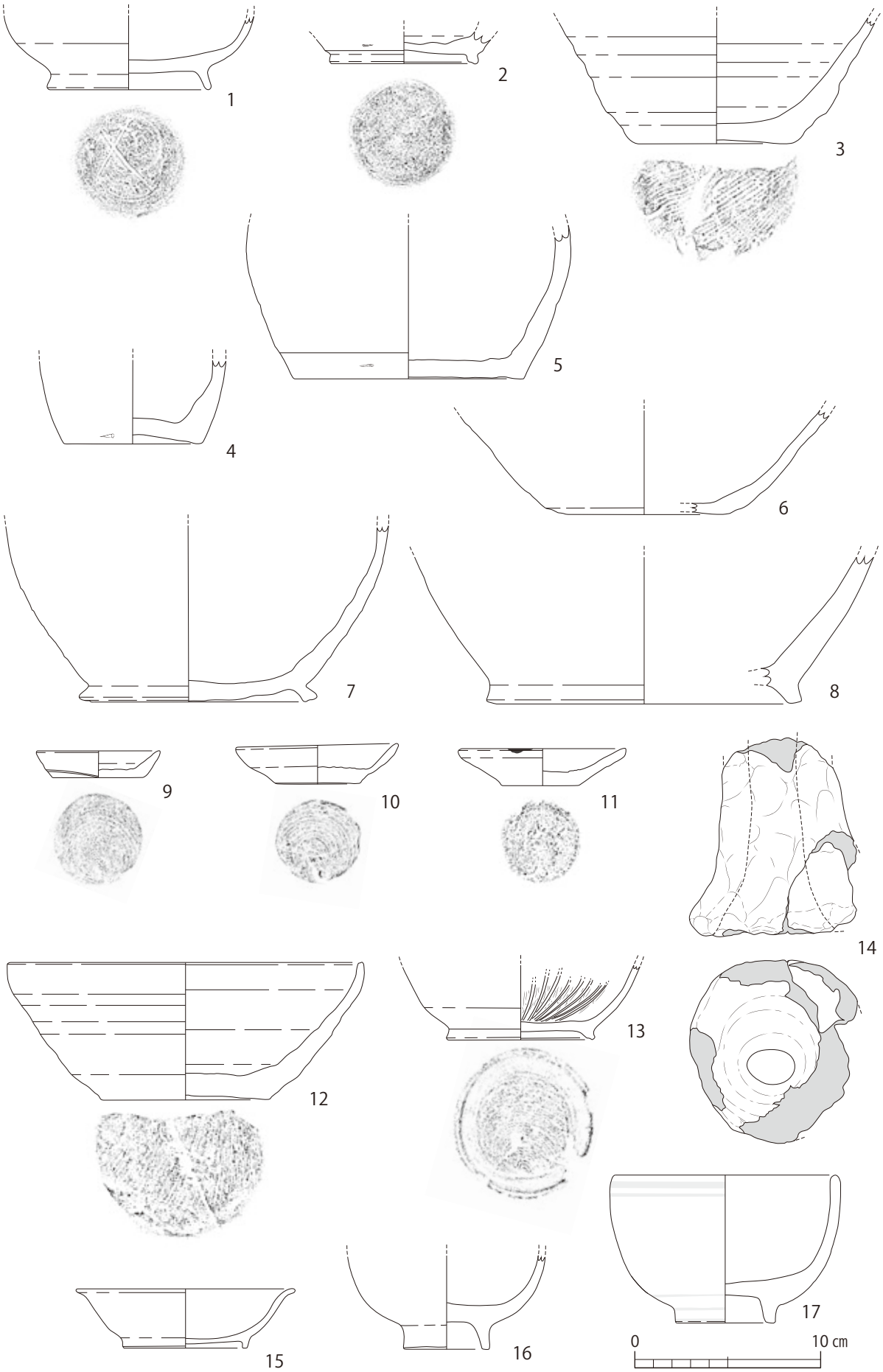
第 116 図　出土遺物実測図④（S=1:3）



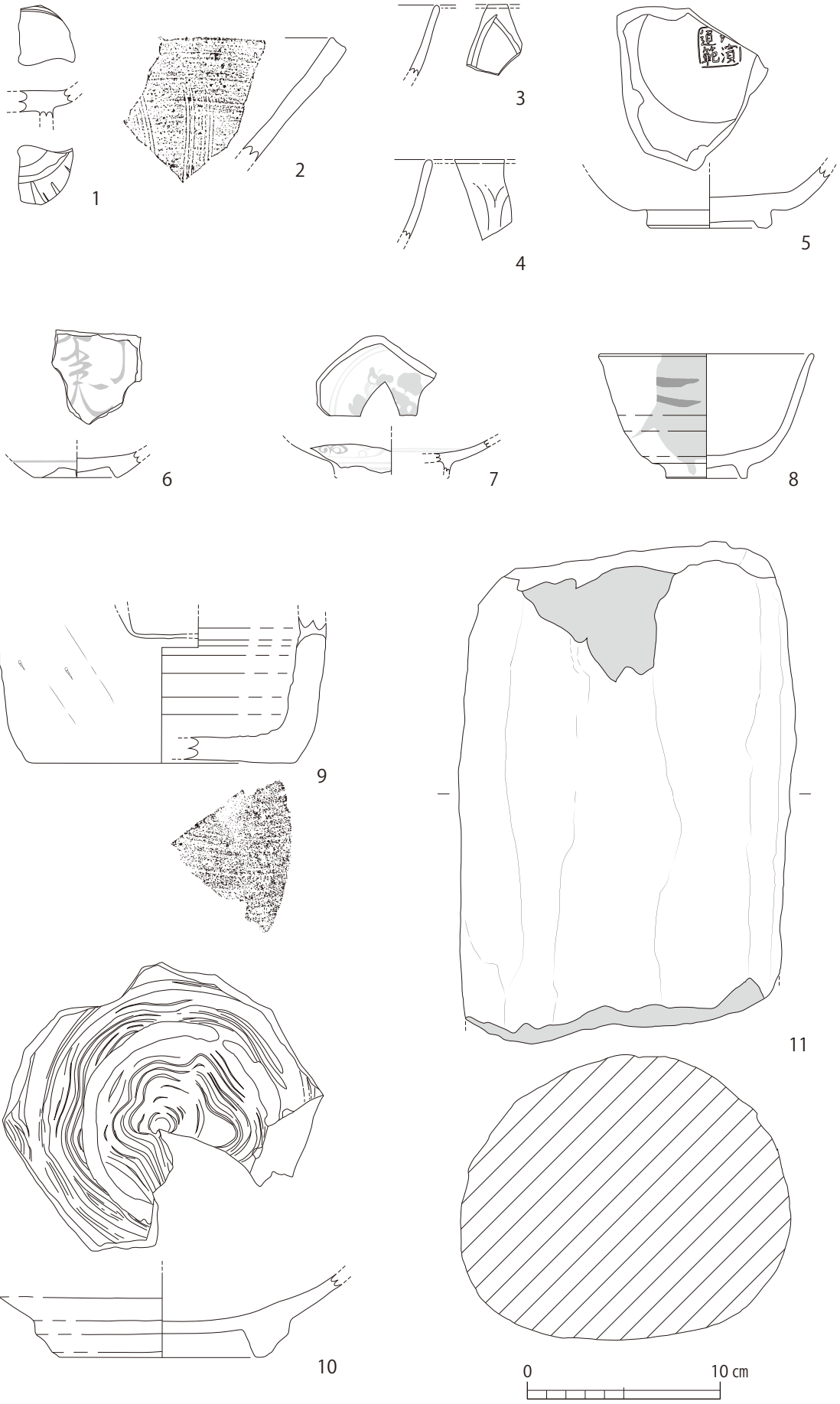
第 117 図　出土遺物実測図⑤（S=1:3）



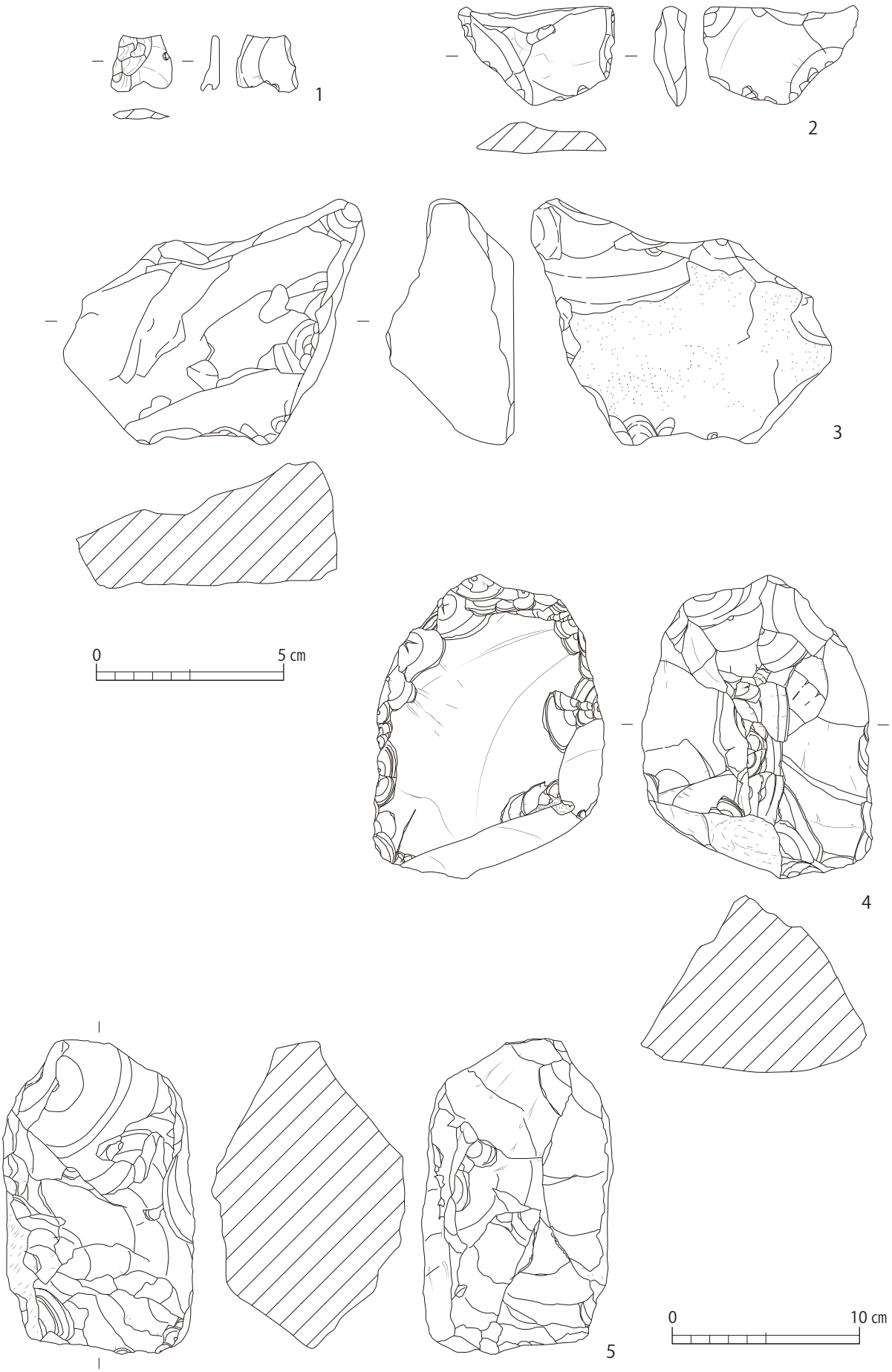
第 118 図　出土遺物実測図⑥（S=1:3）



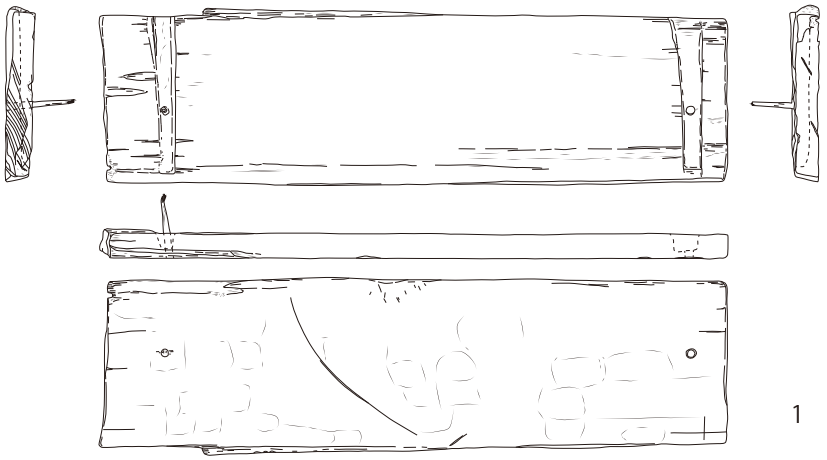
第 119 図　出土遺物実測図⑦（S=1:3）

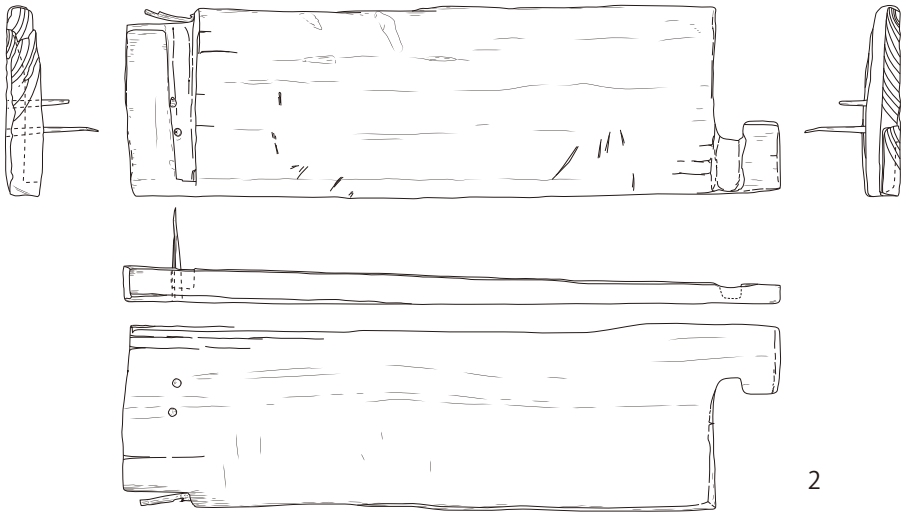


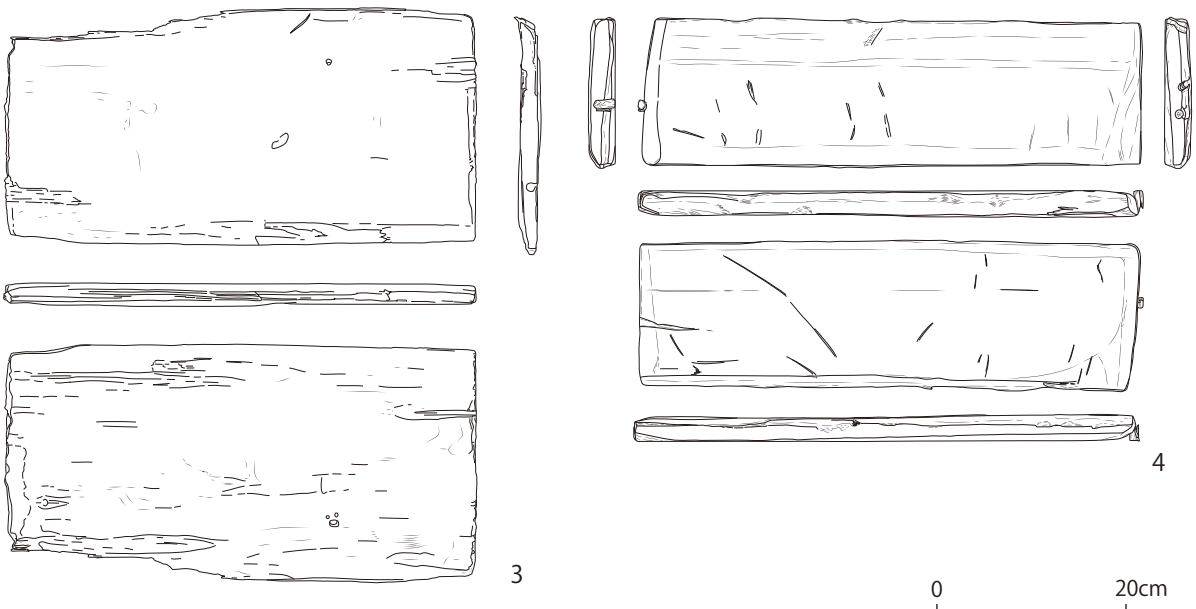
第 120 図　出土遺物実測図⑧（S=1:3）



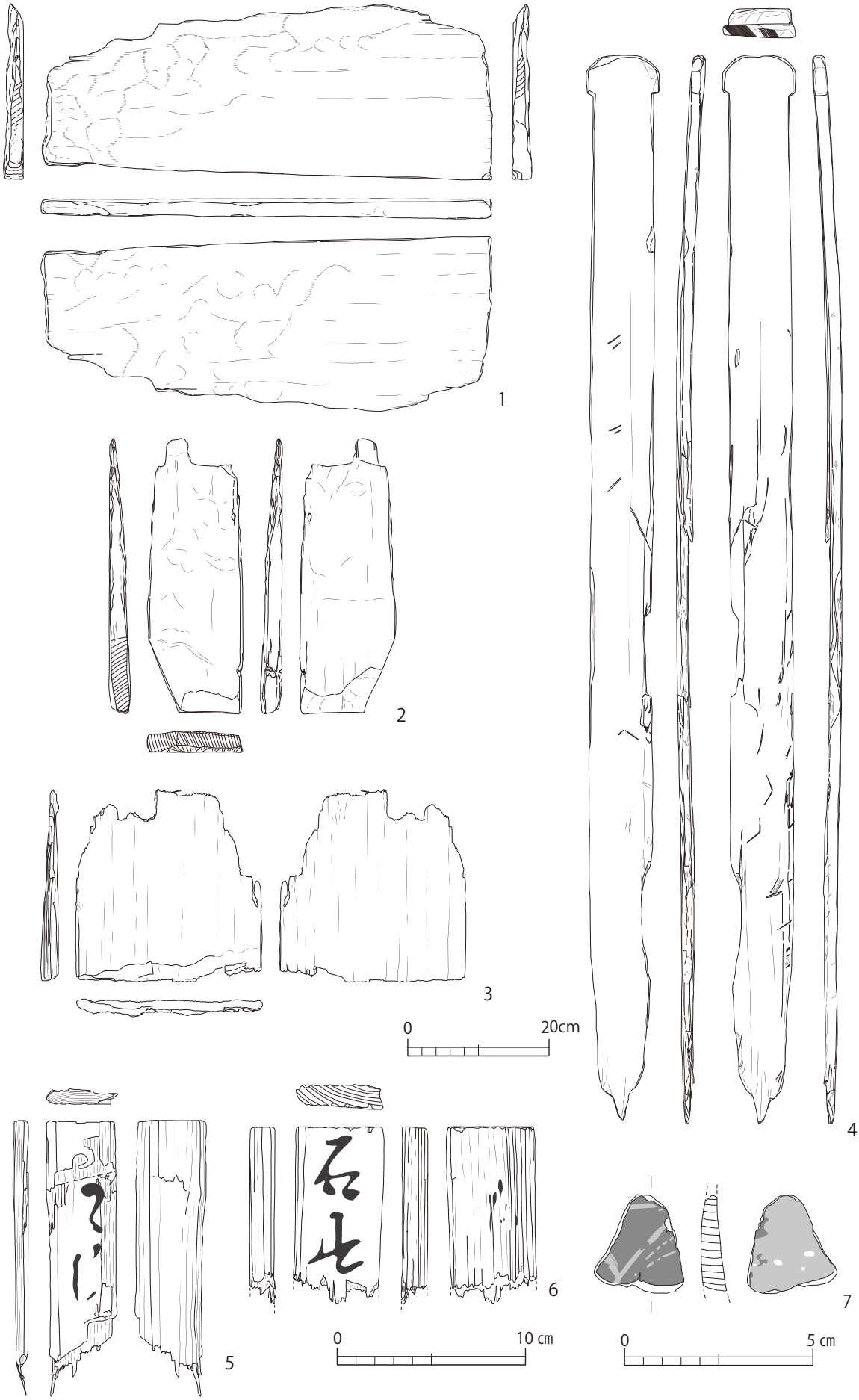
第 121 図　出土遺物実測図⑨（1~3 は S=2:3　4,5 は S=1:3）







第 122 図　出土遺物実測図⑩（S=1:8）



第 123 図　出土遺物実測図⑪（1~4 は S=1:8　5,6 は S=1:3　7 は S=2:3）

第 5 章 鈴見 B 遺跡 1 区

第 1 節　発掘作業と整理作業の経過

1) 遺跡の位置

鈴見 B 遺跡は島根県大田市波根町鈴見に所在する。旧波根湖の南に位置する谷間の平坦地と周辺の緩斜面に立地する。現在、平坦地は圃場整備をされた水田や畑地となっており、緩斜面は林地となっている。遺跡の南には池があり、平坦地の西側には水路が設置されている。

2) 試掘確認調査の概要

試掘確認調査は平成 23 年 6 月 21 日から同年 8 月 30 日まで実施した。鈴見 B 遺跡内の施工範囲 16,800㎡について 23 か所のトレンチを設定して試掘確認調査を実施した。このうち Tr.1 で平坦地と古墳時代の遺物包含層を確認し、Tr.21、Tr.22、Tr.23 で古墳時代から中世の遺物包含層を確認した。Tr.21、Tr.22、Tr.23 を中心とする 1,320㎡については発掘調査が必要であると判断された。この範囲が本書に掲載した 1 区である。Tr.1 の周辺については平成 24 年度に再び試掘確認調査を実施し、1,260㎡について発掘調査が必要であると判断された。この範囲は 2 区として平成 25 年度に一部を除き発掘調査を実施した。

3) 発掘作業と整理作業の経過

発掘作業は平成 24 年 8 月 28 日から同年 10 月 16 日まで実施した。発掘作業では耕作土と造成土の掘削は重機で行い、遺物包含層の掘削は人力で行った。普及啓発活動として平成 25 年 2 月 3 日に波根まちづくりセンターと久手まちづくりセンターで、荒槇遺跡、高原遺跡、中尾 H 遺跡と併せて調査成果の報告会を開催し、約 80 名の参加があった。

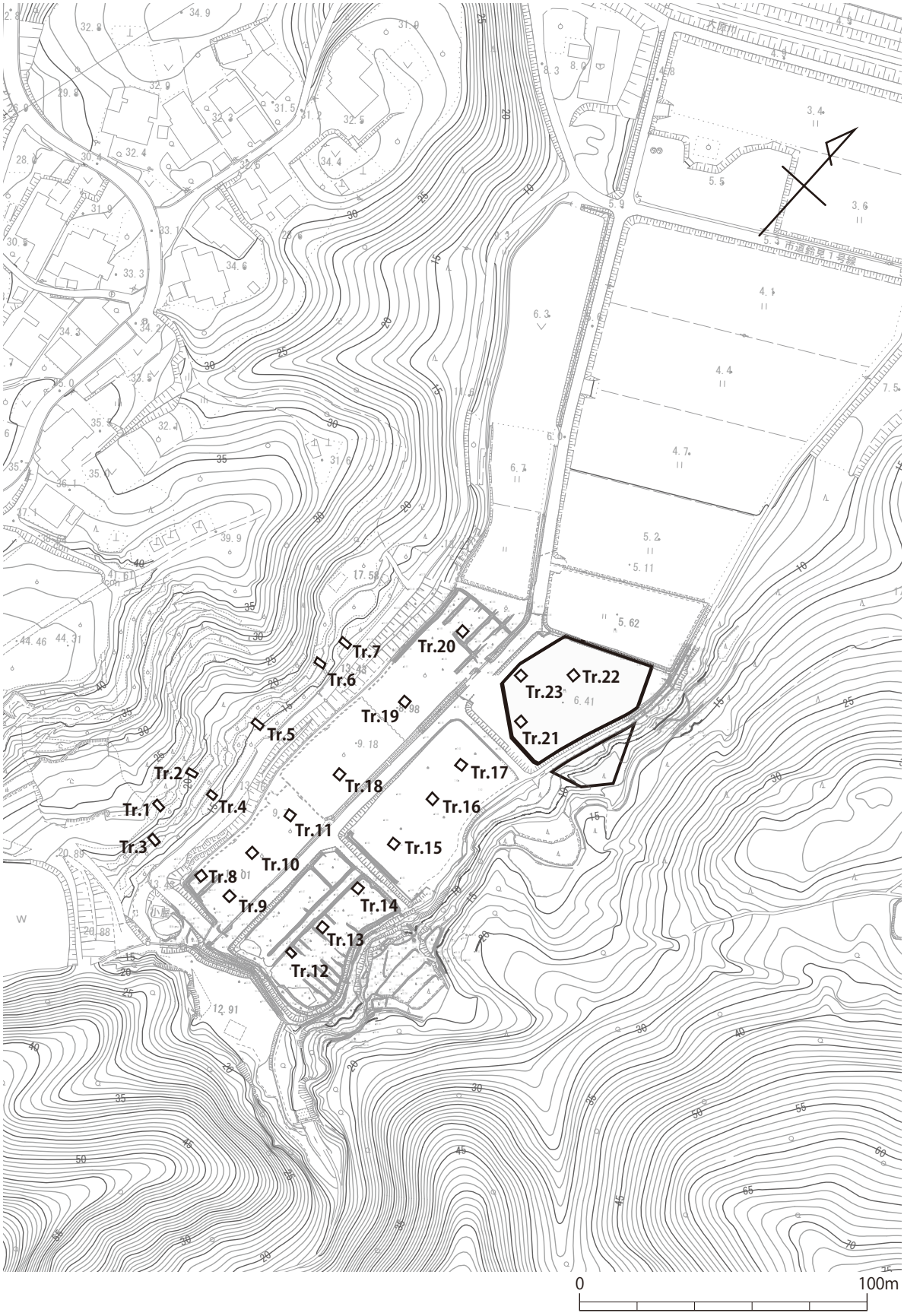
4) 整理作業の経過

遺物の水洗、注記、接合は発掘作業と並行して行った。遺物の実測は発掘作業と並行して行ったが、多くは平成 25 年度に行った。また遺物の実測に当たっては保存状態が良好な遺物を中心に選択した。遺物の写真撮影は平成 25 年度に行った。

第 2 節　遺構と遺物

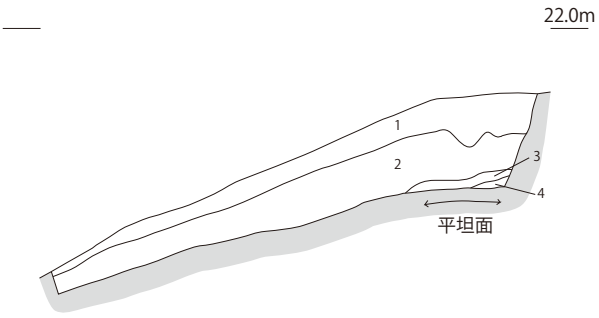
1) 基本層序

地表から約 1m まで現在の耕作土、圃場整備による造成土、圃場整備前の耕作土が堆積していた。圃場整備前の耕作土の下には弥生時代から近世までの遺物包含層が約 60㎝堆積していた。遺物包含層の大部分は暗灰色砂礫層と緑灰色粘質土層であった。



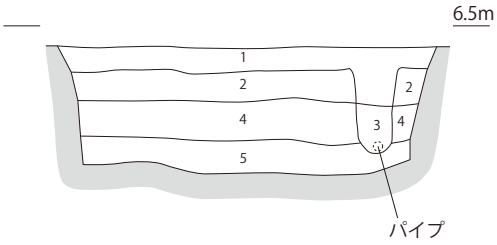
第 124 図　遺跡位置図（S=1:2,000）

Tr.11 南壁



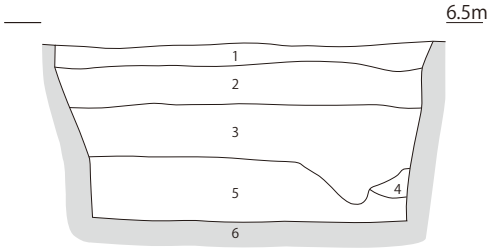
1. 暗黒褐色土層（表土）
2. 暗灰黄褐色土層　（古墳時代後期の土師器と須恵器出土）
3. 黒褐色土層　（古墳時代後期の土師器と須恵器出土）
4. 淡黄褐色土層（地山）

Tr.21 北壁



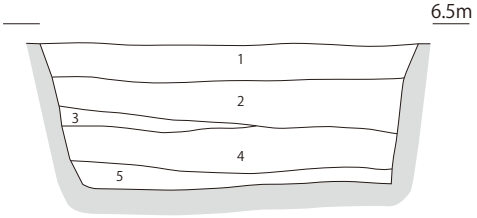
1. 灰橙色土層
2. 灰色粘質土層（おもに近世の遺物出土）
3. 籾殻層
4. 黒灰色土層（やや砂質を帯びる）
5. 暗青灰色砂礫層
   4 ～ 5 より古墳時代～中世の遺物出土

Tr.22 北壁



1. 茶褐色土層（耕作土）
2. 灰橙色土層（造成土）
3. 黒灰色粘質土層
4. 灰黒色粘質土層（3 より濃い）
5. 黒色土層（木片を含み、やや砂質を帯びる）
6. 暗青灰色砂礫層
   3 ～ 5 より古墳時代前期の遺物出土

Tr.23 北壁



1. 黄褐色土層（造成土）
2. 灰黒色粘質土層
3. 黒色粘質土層
4. 灰黄色土層
5. 暗青灰色砂礫層
   2 ～ 3 より古墳時代～中世の遺物出土（やや多い）
   4 ～ 5 より古墳時代の遺物出土（少ない）

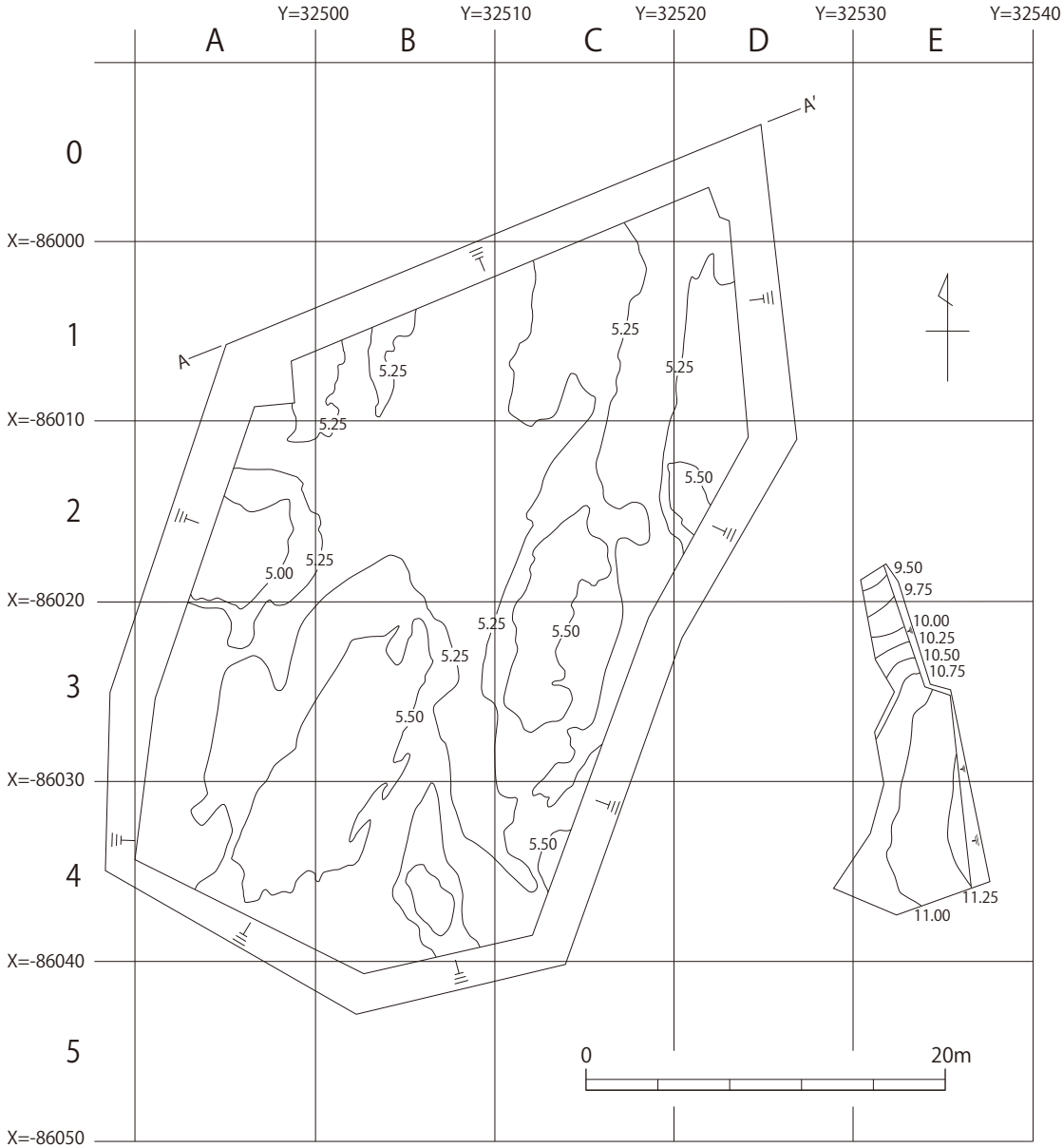
第 125 図　試掘確認調査土層実測図（S=1:60）

2) 遺構

平坦地で河川跡を確認できたが人工的な遺構は確認できなかった。この川は出土遺物から少なくとも弥生時代前期から近世までは流れていたと考えられる。ただし、各時代の遺物は時代ごとに堆積していないため、時代ごとの経路や規模は不明である。

3) 遺物

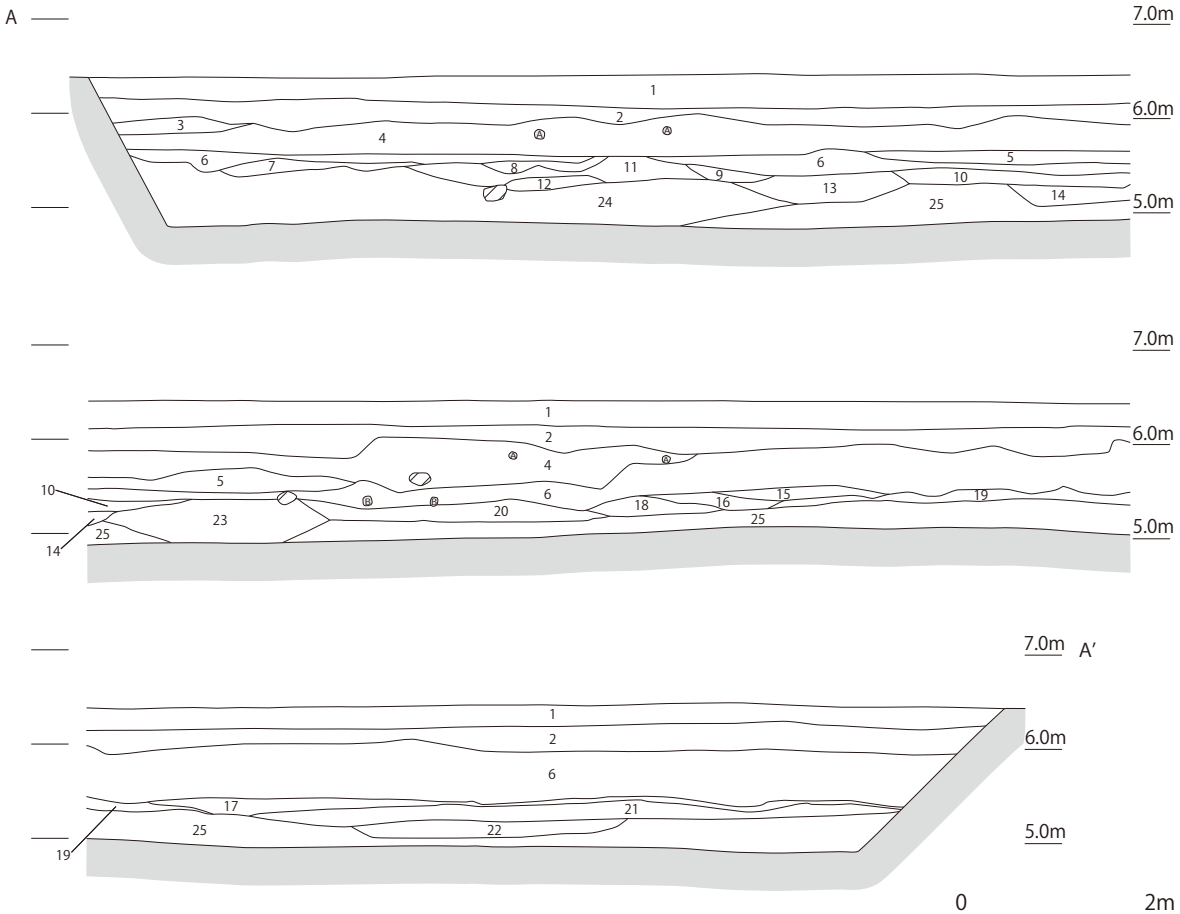
遺物包含層からは弥生時代前期から近世までの遺物が出土した。注目される遺物には口縁の一部に黒色が確認できる土師皿（第 129 図 8）がある。僅かではあるが底部外面以外にも黒色に塗られた痕跡があることから、本来は底以外の外面が黒色に塗られていたと考えられる。褐色の碧玉（第 129 図 12、13、16）も注目される。これらは荒槇遺跡でも出土している碧玉と同じく出雲市多伎町付近で産出されるものと考えられる。



第 126 図　1 区 地形測量図（S=1:400）

第 3 節　小結

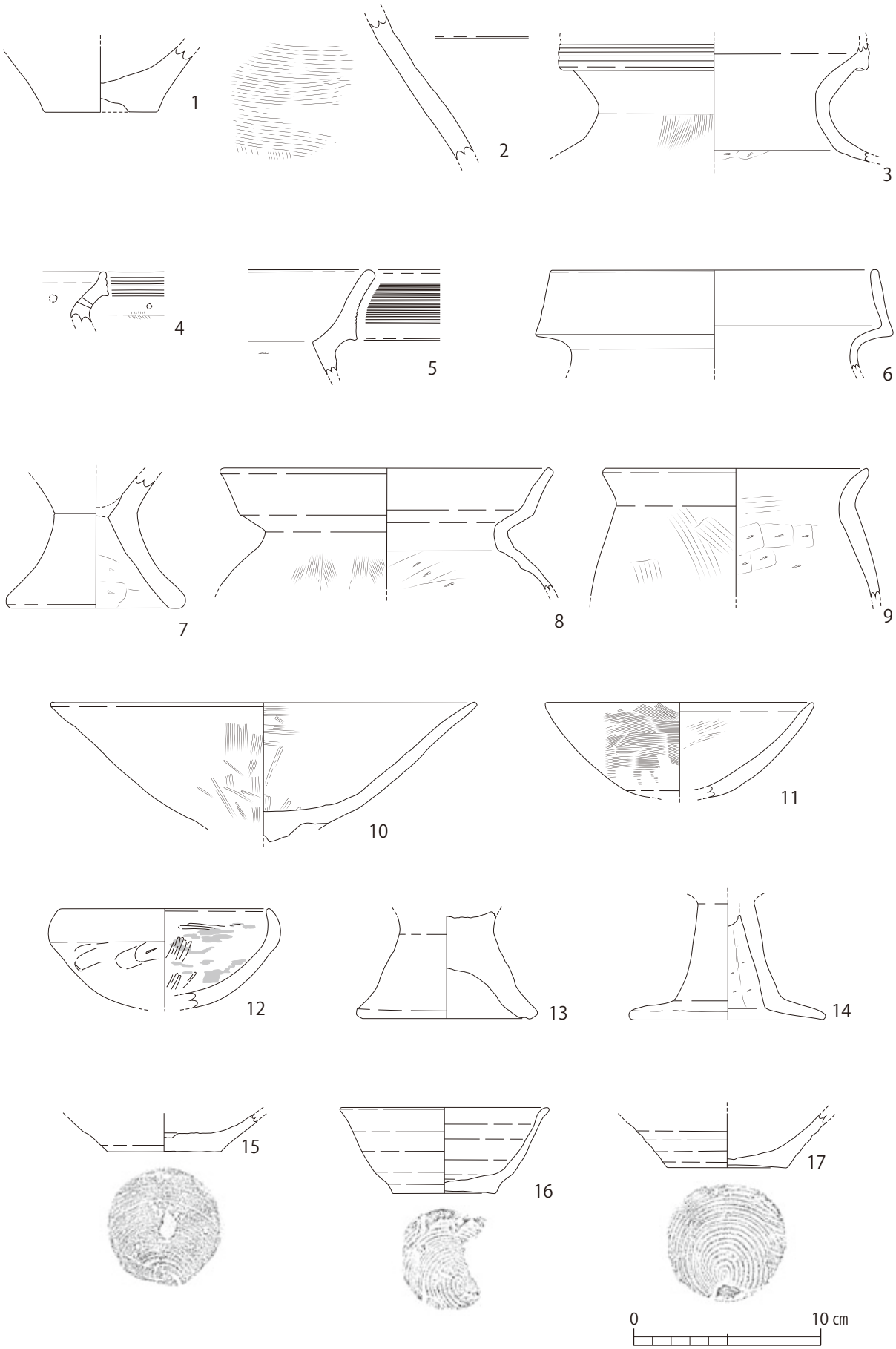
鈴見 B 遺跡 1 区では弥生時代前期から近世の河川跡を確認した。現在は遺跡の付近には圃場整備で設置された水路が流れるのみで自然の川は流れていないが、かつては旧波根湖に流れる川が存在したことを確認できた。また出土品は付近から廃棄されたものか流れ込んだものと考えられる。試掘確認調査では南西の 2 区で古墳時代の建物跡と考えられる遺構を確認しているので、古墳時代には丘陵斜面を中心に集落が営まれていた可能性が高いと考えられる。



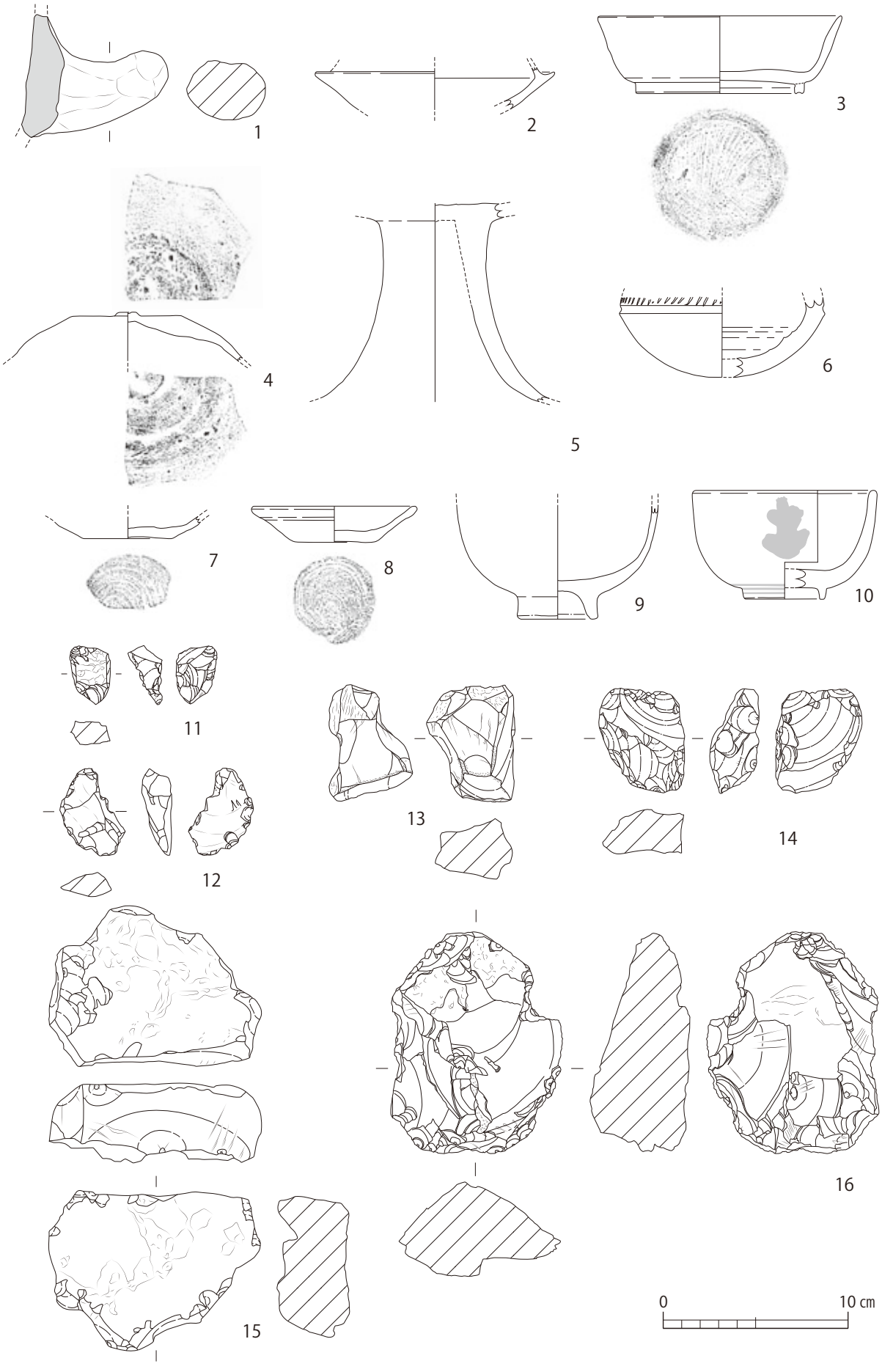
1. 灰褐色土層（7.5YR5/2）耕作土
2. 灰色粘質土層（7.5Y4/1）造成土
3. 灰黄褐色土層（10YR4/2）
4. 黄灰色土層（2.5Y4/1）旧耕作土
5. 暗灰黄色土層（2.5Y4/2）
6. 黒褐色粘質土層（2.5Y3/2）
7. 暗黄灰色土層（2.5Y4/2）2mm ほどの砂粒を含む
8. 明黄褐色砂層（10YR6/8）2 ～ 8mm の粗い砂粒
9. オリーブ褐色砂層（2.5Y4/3）2 ～ 8mm の粗い砂粒
10. 明黄褐色土層（10YR6/8）10cm ほどの礫を含む
11. 黒褐色土層（2.5Y3/2）砂粒を多く含む
12. オリーブ褐色砂層（2.5Y4/3）2 ～ 8mm の粗い砂粒
13. 黒褐色粘質土層（2.5Y3/2）木片などの有機物を含む
14. 灰色粘質土層（5Y4/2）
15. 黄褐色土層（2.5Y5/4）砂粒を多く含む
16. 暗灰黄色土層（2.5Y5/2）砂粒を多く含む
17. 黄褐色砂礫層（2.5Y5/4）粗い砂粒と 5 ～ 15cm の礫を含む
18. 暗灰黄色砂礫層（2.5Y5/2）5 ～ 10cm の礫を含む
19. 黒褐色土層（10Y3/2）砂粒と 1 ～ 5cm の礫を含む
20. 灰色粘質土層（7.5Y5/1）
21. 黒褐色土層（10YR3/2）19 層の続き
22. オリーブ灰色土層（2.5GY5/1）粗い砂粒を含む、木片などの有機物を含む
23. 黄褐色砂礫層（10YR3/2）5 ～ 90cm の礫を非常に多く含む
24. 暗青灰色砂礫層（10BG4/1）5 ～ 50cm の礫を含む、粗い砂粒
25. 緑灰色粘質土層（7.5GY5/1）

A. 暗渠（ビニールパイプ）
B. 暗渠（木）

第 127 図　1 区 北側土層実測図 (S=1:80)



第 128 図　1 区 出土遺物実測図①（S=1:3）



第 129 図　1 区 出土遺物実測図②（S=1:3）

第 6 章 自然科学分析

荒槇遺跡で検出された木枠遺構の PCN 分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

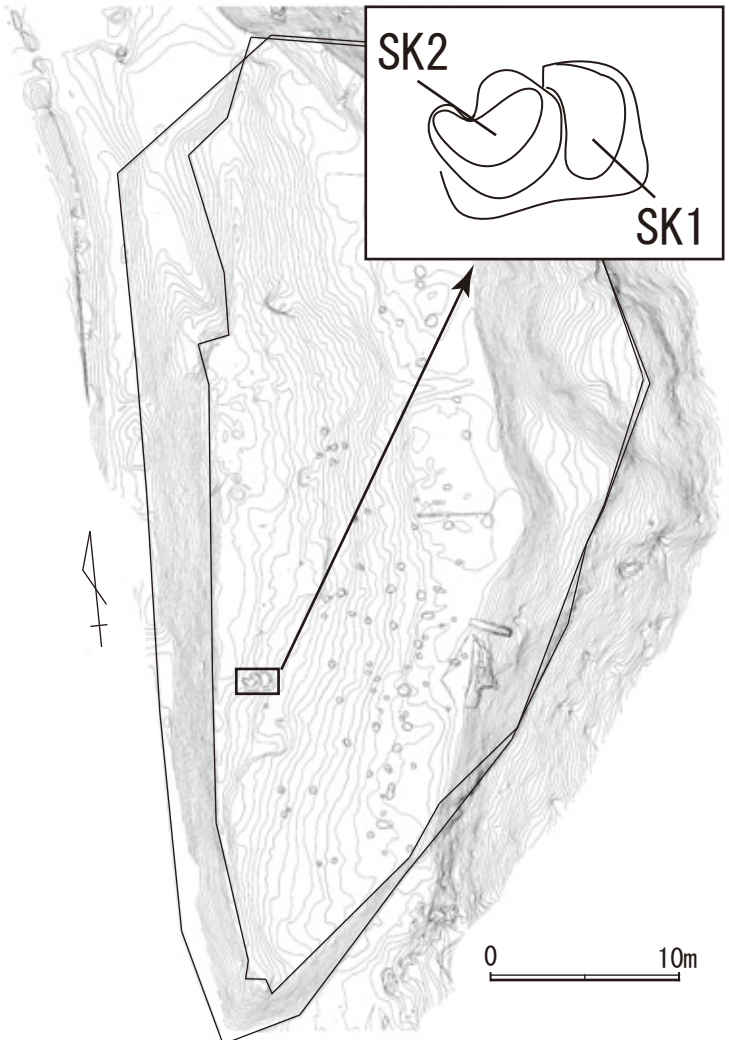
はじめに

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、荒槇遺跡の発掘調査で検出された木枠遺構の用途を明らかにするために、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから委託を受け実施・報告した、リン酸濃度 (P)、有機炭素濃度 (TOC) と全窒素濃度 (TN) 分析報告書の概報である。

分析試料について

分析試料はすべて島根県教育庁埋蔵文化財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント（株）が採取した。第 130 図に調査区配置及び試料採取地点を示す。

また、各地点での試料採取位置は、第 131、132 図の濃度分布図中に示している。



第 130 図　調査区配置及び試料採取地点

分析方法

渡辺（2014）の成果を踏まえ、P 分析には、SPS3100（エスアイアイ・ナノテクノロジー (株) : ICP 発光分光分析装置）を用いた。前処理は湿式酸分解法（硝酸、フッ化水素、過酸化水素による）を用いた。TOC・TN 分析は FlashEA 1112（有機微量元素分析装置：サーモフィッシャーサイエンティフィック (株)）を用いた。また、無機炭素を除去する目的で、前処理として HCl 処理を行っている。

分析結果

(1) 分析結果の記載

全リン分析結果及び CN 濃度測定結果を表 12（C/N も示した。）に示すと供に、第 131、132 図に各地点の濃度分布図を示す。

(2) 濃度分布の特徴

1) SK1

リン濃度は上部中央の 3 で 0.36g/kg と突出するが、他の試料は 0.1 ～ 0.2g/kg の間を示す。また、地山の 2-4 では 0.23g/kg とやや高い。

有機炭素濃度は中央部の 5、6 で 2.5％程度と高く、上下方向及び右側に向かって減衰する。

窒素濃度は、一般に有機炭素濃度との相関が高い。今回も有機炭素濃度同様に中央部の 5、6 で 0.16％程度と高く、上下方向及び右側に向かって減衰する。

地点名	試料№	リン (g/kg)	有機炭素 (%)	窒素 (%)	C/N
SK1	1	0.14	1.083	0.098	11.05
	2	0.13	0.935	0.094	9.90
	3	0.36	0.904	0.100	9.04
	4	0.16	0.888	0.094	9.40
	5	0.17	2.558	0.158	16.17
	6	0.16	2.480	0.165	15.02
	7	0.14	1.304	0.112	11.65
	8	0.17	1.416	0.115	12.28
	10	0.11	1.336	0.111	12.04
	11	0.18	1.639	0.125	13.11
	12	0.19	1.402	0.122	11.46
	2-1	0.13	0.366	0.085	4.29
	2-2	0.19	0.306	0.077	3.97
	2-3	0.15	0.416	0.093	4.45
	2-4	0.23	0.444	0.093	4.79
SK2	1	0.23	2.615	0.174	15.01
	2	0.20	2.410	0.165	14.60
	3	0.20	2.008	0.144	13.98
	4	0.19	2.889	0.175	16.55
	5	0.19	2.986	0.180	16.62
	6	0.25	2.999	0.190	15.81
	7	0.21	2.970	0.181	16.41
	8	0.22	3.627	0.209	17.37
	9	0.20	3.117	0.191	16.28
	10	0.21	3.389	0.206	16.48
	11	0.20	3.443	0.208	16.56
	12	0.24	0.598	0.083	7.19
	13	0.24	1.372	0.124	11.06

第 4 表　PCN 測定結果及び C/N 値

C/N は遺構内のほとんどの試料で 10 を超えるが、上部の 2、3、4 では 9.04 ～ 9.90 とやや低い。また、地山の 4 試料は 3.97 ～ 4.79 と低い値を示した。

2) SK2

リン濃度は 0.19 ～ 0.25 とやや高めで、変化に乏しい。底部の 12、13 や左側の 1、6 でやや高い傾向にある。

有機炭素濃度は 12 で 0.60％と低いが②層の 8、9、10、11 では 3％以上と特に高い。

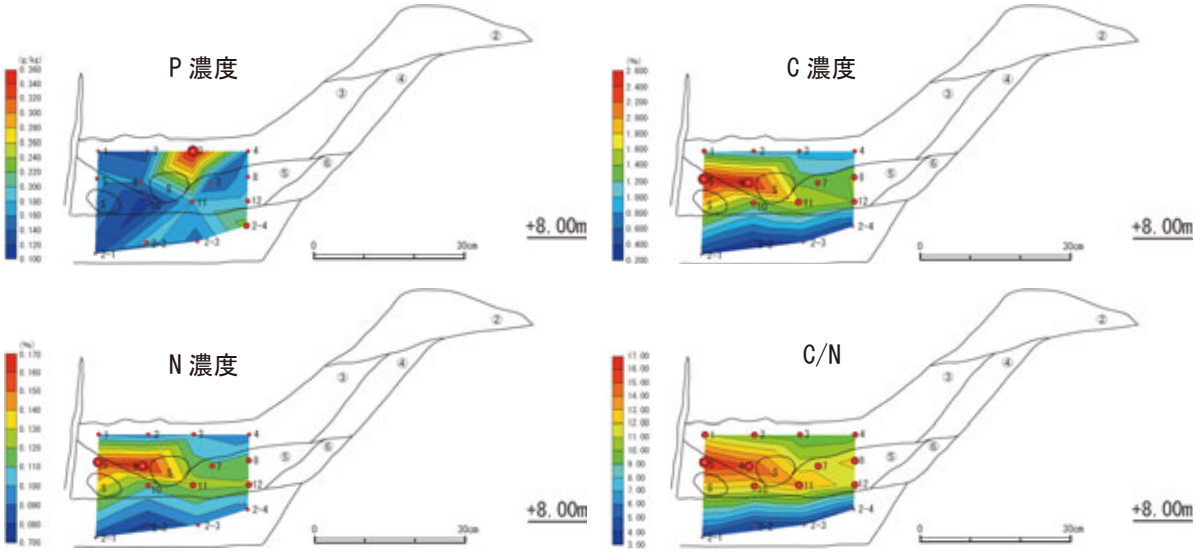
窒素濃度は、一般に有機炭素濃度との相関が高い。今回も有機炭素濃度同様に 12 で 0.83％と低いが②層の 8、9、10、11 では 0.2％程度以上と特に高い。

C/N は 12 で 7.19 と低いが、その他の試料は 11 を超える。

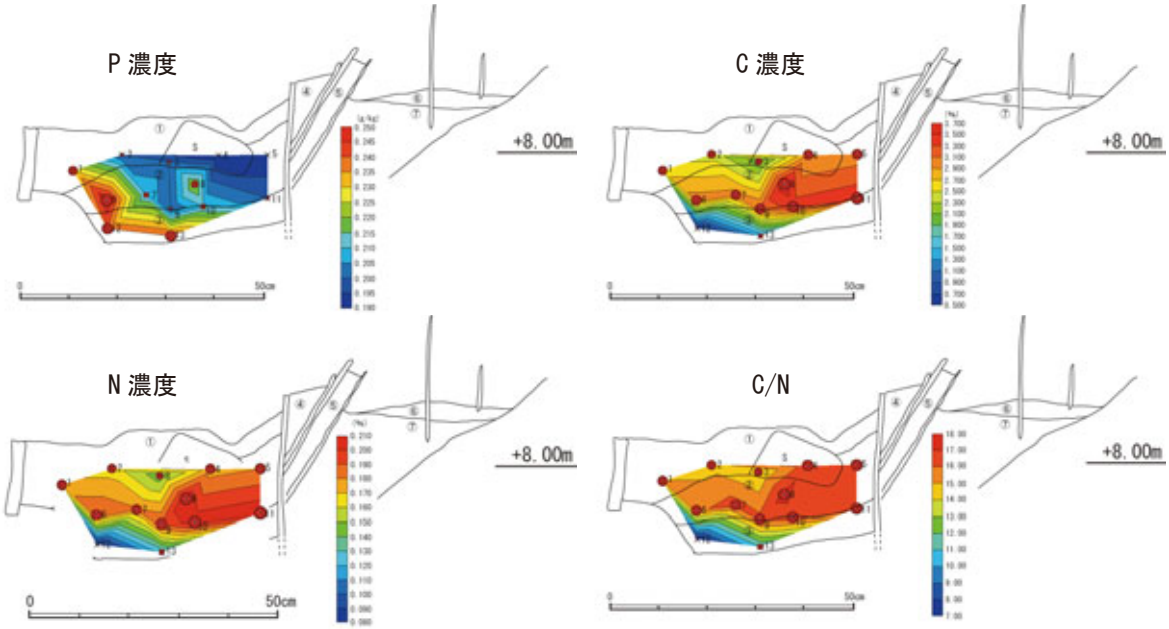
遺骸存在の可能性について

渡辺（2012）は、Bowen（1979）を参考に人間の部位別、他の動物、植物、土壌・岩石の P、C、N および P/C、C/N をまとめた。以下では、この値を基に、各地点での遺骸存在の可能性を論じる。

また、第 133 図に、SK1 及び SK2 の状況写真を示す。



第 131 図　濃度分布（SK1）



第 132 図　濃度分布（SK2）

(1) SK1

全リン濃度が高く C/N が低い試料 3 は、③層から採取されている。③層は堆積状況から、崖錐堆積物と考えられる。このため、遺骸の判断条件に一致するものの、SK1 に埋められた遺骸に由来するとは考えにくい。

⑤層は、全リン濃度の低い有機物に富む粘土であった。分析結果では有機炭素に富み、C/N が高いことから、この部分の有機物は、近辺に生育していた植物に由来すると考えられる。

SK1　　SK2

第 133 図　試料採取状況

最下層は相対的に全リン濃度が低く、有機炭素にも乏しい。C/N 値は 4 ～ 5 程度と低いが、遺骸が存在したとするには低すぎる。毛髪とすれば妥当な値であるが、分布が広すぎる。これらのことから、バクテリアなどに由来すると考えられる。

(2）SK2

①層は、堆積状況から崖錐堆積物と考えられる。一方で、SK1 の③層と比較して有機炭素量が多い。C/N が高いことから、これらの有機炭素は（川岸の）湿地環境に生育していた植物に由来すると考えられる。

②層は有機物に富む粘土で、有機炭素量も上下の①層や③層に比べ高い傾向にある。また C/N も上下の①層や③層に比べ高い。この部分の有機物も①層同様に、周辺に生育していた植物に由来すると考えられるが、①層に比べ安定した環境で堆積したと考えられる。

③層は全リン濃度がやや高い。このほか全リン濃度の高い部分は①層から③層へ地層境界に沿って帯状に分布し、移動したようにも見られる。C/N は試料 12 で 7.19 と遺骸が存在したと推定できる値である。また、試料 13 も 11.06 と SK2 の内部では低い傾向にあり、植物由来有機物の影響を受けてやや高くなった可能性がある。

まとめ

荒槇遺跡 SK1、SK2 の各遺構を対象に、全リン、有機炭素、全窒素測定を行った結果、以下の事柄が明らかになった。

(1）SK1 では崖錐堆積物の③層（試料 3）で全リンが高く C/N が低かった。更に、地山（試料 2-1 ～ 4）では、全リンはさほど高くないものの C/N が低かった。これらの層準は遺構と

しての SK1 とは直接の関係がなく、SK1 に遺骸が埋められていたと判断する材料にはなり得なかった。また、SK1 内部で遺骸の存在が予想される⑤層は全リン濃度が低く、C/N も高い。⑤層の層相が有機質粘土であることから、これらの有機物は水辺の草本に由来したと考えられる。

(2) SK2 上部の①、②層では C/N が高く、層相は有機物に富む。これらの有機物は SK1 同様に、水辺の草本に由来したと考えられる。一方、最下層の③層で全リン濃度が高く、C/N が人の平均値に近かった。このことから、この層準に遺骸が存在した可能性が示唆される。

【引用文献】

Bowen, H. J. M.　1979　"Environmental Chemistry of the Elements", Academic Press,

渡辺正巳　2012　「中村 1 号墳の前室石棺内埋土のリン濃度分布」『中村 1 号墳』出雲市の文化財報告 15　出雲市教育委員会

渡辺正巳　2014　「庵寺古墳群におけるリン、炭素及び窒素分析」『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』一般国道 9 号（仁摩温泉津道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5　島根県教育委員会

第 5 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（土器）

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
9	1	261	加工段 1	土師器	甕	1/2 以下	(18.3)	(13.9)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
9	2	261	加工段 1	須恵器	坏蓋	約 3/5	14.0	4.6	4.3	外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：暗青灰色	5PB5/1 5RB4/1	良好	密	
17	1	406	加工段 2-2	須恵器	坏蓋	約 1/3	9.0	(3.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	7.5GY6/1 10GY6/1	良好	密	
17	2	235	加工段 2-2	土師器	把手または支脚	小片		(3.8)		外：ナデ 内：	外：明赤褐色 内：	2.5YR5/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
17	3	423	加工段 2-3	須恵器	蓋	約 1/3	12.2			外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗紫灰色	5P4/1 5P4/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
17	4	227	加工段 2-3	須恵器	甕	破片	32.6	(5.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/2	やや不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
17	5	36	加工段 2-3	須恵器	不明	小片		(1.4)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰オリーブ色 内：オリーブ黄色	7.5Y5/3 7.5Y6/3	良好	密	
17	6	5 層 Pno.318	加工段 2-3	須恵器	坏	小片		(1.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗紫灰色	5P4/1 5P4/1	良好	密	
17	7	215	加工段 2-3	土師器	甕	口縁部 1/8 以下	(21.0)	(7.6)		外：ナデ、ケズリ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：橙色	10YR6/4 7.5YR6/6	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
17	8	214	加工段 2-4	須恵器	坏蓋	小片				外：ナデ 内：ヘラミガキ	外：灰色 内：にぶい橙色	10Y6/1 7.5YR6/4	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
17	9	5 層	加工段 2-4	須恵器	坏蓋	小片		(1.8)		外：回転ケズリ後ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	5G7/1 5G7/1	良好	密	
17	10	230,231 232	加工段 2-4	須恵器	坏	約 1/2	13.6	4.6	9.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5P6/1	良好	密	
17	11	63	加工段 2-4	須恵器	坏または高坏	小片		(2.8)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：赤灰色 内：赤灰色	5R5/1 5R5/1	良好	密	
17	12	206	加工段 2-4	須恵器	甑か壺	約 1/4		(5.2)		外：ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：暗灰色、灰色 内：灰色	N3/,N6/ N6/	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
32	1	褐色土層	加工段 3-1	須恵器	高坏	小片		(3.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：オリーブ灰色 内：紫灰色	10Y6/2 5RP6/1	良好	密	
32	2	604	加工段 3-1	土師器	甕	口縁部 1/6 以下		(5.3)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：明黄褐色 内：明褐色	10YR7/6 7.5YR5/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
32	3	180	加工段 3-1	須恵器	壺	頸の部分 約 1/2		(2.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗紫灰色	5P4/1 5P4/1	良好	密	
32	4	589	加工段 3-1	土師器	支脚	突起部のみ		(5.3)		外：ナデ 内：	外：橙色 内：	2.5YR5/6	良好	密（8㎜以下の砂粒を含む）	
32	5	129	加工段 3-2	須恵器	坏	小片		(2.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	密	
32	6	311	加工段 3-2	須恵器	甕	小片		(3.7)		外：平行タタキ、カキ目 内：タタキ	外：オリーブ灰色 内：明青灰色	2.5GY6/1 5BG7/1	良好	密	
32	7	312	加工段 3-2	須恵器	横瓶または提瓶	小片		(6.2)		外：平行タタキ、カキ目 内：同心円タタキ	外：暗青灰色 内：暗青灰色	10BG4/1 10BG4/1	良好	密	
32	8	718	加工段 3-2	土師器	甕	破片		(7.8)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい褐色 内：灰褐色	7.5YR5/3 7.5YR5/4	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
32	9	埋土	加工段 3-3	須恵器	甑？	小片		(2.3)		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：暗紫灰色	5P5/1 5P4/1	良好	密	
32	10	埋土	加工段 3-3	須恵器	坏	小片		(5.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：紫灰色	5RP4/1 5RP5/1	良好	密	
32	11	603	加工段 3-3	須恵器	横瓶	小片		(4.0)		外：平行タタキ 内：同心円タタキ	外：青灰色 内：青灰色	5B5/1 5B6/1	良好	密	
32	12	607	加工段 3-3	須恵器	坏	小片		(3.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	密	
32	13	Pit.8 埋土	加工段 4-1	須恵器	坏	小片		(3.0)		外：回転ケズリ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP5/1	良好	密	
32	14	焼土	加工段 4-1	須恵器	甕	小片		(4.3)		外：同心円タタキ 内：平行タタキ	外：にぶい橙色 内：青灰色	7.5YR6/4 5BG5/1	良好	密	
32	15	竈の埋土	加工段 4-1	土師器	把手	破片		4.2		外：ナデ 内：	外：明赤褐色 内：	5YR5/6	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
32	16	184 185	加工段 4-3	須恵器	坏	約 1/3	(13.4)	6.0	10.6	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP6/1 5RP6/1	良好	密	
32	17	190	加工段 4-3	須恵器	坏	小片		(3.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	
32	18	埋土 Pno.470	加工段 3-4	須恵器	横瓶	小片		(5.8)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 N5/	良好	密	
32	19	468	加工段 3-4	土師器	移動式竈	破片		(5.9)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：にぶい褐色 内：にぶい黄橙色	7.5YR5/3 10YR6/3	良好	密（7㎜以下の砂粒を含む）	
33	1	369	加工段 3-5	須恵器	坏	小片		(1.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：明紫灰色	5RP6/1 5RP7/1	良好	密	
33	2	310,342 ～344	加工段 3-5	須恵器	坏身	約 4/5	15.0	4.1	9.2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	10Y6/1 10Y6/1	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
33	3	303	加工段 3-5	須恵器	坏	小片		(1.2)		外：不明 内：不明	外：にぶい橙色 内：橙色	5YR7/4 5YR7/6	不良軟	密	
33	4	346	加工段 3-5	須恵器	坏	約 1/2	14.1	4.3	9.2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	5G6/1 5G6/1	良好	密	
33	5	304	加工段 3-5	須恵器	坏	小片		(3.3)	6.8	外：回転ナデ、底糸切り 内：回転ナデ	外：明紫灰色 内：紫灰色	5RP7/1 5RP6/1	良好	密	
33	6	345	加工段 3-5	須恵器	壺？	小片		(0.6)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5RP6/1	良好	密	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
33	7	307	加工段3-5	須恵器	坏	小片		(0.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	密	
33	8	230 231	加工段3-5	須恵器	横瓶	口縁部 約1/4	14.2	(7.8)		外：ナデ、格子タタキ 内：回転ナデ、同心円タタキ	外：青灰色 内：青灰色	10BG5/1 10BG6/1	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
33	9	309	加工段3-5	須恵器	横瓶	小片		(5.8)		外：格子タタキ 内：タタキ	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 N5/	良好	密	
33	10	褐色土層	加工段3-5	土師器	支脚	約4/5		15.6		外：ナデ 内：ナデ	外：橙色 内：橙色	7.5Y7/6 7.5Y7/6	良好	7㎜以下の砂粒を含む	
33	11	324	加工段3-5	土師器	小型甕	底部完形		(4.0)	5.0	外：ナデ？ 内：ナデ	外：橙色 内：橙色	5YR6/6 5YR6/6	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	底部外面にヘラ記号あり 手づくね土器
33	12	332	加工段3-5	土師器	甕	口縁部 1/4以下	(19.0)	(4.2)		外：ヨコナデ 内：不明	外：明黄褐色 内：明黄褐色	10YR6/6 10YR6/6	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
36	1	173	加工段5-1	須恵器	甕	小片		(5.2)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ、ハケ目	外：灰白色 内：灰白色	2.5Y7/1 2.5Y7/1	良好	密	
36	2	82	加工段5-1	須恵器	坏	底部小片		(2.2)	9.0	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5P6/1	良好	密	
41	1	561	加工段6	土師器	甕	頸部 1/4以下	(21.4)	(6.1)		外：ヨコナデ？ 内：ケズリ	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	7.5YR7/4 10YR7/4	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
41	2	表土 Pno.142	加工段6	須恵器	不明	小片		(6.7)		外：平行タタキ 内：不明	外：灰白色 内：灰白色	10Y8/2 10Y8/2	良好	密	
41	3	床面 Pno.480	加工段6	須恵器	不明	小片		(6.9)		外：タタキ 内：不明	外：灰白色 内：灰白色	5Y8/2 5Y8/2	良好	密	
44	1	埋土	加工段7-2	須恵器	蓋	小片	(11.0)	(2.3)		外：回転ナデ 内：回転ケズリ、回転ナデ	外：明緑灰色 内：緑灰色	10G7/1 5G6/1	良好	密	
44	2	埋土	加工段7-2	須恵器	坏蓋	小片	17.2	(5.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	
44	3	埋土	加工段7-2	須恵器	坏蓋	小片		(3.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG5/1 5BG5/1	良好	密	外側に自然釉が見られる
44	4	531	加工段7-2	須恵器	坏蓋	小片		(1.9)		外：ナデ 内：ナデ	外：灰色 内：灰白色	7.5Y6/1 10Y7/1	良好	密	外側に自然釉が見られる
44	5	654	加工段7-2	須恵器	約3/4	小片	11.0	(4.2)		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG6/1 5BG6/1	良好	密	
44	6	黒褐色 土層	加工段7-2	須恵器	坏	小片	10.8	(2.4)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG6/1 5BG6/1	良好	密	
44	7	536	加工段7-2	須恵器	坏	小片		(2.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	10GY7/1 10GY7/1	良好	密	
44	8	黒褐色 土層	加工段7-2	須恵器	坏	小片		(2.6)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	7.5GY6/1 7.5GY6/1	良好	密	
44	9	529	加工段7-2	須恵器	坏	約2/5	16.0	(5.0)		外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：紫灰色	5PB5/1 5P6/1	良好	密	
44	10	黒褐色 土層	加工段7-2	須恵器	高坏	約1/4		(4.5)		外：回転ケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗紫灰色	5P4/1 5P4/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
44	11	530	加工段7-2	須恵器	高坏	約4/5		(4.5)		外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	7.5GY8/1 7.5GY7/1	良好	密	
44	12	黒色土層	加工段7-2	須恵器	高坏	底部小片		(4.4)	10.8	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	10GY7/1 10GY7/1	良好	密	
44	13	黒色土層	加工段7-2	須恵器	高坏	脚部小片		(4.0)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	良好	密	
44	14	埋土	加工段7-2	須恵器	不明	小片		(4.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：明緑灰色	10Y7/2 10GY7/1	良好	密	外側に自然釉がみられる ヘラ記号？
44	15	褐色土層	加工段7-2	須恵器	不明	小片		(2.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗紫灰色	5RP4/1 5RP4/1	良好	密	
44	16	655	加工段7-2	須恵器	不明	小片		(5.6)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ	外：暗紫灰色 内：青灰色	5P4/1 5PB5/1	良好	密	
44	17	黒色土層	加工段7-2	須恵器	壺	約1/3		(11.7)		外：回転カキ目 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：紫灰色	5P4/1 5P6/1	良好	密	
44	18	659	加工段7-2	土師器	甕	口縁部 約1/6	20.6	(9.5)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
44	19	褐色土層 Pno.556	加工段7-2	土師器	甕	約1/3	17.0	(8.5)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：黄褐色 内：黄褐色	10YR5/6 10YR5/6	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
44	20	683	加工段7-2	土師器	甕	胴部 約1/4		(9.8)		外：不明 内：ヨコナデ、ケズリ	外：明赤褐色 内：にぶい黄橙色	5YR5/6 10YR6/4	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	外面にスス付着
44	21	558	加工段7-2	土師器	甕	口縁部 1/4以下	(19.6)	(5.0)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：赤褐色 内：赤褐色	5YR4/6 5YR4/6	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	内外面にスス付着
44	22	704	加工段7-2	土師器	甕	口縁部 小片	11.0	(2.3)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：暗紫灰色	5RP5/1 5RP4/1	良好	密	
44	23	黒色土層 Pno.528	加工段7-2	土師器	高坏	脚部		(5.2)	10.8	外：ナデ 内：ナデ	外：明黄褐色 内：明黄褐色	10YR7/6 10YR7/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
45	1	543	加工段7-2	土師器	把手または支脚	破片		(5.5)		外：不明 内：	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/4	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
45	2	埋土	加工段7-2	土師器	移動式竈	庇部分 1/4以上				外：ナデ 内：ナデ	外：橙色 内：明赤褐色	7.5YR6/6 5YR5/8	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
45	3	埋土	加工段7-2	土師器	移動式竈	焚口	(13.4)	(12.0)		外：不明 内：ケズリ	外：橙色 内：橙色	5YR6/6 5YR6/6	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
45	4	669	加工段7-2	土師器	移動式竈	焚口 底部片		(5.8)		外：ハケ目、ナデ 内：ナデ？	外：褐灰色 内：明赤褐色	7.5YR4/1 5YR5/6	不良	やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
45	5	553,672 673	加工段 7-2	土師器	移動式竈	炊き口 底部片		(17.7)		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	5YR5/8 5YR5/8	不良	粗（7㎜以下の砂粒を含む）	
48	1	8 層	加工段 8-1	須恵器	蓋	小片		(2.0)		外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗赤灰色 内：赤灰色	5R4/1 5R6/1	良好	密	
48	2	8 層	加工段 8-1	須恵器	蓋	小片	(9.4)	(2.6)	(2.0)	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G5/1 10G6/1	良好	密	
48	3	8 層	加工段 8-1	須恵器	坏蓋	小片		(2.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	密	
48	4	732	加工段 8-1	須恵器	高坏	脚部 約 1/3		(8.5)	11.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	7.5GY7/1 10GY8/1	良好	密	
48	5	6 層	加工段 8-2	須恵器	坏蓋	小片		(2.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明紫灰色 内：紫灰色	5RP7/1 5P6/1	良好	密	
48	6	6 層 Pno.492	加工段 8-2	須恵器	坏蓋	蓋 約 1/2	12.0	2.3		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明オリーブ灰色 内：灰白色	2.5GY7/1 5GY8/1	良好	密	
48	7	6 層 Pno.501	加工段 8-2	須恵器	坏蓋	1/2 以上		(1.4)		外：ナデ 内：ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	7.5GY6/1 7.5GY5/1	良好	密	
48	8	6 層	加工段 8-2	須恵器	高坏	小片		(2.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P5/1 5P5/1	良好	密	
48	9	6 層	加工段 8-2	須恵器	高坏	小片		(1.6)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：赤灰色 内：紫灰色	5R6/1 5RP5/1	良好	密	
48	10	6 層 Pno.503	加工段 8-2	須恵器	壺	約 1/3		(7.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰黄色 内：明緑灰色	2.5YR7/2 10G7/1	良好	密	
48	11	6 層	加工段 8-2	須恵器	高坏	破片		(4.0)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G5/1 10G6/1	良好	密	
48	12	793	加工段 8-2	土師器	甕	口縁部 1/6 以下				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
48	13	500	加工段 8-2	土師器	移動式竈	口縁部 1/8 以下		(6.4)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：黄橙色 内：橙色	10YR8/6 7.5YR7/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
48	14	6 層 Pno.505	加工段 8-2	土師器	甑	口縁部 1/6 以下	(31.4)	(12.2)		外：ナデ、ハケ目、ミガキ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい褐色 内：橙色	7.5YR5/3 7.5YR6/6	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
48	15	724	加工段 8-2	土師器	甑？	口縁部 1/8 以下		(9.0)		外：ヨコナデ、指頭圧痕 内：ヨコナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
48	16	494	加工段 8-2	土師器	甕	口縁部 1/8 以下	(20.0)	13.5		外：ナデ、指頭圧痕 内：ナデ、ケズリ後ナデ	外：にぶい褐色 内：橙色	7.5YR5/4 5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
48	17	498	加工段 8-2	土師器	支脚	1/2 以上		(14.5)		外：ナデ 内：	外：橙色 内：	5YR6/8	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
51	1	193	加工段 10	須恵器	坏蓋	約 1/4	16.1	2.9	(4.9)	外：つまみ回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 7.5Y6/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
51	2	618	加工段 10	須恵器	坏蓋	約 1/3	15.4	2.5		外：回転ヘラケズリ、ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 7.5Y6/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
51	3	褐色土層	加工段 10	須恵器	坏	小片		(2.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明オリーブ灰色 内：明オリーブ灰色	2.5GY7/1 2.5GY7/1	良好	密	
51	4	褐色土層	加工段 10	須恵器	高坏	小片		(3.4)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG6/1 5B6/1	良好	密	
51	5	褐色土層	加工段 10	須恵器	壺	口縁部 小片	14.8	(4.3)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P5/1 5P5/1	良好	密	
51	6	637	加工段 10	須恵器	甕か提瓶	小片		(4.4)		外：平行タタキ後カキ目 内：同心円タタキ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
51	7	628	加工段 10	須恵器	甕か提瓶	破片		(7.8)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ	外：灰白色 内：にぶい黄橙色	5Y7/1 10YR7/4	不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
51	8	619	加工段 10	須恵器	甕か横瓶	破片		(8.5)		外：格子平行タタキ 内：同心円タタキ	外：灰白色 内：にぶい黄橙色	5Y7/1 10YR7/4	不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
51	9	610	加工段 10	土師器	坏	約 1/4	9.5	(4.7)	6.5	外：ナデか指頭圧痕 内：指頭圧痕？	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	手づくね土器
51	10	626	加工段 10	土師器	甕	頸部約 1/6		7.2		外：ナデ？ 内：ケズリ後ナデか指頭圧痕	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR5/4 7.5YR5/4	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む	
51	11	611	加工段 10	土師器	甕	口縁部 1/6 以下	(25.4)	(3.3)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：橙色 内：橙色	7.5YR7/6 7.5YR7/6	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
51	12	639	加工段 10	須恵器	甕	小片	19.4	(2.8)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	5G7/1 5G7/1	良好	密	
51	13	625	加工段 10	土師器	甕	口縁部 1/4 以下	(15.8)	(13.3)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：橙色 内：にぶい黄橙色	2.5YR6/6 10YR6/4	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
51	14	614	加工段 10	土師器	把手	破片		(4.0)		外：ナデ 内：	外：黒褐色 内：	2.5Y3/1	良好	密（3.5㎜以下の砂粒を含む）	
55	1	791	加工段 12	土師器	蓋	天部ほぼ完形		(1.7)	(6.0)	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄色	10Y6/4 7.5Y6/3	不良	やや粗	
55	2	805	加工段 12	土師器	低脚坏	脚部 1/2 以上		(4.2)		外：ナデ、ミガキ？ 内：ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	7.5YR6/4 7.5YR6/4	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
55	3	739	加工段 12	土師器	甑？	口縁部 約 1/4	(22.6)	(5.6)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
55	4	801,802 804	加工段 12	土師器	塊	約 5/6	8.0	7.0	7.5	外：ケズリ後ナデ、指頭圧痕 内：ケズリ後ナデ、指頭圧痕	外：橙色 内：橙色	5YR6/6 5YR6/6	良好	密（３㎜以下の砂粒を含む）	手づくね
55	5	803	加工段 12	土師器	甕	破片		(7.8)		外：ナデ 内：ヘラケズリ	外：浅黄色 内：明赤褐色	2.5Y7/4 5YR5/6	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
59	1	837	加工段 13	須恵器	坏	小片		(1.8)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR7/4	良好	密	
59	2	786	加工段 1 3	須恵器	高坏	小片		(1.9)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
59	3	838	加工段13	須恵器	甕	小片		(2.0)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	
59	4	891	加工段13	須恵器	甕	小片		(5.3)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ	外：灰白色 内：にぶい黄橙色	5Y7/1 10YR7/4	不良	1㎜以下の砂粒を含む	
59	5	864	加工段13	須恵器	横瓶	破片		(11.0)		外：平行タタキ後カキ目 内：同心円タタキ後ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5B5/1 5B6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
59	6	865	加工段13	須恵器	甕または横瓶	破片		(6.2)		外：平行タタキ 内：同心円タタキ後ナデ？	外：青灰色 内：青灰色	5B5/1 5B6/1	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	
59	7	885	加工段13	土師器	塊	口縁部1/4以下	(11.6)	4.6		外：ナデ 内：ナデ	外：明黄褐色 内：橙色	10YR6/8 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	赤色顔料塗布
59	8	845	加工段13	土師器	低脚坏	底部1/4以下 脚部1/2以下		(6.0)	(9.0)	外：ナデ 内：ナデ	外：明黄褐色 内：明黄褐色	10YR6/6 10YR7/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
59	9	835 321	加工段13	土師器	甑	約1/3	25.4	(14.3)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	5YR6/6 5YR6/6	良好	4㎜以下の砂粒を含む	
59	10	854	加工段13	土師器	把手	破片		(7.0)		外：ナデ 内：ナデ	外：明赤褐色 内：橙色	5YR5/6 5YR6/6	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
62	1	840	加工段14	須恵器	坏蓋	小片	11.2	2.4		外：回転ヘラケズリ後回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	5Y6/1 10Y6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
65	1	999	加工段15	須恵器	甕？	小片		(4.9)		外：平行タタキ、カキ目 内：同心円タタキ	外：暗青灰色 内：青灰色	10BG4/1 10BG5/1	良好	密	
65	2	983	加工段15	土師器	移動式竈	焚口片？	(9.0)	(6.7)		外：ナデ 内：ヘラケズリ	外：赤褐色 内：赤褐色	5YR4/6 2.5YR4/6	不良	粗（6㎜以下の砂粒を含む）	
65	3	942	加工段15	土師器	支脚	1/2以上		(11.7)		外：ナデ 内：ナデ	外：橙色 内：橙色	5YR6/8 5YR6/8	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
75	1	1032	加工段16-1	土師器	蓋	約1/2	14.6	3.9		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰褐色 内：にぶい黄橙色	7.5YR5/2 10YR6/3	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	須恵器の模倣品
75	2	1046	加工段16-1	須恵器	蓋	小片		(1.7)		外：回転ヘラケズリ後回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：灰色	5B5/1 7.5Y6/1	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
75	3	埋土	加工段16-1	土師器	坏	小片		(3.4)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：黄灰色 内：黄灰色	2.5Y5/1 2.5Y4/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
75	4	埋土	加工段16-1	土師器	甕	小片		(4.5)		外：ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ？	外：明赤褐色 内：にぶい黄褐色	5YR5/6 10YR5/3	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
75	5	埋土	加工段16-1 Pit179	土師器	支脚	1/2以下		(8.15)		外：ナデ、指頭圧痕 内：	外：橙色 内：	2.5YR6/8	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
75	6	950	加工段16-2	須恵器	蓋？	小片		(1.5)		外：回転ヘラケズリ後回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5B5/1 5B5/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
75	7	980	加工段16-2	須恵器	蓋	小片	(14.2)	(0.6)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5B5/1 5B5/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
75	8	951	加工段16-3	土師器	移動式竈	体部片？		(6.3)		外：ナデ， 内：ヘラケズリ	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	7.5YR4/2 5YR4/6	不良	粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
75	9	954	加工段16-4	須恵器	短頸壺	約1/2	6.5	(4.5)		外：ナデ 内：ナデ	外：暗灰色 内：暗青灰色	N3/ 5B4/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
75	10	1050	加工段16-5	須恵器	坏蓋	1/2弱	(13.5)	1.9		外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰白色～灰色 内：灰色	5Y7/1～ 5Y5/1 5Y6/1	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
75	11	932	加工段16-5	須恵器	蓋	小片		(1.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	5Y6/1 5Y6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
75	12	941	加工段16-5	須恵器	不明	小片		(0.5)		外：回転ナデ、糸切り？ 内：回転ナデ	外：灰色 内：暗灰色	7.5Y6/1 N3/	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
75	13	933-1	加工段16-5	須恵器	高坏？	小片		(1.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：黄灰色 内：灰色	2.5Y6/1 5Y6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
75	14	933-2	加工段16-5	須恵器	坏身	小片		(1.1)		外：回転糸切り、回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/2 5Y7/2	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	
75	15	952	加工段16-5	須恵器	甕？	小片		(3.3)		外：格子タタキ 内：同心円タタキ	外：暗青灰色 内：青灰色	5BG4/1 5B6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
75	16	1030	加工段16-5	土師器	甕	小片		(2.6)		外：ナデのち一部指頭圧痕 内：ナデ、指頭圧痕	外：明赤褐色 内：明赤褐色	5YR5/6 5YR5/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
77	1	1091 他	加工段17	須恵器	坏蓋	完形	15.1	2.7		外：回転ナデ、回転糸切りつまみ回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	5B6/1 5B6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
77	2	1082	加工段17	須恵器	高台付坏	約3/5	13.5	4.3	7.8	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	10Y6/1 7.5Y6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
77	3	1086	加工段17	須恵器	高台付坏	約1/2		(1.6)	(9.5)	外：回転ナデ、回転糸切り？ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	
77	4	1088	加工段17	須恵器	坏身	ほぼ完形	13.0	3.8	12.2	外：回転ヘラケズリ、ナデ、回転糸切り 内：回転ヘラケズリ、回転ナデ	外：灰黄色 内：灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/2	不良	1㎜以下の砂粒を含む	
77	5	1097	加工段17	土師器	甕	小片		(4.2)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
77	6	1080	加工段17	土師器	甕	小片		(4.5)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：明褐色 内：明褐色	7.5YR5/6 7.5YR5/6	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
77	7	1070	加工段17	土師器	甑	約1/3	(16.7)	(9.8)		外：ナデ、指頭圧痕 内：ナデ、ケズリ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
77	8	1068	加工段17	土師器	甑	小片		(3.9)		外：ケズリのちナデ 内：ケズリ	外：明黄褐色 内：橙色	10YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	穿孔一カ所残る

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
81	1	埋土	加工段 18	須恵器	蓋	小片		(1.0)		外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y8/1 5Y8/2	良好	密	
81	2	埋土	加工段 18	須恵器	不明	小片		(1.5)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗褐色 内：緑灰色	10YR3/4 10G6/1	良好	密	自然釉が見られる
81	3	埋土	加工段 18	須恵器	不明	小片		(3.6)		外：カキ目 内：同心円タタキ	外：暗青灰色 内：青灰色	10BG4/1 10BG5/1	良好	密	
81	4	埋土	加工段 18	須恵器	不明	小片		(3.5)		外：平行タタキ、カキ目 内：同心円タタキ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G5/1 10G6/1	良好	密	
81	5	955	加工段 18	須恵器	不明	小片		(5.0)		外：格子タタキ、ナデ 内：同心円タタキ	外：緑灰色 内：緑灰色	5G5/1 5G6/1	良好	密	
81	6	1154	加工段 18	土師器	移動式竈	口縁部 約 1/8	(24.7)	(6.3)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	外：灰黄褐色 内：にぶい橙色	10YR5/2 7.5YR6/4	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
81	7	1145	加工段 18	土師器	甕	小片				外：ナデ、ケズリ後ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：明黄褐色 内：橙色	10YR7/6 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	外面スス付着
81	8	1137	加工段 18	土師器	移動式竈	約 1/4	(27.6)	(9.0)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	7.5YR6/4 7.5YR6/4	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
81	9	1162	加工段 18	土師器	移動式竈	口縁部 約 1/6	(25.0)	(10.5)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ後ナデ	外：橙色 内：橙色	7.5YR6/6 5YR6/8	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
81	10	1141	加工段 18	土師器	移動式竈	小片		(10.4)		外：ハケ目、ナデ？ 内：ケズリ、ナデ	外：明黄褐色 内：橙色	10YR6/6 7.5YR6/6	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
81	11	1034 1035	加工段 18	土師器	竈	体部片	(23.1)	(23.0)		外：不明 内：ナデ？	外：明赤褐色～明褐色 内：明赤褐色～明褐色	5YR5/6 ～ 7.5YR5/6 5YR5/6 ～ 7.5YR5/6	不良	粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
85	2	1031	集石土坑	陶器	二彩鉢	約 1/2		(5.2)	(11.0)	ロクロ成形 灰釉、鉄釉	外：暗赤褐色 内：灰黄褐色	2.5YR3/2 10YR5/2	良好	密	肥前系
85	5	1055	集石土坑	陶器	鉄釉壺	約 1/3		(9.7)		ロクロ成形 鉄釉	外：黒褐色 内：にぶい黄橙色	2.5Y3/1 10YR6/3	良好	密	肥前系
88	1	黒色土層	1-2 区	縄文土器	深鉢または鉢	底部 約 1/3		(1.2)	9.4	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい橙色 内：褐灰色	7.5YR6/4 7.5YR5/1	良好	4㎜以下の砂粒を含む	
88	2	黒色土層	1-2 区	縄文土器	深鉢または鉢	小片		(2.3)	(13.6)	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/4 10YR7/3	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
88	3	黒色土層	1-2 区	弥生土器	甕	口縁部 小片		(3.7)		外：ナデ 内：ナデ	外：暗緑灰色 内：にぶい黄橙色	10G3/1 10YR7/4	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
88	4	黒色土層	1-2 区	弥生土器	甕	口縁部 約 1/3		(3.8)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：暗緑灰色	10YR7/3 10GY3/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
88	5	黒色土層	1-2 区	弥生土器	甕	口縁部 小片		(3.0)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/4 10YR7/3	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
88	6	黒色土層	1-2 区	土師器	甕	口縁部 小片		(4.3)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：淡黄色 内：淡黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
88	7	黒色土層	1-2 区	土師器	甕	口縁部 小片		(5.6)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	10YR8/3 10YR8/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
88	8	黒色土層	1-2 区	土師器	甕	口縁部 小片	19.4	(4.7)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：黄褐色 内：黄褐色	2.5Y5/4 2.5Y5/4	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
88	9	黒色土層	1-2 区	土師器	甕	口縁部 小片	19.4	(7.5)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ケズリ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/3	良好	密	
88	10	黒色土層	1-2 区	土師器	甕？	破片	(30.0)	(16.9)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ヘラケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/4 10YR7/4	良好	密	
88	11	黒色土層	1-2 区	土師器	甕？	約 1/4	17.2	(13.5)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ケズリ	外：黄褐色 内：黄褐色	2.5Y5/3 2.5Y5/3	良好	密	
88	12	黒色土層	1-2 区	土師器	甕	口縁部 小片	17.0	(6.0)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ヘラケズリ	外：明緑灰色 内：にぶい褐色	10G3/1 7.5YR5/3	良好	密	炭化物付着
88	13	客土	1-2 区	土師器	甑	口縁部 小片		(7.5)		外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	外：灰白色 内：にぶい橙色	7.5YR8/2 7.5YR6/4	良好	密	
88	14	黒色土層	1-2 区	土師器	甑	口縁部 小片		(8.3)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ケズリ	外：褐灰色 内：褐灰色	10YR4/1 10YR4/1	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
88	15	礫層	1-2 区	土師器	高坏	小片		(5.2)		外：ケンマ 内：ケンマ	外：橙色 内：橙色	5YR6/6 5YR6/6	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	赤色顔料塗布
88	16	黒色土層	1-2 区	土師器	高坏	約 1/5	14.0	(6.0)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	7.5YR6/4 7.5YR6/4	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
88	17	黒色土層 Pno.1127	1-2 区	土師器	高坏	小片		(3.5)		外：磨滅が激しいため不明 内：ミガキ	外：にぶい橙色 内：明赤褐色	7.5YR6/4 5YR5/6	良好	密	赤色顔料塗布
88	18	黒色土層	1-2 区	土師器	高坏	底部 約 1/8		(7.5)	9.4	外：ミガキ 内：ナデ	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	10YR8/3 10YR8/3	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	赤色顔料塗布
88	19	黒色土層	1-2 区	土師器	高坏	底部 約 1/3		(6.6)	9.2	外：ナデ 内：ナデ	外：淡黄色 内：淡黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	赤色顔料塗布
88	20	黒色土層	1-2 区	土師器	高坏	脚部 約 1/3		(6.8)	(8.0)	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR7/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	赤色顔料塗布
88	21	1114	1-2 区	土製品	権	一部欠損		4.9	4.4 × 3.5	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/3	良好	砂粒を含まない	重量 75g
89	1	黒色土層	1-2 区	土師器	甑	把手		(4.7)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい黄色 内：オリーブ黄色	2.5Y6/3 5Y6/4	良好	密	
89	2	黒色土層	1-2 区	土師器	甑	把手		(5.0)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい褐色	7.5YR6/4 7.5YR5/3	良好	密	
89	3	表土	1-2 区	土師器	甑	把手		(4.8)		外：ナデ、ハケ目 内：ケズリ	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y8/2 7.5Y8/2	良好	密	
89	4	黒色土層	1-2 区	土師器	甑	把手		(5.6)		外：ナデ 内：ケズリ	外：灰白色 内：にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR6/4	良好	密	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
89	5	黒色土層 Pno.1123	1-2区	土師器	甑	把手		(9.8)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/3	良好	密	
89	6	黒色土層	1-2区	土師器	甑	把手		(6.7)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR6/4	良好	密	
89	7	黒色土層	1-2区	土師器	甑	把手		(7.3)		外：ナデ、ハケ目 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR6/4	良好	密	
89	8	黒色土層	1-2-3区	土師器	甑	把手		(6.8)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR5/4 10YR6/4	良好	密	
89	9	黒色土層 Pno.1125	1-2区	土師器	甑	把手		(8.2)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/3	良好	密	
89	10	黒色土層	1-2-3区	土師器	甑	把手		(8.6)		外：ナデ、ハケ目 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/3 10YR6/3	良好	密	
89	11	黒色土層	1-2-3区	土師器	甑	把手		(10.0)		外：ナデ、ハケ目 内：ケズリ	外：にぶい黄色 内：にぶい黄色	2.5YR6/3 2.5YR6/3	良好	密	
89	12	黒色土層	1-2-3区	土師器	甑	把手		(7.8)		外：ナデ、ハケ目 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/3 10YR6/3	良好	密	
89	13	表採	1-2区	土師器	甑	把手		(6.7)		外：ナデ 内：ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR6/4	良好	密	
89	14	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	庇片		(5.6)		外：ナデ 内：ナデ、一部ハケ目	外：橙色 内：褐灰色	7.5Y6/6 7.5YR4/1	良好	やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
89	15	客土	1-2区	土師器	移動式竈	底部片？		(8.6)		外：ナデ 内：ヘラケズリ	外：橙色 内：にぶい赤褐色～にぶい橙	7.5YR6/6 5YR4/4～5YR7/4	やや不良	やや粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
90	1	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	庇片		(4.5)		外：ナデ 内：ナデ、一部ハケ目	外：にぶい橙色 内：にぶい褐色	7.5YR6/4 7.5YR5/4		やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
90	2	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	庇片		(8.5)		外：ナデ 内：ナデ	外：橙色 内：にぶい橙色～にぶい黄橙色	5YR6/6 7.5YR7/4～10YR7/3	やや不良	やや粗（5㎜以下の砂粒を含む）	黒斑あり
90	3	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	焚口片		(12.9)		外：タテハケ目後ナデ 内：ヨコヘラケズリ	外：にぶい橙色 内：浅黄橙色	7.5Y7/4 7.5Y8/3	良好	やや密（3㎜以下の砂粒を含む）	
90	4	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	底部片		(7.0)		外：ナデ 内：ヨコヘラケズリ	外：浅黄橙色～にぶい黄橙色 内：浅黄橙色～にぶい黄橙色	10YR8/3～10YR7/3 10YR8/3～10YR7/3	良好	やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
91	1	黒色土層	1-2区	土師器	支脚	破片		(9.2)		外：ナデ 内：	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/4	良好	密	
91	2	1126	1-2区	土師器	支脚	破片		(8.5)		外：ナデ 内：	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/4	良好	密	
91	3	黒色土層	1-2区	土師器	支脚	約1/4		(14.3)		外：ナデ 内：	外：にぶい橙色 内：	7.5YR6/4	良好	密	
91	4	黒色土層	1-2区	土師器	支脚	底部 約1/4		(8.0)		外：ナデ 内：	外：浅黄色 内：	2.5Y7/4	良好	密	
91	5	黒色土層	1-2区	土師器	支脚	底部 約1/4		(9.8)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	10YR5/4 10YR5/4	良好	密	
91	6	1124	1-2区	土師器	支脚	底1/2 以下		(13.6)		外：ナデ 内：	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/3	良好	密	
92	1	黒色土層	1-2区	須恵器	坏蓋	小片	13.0	(3.3)		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：青灰色	5P5/1 5PB6/1	良好	密	
92	2	黒色土層	1-2区	須恵器	蓋	天井部 ほぼ完形		(1.0)		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5P6/1	良好	密	
92	3	黒色土層	1-2区	須恵器	坏蓋	小片		(1.3)		外：回転ナデ、底部糸切り 内：不明	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP5/1	良好	密	
92	4	黒色土層	1-2区	須恵器	坏蓋	約1/3	13.4	1.8		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	外側に自然釉が見られる
92	5	黒色土層	1-2区	須恵器	坏	約1/4	11.0	3.5		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	10BG5/1 10BG5/1	良好	密	
92	6	黒色土層	1-2区	須恵器	坏	小片	9.0	3.2		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG5/1 5BG6/1	良好	密	
92	7	黒色土層	1-2区	須恵器	低脚坏	底部		(2.4)		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	
92	8	黒色土層	1-2区	須恵器	高台付坏	小片	13.6	(3.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	10G7/1 10G7/1	良好	密	
92	9	黒色土層	1-2区 1-2区	須恵器	坏	底部 約1/2		(1.1)	10.6	外：回転ナデ、底部糸切り 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP6/1 5RP6/1	良好	密	
92	10	黒色土層	1-2区	須恵器	坏	底部		(2.6)	6.8	外：回転ナデ、底部回転糸切り 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	
92	11	黒色土層	1-2区	土師質土器	不明	底部 約1/2		(2.5)	7.6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/2 7.5Y7/2	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
92	12	黒色土層	1-2区	須恵器	坏	底部 小片		(3.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5P6/1	良好	密	
92	13	客土	1-2区	須恵器	高坏	小片	13.8	(5.0)		外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	10GY7/1 10GY7/1	良好	密	
92	14	1176	1-2区	須恵器	高坏	坏底部～脚部		(4.9)		外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色～灰赤 内：紫灰色	5P4/1～2.5YR4/2 5P5/1	やや不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
92	15	黒色土層	1-2区	須恵器	高坏	坏底部～脚部		(2.8)		外：回転ケズリ、ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：青灰色	5P5/1 5PB5/1	良好	密	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
92	16	黒色土層	1-2区	須恵器	不明	小片		(5.8)		外：回転カキ目 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG5/1 5BG6/1	良好	密	
92	17	黒色土層	1-2区 1-2区	須恵器	壺	底部 約1/3		(3.4)	8.0	外：ハケ目、底部糸切り 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5P6/1 5P6/1	良好	密	底部外面にヘラ記号あり
92	18	黒色土層	1-2区 1-2区	須恵器	壺	底部 約1/2		(3.1)	8.0	外：回転ナデ、底部糸切り 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	10BG5/1 10BG5/1	良好	密	
92	19	黒色土層	1-2区	須恵器	壺	小片		(6.6)	4.6	外：タタキ、ナデ、底部ケズリ 内：回転ナデ、ナデ	外：緑灰色 内：明緑灰色	10G6/1 10G7/1	良好	密	
92	20	黒色土層	1-2区	須恵器	甕	肩部片		(4.7)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP5/1	良好	密	
93	1	黒色土層	1-2区	須恵器	壺	小片		(4.1)		外：回転ナデ 内：タタキ、回転ナデ	外：暗青灰色 内：青灰色	5BG4/1 5BG5/1	良好	密	外側に自然釉が見られる
93	2	客土	1-2区	須恵器	甕か壺	小片		(7.5)		外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG5/1 5BG6/1	良好	密	自然釉が見られる
93	3	黒色土層	1-2区	須恵器	甕	小片		(6.3)		外：回転ナデ 内：回転ナデ、同心円タタキ	外：青灰色 内：青灰色	5BG5/1 5BG5/1	良好	密	
93	4	黒色土層	1-2区	須恵器	壷	約1/4		(4.3)	12.6	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP6/1 5RP6/1	良好	密	
93	5	黒色土層	1-2区	須恵器	壺	小片		(4.7)		外：回転ナデ、格子タタキ 内：回転ナデ、同心円タタキ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G5/1 10G5/1	良好	密	
93	6	黒色土層	1-2区	須恵器	短頸壺	小片	7.2	(5.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5BG6/1 5BG6/1	良好	密	
93	7	1130	1-2区	須恵器	壷	約1/2		(5.3)	5.4	外：回転ナデ、底部静止糸切り 内：回転ナデ	外：明緑灰色 内：明緑灰色	10GY7/1 10GY7/1	良好	密	
93	8	黒色土層	1-2区	瓦質土器	壺	口縁部 小片	17.0	(6.7)		外：ハケ目、回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗青灰色 内：暗青灰色	10BG4/1 10BG4/1	良好	密	いぶし
93	9	黒色土層	1-2区	瓦質土器	壺	口縁部 小片	17.0	(5.5)		外：ハケ目、回転ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：暗青灰色	5BG6/1 5BG4/1	良好	密	いぶし
93	10	排土	1-2区	磁器	青磁碗	底部 ほぼ完形		(1.9)	5.6	ロクロ成形 青磁	外：灰オリーブ色 内：灰オリーブ色	7.5Y5/2 7.5Y5/2	良好	密	龍泉窯？ 文字印刻
93	11	黒色土層	1-2区	陶器	絵唐津鉢	破片	(37.2)	(5.5)		ロクロ成形 灰釉、鉄釉	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/3	良好	密	肥前系、笹文
94	1	表採	2区	土師器	支脚	底部 約2/3		(11.5)	11.2	外：ナデ 内：ナデ	外：橙色 内：明黄褐色	7.5YR7/6 10YR6/6	良好	1.2㎜以下の砂粒を含む	
94	2	978	2区	土師器	移動式竈	庇片	(8.9)	(12.0)		外：ナデ 内：ナデ	外：明赤褐色 内：明褐色	5YR5/6 7.5YR5/6	不良	粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
94	3	1023	2区	土師器	移動式竈	体部～ 底部片		(20.0)		外：ハケ目 内：ヘラケズリ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	5YR5/6 5YR5/6	不良	粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
94	4	744	2区	土師器	移動式竈	焚口片	(8.5)	(10.0)		外：ナデ 内：ヘラケズリ？	外：にぶい褐色 内：明赤褐色	7.5YR5/4 5YR5/8	良好	やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
95	1	1002	2区	土師器	移動式竈	焚口 底部片		12.2		外：ヘラケズリ 内：ナデ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	5YR5/8 5YR5/8	不良	粗（7㎜以下の砂粒を含む）	
95	2	1023	2区	土師器	移動式竈	焚口片	(8.4)	(9.6)		外：ナデ 内：ヘラケズリ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	5YR5/6 2.5YR5/6	不良	やや粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
95	3	740	2区	土師器	移動式竈	炊き口 底部片	(9.4)	(11.3)		外：ナデ 内：ヘラケズリ	外：褐色 内：赤褐色	7.5YR4/4 5YR5/6	良好	やや密（7㎜以下の砂粒を含む）	
95	4	黒色土層	1-2区	土師器	移動式竈	破片		(6.3)		外：ナデ 内：ケズリ	外：浅黄色 内：浅黄色	7.5Y7/3 7.5Y8/2	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
96	1	褐色土層 Pno.376	1区	須恵器	高台付坏	底部 小片		(1.9)		外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	7.5GY6/1 7.5GY6/1	良好	密	
96	2	161	1区	須恵器	高台付坏	底部 約1/6		(3.1)	9.2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	密	
96	3	1174	2区	須恵器	坏	口縁 約1/4	16.0	4.4	11.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10GY6/1 10GY6/1	良好	密	
96	4	表土	1区	陶器	壷	底 約1/4		(1.5)	(8.4)	ロクロ成形、板起し 錆釉、貼付底	外：にぶい赤褐色 内：にぶい黄橙色	5YR5/3 10YR6/4	良好	密	肥前系
96	5	97	1区	陶器	灰釉皿	底 約4/5		(1.7)	4.6	ロクロ成形 灰釉	外：浅黄色 内：オリーブ黄色	2.5Y7/3 5Y6/3	良好	密	肥前系
96	6	表採	2区	磁器	染付皿	小片		(1.7)	(5.4)	ロクロ成形 呉須、透明釉	外：灰白色 内：灰白色	5Y7/1 5Y7/1	良好	密	肥前系、菊花文
96	7	表採	1区	陶器	砂目皿	底 約1/4		(1.1)	(4.4)	ロクロ成形	外：にぶい黄橙色 内：赤褐色	10YR7/3 2.5YR4/8	良好	密	肥前系
96	8	137	1区	陶器	砂目皿	底部完形		(2.7)	3.7	ロクロ成形 藁灰釉	外：淡黄色 内：灰白色	2.5Y7/4 5Y8/2	良好	密	肥前系
96	9	表採	2区	磁器	青磁皿	底部 約1/3		(2.0)		ロクロ成形 青磁釉	外：オリーブ黄色 内：オリーブ黄色	5Y6/3 5Y6/3	良好	密	肥前系 波佐見葉文
96	10	黒色土層	2区	磁器	染付碗	小片	(10.4)	(5.8)		ロクロ成形 呉須付、透明釉	外：明青灰色 内：明青灰色	10BG7/1 10BG7/1	良好	密	肥前系、荒磯文
96	11	表土	1区	陶器	香炉	底部 約1/2		(2.2)	(5.6)	ロクロ成形 灰釉	外：オリーブ灰色 内：にぶい黄橙色	2.5GY6/1 10YR6/3	良好	密	
96	12	表採	1区	磁器	徳利？	底部 ほぼ完形		(1.2)	6.0	ロクロ成形 透明釉	外：明緑灰色 内：灰白色	7.5GY8/1 7.5Y8/1	良好	密	肥前系
96	13	99	1区	陶器	鉄釉碗	底部完形		(2.2)	4.5	ロクロ成形 鉄釉	外：橙色 内：暗褐色	5YR6/6 10YR3/4	良好	密	肥前系
96	14	表土	1区	磁器	青磁皿	小片		(2.2)	6.2	ロクロ成形 回青、透明釉	外：明緑灰色 内：明緑灰色	5G7/1 5G7/1	良好	密	景徳鎮

第 6 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（石器）

挿図	番号	層位・Pno.	出土地点	種　別	石　材	長径（cm）	短径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
85	1	1054	集石土坑 1	石臼			12.8	32.7	6000	
85	3	埋土	集石土坑 1	原石	玉髄	20.9	20.2	7.0	4050	
85	4	1052,1053 1057	集石土坑 2	石臼			9.0		12500	
93	12	黒色土層	1-2 区	不明		5.3	6.4	4.4	155	
93	13	黒色土層	1-2 区	磨石		11.5	9.6	6.1	997	

第 7 表　市井深田遺跡出土遺物観察表（木製品）

挿図	番号	層位・Pno.	出土地点	品　目	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	樹種	備　考
96	15	黒色土層 Pno.734	1 区	下駄	18.2	10.2	2.3	不明	

第 8 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（土器）

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
113	1		B-7	縄文土器	深鉢	小片		(4.7)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	10YR6/3 10YR4/1	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	縁帯文成立期 外側に沈線文
113	2		A-3	縄文土器	不明	小片		(3.3)		外：不明 内：不明	外：浅黄色 内：黄灰色	2.5Y7/3 2.5Y6/1	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	福田 K2 式併行期
113	3		B-5	縄文土器	深鉢または鉢	小片		(3.4)		外：ナデ？ 内：ナデ？	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	10YR4/2 10YR5/3	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	縁帯文成立期 沈線文
113	4		B-5	縄文土器	不明	小片		(3.1)		外：不明 内：ナデ	外：褐灰色 内：灰黄褐色	10YR4/1 10YR5/2	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	縁帯文成立期 沈線文
113	5		B-3	縄文土器	深鉢	小片		(3.6)		外：不明 内：不明	外：にぶい黄橙色 内：黒色	10YR5/3 10YR2/1	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	福田 K2 式併行期
113	6		C-7	縄文土器	深鉢	小片		(5.6)		外：二枚貝条痕 内：二枚貝状痕	外：にぶい黄橙色 内：褐灰色	10YR6/4 10YR4/1	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
113	7		E-3	縄文土器	深鉢	小片		(6.8)		外：条痕 内：ナデ	外：黒褐色 内：橙色	7.5YR3/1 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
113	8		B-4	縄文土器	深鉢	小片		(7.5)		外：ナデ 内：ナデ	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	10YR6/2 10YR6/2	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
113	9		C-7	弥生土器	甕	破片		(8.0)		外：ナデ、ハケ目 内：ハケ後ナデ	外：浅黄～灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	2.5Y7/3 ～ 10YR6/2 10YR7/2	良好	やや粗（3.5㎜以下の砂粒を含む）	外面にスス付着
113	10		A-3	弥生土器	甕	約 1/5	(18.5)	(8.3)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ？	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	10YR6/2 10YR6/2	良好	やや密（4㎜以下の砂粒を含む）	スス付着
113	11	14	1 区	弥生土器	甕	約 1/4	17.0	(14.2)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ヘラケズリ	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	10YR6/2 10YR6/2	良好	やや粗（3㎜以下の砂粒を含む）	内外面スス付着
113	12		B-6	弥生土器	甕	約 1/6	18.2	(4.4)		外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR6/3	良好	やや密（4㎜以下の砂粒を含む）	
113	13		E-4	弥生土器	壺	約 1/6		(8.9)		外：ハケ目、ナデ 内：不明	外：浅黄色 内：灰白色	2.5Y7/3 2.5Y8/1	やや不良	やや粗（2㎜以下の砂粒を含む）	
113	14	21	B-5	弥生土器	壺	底部約 1/3		(2.7)	(12.8)	外：不明 内：ナデ？	外：灰白色 内：にぶい橙色	10YR8/2 7.5YR6/4	やや不良	粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
113	15		B-4	弥生土器	甕	底部約 1/3		(5.0)	(8.8)	外：タテハケ目 内：不明	外：灰黄色 内：浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	良好	やや密（5㎜以下の砂粒を含む）	
113	16	8	C-4	弥生土器	甕または鉢	約 1/4		(7.3)	(7.4)	外：ハケ目 内：ミガキ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/3	良好	6㎜以下の砂粒を含む	内面に赤色顔料塗布
114	1		C-6	土師器	甕	口縁部小片		(5.0)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y8/2 7.5Y8/2	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
114	2		D-4	土師器	甕	破片		(10.7)		外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ	外：褐灰色 内：にぶい橙色	7.5YR4/1 7.5YR7/4	良好	やや密（3㎜以下の砂粒を含む）	外面全体にスス付着
114	3		A-4	土師器	甕	破片		(7.8)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、体部はヘラケズリ	外：灰黄褐色 内：褐灰色	10YR4/2 10YR4/1	良好	やや粗（2㎜以下の砂粒を含む）	
114	4		B-4	土師器	甕	口縁部約 1/6	(18.8)	(8.6)		外：ナデ、ハケ目後ナデ 内：ナデ、体部はヘラケズリ	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄橙色	10YR5/3 10YR6/3	良好	やや粗（5㎜以下の砂粒を含む）	
114	5		B-3	土師器	壺	約 1/4		(9.0)		外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	10YR7/2 10YR6/2	良好	5㎜以下の砂粒を含む	
114	6		E-5	土師器	甕	約 1/3	26.0			外：ナデ 内：ナデ	外：明橙色 内：橙色	7.5YR5/6 7.5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	外面全体にスス付着
114	7	12	C-4	土師器	甕	約 1/4	15.0			外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ヘラケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい褐色	10YR7/2 7.5YR6/3	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	外面にスス付着
114	8	72	E-5	土師器	甕	約 1/4	28.6			外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	外：にぶい褐色 内：明褐色	7.5YR5/4 7.5YR5/6	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	外面スス付着
114	9	80	E-4	土師器	甕	口縁部約 1/2 体部完形	(13.5)	14.1		外：ナデ、ヘラケズリ 内：ナデ、ヘラケズリ	外：にぶい橙色 内：橙色	7.5YR7/4 5YR6/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
114	10		2 区	土師器	甕	口縁部約 1/4	34.1	8.7		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	7.5YR7/4 10YR7/4	良好	密（7㎜以下の砂粒を含む）	内面スス付着
114	11		E-2	土師器	甑	約 1/6		(7.0)		外：ナデ、ハケ目 内：摩滅により不明	外：明黄褐色 内：浅黄色	2.5Y7/6 5Y7/4	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
114	12	65	E-5	土師器	甕	約 2/3	21.4			外：不明 内：ヘラケズリ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	2.5YR5/8 2.5YR5/6	ややあまい	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
114	13		D-4	土師器	甑	小片		(6.4)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ケズリ	外：黄褐色 内：黄褐色	2.5Y5/4 2.5Y5/4	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
114	14		D-4	土師器	甑	把手		(8.5)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：黄褐色 内：にぶい黄色	2.5Y5/4 2.5Y6/4	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
115	1		D-4	土師器	移動式竈	口縁部（釜口）約 1/8	46.0	(20.3)		外：ヨコナデ、指頭圧痕 ケズリ後ナデ？ 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい橙色 内：明赤褐色	7.5YR6/4 5YR5/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
115	2		E-2	土師器	移動式竈	庇部 1/4 以下		(12.5)		外：ケズリ後一部ナデ 内：ケズリ	外：褐灰色 内：灰黄褐色	10YR4/1 10YR6/2	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	内外面スス付着
115	3		E-2	土師器	移動式竈	破片		(10.3)		外：ナデ 内：ケズリ	外：褐灰色 内：橙色	7.5YR4/1 7.5YR6/6	良好	7㎜以下の砂粒を含む	
115	4	造成土層	D-2	土師器	移動式竈	破片		(10.4)		外：ナデ 内：ケズリ	外：橙色 内：明赤褐色	5YR6/6 5YR5/6	良好	5㎜以下の砂粒を含む	
115	5	黒色土層	E-5	土師器	支脚	約 1/2		(10.5)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄色	10YR5/4 2.5Y6/3	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
115	6	造成土層	2 区	土師器	支脚	底部約 1/4		(8.4)		外：ナデ 内：ナデ	外：明黄褐色 内：にぶい黄橙色	10YR6/6 10YR6/4	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
116	1	6	C-4	土師器	高坏	坏底部～底部約 4/5		(7.7)	(5.9)	外：ハケ目、ナデ 内：ケズリ、ナデ	外：にぶい黄色 内：にぶい橙色	2.5YR6/4 7.5YR6/4	良好	1㎜以下の砂粒を含む	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
116	2		B-4	土師器	高坏	約2/3		(9.9)		外：ハケ目、ナデ 内：ケズリ、ナデ	外：にぶい橙色 内：浅黄橙色	7.5YR7/4 7.5YR8/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
116	3		A-3	土師器	器台	小片		(5.3)		外：摩滅により不明 内：摩滅により不明	外：灰オリーブ色 内：灰オリーブ色	5Y5/2 5Y5/2	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
116	4		B-3	土師器	高坏	小片		(5.6)		外：ハケ目、ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄色 内：にぶい橙色	2.5Y6/4 5YR6/4	良好	密	内外面に赤色顔料塗布
116	5		B-4	土師器	高坏	脚部		(5.2)	(10.3)	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR6/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	外面に赤色顔料塗布
116	6		A-3	土師器	高坏	脚部	(5.1)			外：ナデ、ハケ目 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄色	10Y6/3 2.5YR6/3	良好	3㎜以下の砂粒を含む	脚部に赤色顔料塗布
116	7		D-5	土師器	高坏	脚部 約1/2		(4.9)	7.2	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	2.5Y6/4 2.5Y6/4	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
116	8	黒色粘質土層 Pno.3	A-4	土師器	高坏	脚部		(7.1)	9.4	外：ナデ、ハケ目 内：ナデ	外：黄褐色 内：にぶい橙色	2.5Y5/4 7.5YR7/3	良好	5㎜以下の砂粒を含む	
116	9		B-3	土師器	壺	約2/3		(5.0)		外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/2	良好	7㎜以下の砂粒を含む	
116	10		B-5	土師器	小型壺？	小片	(9.6)	(5.8)		外：ヘラミガキ？ 内：ケズリ後ヨコナデ ヨコナデ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	2.5YR5/6 2.5YR5/6	良好	やや粗（2㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
116	11		B-4	土師器	坏	小片	15.4	(4.3)		外：ミガキ 内：ミガキ	外：明赤褐色 内：明赤褐色	2.5YR5/6 2.5YR5/6	良好	4㎜以下の砂粒を含む	
116	12	13	A-3	土師器	塊？	口縁部 1/2以上	(15.4)	(7.0)		外：ミガキ、ヨコナデ 内：ナデ、一部ミガキ？	外：明赤褐色～ 橙色 内：明赤褐色	2.5YR5/6～ 2.5YR6/6 2.5YR5/6	良好	密（0.5㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
116	13	20	C-5	土師器	坏	底部完形 口縁部 1/2以下	(13.8)	6.0	3.0	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ミガキ（暗文？）	外：橙色（赤彩） にぶい褐色（地色） 内：赤褐色	2.5YR6/6 7.5YR6/3 2.5YR4/8	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
116	14		C-5	土師器	坏底部？	小片		(1.6)		外：ケズリ 内：暗文	外：橙色 内：にぶい褐色	5YR6/6 7.5YR8/4	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
116	15		C-6	土師器	坏？	口縁部 1/4以下	(12.4)	(3.9)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、暗文	外：にぶい赤褐色 内：赤褐色	2.5YR5/4 5YR4/6	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
116	16	67	E-5	土師器	高台付坏	脚部		(3.2)	(9.7)	外：回転ナデ後粗いナデ？ 内：回転ナデ後粗いナデ？	外：浅黄色 橙色 内：浅黄橙色	2.5Y8/ 3.5YR7/8 7.5YR8/4	やや不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	外面に赤色顔料塗布
116	17	23	B-6	土師器	甑	把手小片				外：ナデ 内：	外：暗黄褐色 内：	10YR5/2	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
116	18		C-4	土師器	甑	把手小片				外：ナデ 内：	外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/4	良好	3㎜以下の砂粒を含む	
116	19	24	B-6	土製品	鏡模造品？	ほぼ完形		2.0			外：にぶい黄橙色 内：	10YR6/4	良好	砂粒含まず	7.1×3.9(cm) 重さ：40g
116	20		B-6	土師器	甕	約1/6	(4.2)	3.3		外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	7.5YR5/3 7.5YR6/3	良好	1㎜以下の砂粒を含む	手づくね甕
116	21		1区	須恵器	坏蓋	1/2以下	(9.8)	(2.8)		外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰黄褐色 内：褐灰色	10YR5/2 10YR6/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	内側に漆が付着、坏蓋をパレットに転用したもの
117	1		E-5	須恵器	蓋	小片	13.2			外：回転ケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP6/1 5RP6/1	良好	密	
117	2		E-4	須恵器	蓋	小片		(1.7)		外：回転ナデ 内：ナデ	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
117	3		E-2	須恵器	坏蓋	蓋 約1/2	16.0	3.2		外：回転ケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：緑灰色 内：緑灰色	10G6/1 10G6/1	良好	密	外面に自然釉が見られる
117	4		E-2	須恵器	坏蓋	約2/3	15.1	3.4	6.3	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	5Y8/1 5Y8/1	やや不良	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
117	5	18	C-5	須恵器	坏身	1/4以下	9.8	(4.8)		外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ、指頭圧痕	外：灰色 内：灰色	N5/ N5/	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
117	6		D-4	須恵器	坏	小片	12.0	2.9		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP6/1 5RP6/1	良好	密	外面に自然釉が見られる
117	7		E-6	須恵器	坏身	約2/3		(2.3)	(8.0)	外：回転ナデ 底部ヘラ切りっ離し 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/2	不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	内外面スス付着
117	8	造成土層	2区	須恵器	坏身	約2/3	12.6	4.0	8.4	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰 灰白色（口辺部） 内：灰 灰白色（口唇部）	N6/ 2.5Y8/1 N6/ 2.5Y8/1	不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
117	9	造成土層	2区	須恵器	坏	完形	10.0	3.7		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗灰色、灰色 内：褐灰色	N3/.N6/ 5YR5/1	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
117	10		D-5	須恵器	坏身	底部 約2/3		(1.6)	(6.8)	外：回転ナデ 底部ヘラ切り後粗いナデ 内：回転ナデ のぞき部指によるナデ	外：淡黄色 内：灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	不良	密（2.5㎜以下の砂粒を含む）	
117	11		B-5	須恵器	坏	小片			8.6	外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N5/ N4/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
117	12	造成土層 Pno.3	2区	須恵器	坏身	1/2以下	(11.6)	(2.1)	(8.0)	外：回転ナデ 底部回転ヘラ切後ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/～ 2.5Y8/1 N7/～ 2.5Y8/1	やや不良	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
117	13		D-4	須恵器	坏	1/2 以下	14.0	2.8	9.4	外：回転ナデ、底部静止糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N5/ N6/	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
117	14	造成土層	2 区	須恵器	坏	約 3/4	13.4	3.9	9.6	外：回転ナデ、静止糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	
117	15	50	E-5	須恵器	坏身	1/3 以上		(3.8)	(5.2)	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：黄灰色～にぶい黄橙色 内：黄灰	2.5Y6/1 ～ 10YR7/3 2.5Y5/1	不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
117	16	黒色土層 Pno.61	E-5	須恵器	坏身	1/4 以上	(12.0)	(4.9)	(6.6)	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：黄灰～灰黄	2.5Y7/1 2.5YR6/1 ～ 2.5Y7/2	やや不良	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	スス付着
117	17		E-5	須恵器	坏	約 1/2			6.6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
117	18		E-3	須恵器	高台付坏	約 3/5	15.2	5.1	9.2	外：回転ナデ 底部静止糸切り後ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（7㎜以下の砂粒を含む）	
117	19	造成土層（耕作土）	2 区	土師器	高台付坏	1/2 以上	(20.4)	5.8	(12.0)	外：摩滅、坏部ミガキ？ 内：摩滅、ナデ	外：橙色 内：高台部橙色	2.5YR7/8 2.5Y7/8	やや不良	2㎜以下の砂粒を含む	
118	1	黒色土層	D-5	須恵器	高台付坏	約 3/5			8.4	外：ヘラケズリ、回転ナデ 底部回転糸切り後ナデ 内：ヘラケズリ	外：灰色 内：灰色	5Y5/1 N6/	不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
118	2		D-6	須恵器	高台付坏	1/2 以上	14.6	5.5	8.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	良好	2㎜以下の砂粒を含む	
118	3	造成土層	2 区	須恵器	高台付坏	約 4/5	11.0	4.7	6.7	外：回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	良好	密	
118	4		D-5	須恵器	高台付坏	約 1/3	14.9	5.0	10.2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
118	5		E-6	須恵器	高台付坏	底部完形			6.0	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	やや不良	1㎜以下の砂粒を含む	
118	6		D-4	須恵器	高台付坏	約 1/2	11.6	3.9	8.0	外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰色	N7/ N6/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
118	7	造成土層	D-4	須恵器	高台付坏	約 3/4	16.1	4.2	9.0	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
118	8	69	D-6	須恵器	高台付坏	底部ほぼ完形	12.0	5.2	7.4	外：回転ナデ、底部回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N5/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	身込に自然釉付着
118	9		D-4	須恵器	高台付坏	約 3/4 底部ほぼ完形	15.0	4.1	11.2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰白色	N6/ 7.5Y7/1	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
118	10		D-4	須恵器	高坏	底部約 3/4		(6.7)	9.4		外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP5/1	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	自然釉がかかる
118	11	79	E-5	須恵器	高坏	底部ほぼ完形	16.0	11.3	10.0	外：回転ケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	外：紫灰色 内：紫灰色	5RP5/1 5RP6/1	良好	1㎜以下の砂粒を含む	自然釉が見られる
118	12	53	E-5	須恵器	高坏	底部ほぼ完形		(7.3)	10.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：青灰色	5RP4/1 5BG6/1	良好	密	外面、自然釉がかかる 内外面、透かしの名残がある
118	13	黒色粘質土層	1 区	須恵器	壺	口縁部 1/4 以下	(20.2)	(4.3)		外：回転ナデ、波状文 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
118	14		D-6 E-6	須恵器	短頸壺	口縁部 1/2 以下	(9.6)	(6.3)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/	良好	密（0.5㎜以下の砂粒を含む）	一部自然釉みられる
118	15	黒色土層	D-6	須恵器	平瓶	底部約 3/4			7.6	外：ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：褐灰色 内：褐灰色	7.5YR5/1 7.5YR6/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
118	16	74	2 区	須恵器	平瓶	底部約 1/2			7.4	外：ヘラケズリ、回転ナデ、カキ目 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N4/ N5/	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
118	17	51	E-5	須恵器	提瓶？	頸部約 1/2		(3.8)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	内外面薄く自然釉かかる
119	1	78	E-5	須恵器	高台付坏	底部ほぼ完形		(4.0)	8.8	外：回転ナデ 底部回転糸切り後ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
119	2		D-5	須恵器	壺	底部ほぼ完形		(1.7)	8.1	外：ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N5/ N5/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	ヘラ記号あり
119	3	55	D-5	須恵器	壺、甕、碗？	底部約 1/2		(6.7)	(8.4)	外：回転ナデ、底部カキ目 内：回転ナデ、のぞき部ハケ状工具によるナデ	外：浅黄橙色～明褐灰色 内：灰白色	7.5YR8/6 ～ 7.5YR7/1 10YR8/2	不良 生焼け	密（3㎜以下の砂粒を含む）	底部～底辺部スス付着
119	4	52	D-5	須恵器	壺	底部約 2/3			7.6	外：回転ナデ、ナデ？ 内：回転ナデ、ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N5/	やや不良	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
119	5		E-2	須恵器	壺	底部完形			12.4	外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ、ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	5㎜以下の砂粒を含む	
119	6		E-5	須恵器	坏	小片		(5.7)		外：回転ナデ？ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	やや不良	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
119	7	73	D-5	須恵器	壺	底部ほぼ完形			12.8	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：暗紫灰色 内：暗青灰色	5RP4/1 5PB4/1	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
119	8		D-4	須恵器	壺	底部約 1/5			17.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密（5㎜以下の砂粒を含む）	内面自然釉付着
119	9		D-5	土師質土器	皿	口縁部一部欠損ほぼ完形	6.8	2.0	5.1	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色～淡橙 内：灰白色～淡橙	2.5Y8/2 ～ 5YR8/3 2.5Y8/2 ～ 5YR8/3	良好	1.5㎜以下の長石粒を含む	

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
119	10	埋土	E-6 Pit07	土師質土器	皿	体部 約2/3 底部完形	8.6	2.2	4.6	外：回転ナデ、底部回転糸切り 内：回転ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	5YR7/4 7.5YR7/4	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
119	11	26	F-2	土師質土器	皿	口縁部 約3/4	8.9	2.0	4.3	外：回転ナデ、底部回転糸切り 内：回転ナデ	外：橙色 内：橙色	5YR7/6 5YR7/6	やや不良	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
119	12	61	E-5	土師質土器	埦	1/2以上	(19.1)	(7.4)	(9.1)	外：回転ナデ 底部ハケ目後ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色～浅黄橙色 内：灰白色～浅黄橙色	10YR8/3～7.5YR8/4 10YR8/2～7.5YR8/4	やや不良	密（3㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
119	13	包含層	2区	黒色土器	不明	底部 ほぼ完形		4.1	8.0	外：回転ナデ、回転糸切り 内：ミガキ	外：浅黄色 内：黒色	2.5Y8/3 N 1.5/	良好	密	
119	14	黒色粘質土層 Pno.1	B-4	土製品	羽口	1/2以上		(10.5)	10.8	外：指頭圧痕 内：底部ハの字状に開いてる	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/3	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
119	15	造成土層	2区	磁器	白磁皿	約1/6	(11.8)	3.2	(6.6)	ロクロ成形 透明釉	外：灰色 内：灰色	N6/ N6/	良好	密	中国 二次焼成
119	16	表採	2区 斜面	陶器	呉器手碗	約1/3		(5.0)	4.4	ロクロ成形 透明釉	外：にぶい黄色 内：にぶい黄色	2.5Y6/4 2.5Y6/4	良好	密	肥前系
119	17	35	F-4	陶器	陶胎染付碗	約1/3	(12.4)	8.0	5.4	ロクロ成形 呉須、白化粧土、透明釉	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 7.5Y6/1	良好	密	肥前系波佐見
120	1	造成土層	2区	磁器	青磁碗	小片				ロクロ成形 青磁釉	外：明オリーブ灰色 内：明オリーブ灰色	2.5Y7/1 2.5Y7/1	良好	密	龍泉窯 二重圏線
120	2		D-4	炻器	擂鉢	小片				ロクロ成形	外：灰色 内：灰色	5Y5/1 5Y6/1	良好	密	備前系
120	3		E-6	磁器	青磁碗	小片				ロクロ成形 青磁釉	外：灰オリーブ色 内：灰オリーブ色	7.5Y5/2 7.5Y5/2	良好	密	景徳鎮、蓮弁文
120	4		E-5	磁器	青磁碗	小片				ロクロ成形 青磁釉	外：灰オリーブ色 内：灰オリーブ色	7.5Y5/2 7.5Y5/2	良好	密	景徳鎮、蓮弁文
120	5		D-5	磁器	青磁碗	底部 1/2以上			5.8	ロクロ成形 青磁釉	外：オリーブ黄色 内：灰オリーブ色	5Y6/3 5Y6/2	良好	密	龍泉窯、文字印刻、硯に転用か
120	6		1区	磁器	青磁皿	底部 約1/3			(4.2)	ロクロ成形 透明釉、回青	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	良好	密	景徳鎮 略式文字
120	7		C-5	磁器	青花皿	底部 約1/3				ロクロ成形 透明釉、回青	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y8/1 7.5Y8/1	良好	密	景徳鎮、草花文
120	8	27	F-2	陶器	絵唐津碗	底部 約2/3	(11.2)	6.4	4.2	ロクロ成形 灰釉、鉄釉	外：灰黄色 内：灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y6/2	良好	密	肥前系
120	9	耕作土	1区	須恵器	壺、甕類	底部		(7.6)	(13.6)	外：ハケ目後ナデ？ 底部は静止糸切り後ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色～にぶい黄橙色	2.5YR8/1 10YR8/2～10YR7/2	不良生焼け	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
120	10	40	F-4	陶器	櫛目鉢	底部 約4/5			10.8	ロクロ成形 透明釉、白化粧土	外：にぶい褐色 内：灰オリーブ色	2.5Y5/4 5Y5/3	良好	密	肥前系

第 9 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（石器）

挿図	番号	層位・Pno.	出土地点	種　別	石　材	長径（cm）	短径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
120	11		A-4	石製品		26.0	17.6	14.9	11000	
121	1		C-7	石鏃未製品		1.0	1.6	0.3	0.7	先端欠損
121	2		C-5	二次加工のある剥片		2.7	4.2	0.8	9.8	
121	3		B-4	石核	碧玉	6.6	8.0	3.4	123.5	
121	4		A-4	石核（母石）	玉髄	16.3	12.1	11.0	1760	剥離作業面光沢あり
121	5		A-6	石核	玉髄	16.8	10.3	10.3	1859	

第 10 表　荒槇遺跡出土遺物観察表（木製品）

挿図	番号	層位・Pno.	出土地点	品　目	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	樹　種	備　考
122	1	板 4	SK2	板状木製品	65.7	18.6	3.1	杉	
122	2	板 3	SK2	板状木製品	65.0	19.1	3.8	杉	
122	3	板 1	SK2	板状木製品	50.0	25.1	2.4	杉	
122	4	板 2	SK2	板状木製品	53.4	16.0	2.8	杉	
123	1	板 5	SK1	板状木製品	63.6	24.9	2.8	杉	
123	2	板 7	SK1	板状木製品	39.0	13.5	3.0	杉	
123	3	板 6	SK1	板状木製品	27.3	26.3	2.5	杉	
123	4	暗オリーブ灰色土層	C-5	板状木製品	151.8	10.3	4.1	杉	
123	5	旧耕作土		木簡	13.2	3.8	0.8	杉	片面に墨書
123	6	旧耕作土		木簡	9.4	4.7	1.3	杉	両面に墨書
123	7		B-4	漆器（椀？）	2.6	2.4	0.6	杉	外面：黒漆塗布後赤漆で文様描く 内面：黒漆塗布後赤漆塗布

第 11 表　鈴見 B 遺跡出土遺物観察表（土器）

挿図	番号	層位 Pno.	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調		焼成	胎土	備考
128	1	6	C-4	弥生土器	壷	底部 ほぼ完形		(4.0)	6.0	外：ナデ 内：ナデ	外：灰黄色 内：にぶい黄	2.5Y6/2 2.5Y6/3	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
128	2		A-4	弥生土器	壷	肩部片		(7.3)		外：ヨコハケ目 内：ヘラミガキ？	外：にぶい黄褐色～灰黄褐色 内：にぶい黄褐色～灰黄褐色	10YR5/3 ～ 10YR5/2 10YR5/3 ～ 10YR5/2	良好	粗（3㎜以下の砂粒を含む）	
128	3		C-3	弥生土器	壷	約 1/6	(16.6)	(6.4)		外：ナデ、ハケ目 内：ナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内：にぶい黄橙色～灰黄褐色	10YR6/3 ～ 10YR6/3 10YR6/3 ～ 10YR6/3	不良	粗（2.5㎜以下の砂粒を含む）	
128	4		A-4	弥生土器	甕	小片		(2.7)		外：ヨコ ナデ、タテハケ目 内：ヨコナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/3	良好	やや粗（1㎜以下の砂粒を含む）	
128	5	黒色土層	A-4	弥生土器	甕または器台	破片		(5.6)		外：ヨコナデ、ハケ目 内：ヨコナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/3 10YR7/3	良好	やや密（2㎜以下の砂粒を含む）	
128	6		B-3	土師器	甕	口縁部 約 1/8 頸部 約 1/4	(17.4)	(5.3)		外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/3	良好	粗（2㎜以下の砂粒を含む）	
128	7	黒色粘質土層	A-3	弥生土器	器台？	約 1/6		(7.4)	(13.0)	外：ナデ 内：ナデ、一部ハケ、ケズリ	外：灰黄色 内：灰黄褐色	2.5Y7/2 10YR6/2	やや不良	やや粗（4㎜以下の砂粒を含む）	
128	8		B-4	土師器	甕	約 1/6	17.8	(6.4)		外：回転ナデ、ハケ目 内：回転ナデ、ケズリ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/3 10YR6/3	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
128	9	7	C-4	土師器	甕	約 1/6	14.2	(6.8)		外：回転ナデ、ハケ目後ナデ 内：回転ナデ、ハケ目、ケズリ	外：褐灰色 内：明黄橙色	10YR4/1 10YR6/6	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
128	10	排土	C-2	土師器	高坏	坏部 3/4	22.8	(7.4)		外：ハケ目、ミガキ、ナデ 内：ハケ目、ミガキ	外：灰黄色 内：灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
128	11		A-4	土師器	高坏	約 1/4	(14.2)	(5.1)		外：ハケ目、ナデ 内：ナデ、ミガキ	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	7.5YR7/3 10YR6/3	良好	やや密（2㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
128	12		A-3	土師器	坏	約 1/4	(11.6)	(5.3)		外：ナデ、ケズリ 内：ナデ，ミガキ	外：灰黄褐色 内：にぶい褐色	10YR6/2 7.5YR6/5	不良	やや密（1㎜以下の砂粒を含む）	内外面に赤色顔料塗布
128	13	灰褐色土		土師器	高坏	脚部 ほぼ完形		(5.5)	9.8	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい赤褐色 内：褐色	5YR5/3 5YR4/1	良好	密（8㎜以下の砂粒を含む）	
128	14	黒色土層	B-3	土師器	高坏	脚部のみ			10.4	外：ミガキ 内：ケズリ	外：にぶい橙色 内：灰褐色	5YR7/4 5YR5/2	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
128	15	2		土師質土器	坏	底部完形		(2.0)	6.0	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
128	16	黒色粘質土層	C-2	土師質土器	坏	底部 約 4/5	11.2	4.6	5.4	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：灰白色 内：にぶい黄橙	10YR8/2 10YR7/2	良好	密（6㎜以下の砂粒を含む）	
128	17	黒色粘質土層	D-2	土師質土器	坏	底部完形		(3.0)	6.4	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：浅黄橙色	10YR7/2 10YR8/3	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
129	1	5	B-4	土師器	把手	破片				外：ケズリ 内：ナデ	外：灰褐色 内：灰褐色	7.5YR5/2 7.5YR5/2	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
129	2	黒色土層	B-3	須恵器	坏	約 1/5	11.0	(2.2)		外：回転ナデ 内：回転ナデ	外：灰白色 内：灰白色	N7/ N7/	良好	1㎜以下の砂粒を含む	
129	3	黒色粘質土層	C-3	須恵器	高台付坏	底部 約 1/2	(13.2)	4.2	9.2	外：回転ナデ、貼付ナデ 内：回転ナデ	外：青灰色 内：青灰色	5PB5/1 5PB5/1	良好	密（4㎜以下の砂粒を含む）	
129	4			須恵器	蓋	約 1/4		(2.5)		外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：灰色 内：灰白色	N6/ N7/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
129	5	黒色粘質土層	C-2	須恵器	高坏	脚部 約 4/5		(10.7)	11.2	外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ、ナデ	外：灰色 内：灰白色	N6/ N8/	良好	密（2㎜以下の砂粒を含む）	
129	6			須恵器	甕	底部 約 1/4		(4.4)		外：平行タタキ、回転ナデ 内：ナデ、タタキ	外：青灰色～明青灰色 内：明青灰色～オリーブ灰色	5PB5/1 ～ 5PB7/1 5PB7/1 ～ 2.5GY5/1	良好	密（1.5㎜以下の砂粒を含む）	
129	7	黒灰粘質土層	A-3	土師器	皿	底部 約 3/4		(1.2)	5.0	外：回転糸切り、ナデ 内：回転ナデ	外：橙色 内：橙色	7.5YR7/6 7.5YR7/6	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）	
129	8	4	B-4	土師器	皿	ほぼ完形	9.0	2.0	4.4	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	10YR8/3 10YR8/3	良好	密（1㎜以下の砂粒を含む）	
129	9		C-3	陶器	呉器手碗	底部完形			4.2	ロクロ成形 透明釉	外：オリーブ黄色 内：オリーブ黄色	5Y6/3 5Y6/3	良好	密	肥前系
129	10		B-5	磁器	染付碗	底部 1/2 以上	10.0	5.9	4.4	ロクロ成形 呉須、透明釉	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	良好	密	若松文（コンニャク印判） 肥前系、波佐見

第 12 表　鈴見 B 遺跡出土遺物観察表（石器）

挿図	番号	層位・Pno.	出土地点	種　別	石　材	長径（cm）	短径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
129	11	造成土層	A-2	石核	黒曜石	3.2	2.2	1.3	9	
129	12	黒色土層	C-4	二次加工のある剥片	碧玉	4.7	3.5	1.5	17.9	
129	13	黒色粘質土層	C-2	石核またはハンマー	碧玉	6.3	4.7	4.5	99	一部に敲打痕あり
129	14	黒色土層	A-4	石核	黒曜石	5.6	4.7	2.5	70	
129	15	黒色粘質土層	C-2	石核	玉髄	11.5	8.7	4.2	529	
129	16	5	B-4	石核	碧玉	12.0	9.3	5.4	450	

1　市井深田遺跡を北側上空から望む

2　市井深田遺跡全景（上空から）

図版 2

1　市井深田遺跡を北西上空から望む

2　市井深田遺跡 1 区　近景

3　市井深田遺跡 2 区　近景

1　市井深田遺跡 1 区（上空から）

2　市井深田遺跡 2 区（上空から）

図版 4

1　市井深田遺跡 加工段 1 完掘状況

2　市井深田遺跡 加工段 2 完掘状況

1　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈（正面）

2　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈（横から）

3　市井深田遺跡 加工段 2-2 造り付け竈（断面）

4　市井深田遺跡 加工段 3-1 ～ 4・4-3 完掘状況

1　市井深田遺跡　加工段 3-5 完掘状況

2　市井深田遺跡　加工段 3-1・4-1 ～ 3 完掘状況

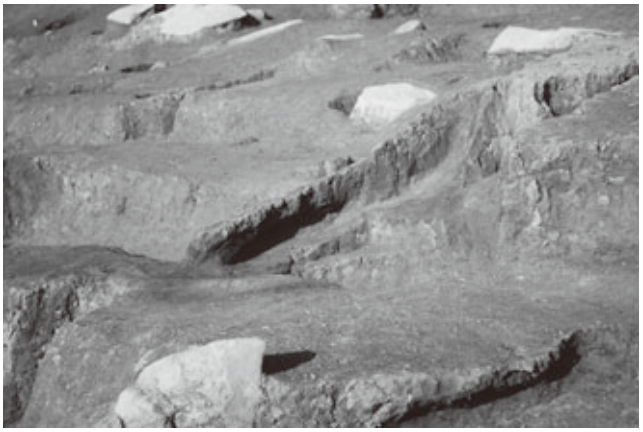
3　市井深田遺跡　加工段 3-1 焼土・加工段 4-1 造り付け竈・加工段 4-3 造り付け竈検出状況

1　市井深田遺跡 加工段 4-1 と加工段 4-3 の造り付け竈（正面）

2　市井深田遺跡 加工段 4-1 造り付け竈

4　市井深田遺跡 加工段 4-3 造り付け竈

3　市井深田遺跡 加工段 4-1 造り付け竈（側面）



5　市井深田遺跡 加工段 4-3 造り付け竈（側面）

1　市井深田遺跡　加工段 5 完掘状況

2　市井深田遺跡　加工段 6 造り付け竈検出状況

3　市井深田遺跡　加工段 6 造り付け竈（正面）

4　市井深田遺跡　加工段 6 造り付け竈（側面）

1　市井深田遺跡　加工段 6 完掘状況

2　市井深田遺跡　加工段 7 完掘状況

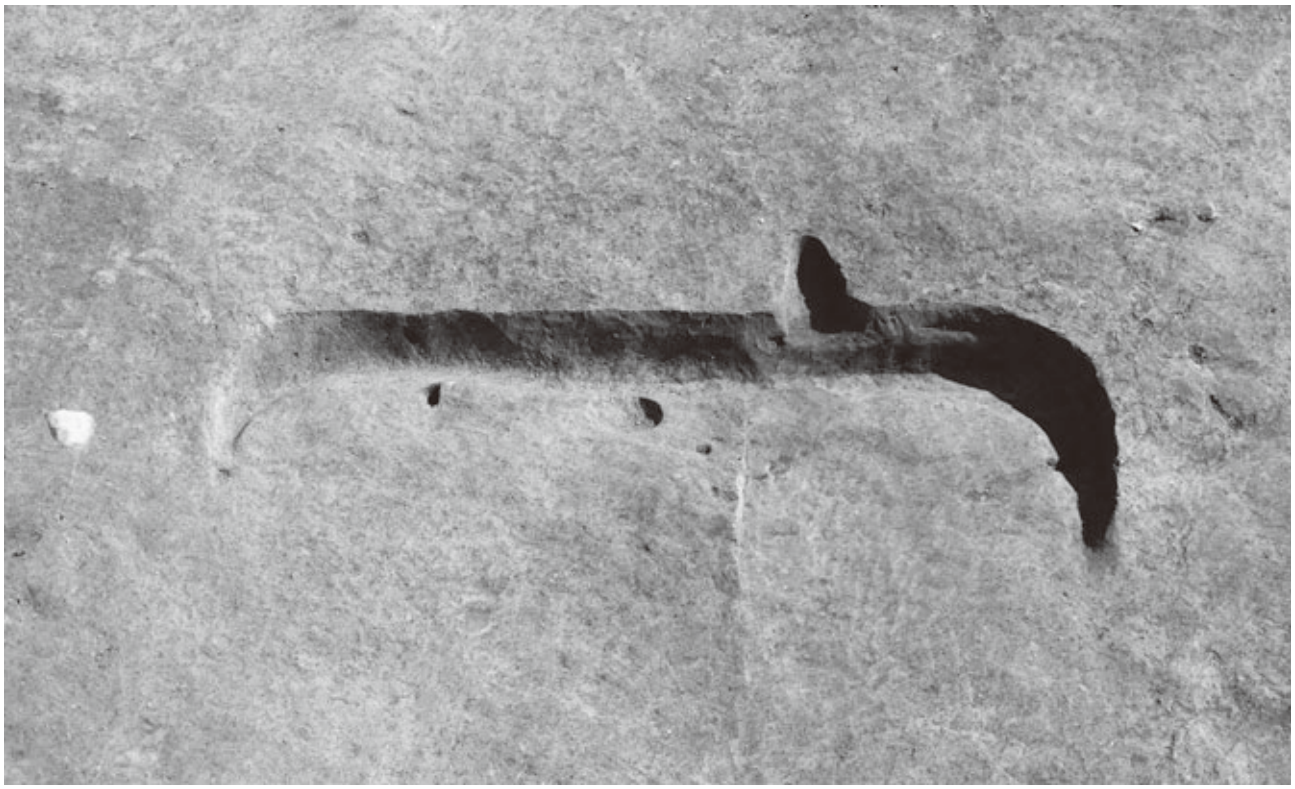
3　市井深田遺跡　加工段 7 遺物出土状況

1　市井深田遺跡　加工段 8-1 完掘状況

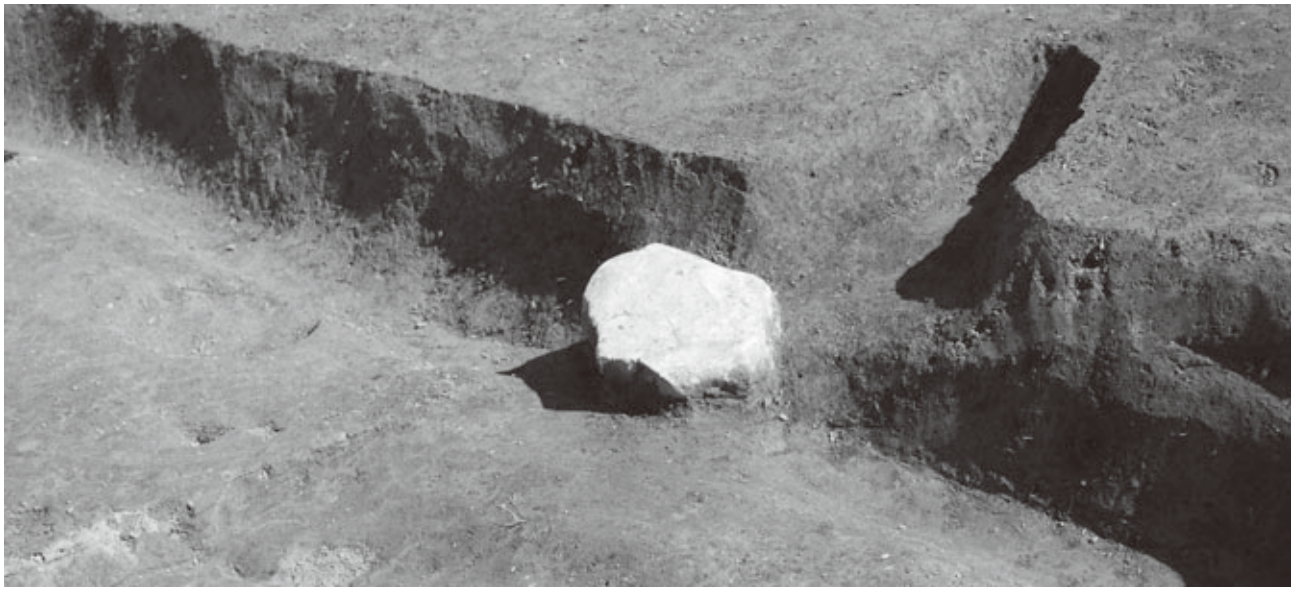
2　市井深田遺跡　加工段 8-2 完掘状況

3　市井深田遺跡　加工段 9 完掘状況

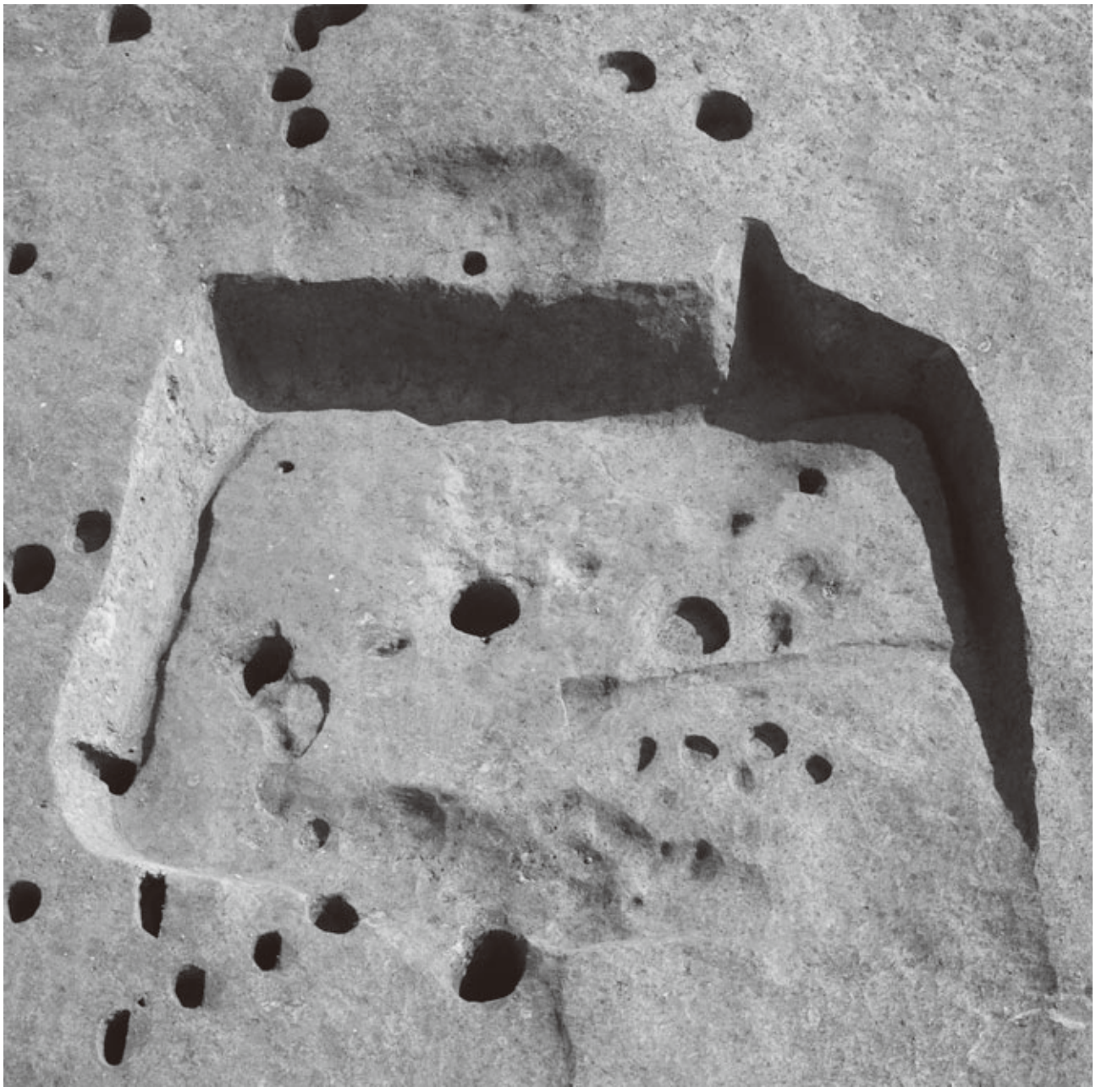
1　市井深田遺跡　加工段 10 完掘状況



2　市井深田遺跡　加工段 12 完掘状況

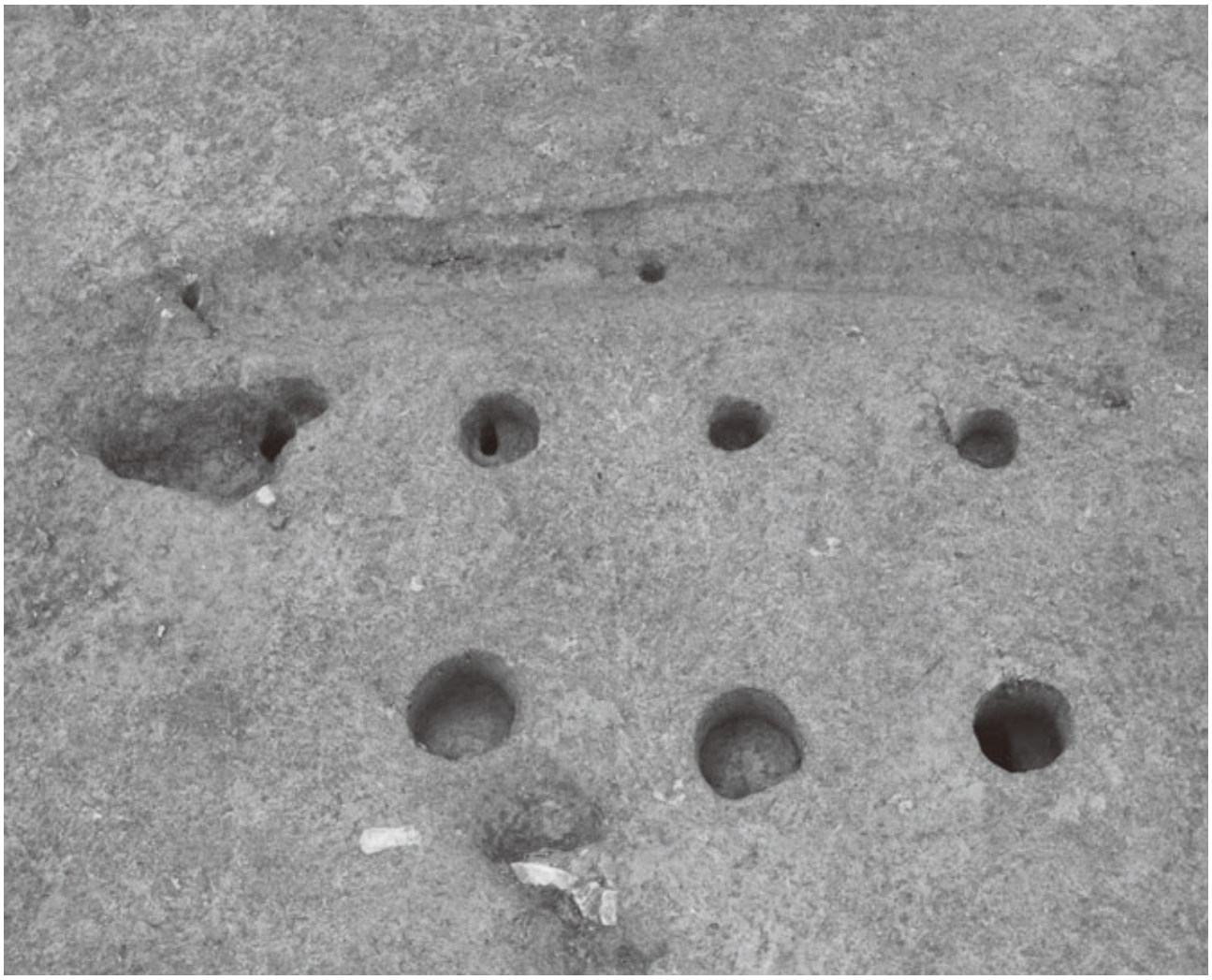


3　市井深田遺跡　加工段 12 造り付け竈の煙道



1　市井深田遺跡 加工段 13 完掘状況

2　市井深田遺跡 加工段 13 焼土検出状況

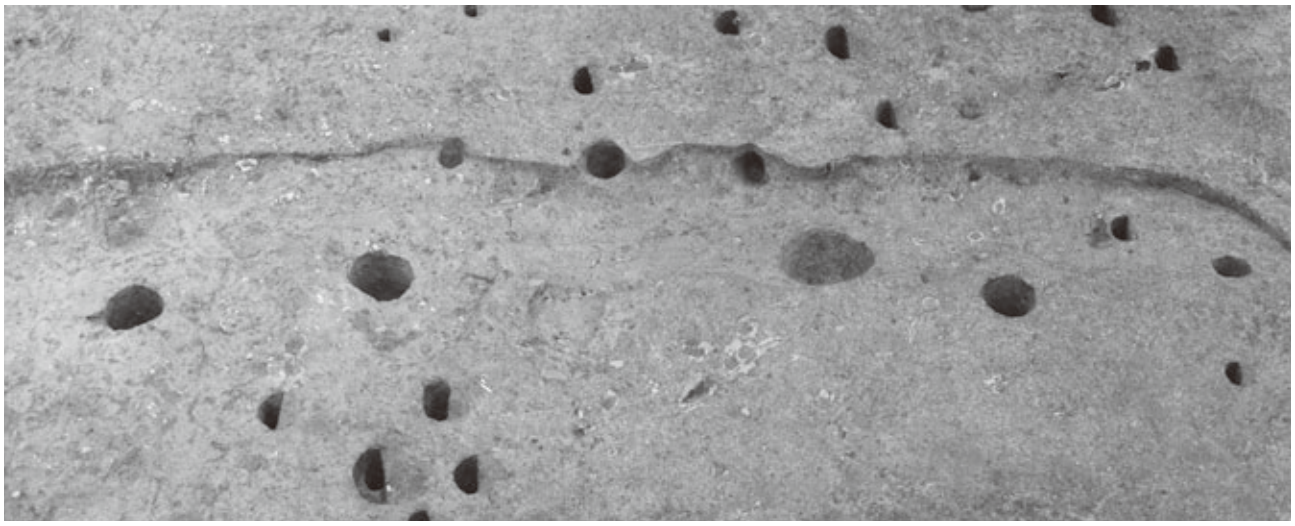


1　市井深田遺跡　加工段 14 完掘状況

2　市井深田遺跡　加工段 15 完掘状況

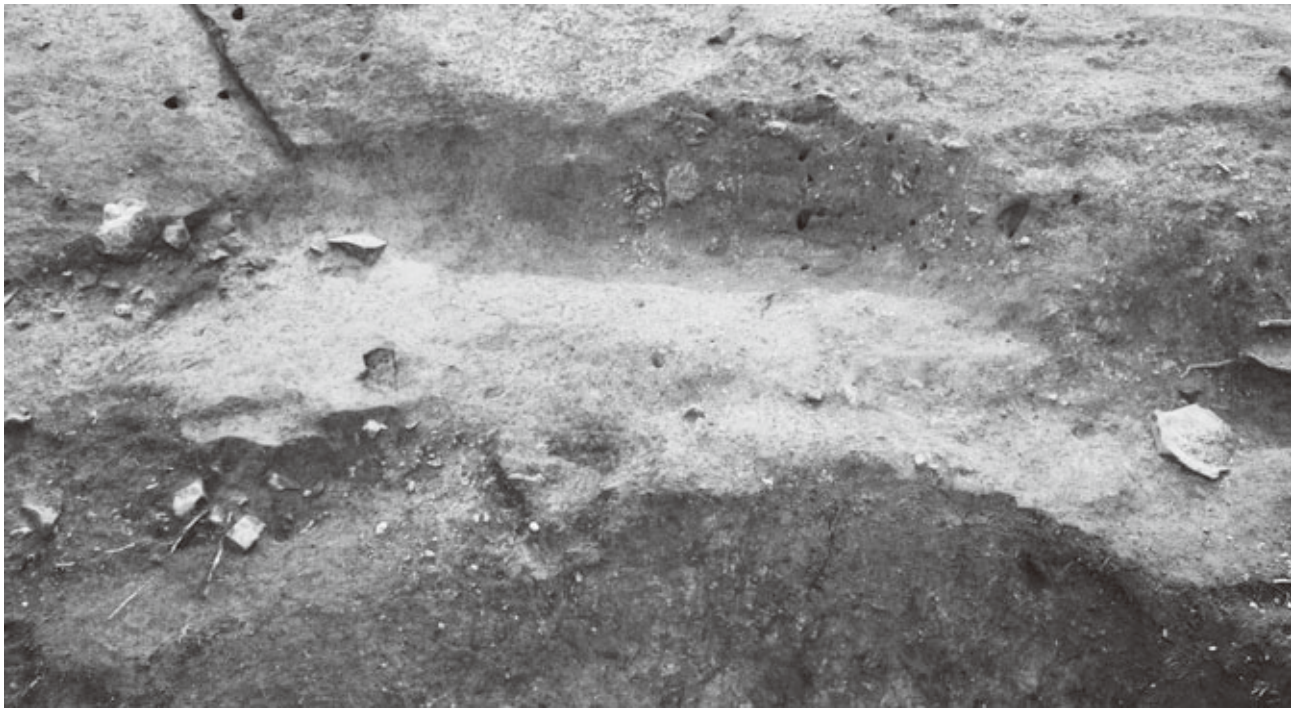
1　市井深田遺跡 加工段 16 完掘状況

2　市井深田遺跡 加工段 16 遺物出土状況（左：16-1　中：16-4　右：16-5）



1　市井深田遺跡　加工段 17 完掘状況

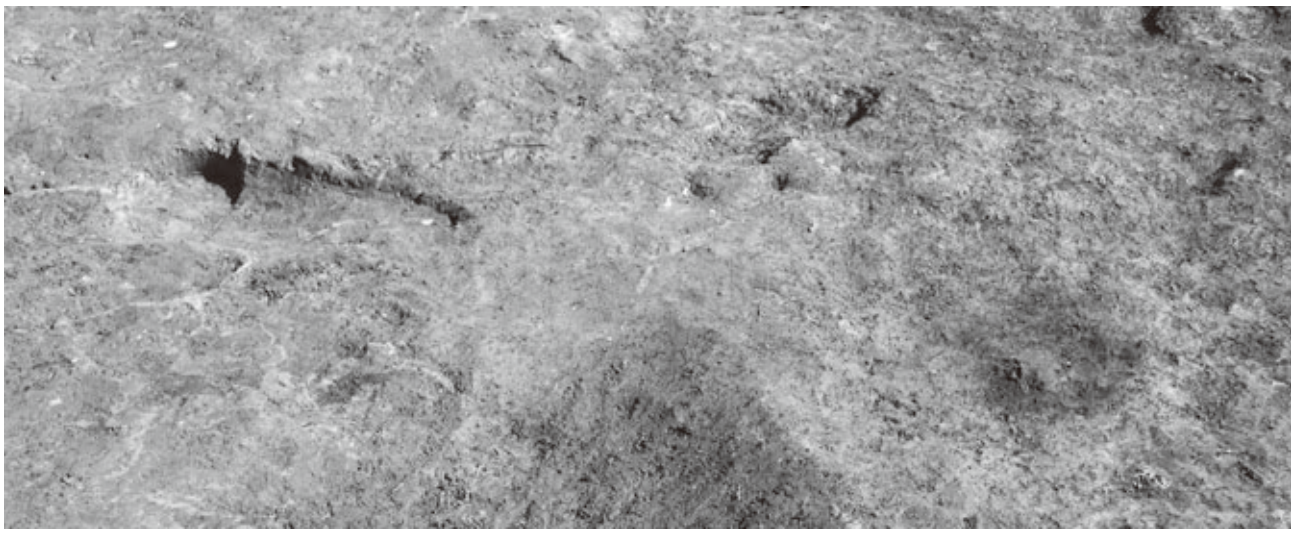
2　市井深田遺跡　加工段 17 遺物出土状況



3　市井深田遺跡　加工段 18 完掘状況（張床あり）

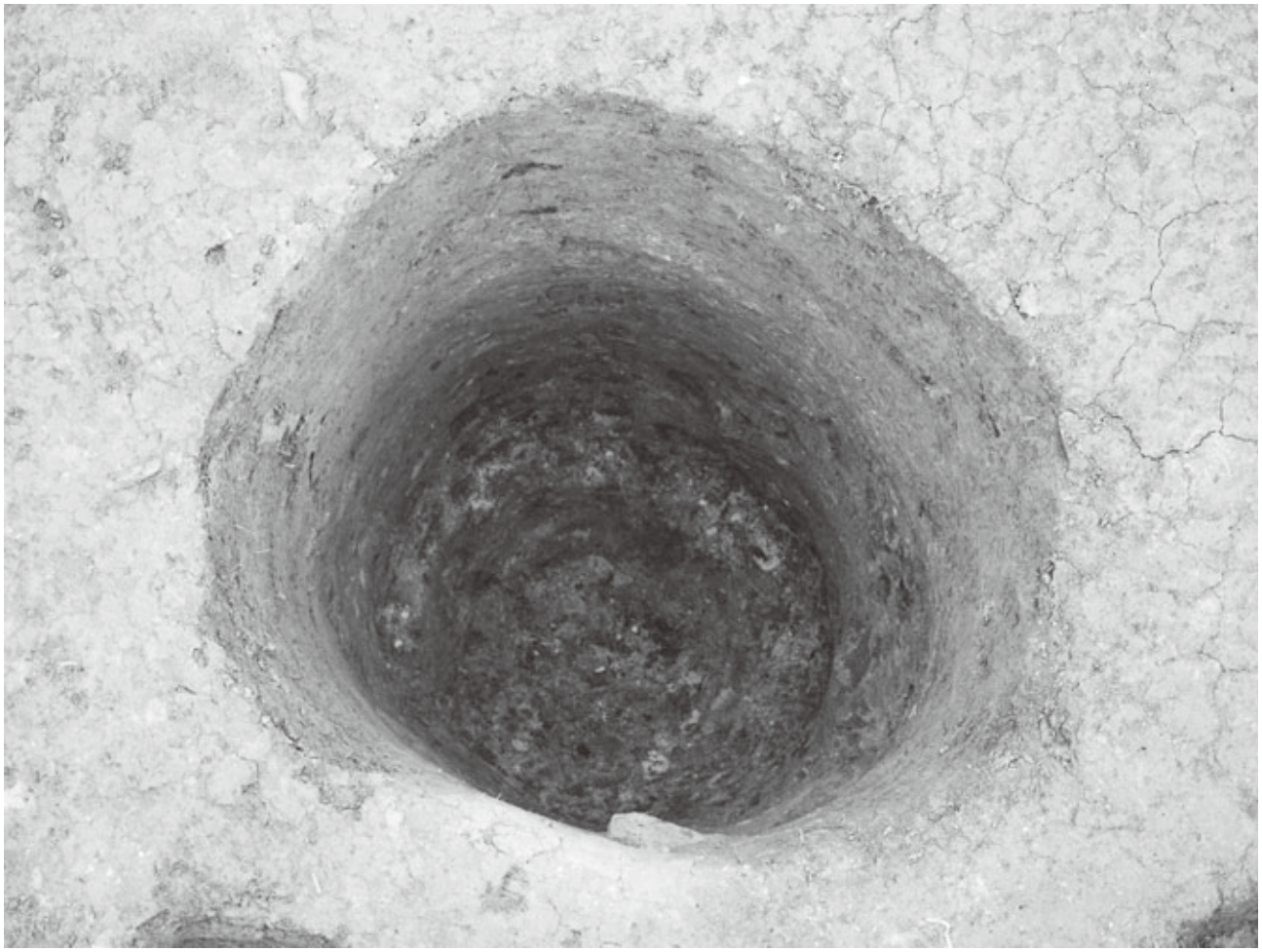
1　市井深田遺跡 加工段 18 遺物出土状況

2　市井深田遺跡 加工段 18 完掘状況（張床なし）



3　市井深田遺跡 SK3 と焼土

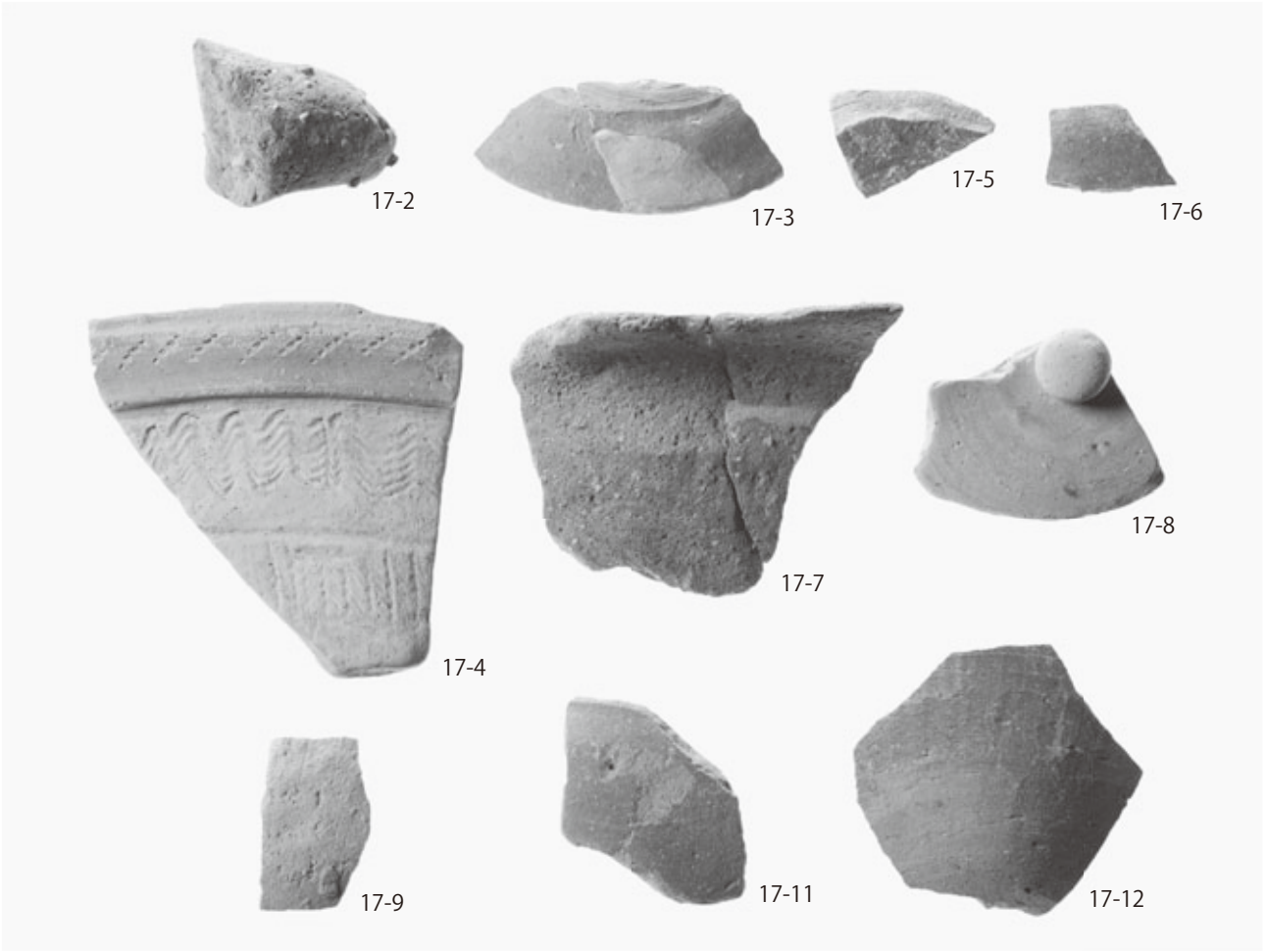
1　市井深田遺跡 集石土坑 1・2 礫出土状況



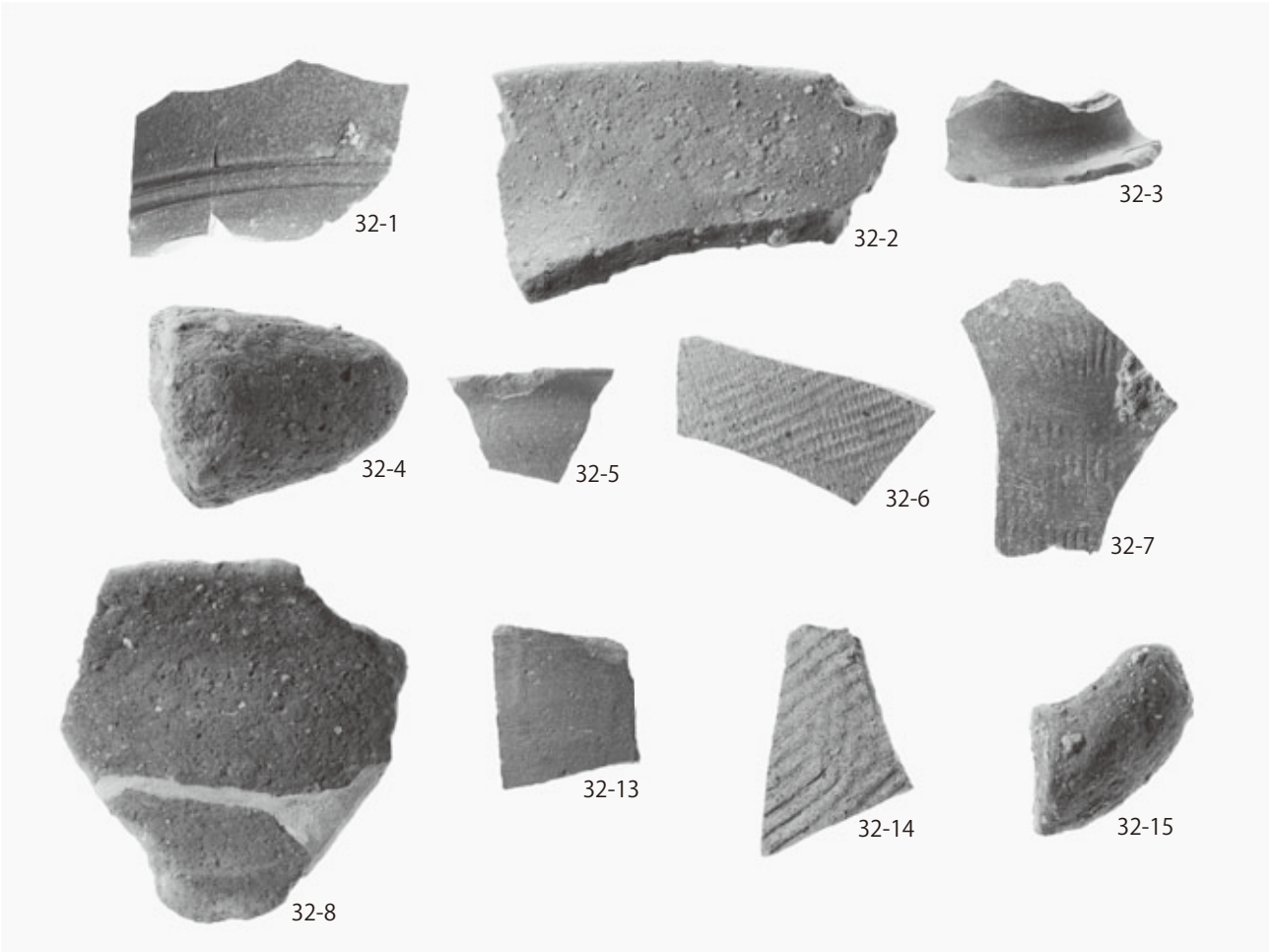
2　市井深田遺跡 SK6 完掘状況

1　市井深田遺跡 1-2 区北側土層

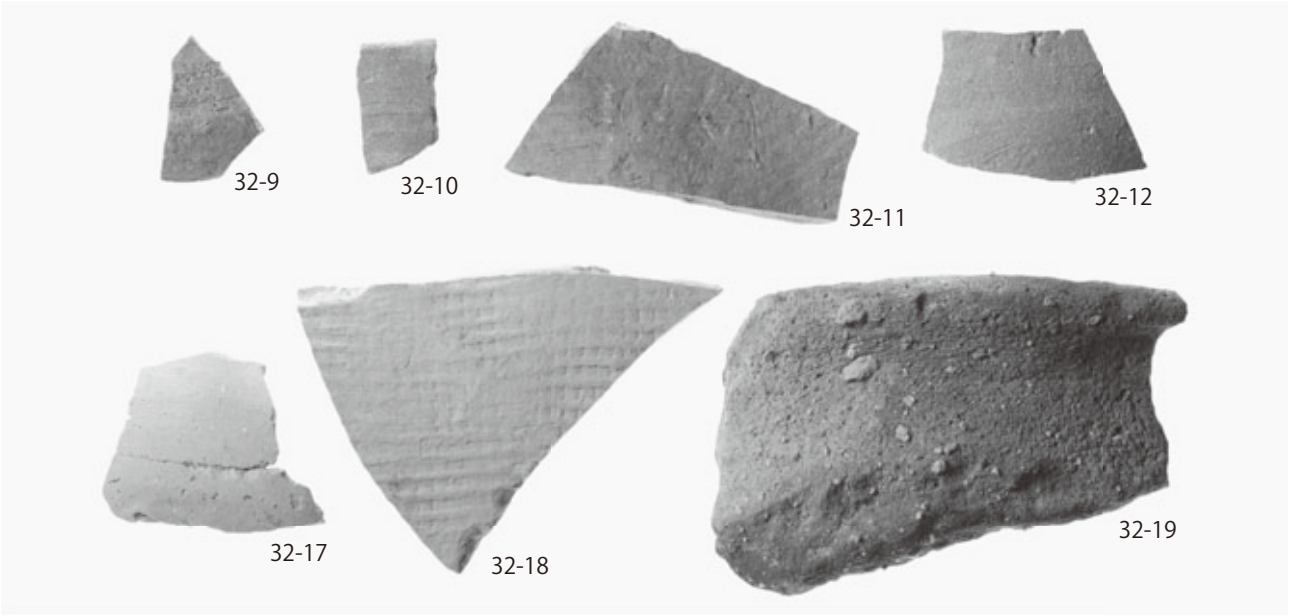
2　市井深田遺跡 1-2 区東側土層



1　市井深田遺跡 加工段 2 出土遺物



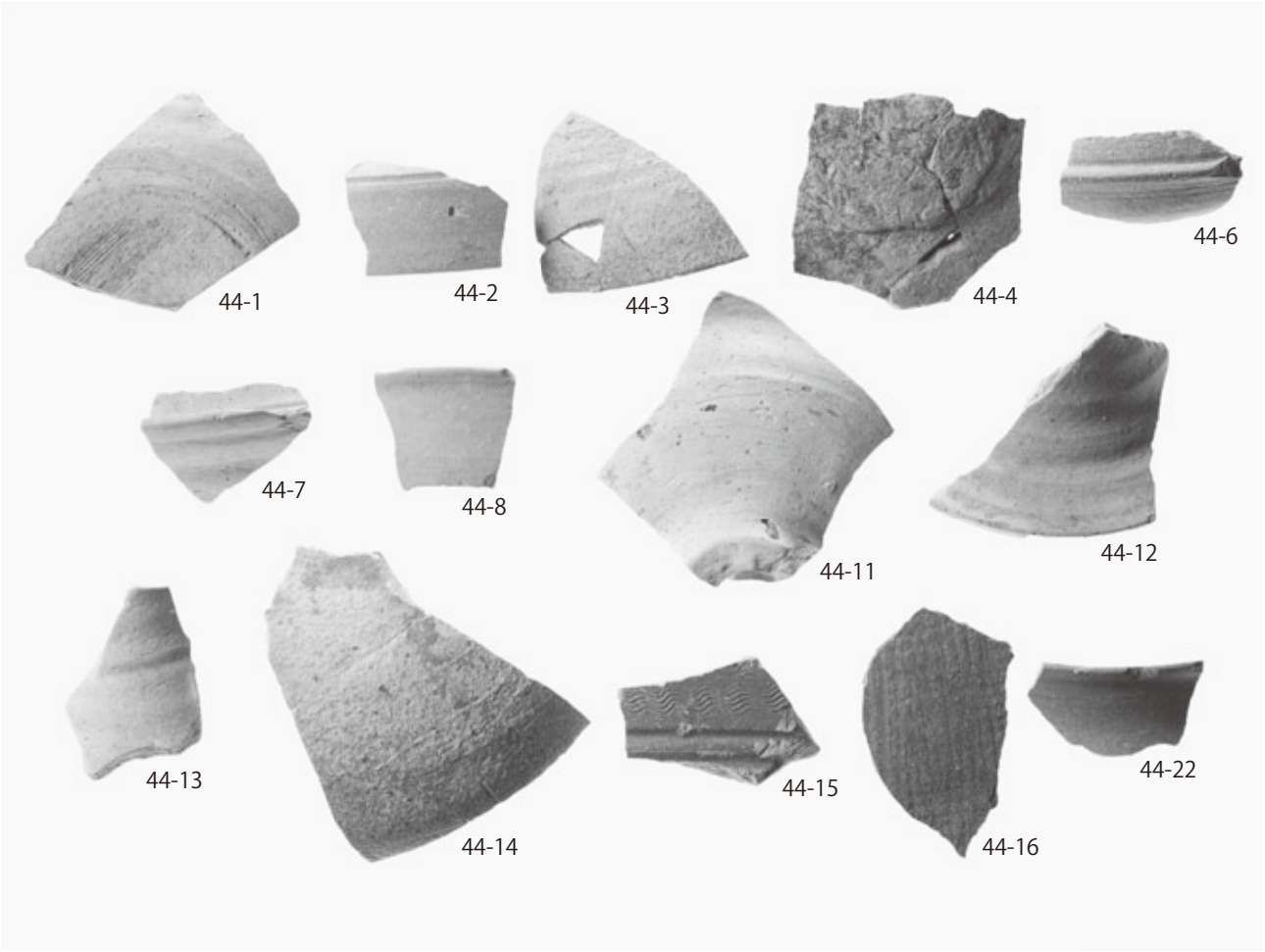
2　市井深田遺跡 加工段 3-1・3-2・4-1 出土遺物



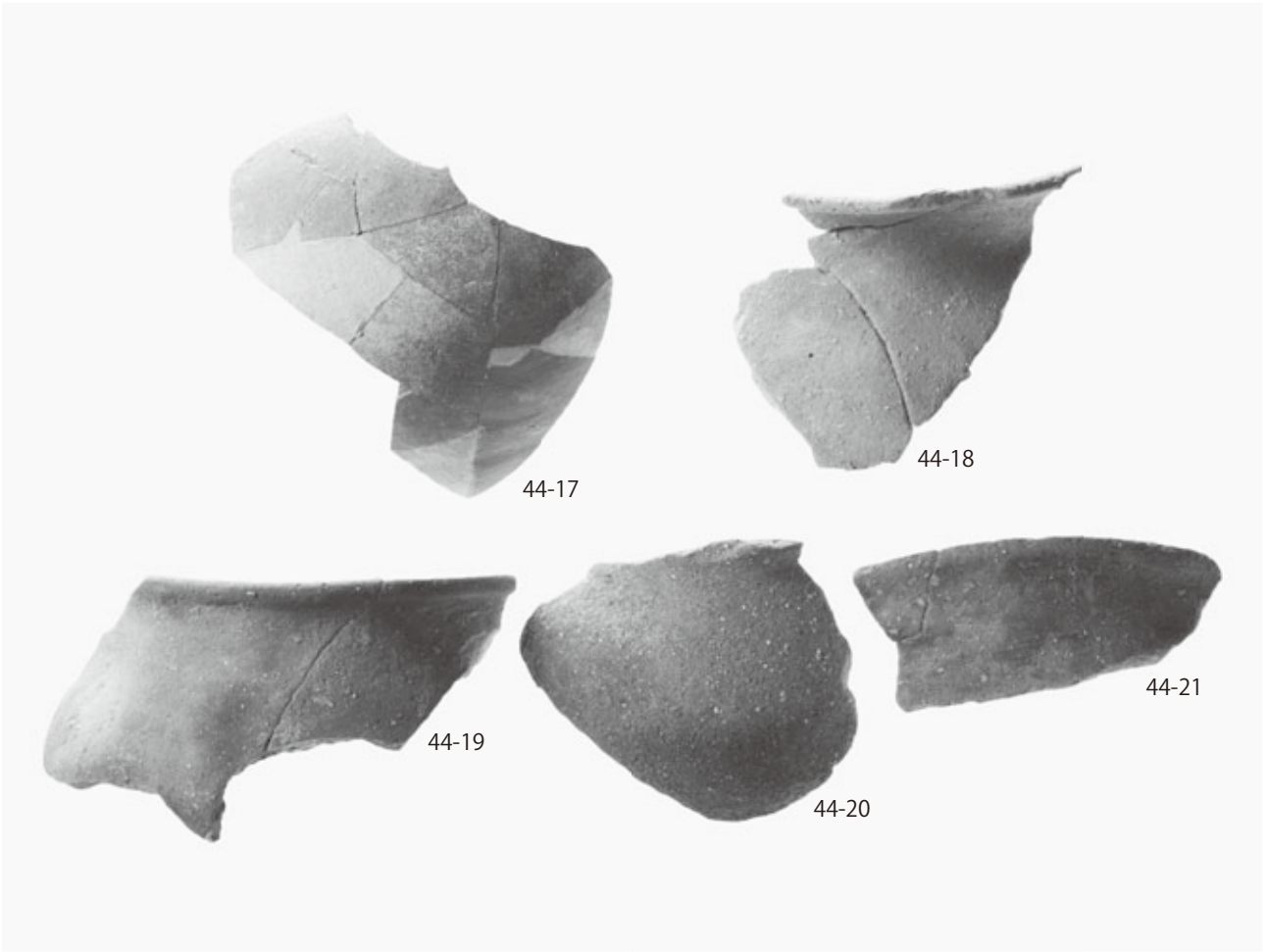
1　市井深田遺跡 加工段 3-3・4-3・4-4 出土遺物

2　市井深田遺跡 加工段 3-5 出土遺物

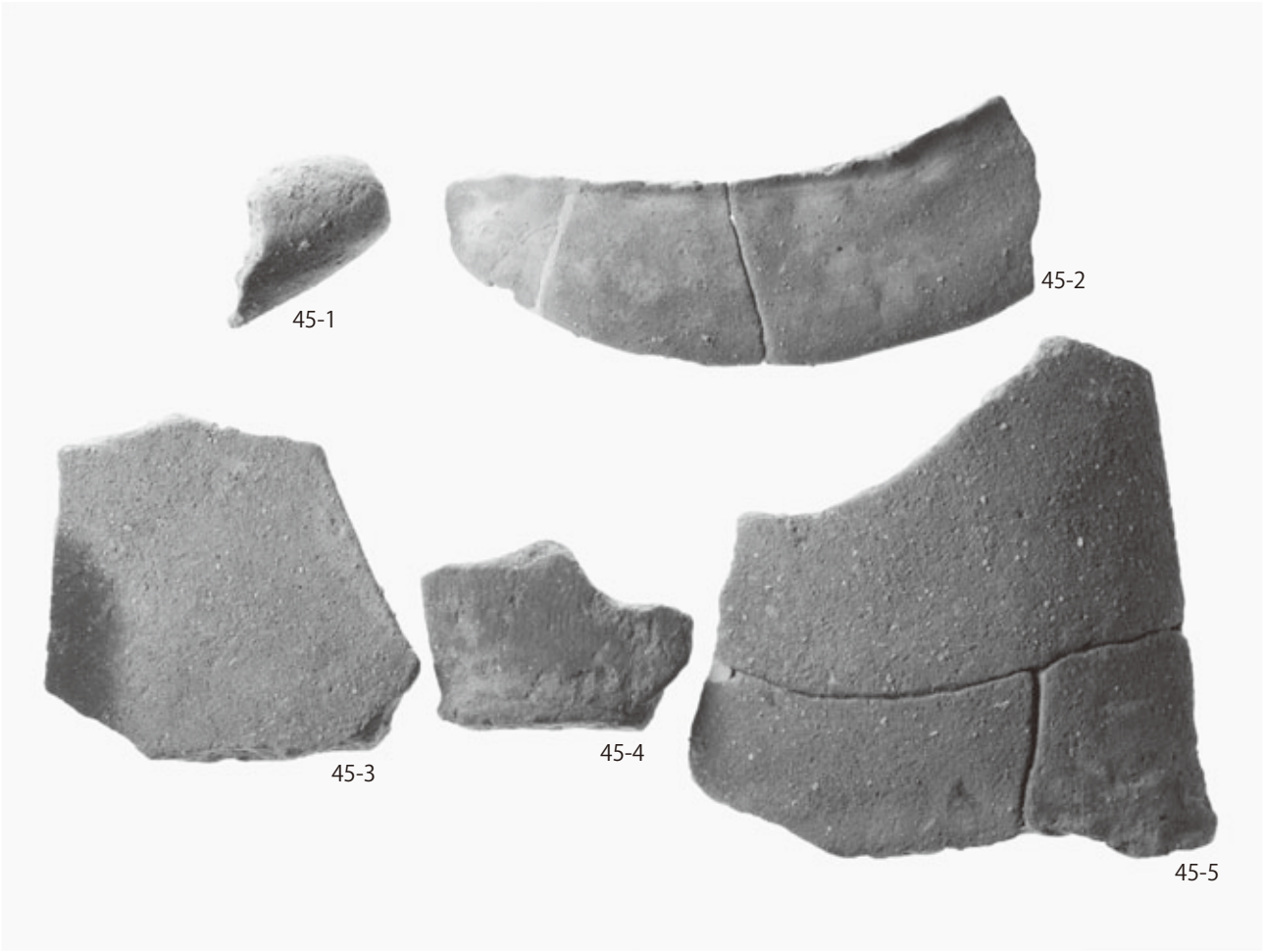
3　市井深田遺跡 加工段 5・6 出土遺物



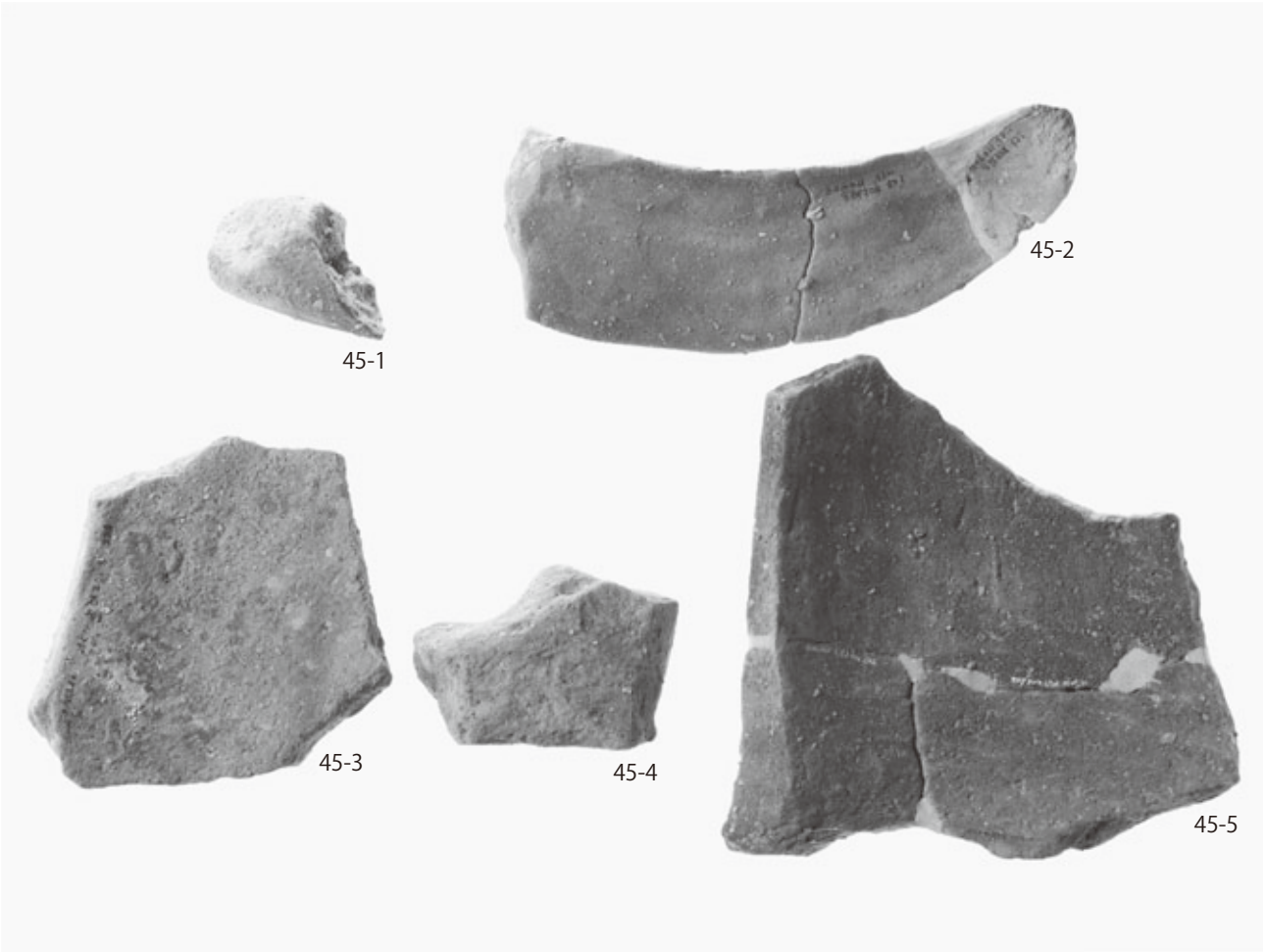
1　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物①



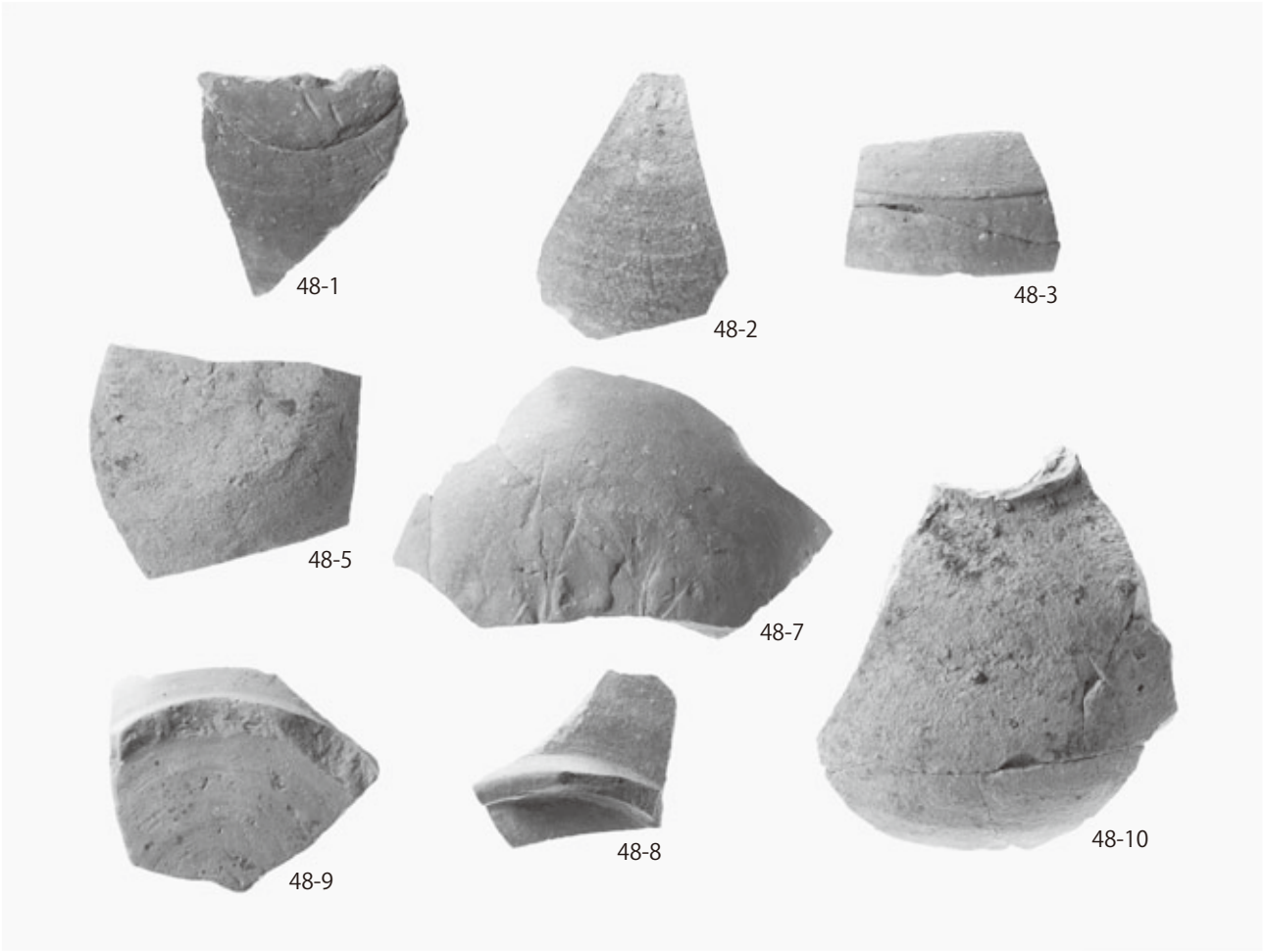
2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物②



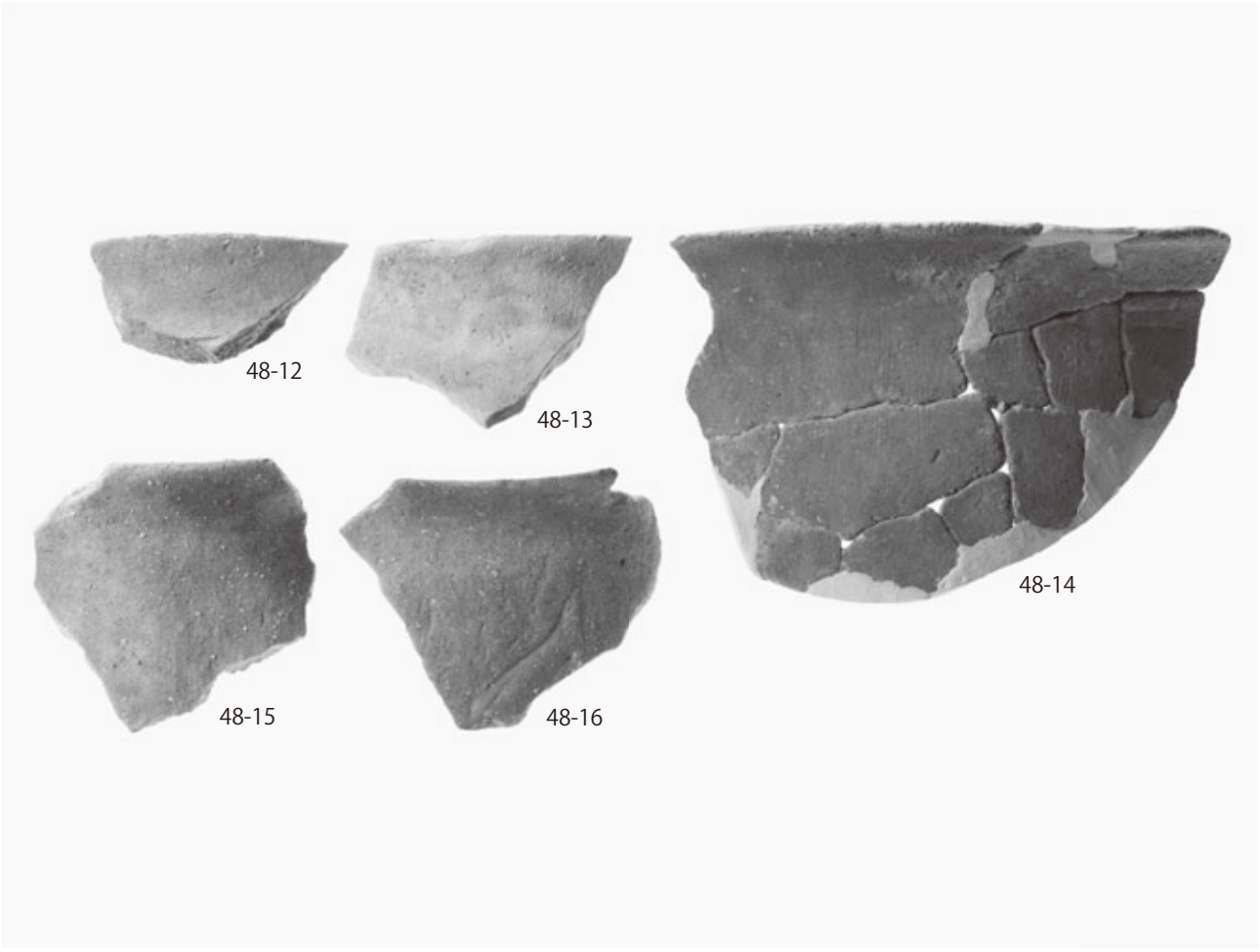
1　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物③ -1（外面）



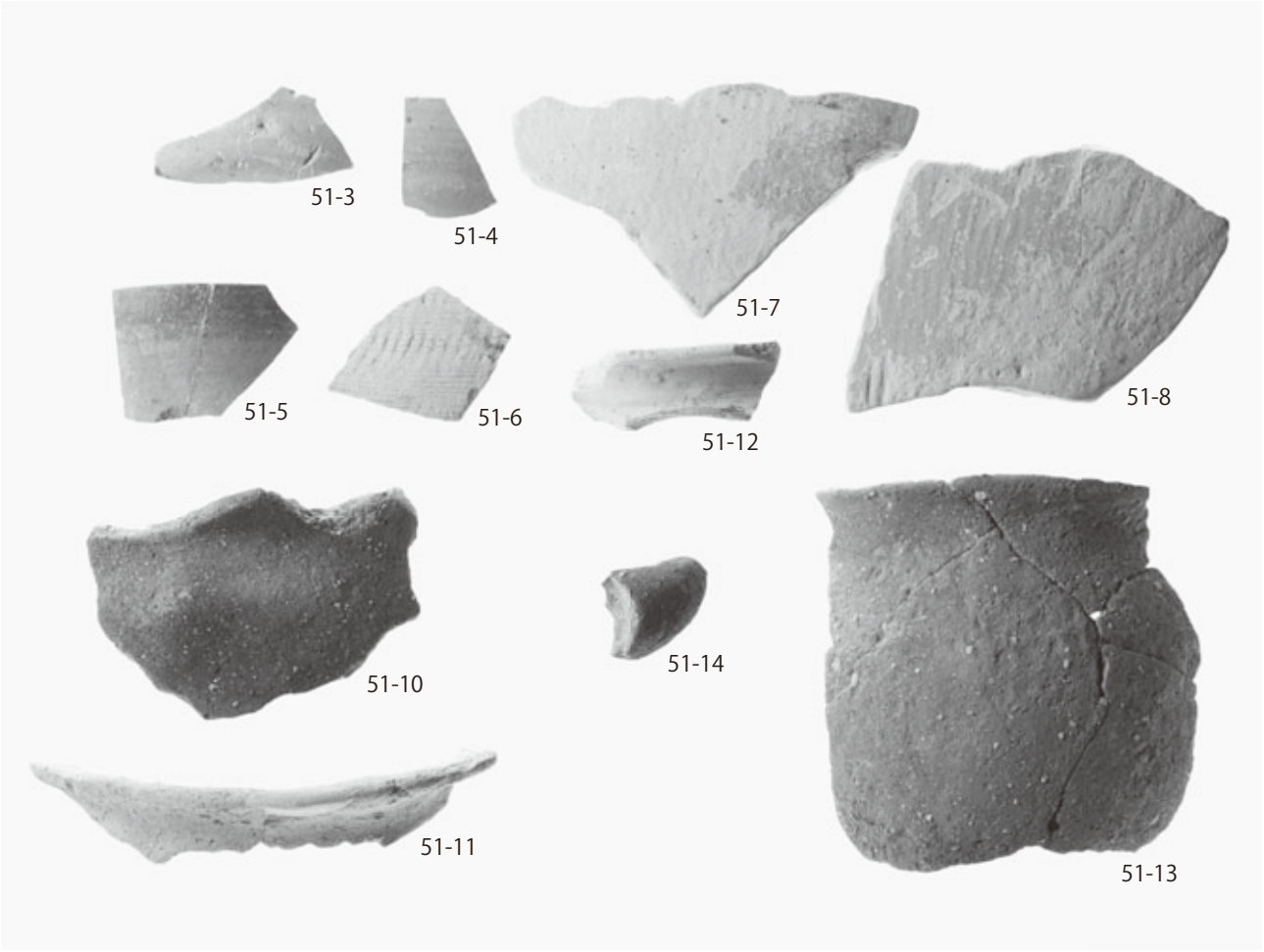
2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物③ -2（内面）



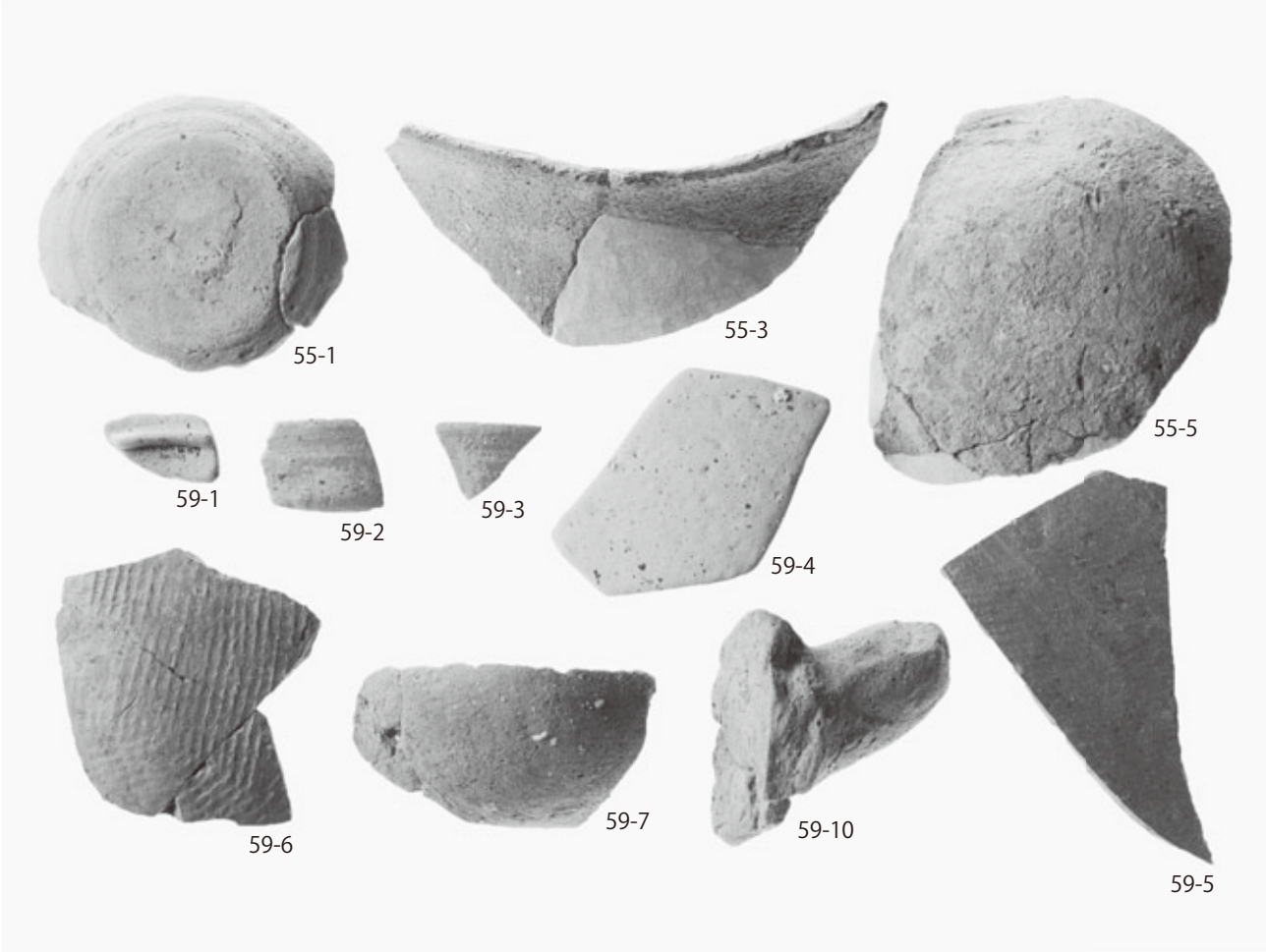
1　市井深田遺跡 加工段 8 出土遺物①



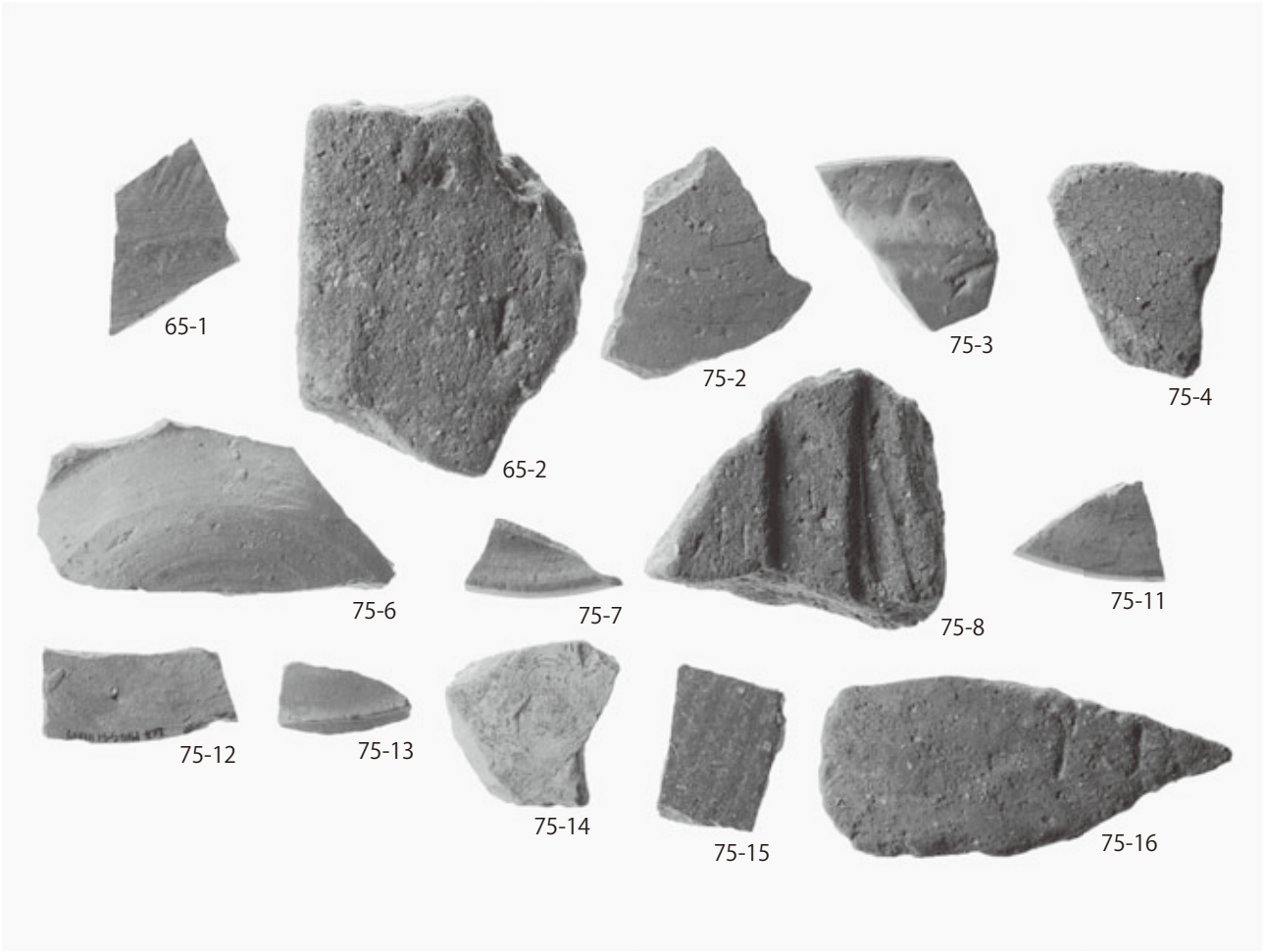
2　市井深田遺跡 加工段 8 出土遺物②



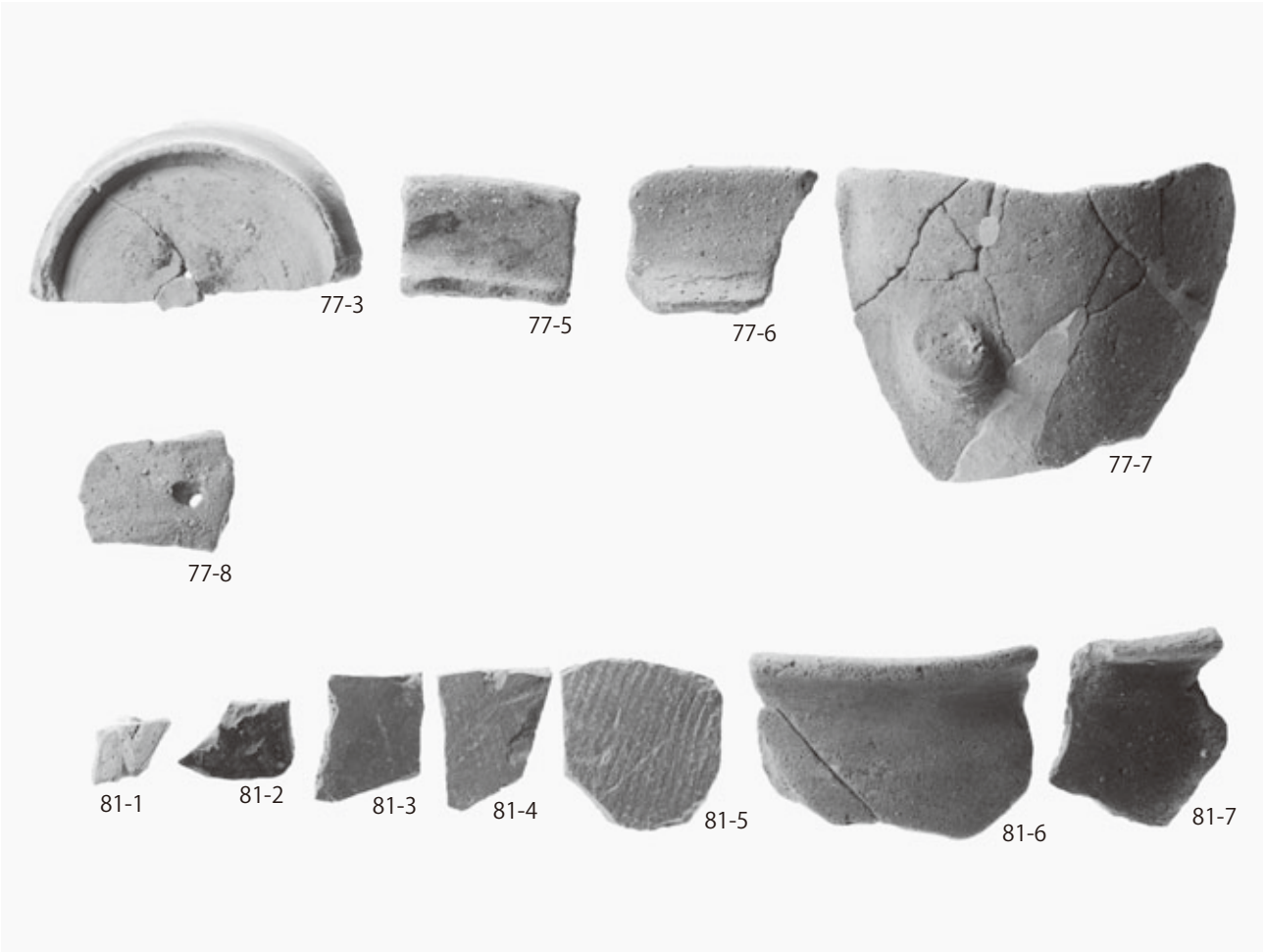
1　市井深田遺跡 加工段 10 出土遺物



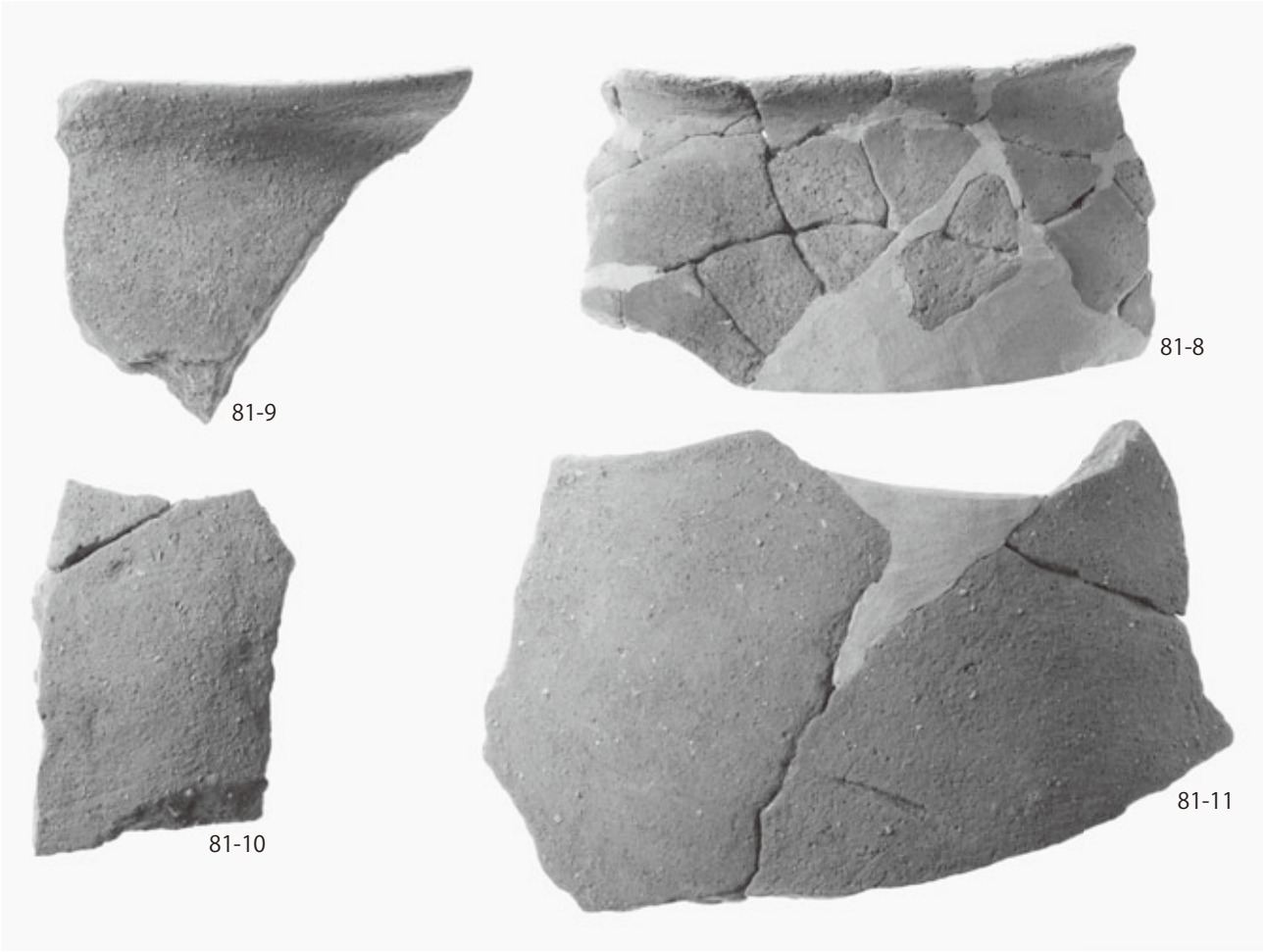
2　市井深田遺跡 加工段 12・13 出土遺物



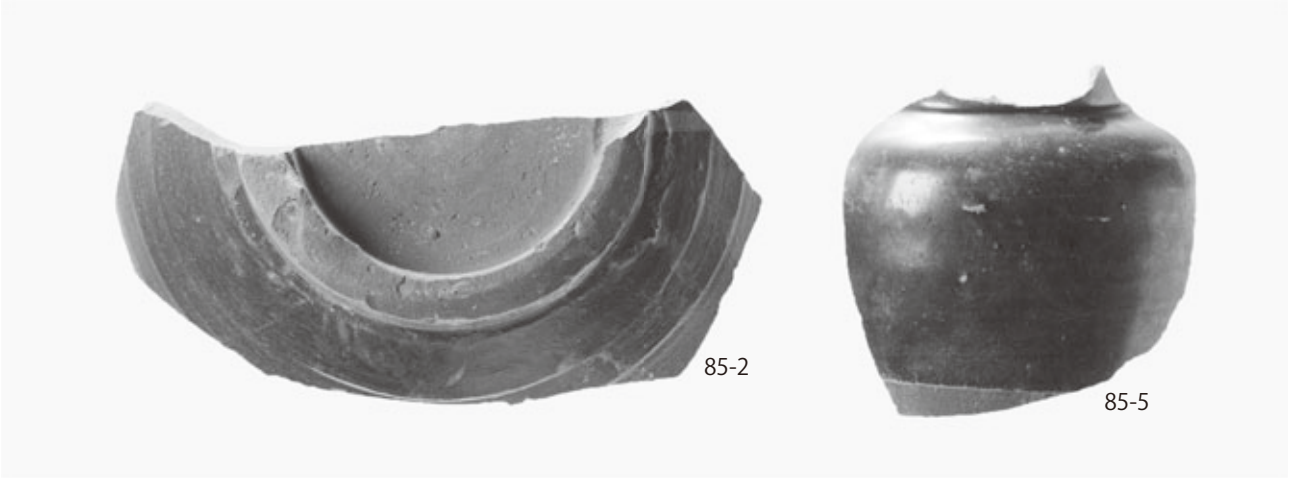
1　市井深田遺跡 加工段 15・16 出土遺物

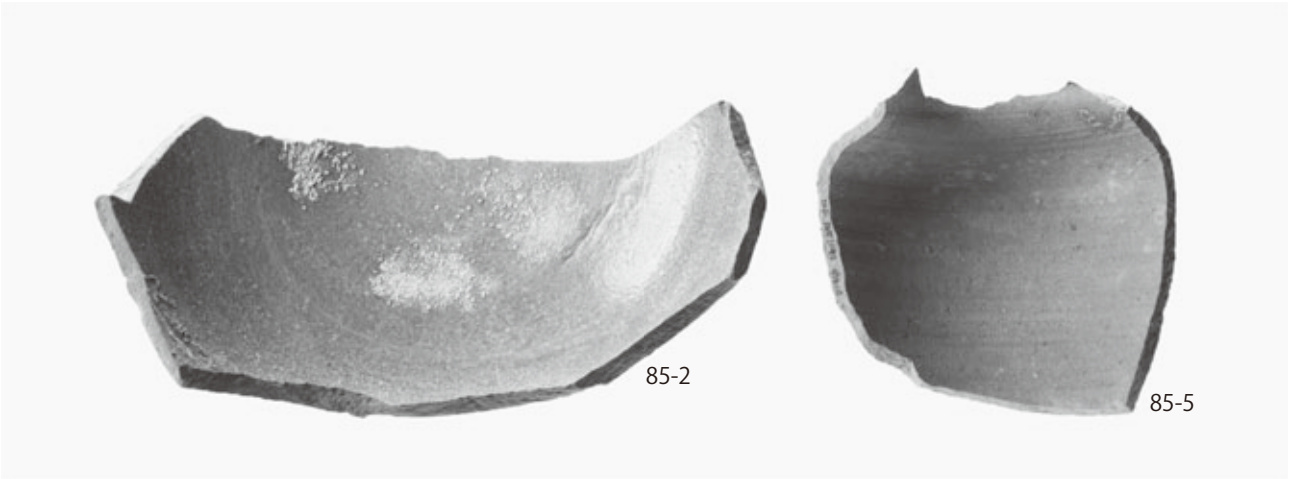


2　市井深田遺跡 加工段 17・18 出土遺物

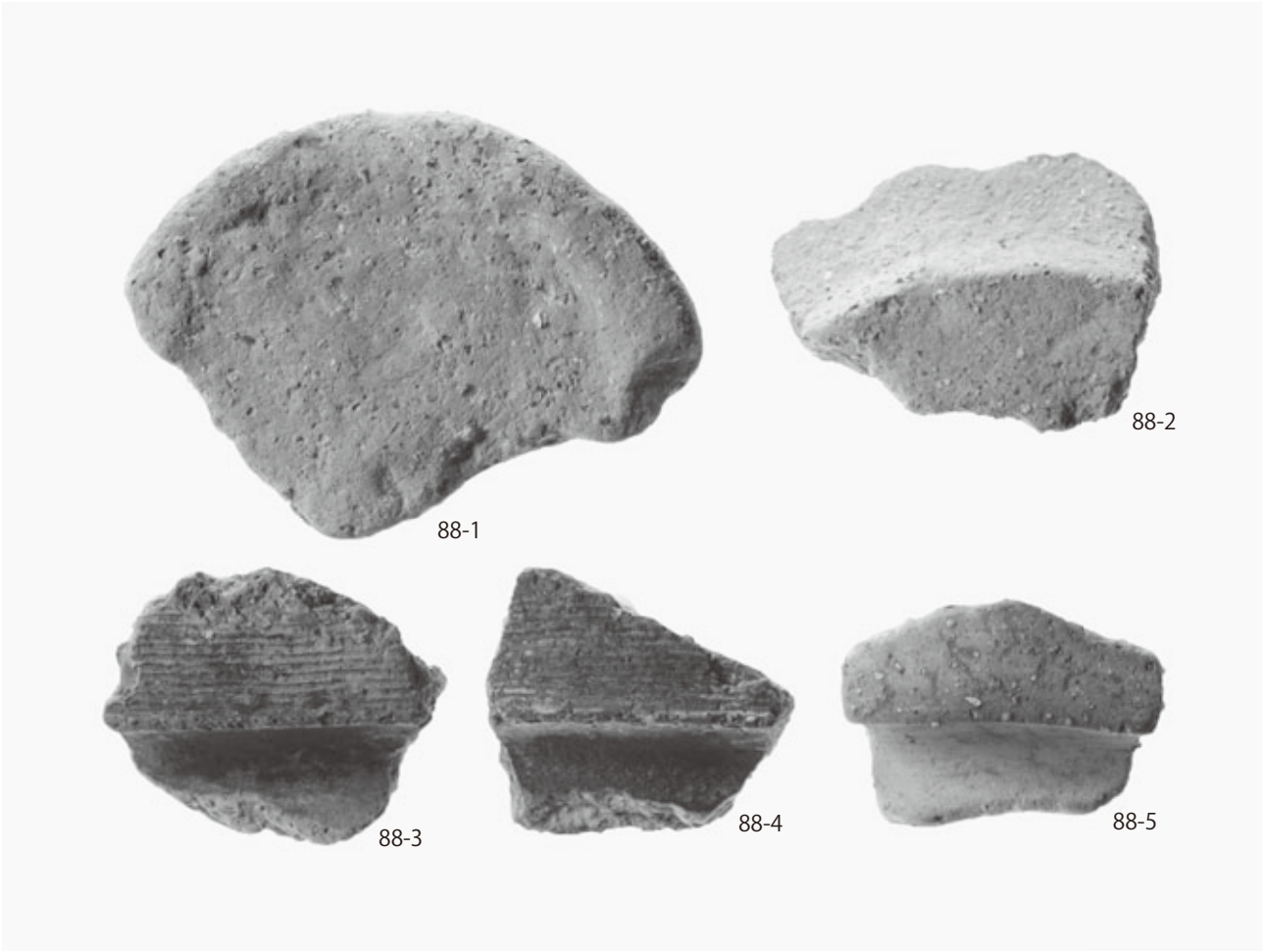


1　市井深田遺跡 加工段 18 出土遺物

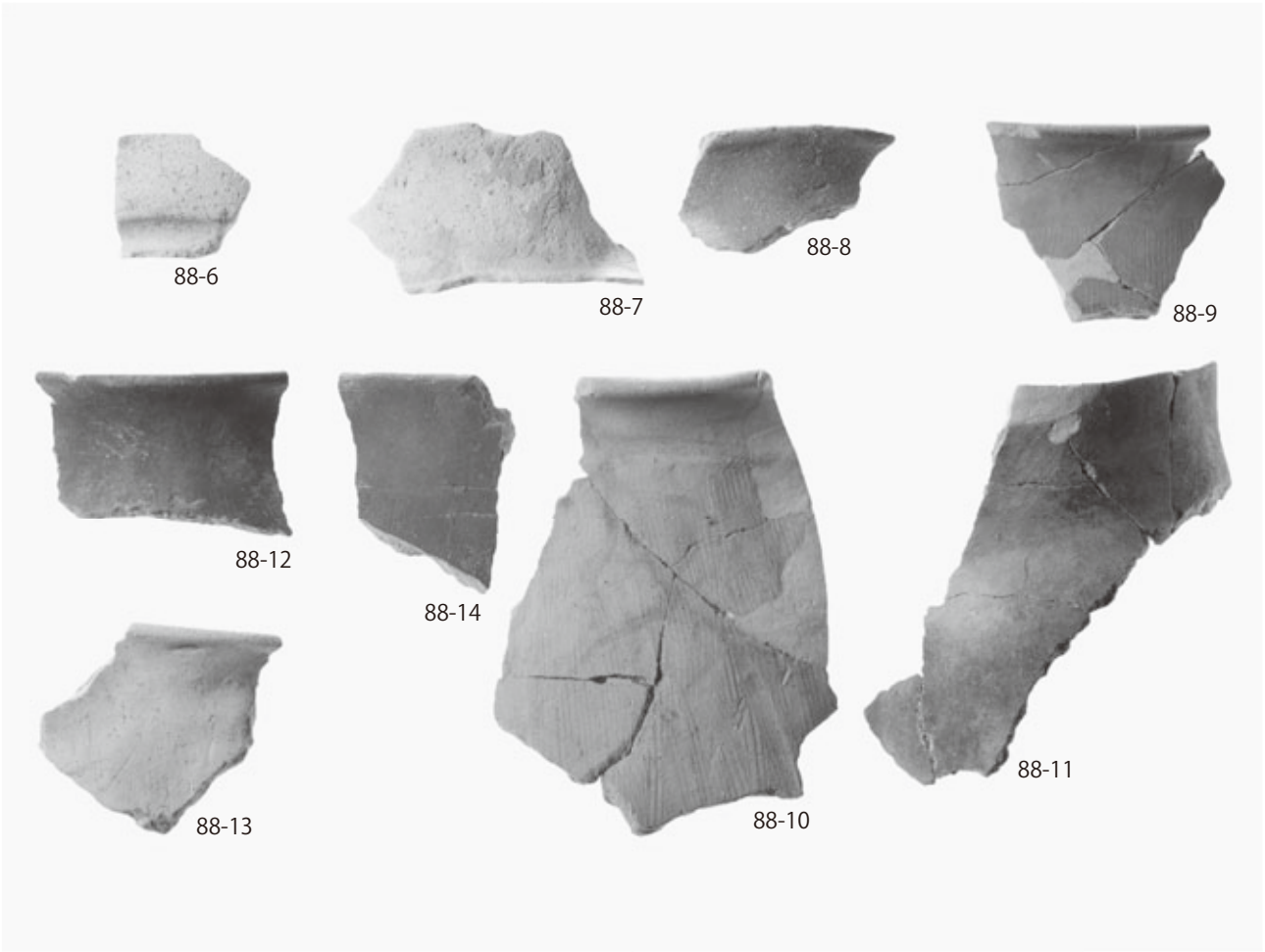




2　市井深田遺跡 集石土坑 1・2 出土遺物（上 : 外面　下：内面）

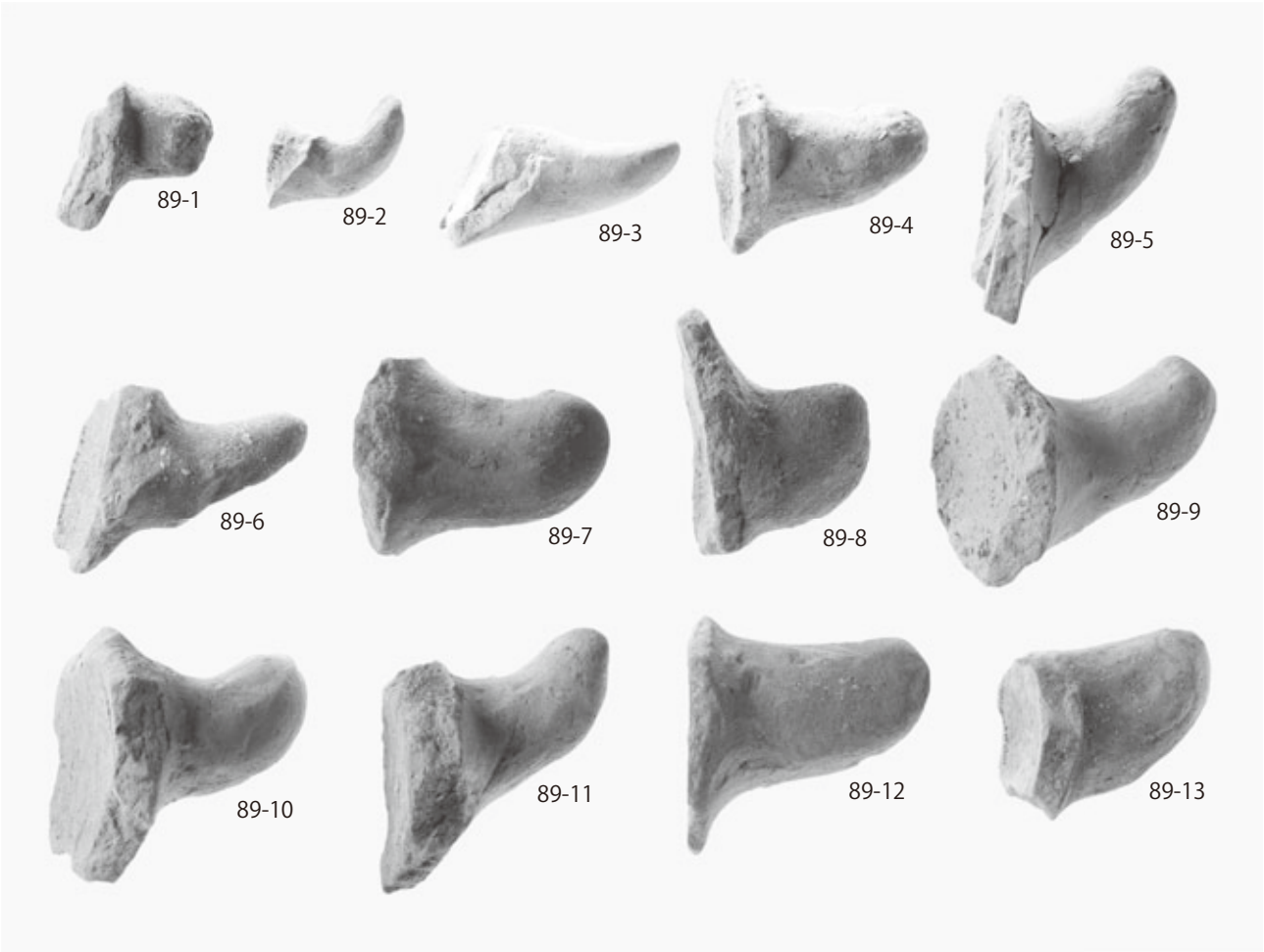


1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物①

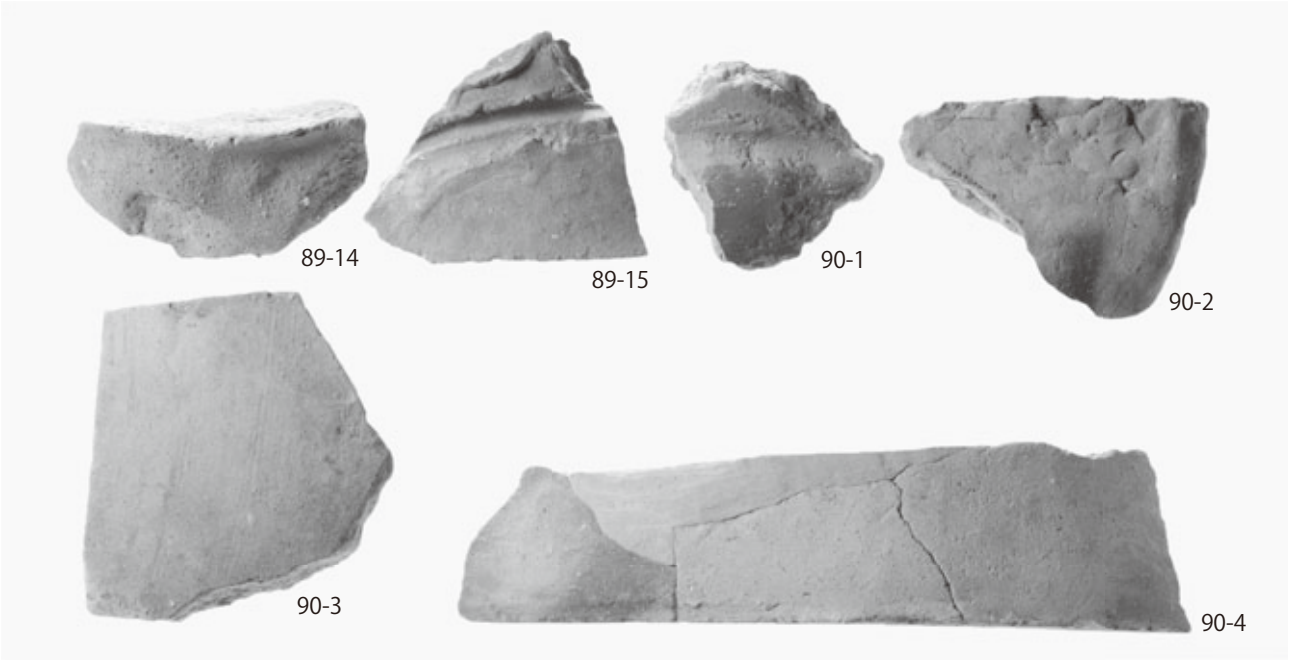


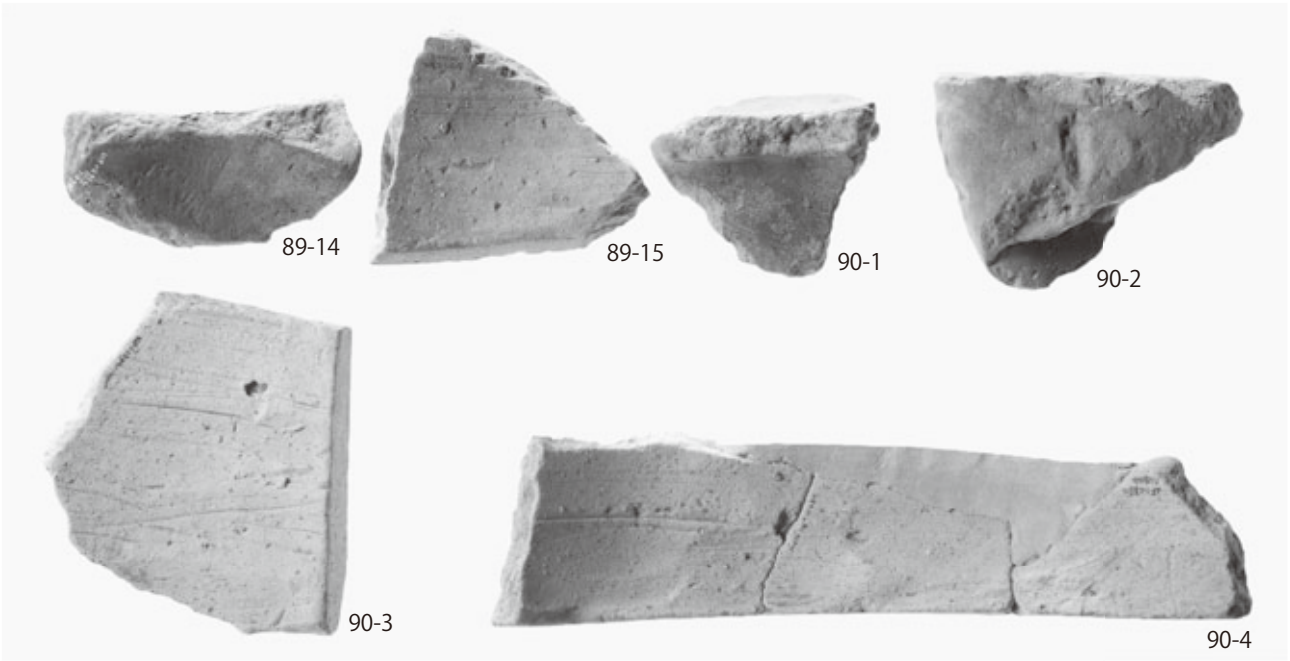
2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物②

1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物③

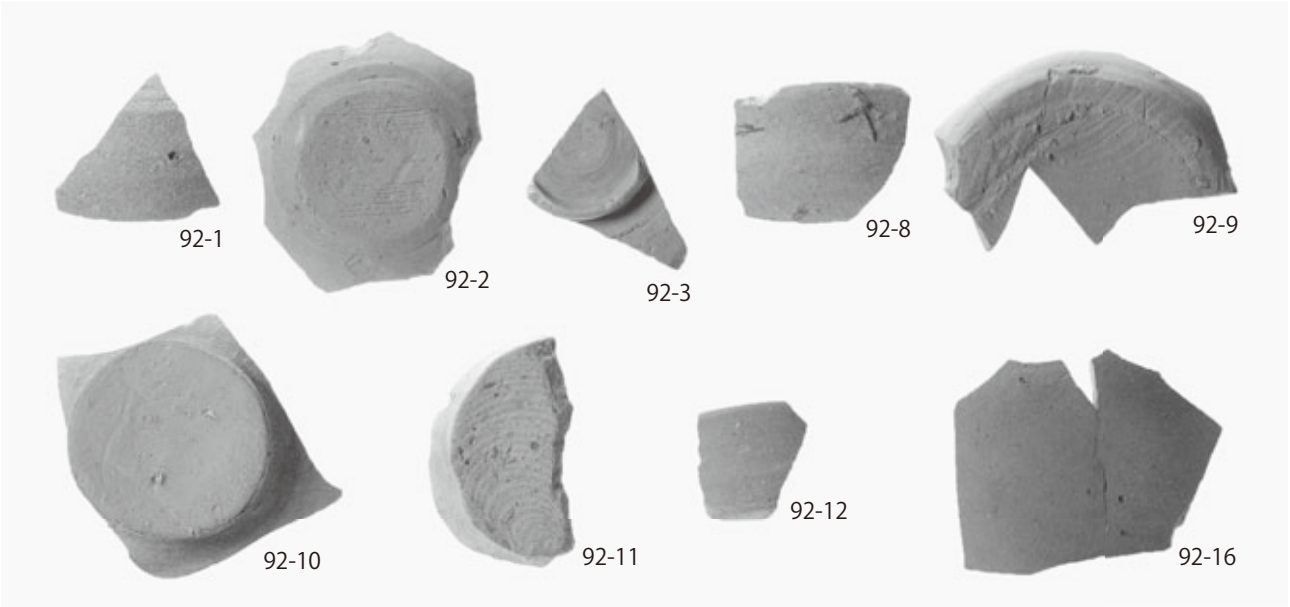


2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物④

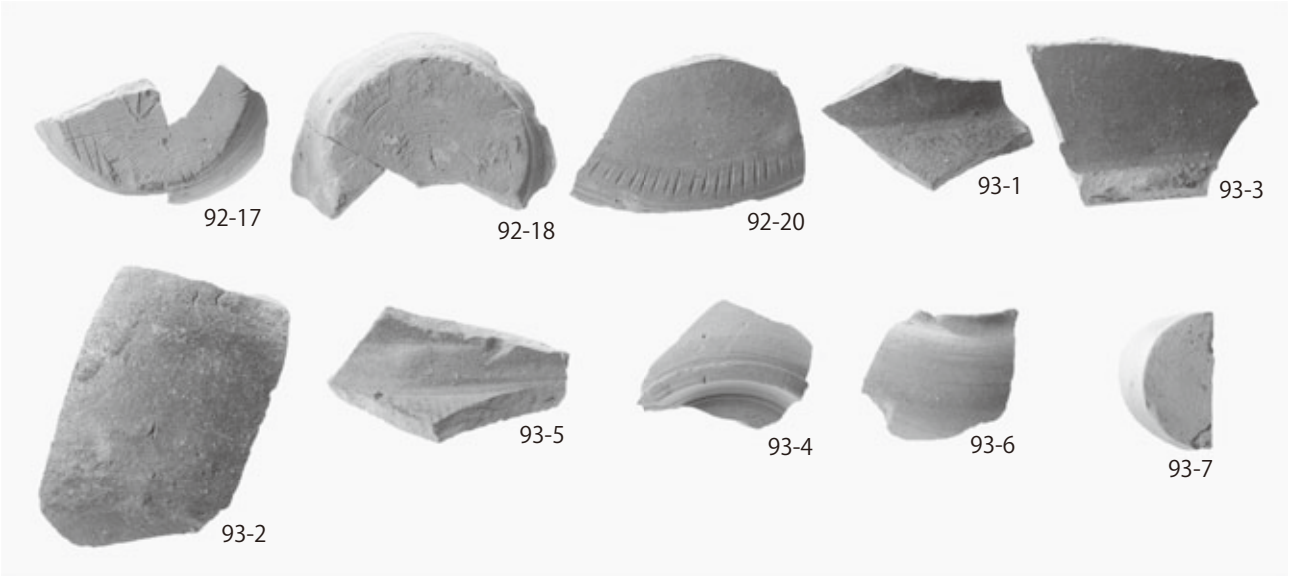


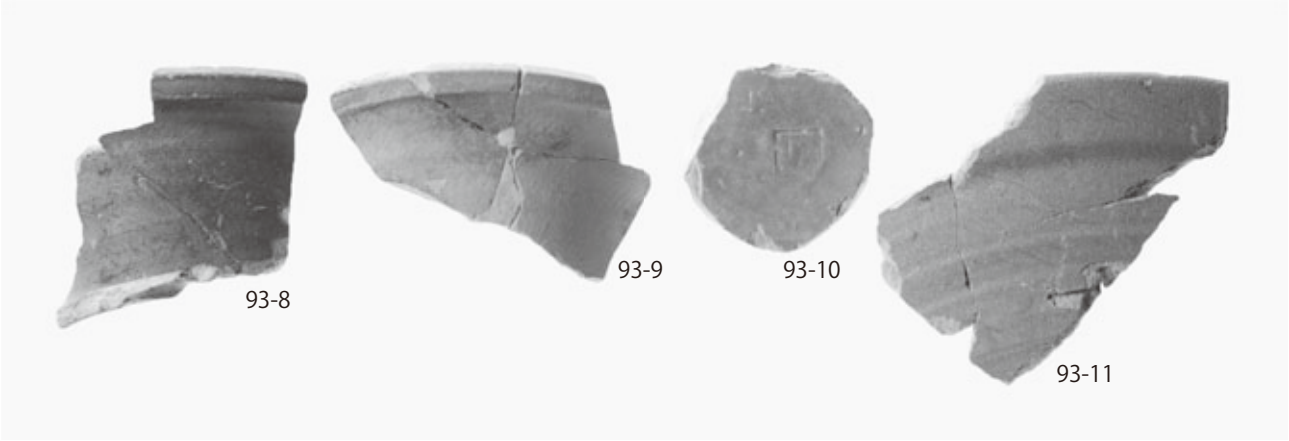


1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑤（上 : 外面　下：内面）

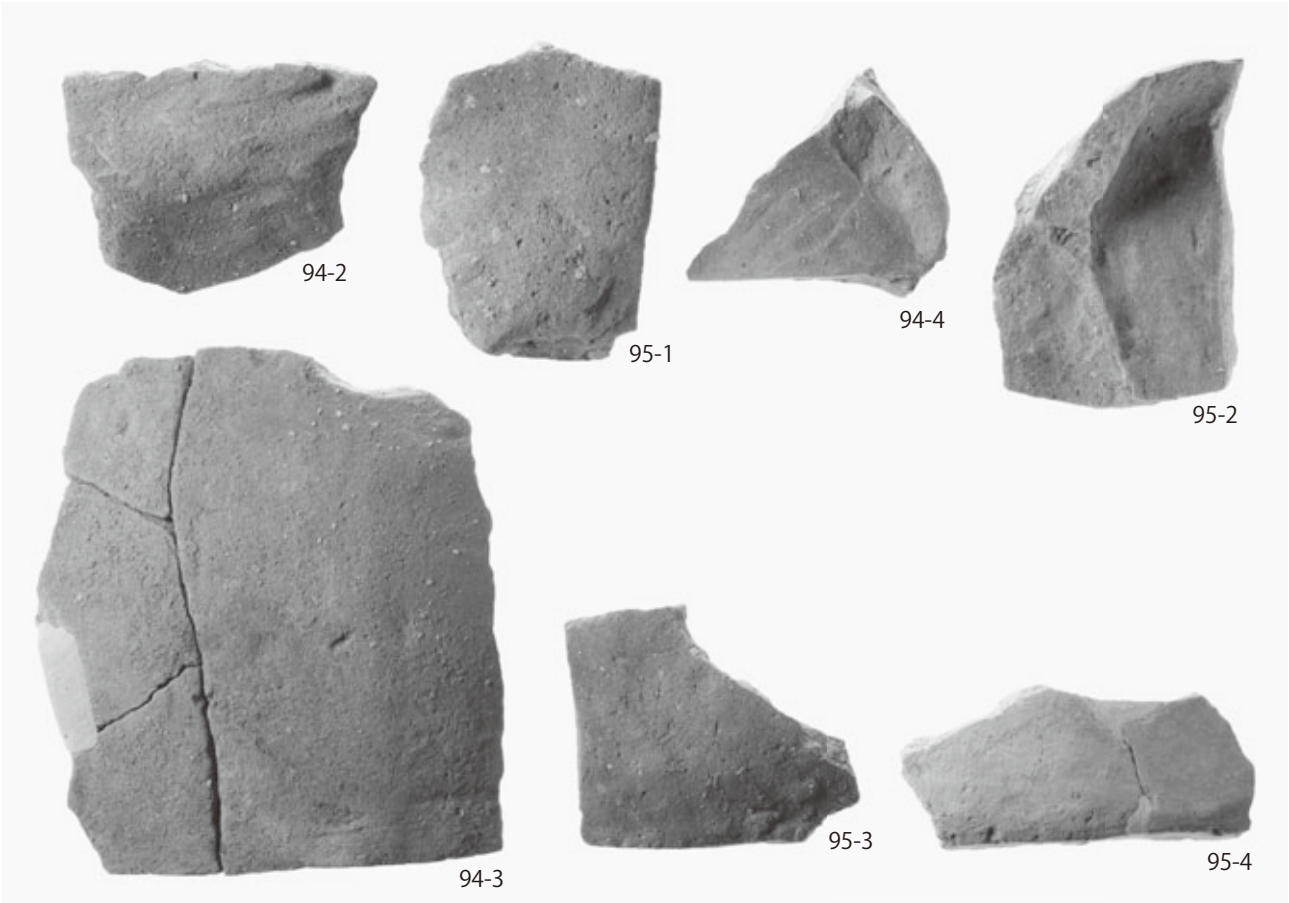


2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑥

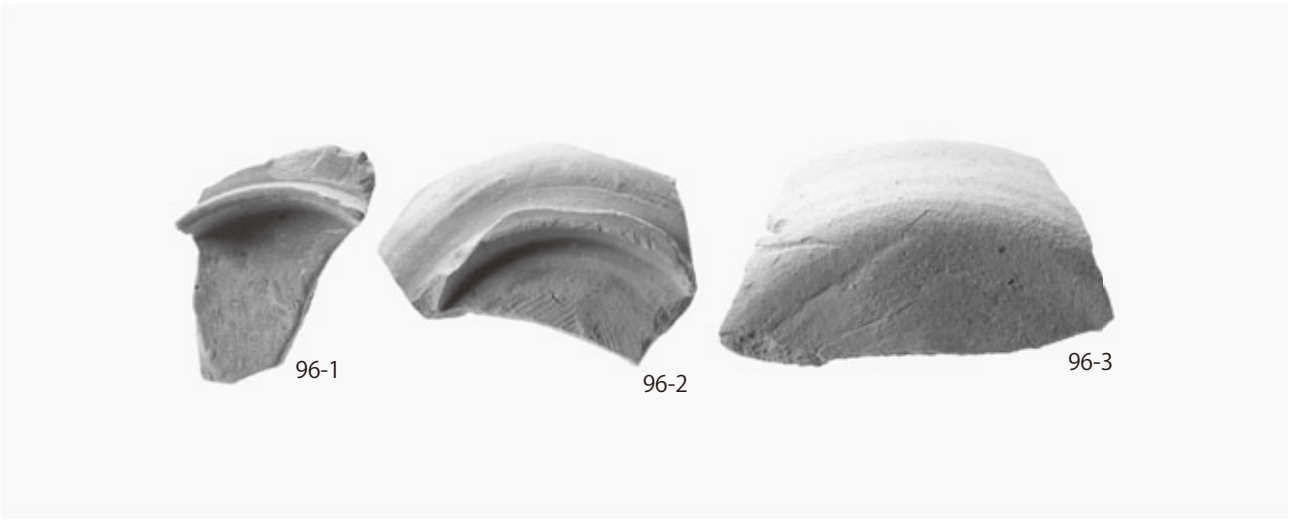




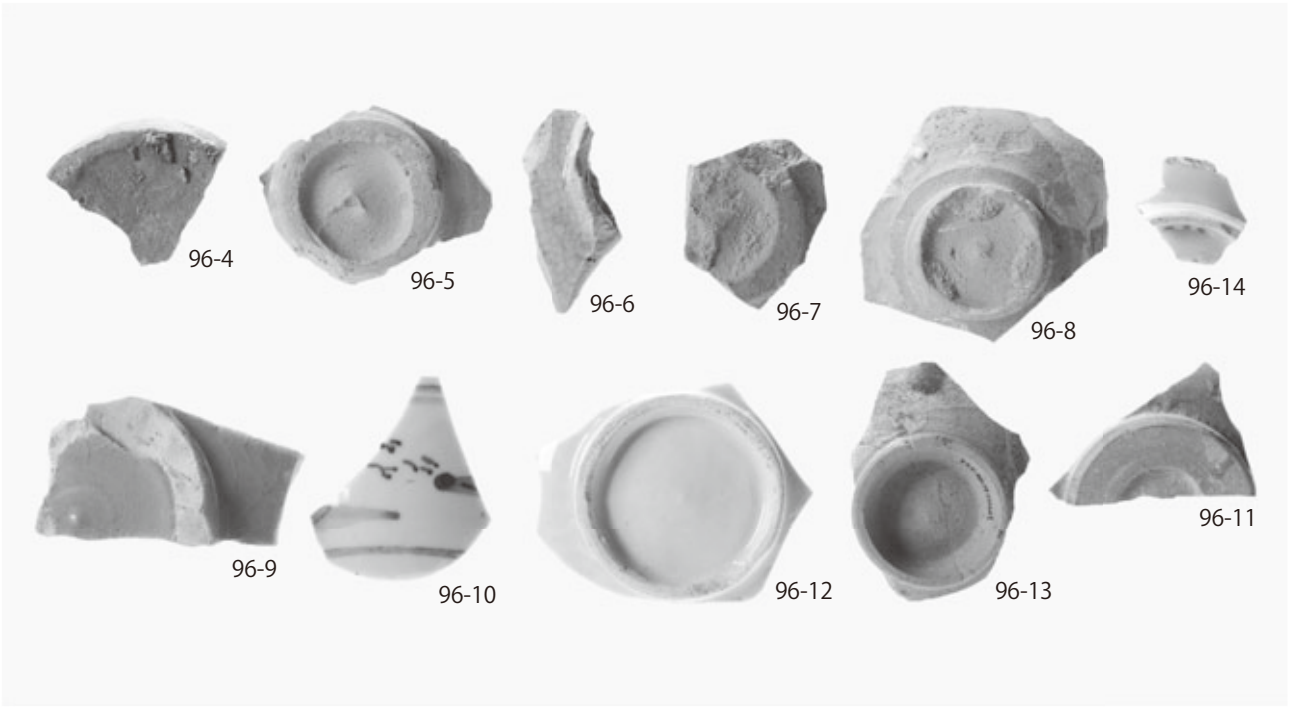
1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物⑦

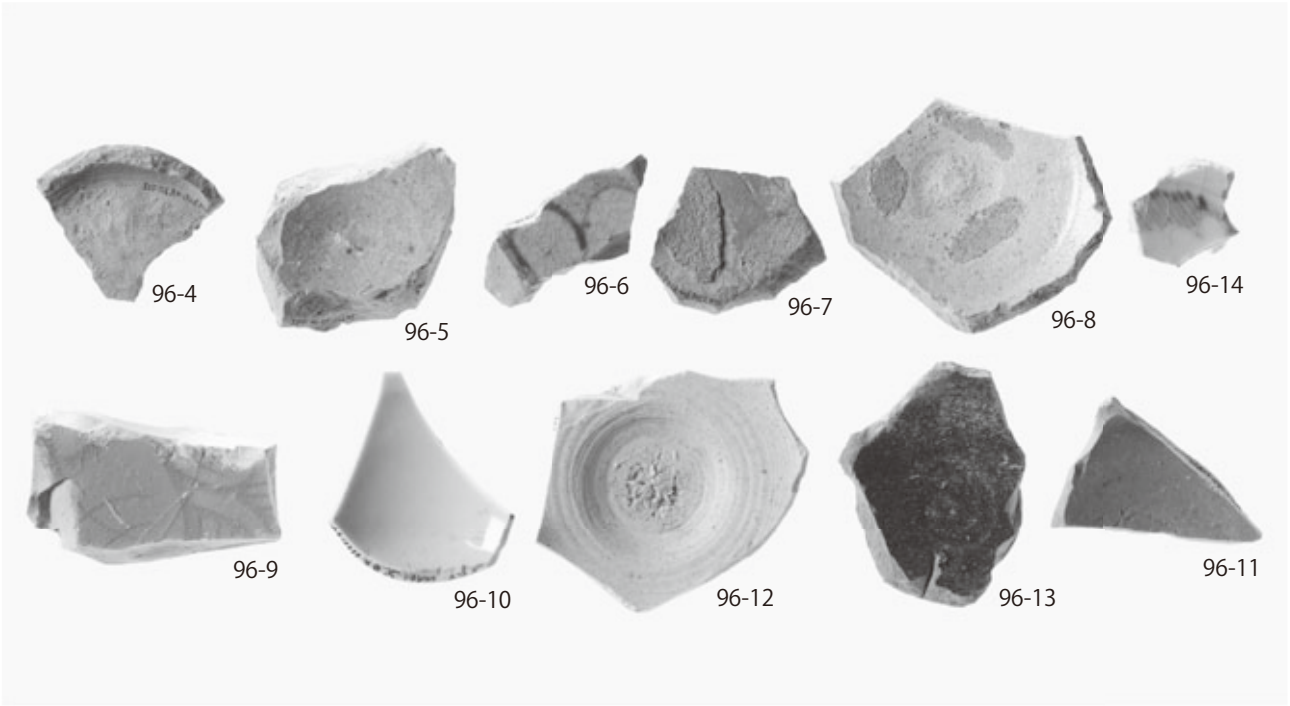


2　市井深田遺跡 包含層出土遺物①



1　市井深田遺跡 包含層出土遺物②





2　市井深田遺跡 包含層出土遺物③（上 : 外面　下：内面）

1　市井深田遺跡 加工段 1 出土遺物

2　市井深田遺跡 加工段 2 出土遺物

3　市井深田遺跡 加工段 4 出土遺物

4　市井深田遺跡 加工段 3 出土遺物①

1　市井深田遺跡 加工段 3 出土遺物②

2　市井深田遺跡 加工段 7 出土遺物

1　市井深田遺跡 加工段 8-1 出土遺物

2　市井深田遺跡 加工段 8-2 出土遺物

3　市井深田遺跡 加工段 9 出土遺物

4　市井深田遺跡 加工段 12 出土遺物

2　市井深田遺跡 加工段 14 出土遺物

1　市井深田遺跡 加工段 13 出土遺物

3　市井深田遺跡 加工段 15 出土遺物

4　市井深田遺跡 加工段 16-1 出土遺物

5　市井深田遺跡 加工段 16-4 出土遺物

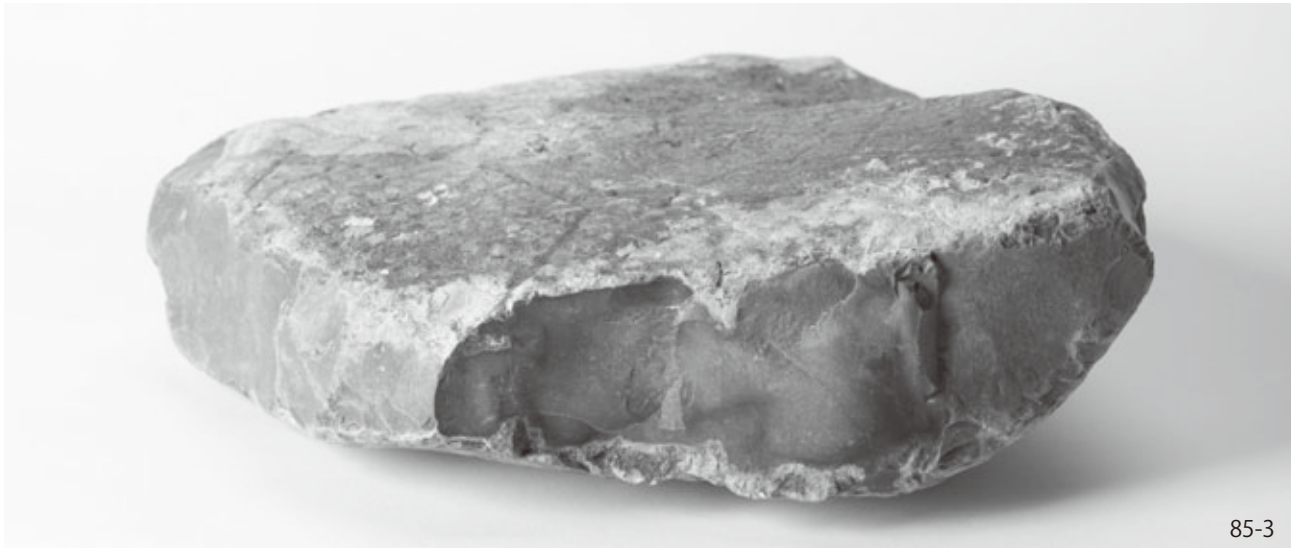
6　市井深田遺跡 加工段 16-5 出土遺物

77-1

77-2

77-4

1　市井深田遺跡 加工段 17 出土遺物


85-3

85-1

2　市井深田遺跡 集石土坑 1 出土遺物

1　市井深田遺跡 集石土坑 2 出土遺物

2　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物①

91-3

91-5

91-6

92-4

92-5

92-7

92-6

92-13

92-14

92-15

市井深田遺跡 1-2 区出土遺物②

92-19

93-7

93-12

93-13

1　市井深田遺跡 1-2 区出土遺物③

96-15

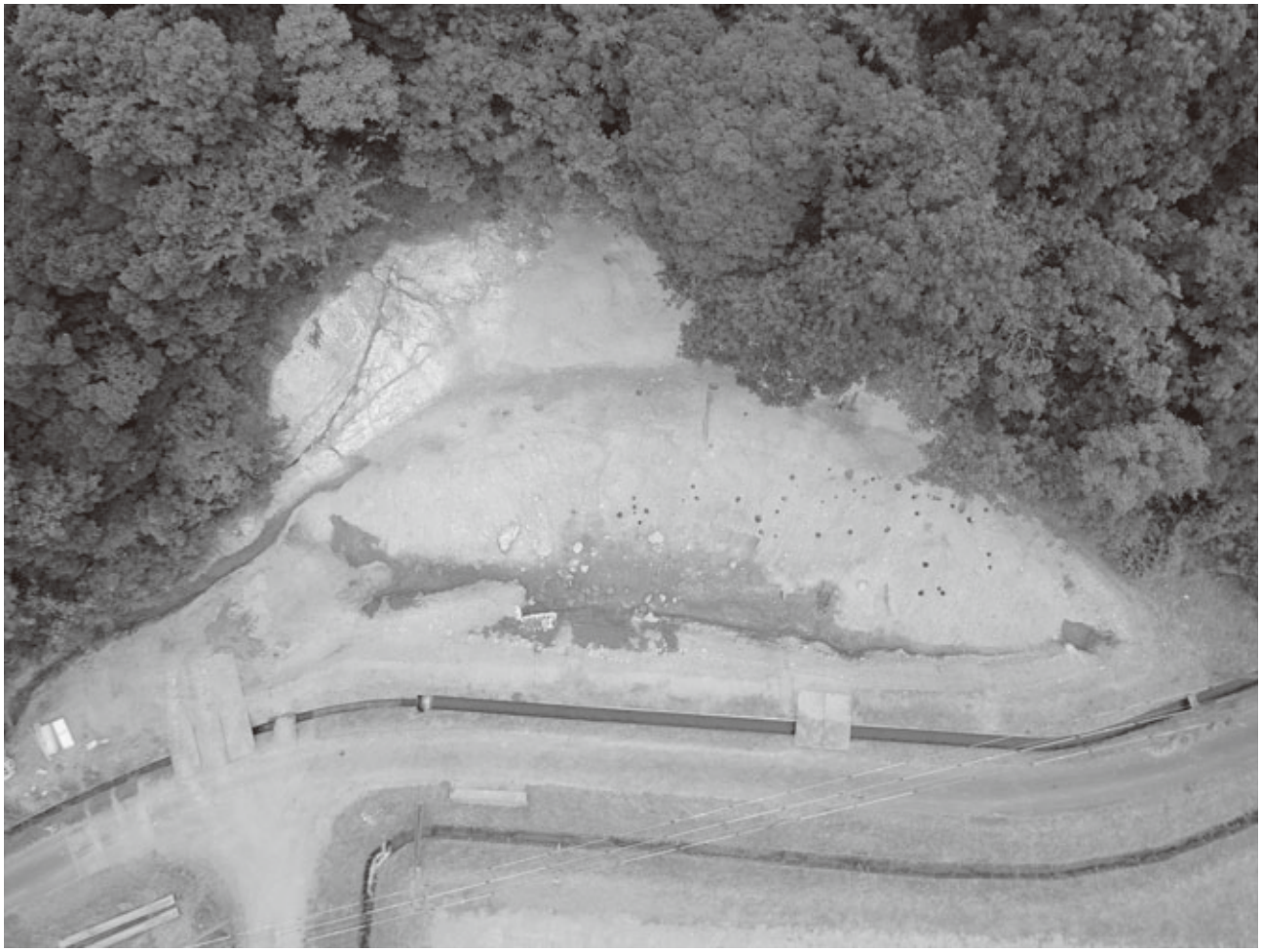
94-1

2　市井深田遺跡 包含層出土遺物

1　荒槇遺跡上空から北側を望む

2　荒槇遺跡上空から南側を望む

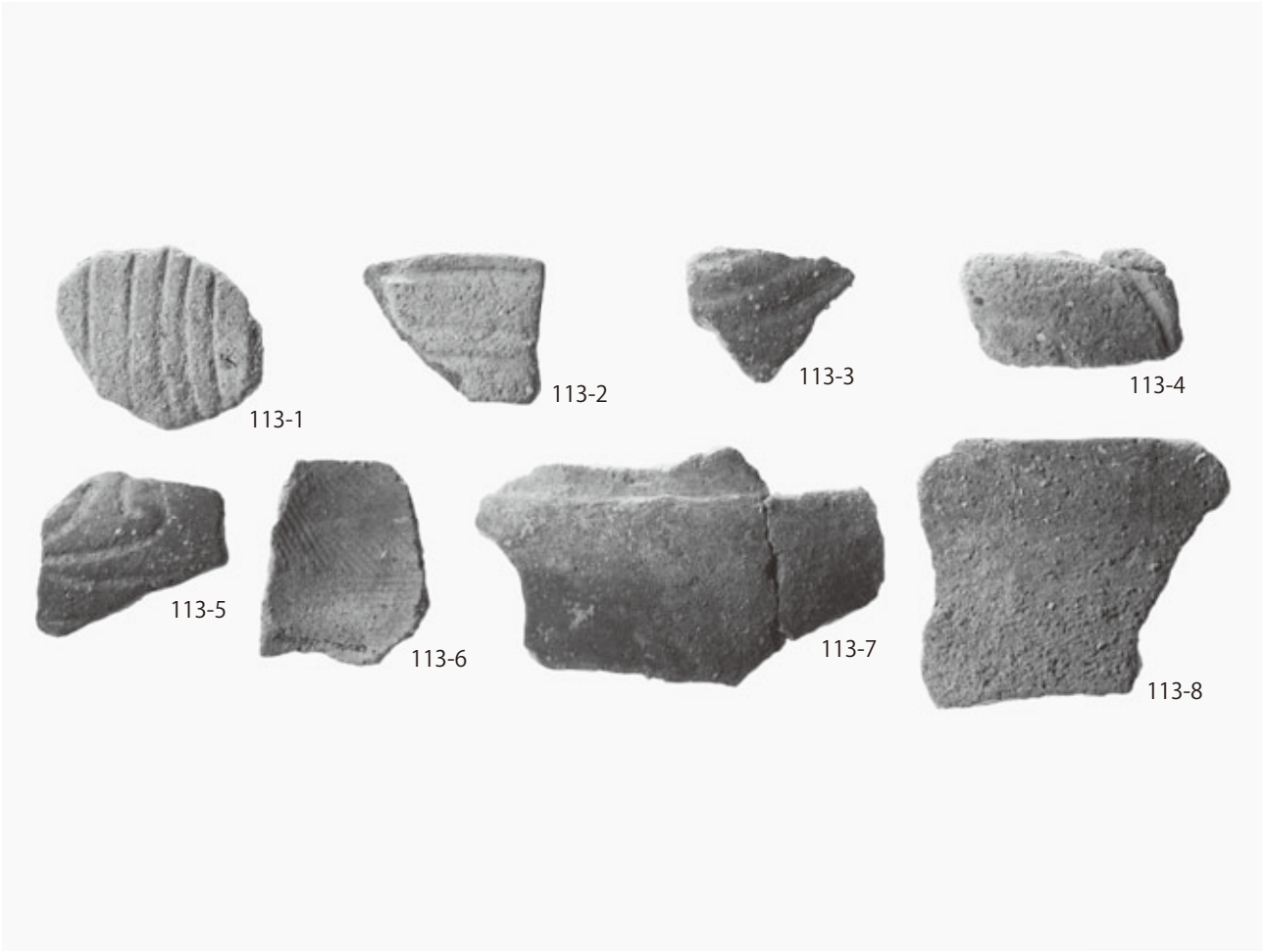
1　荒槇遺跡 1 区　全景



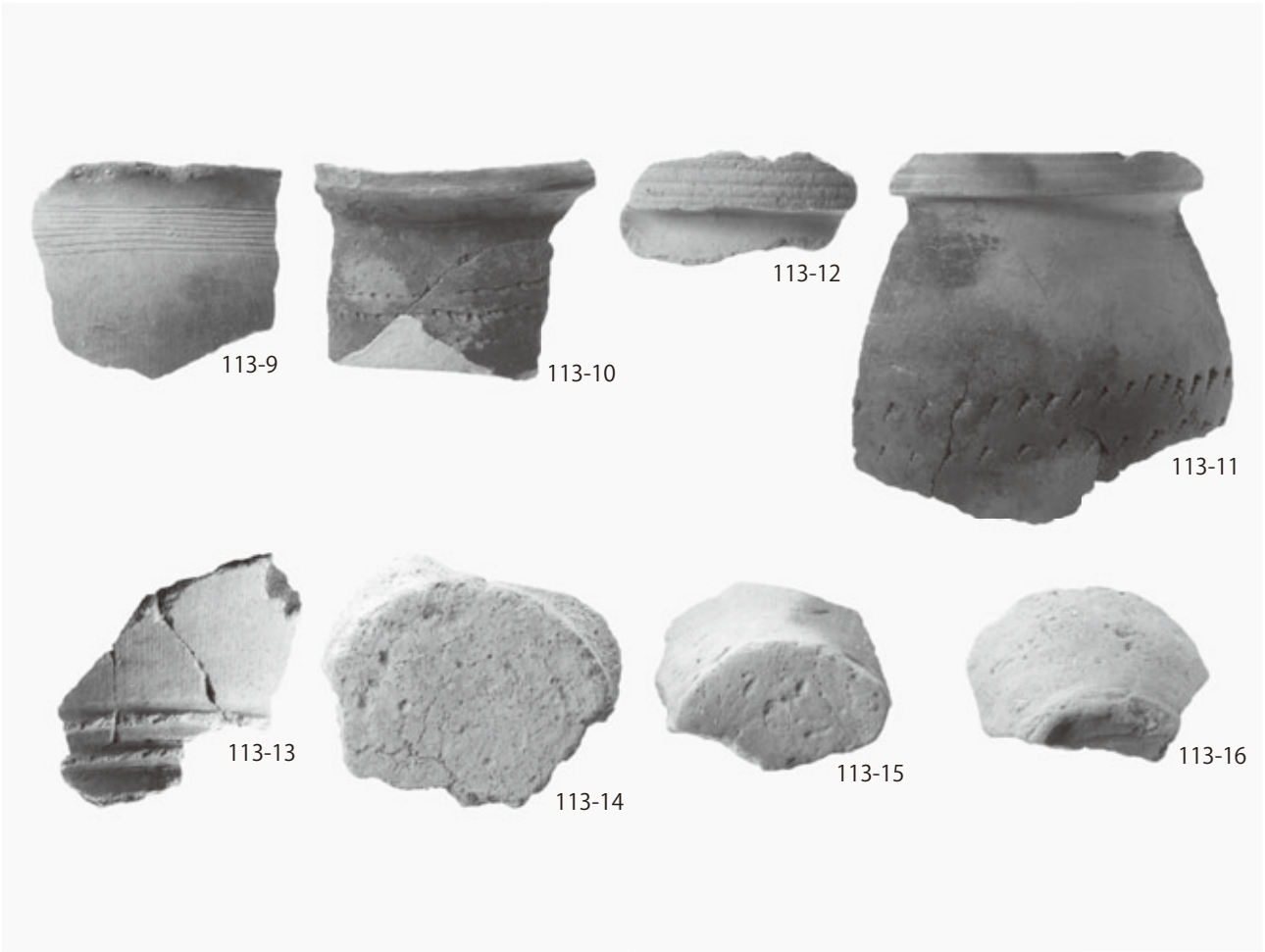
2　荒槇遺跡 2 区　全景

1　荒槇遺跡 SK1・SK2 内部完掘状況

2　荒槇遺跡　加工段 1 完掘状況



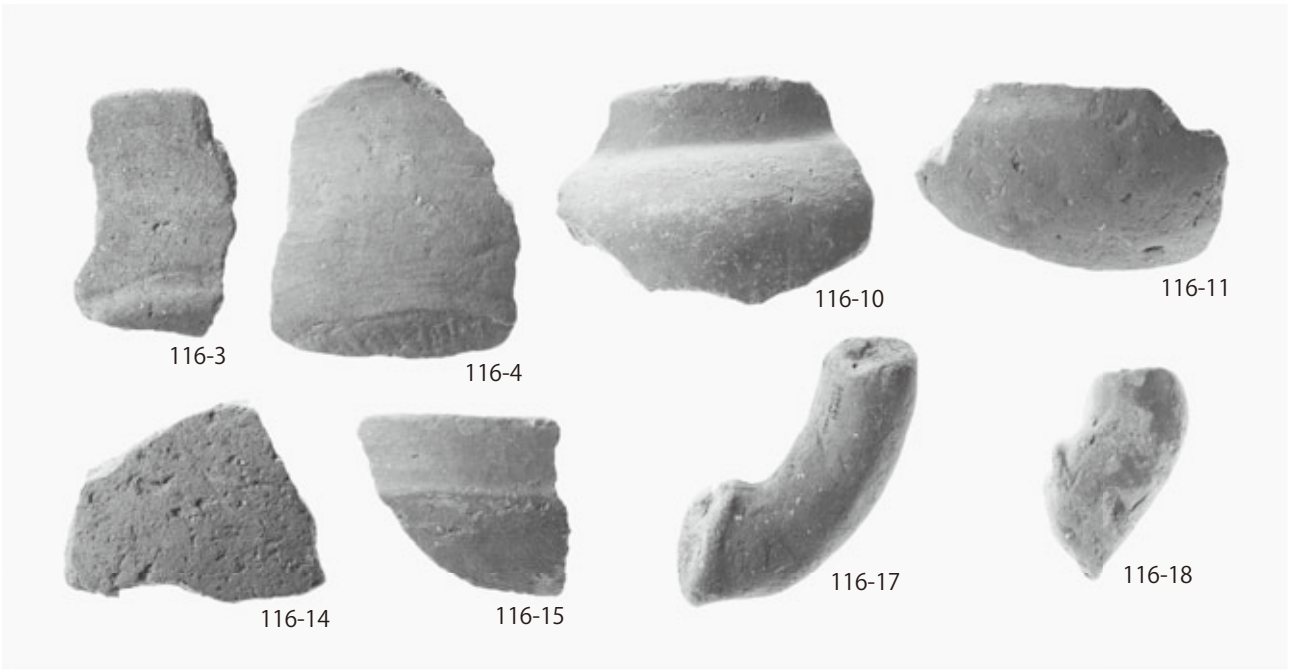
1　荒槇遺跡 出土遺物①



2　荒槇遺跡 出土遺物②

1　荒槇遺跡 出土遺物③

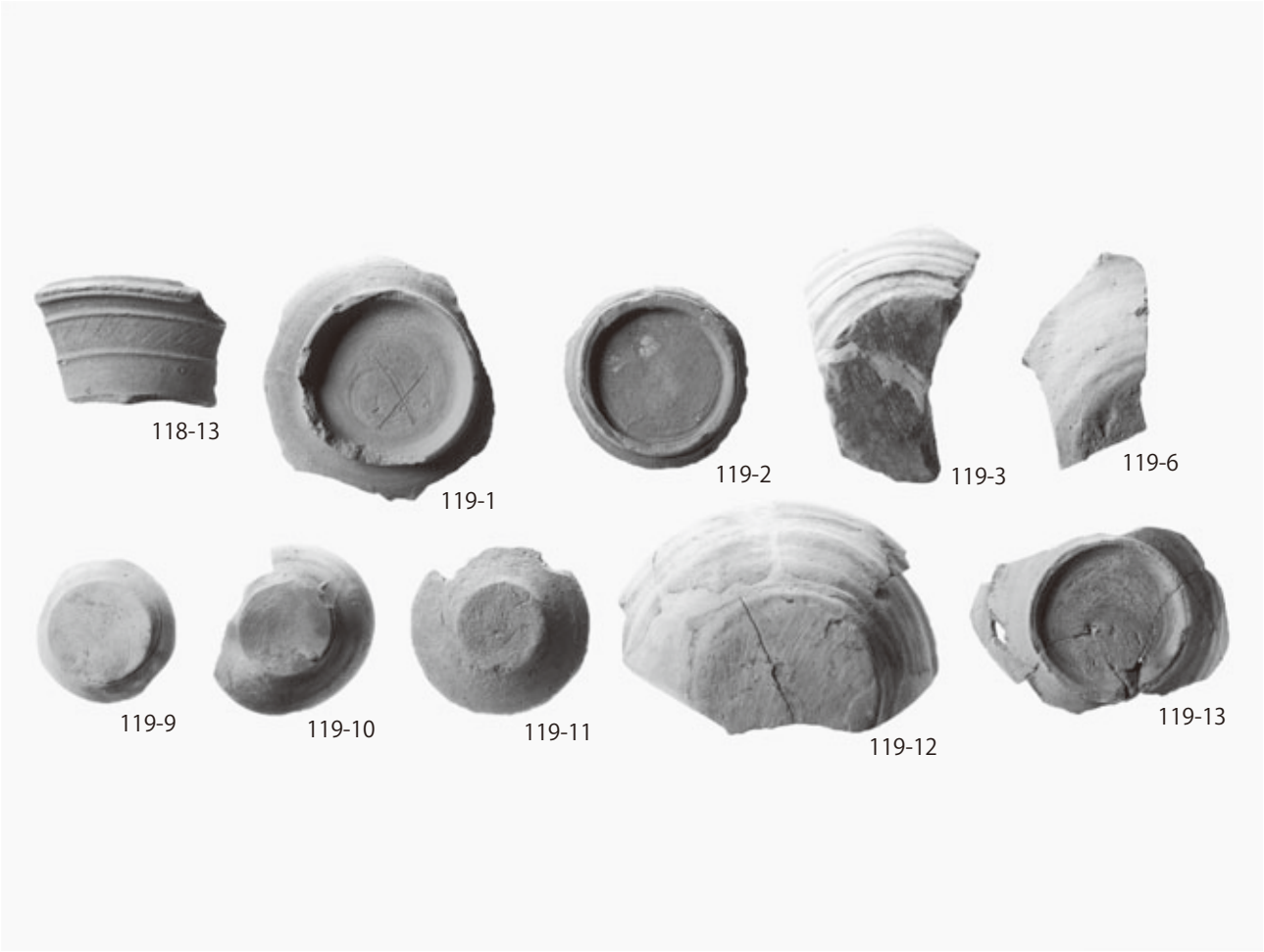
2　荒槇遺跡 出土遺物④（上 : 外面　下：内面）



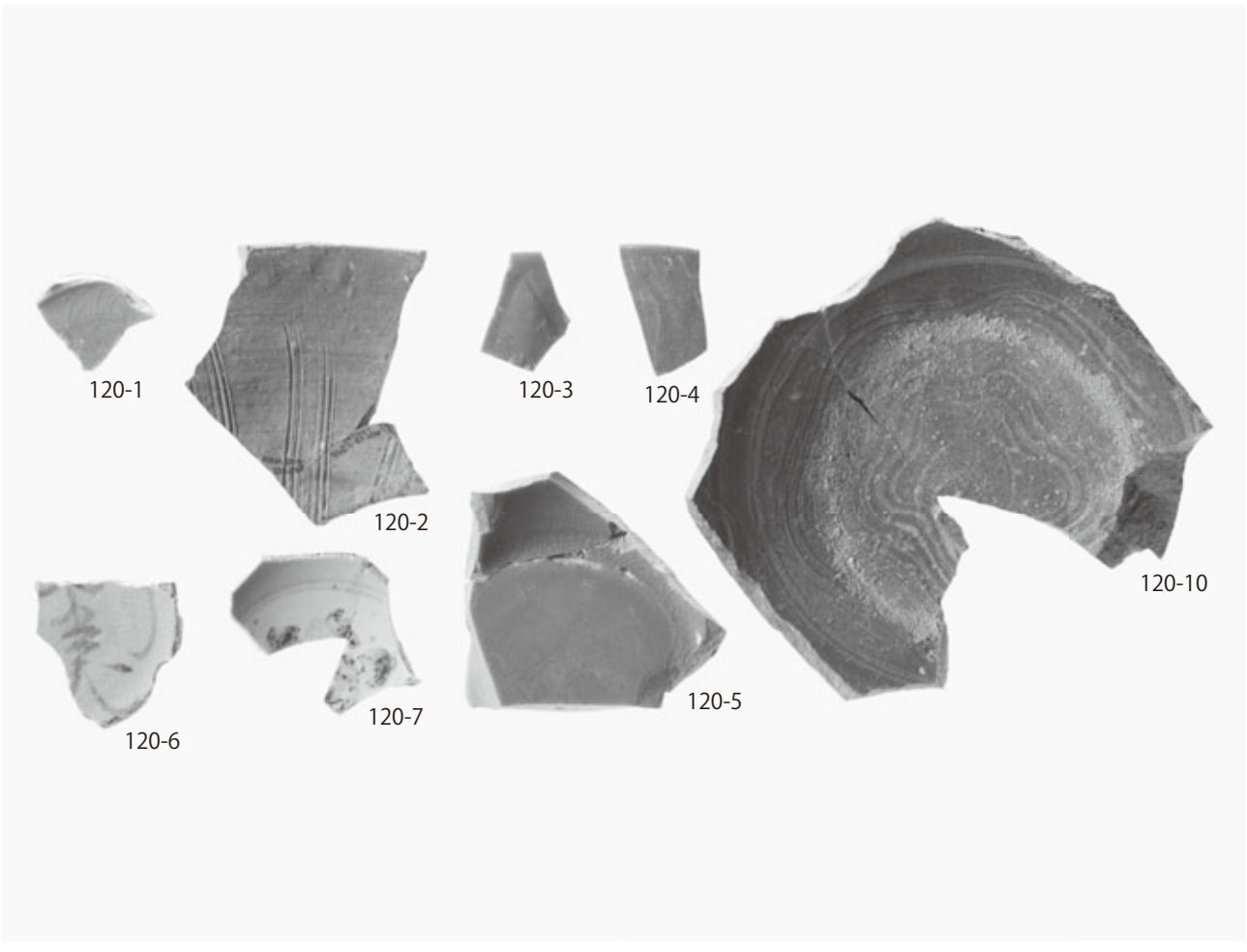
1　荒槇遺跡 出土遺物⑤

2　荒槇遺跡 出土遺物⑥

3　荒槇遺跡 出土遺物⑦



1　荒槇遺跡 出土遺物⑧



2　荒槇遺跡 出土遺物⑨

1　SK2 出土木製品（第 122 図 -1 内面）

2　SK2 出土木製品（第 122 図 -1 外面）

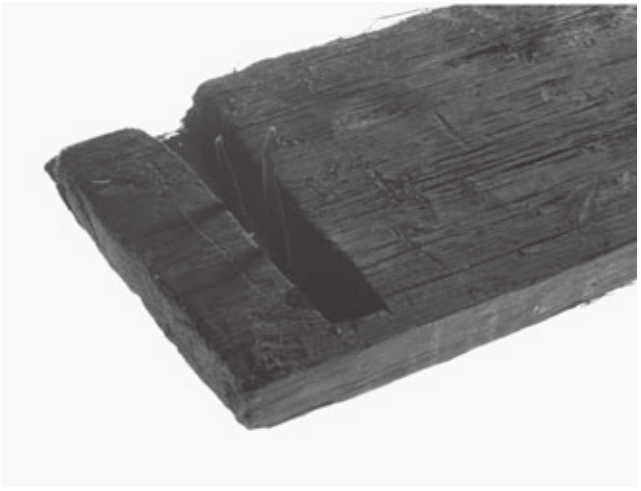
3　木釘部拡大

4　木釘部拡大

荒槇遺跡 出土遺物⑩

1　SK2 出土木製品（第 122 図 -2 内面)

2　SK2 出土木製品（第 122 図 -2 外面）



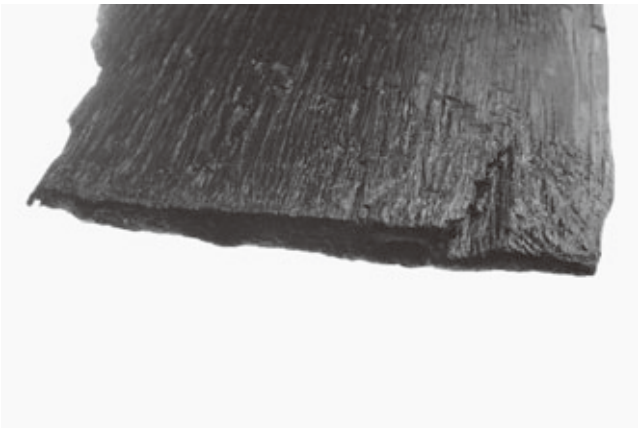
3　木釘部拡大

4　木釘部拡大

荒槇遺跡 出土遺物⑪

1　SK2 出土木製品（第 122 図 -3 内面）

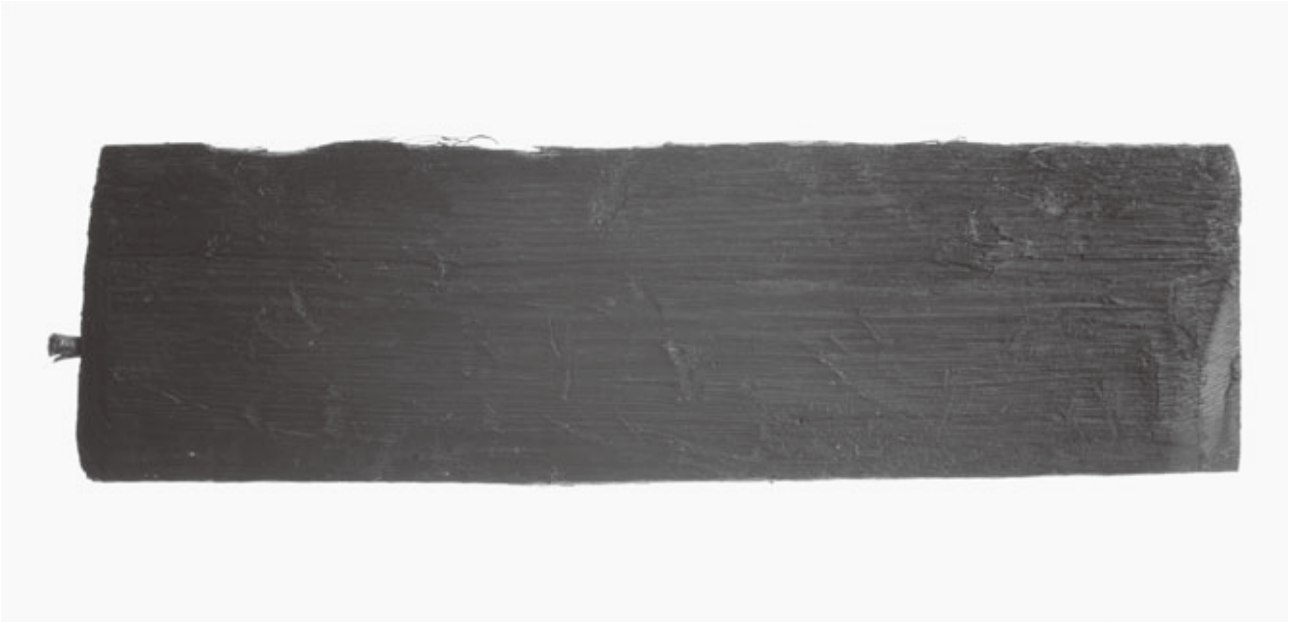
2　SK2 出土木製品（第 122 図 -3 外面）



3　孔部拡大

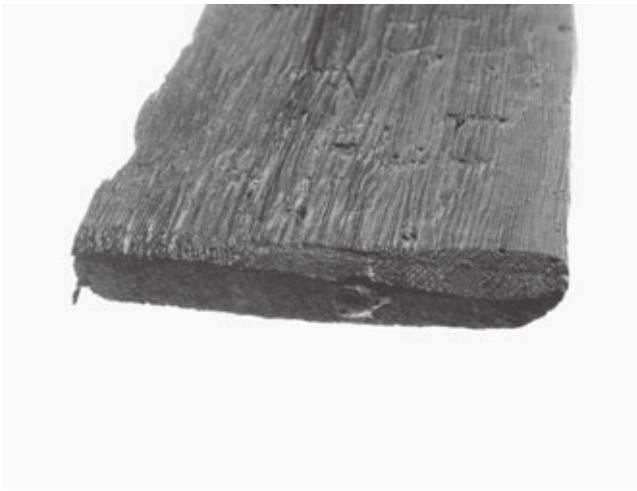
4　孔部拡大

荒槇遺跡 出土遺物⑫



1　SK2 出土木製品（第 122 図 -4 内面）

2　SK2 出土木製品（第 122 図 -4 外面）

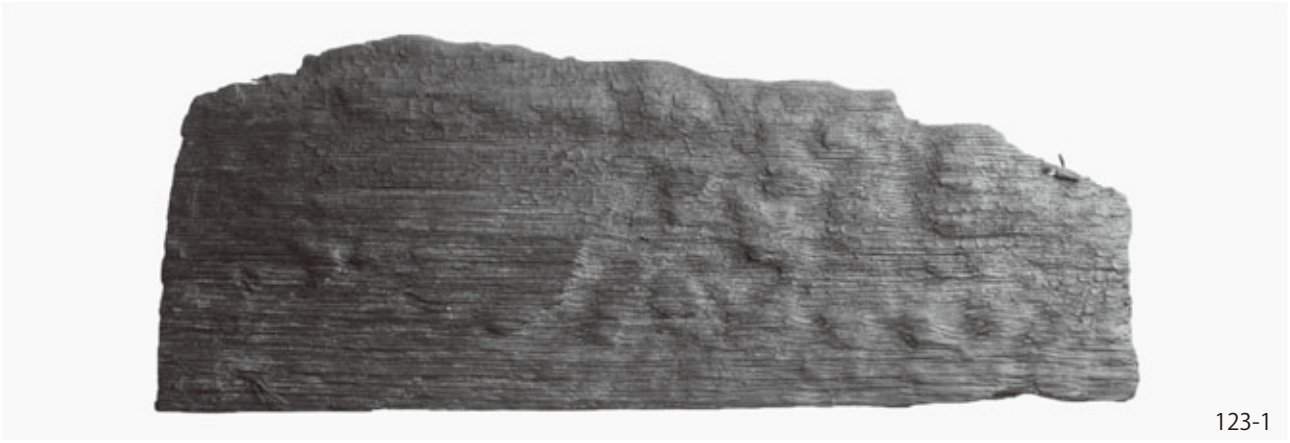


3　孔部拡大

4　孔部拡大

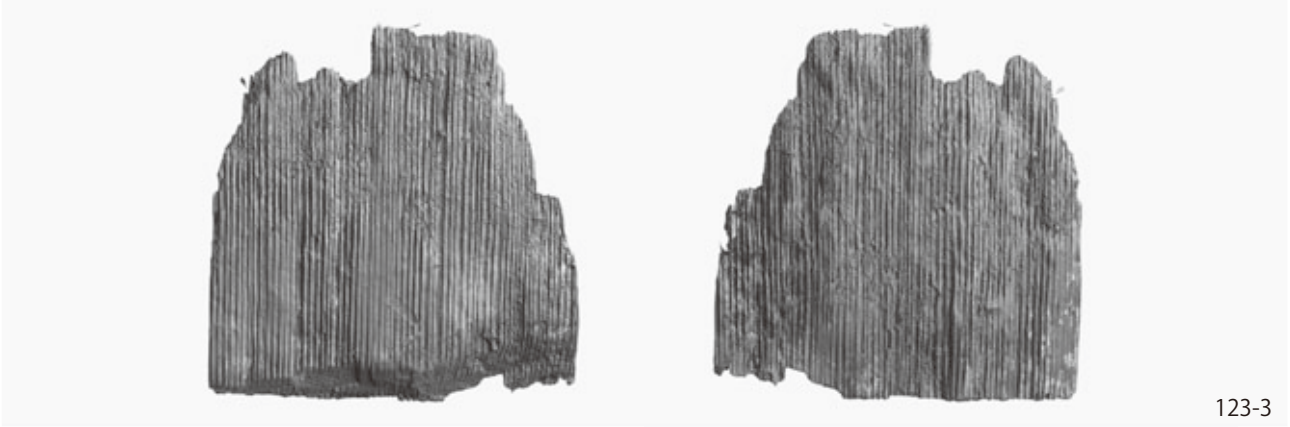
荒槇遺跡 出土遺物⑬

123-1



123-1

123-2



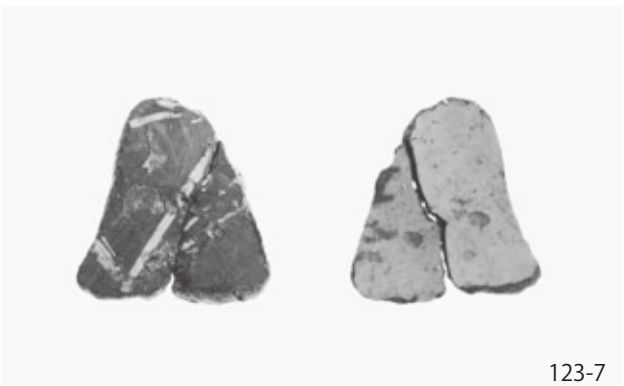
123-3

荒槇遺跡 出土遺物⑭（SK1 出土木製品）

123-4

123-5

123-6



123-7

荒槇遺跡 出土遺物⑮

柱 1

柱 2

柱 3

柱 4

柱 5

荒槇遺跡 出土遺物⑯（柱根）

113-14

113-15

113-16

114-4

114-5

114-6

114-7

114-9

114-12

荒槇遺跡 出土遺物⑰

115-5

115-6

116-1

116-2

116-5

116-6

116-7

116-8

荒槇遺跡 出土遺物⑱

図版 56

116-9

116-16

117-1

117-2

117-3

117-4

117-5

117-6

117-8

117-9

117-12

117-13

荒槇遺跡 出土遺物⑲

117-14

117-15

117-16

117-17

117-18

117-19

118-1

118-2

118-3

118-4

荒槇遺跡 出土遺物⑳

118-6

118-7

118-8

118-9

118-10

118-11

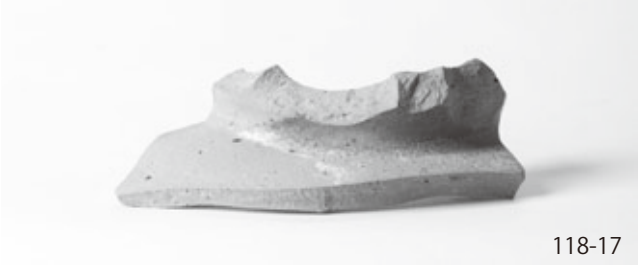
118-12

118-14

荒槇遺跡 出土遺物㉑

118-15

118-16


118-17

119-3

119-1

119-4

119-5

119-7

119-8

荒槇遺跡 出土遺物㉒

119-9

119-12

119-10

119-14

119-11

119-15

119-16

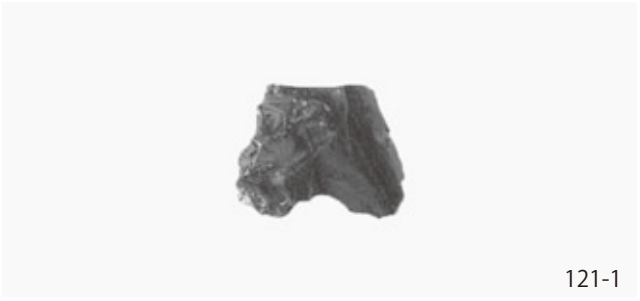
119-17

120-8

荒槇遺跡 出土遺物㉓

120-9

120-11


121-1

121-2

121-3

121-4

121-5

荒槇遺跡 出土遺物㉔

図版 62

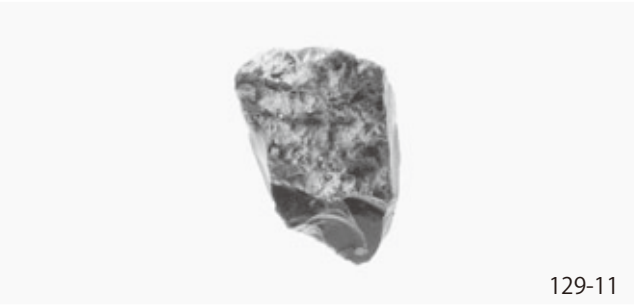
1　鈴見Ｂ遺跡上空から北側を望む

2　鈴見 B 遺跡 1 区（上空から）

1　鈴見Ｂ遺跡１区　近景

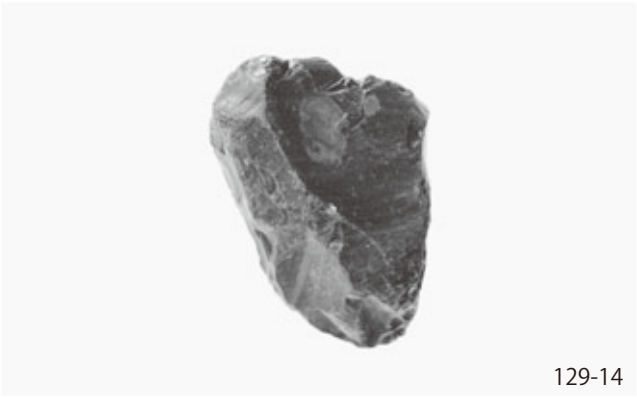
2　鈴見 B 遺跡 1 区北側土層

鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物①


129-11

129-12

129-13


129-14

129-15

129-16

鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物②

128-1

128-10

128-13

128-14

128-16

128-17

129-3

129-5

129-9

129-8

鈴見 B 遺跡 1 区 出土遺物③

報告書抄録

ふりがな	いちいふけだいせき　あらまきいせき　すずみびーいせきいちく
書名	市井深田遺跡　荒槇遺跡　鈴見Ｂ遺跡１区
シリーズ名	一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	２
編著者名	是田　敦・武田尚志・渡辺正巳
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
	http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
所在地	〒690-0131　島根県松江市打出町 33　　℡ 0852-36-8608
	E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp
発行年月日	2014（平成 26）年３月 17 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いちいふけだいせき 市井深田遺跡	しまねけんおおだしくてちょうさつか 島根県大田市久手町刺鹿	32205	石Ａ３７４	35° 13′ 49″	132° 30′ 40″	20110530 ～ 20111201	4,050㎡	道路建設
あらまきいせき 荒槇遺跡	しまねけんおおだしくてちょうさつか 島根県大田市久手町刺鹿	32205	石Ａ３６０	35° 13′ 06″	132° 31′ 00″	20120521 ～ 20120904	2,070㎡	道路建設
すずみびーいせきいちく 鈴見Ｂ遺跡１区	しまねけんおおだしくてちょうはねにし 島根県大田市久手町波根西	32205	石Ａ３５７	35° 13′ 27″	132° 31′ 25″	20120828 ～ 20121016	1,320㎡	道路建設

遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市井深田遺跡	集落跡	古墳時代 古代	加工段 35 河川跡	土師器 須恵器	5 基の造り付け竈を検出。
荒槇遺跡	集落跡 その他の墓	古代 中世	加工段１ 木棺墓 河川跡	弥生土器 土師器 須恵器 木棺	
鈴見Ｂ遺跡１区	散布地	古代	河川跡	土師器 須恵器	

要　約	市井深田遺跡は６世紀後半から９世紀前半にかけての集落遺跡で、竪穴建物や掘立柱建物を建てた加工段を多数検出した。また島根県内では山間部に多く海岸部では類例の少ない造り付けの竈を設置した竪穴建物が造られており、古代における山間部と海岸部の交流を考える上で重要な集落遺跡といえる。 荒槇遺跡では縄文時代後期から中世の河川跡と古代の加工段と中世の木棺墓を検出した。河川跡からは漆が付着した土器などが出土しており、付近に役所関係の施設が存在した可能性を示す。また木棺墓は中世の埋葬を考えるうえで貴重な資料となった。 鈴見Ｂ遺跡１区では弥生時代から近世の河川跡を検出した。この地域に於ける弥生時代以降の資料を提供することができた。

市井深田遺跡　荒槇遺跡　鈴見Ｂ遺跡１区

一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２

発　行　2014（平成 26）年３月
発行者　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒 690-0131　島根県松江市打出町 33 番
電話　0852-36-8608
印　刷　株式会社　島根県農協印刷
〒 690-0044　島根県松江市浜乃木２丁目 10 番 52 号
電話　0852-21-3476